公表日　　平成２３年９月１日
最新更新日　平成２３年９月１日

授 業 計 画

平成23年度

Syllabus 2011

経済情報学部　　経 済 情 報 学 科

専 門 教 育 科 目

教職に関する科目

兵庫大学　教育情報

経済情報学部
経済情報学科

専門教育科目
教職に関する科目

教育目標

グローバル化・ボーダレス化する経済社会において、自立して生きていく力を身に付けます。そのため、世界的視野で経済について考え、情報処理の知識と技術を手に、地域で活躍する人材育成に努めます。各コースの教育目標は次のとおりです。

経済ビジネスコースでは、①経済のしくみを学ぶこと、②現実の経済が抱えるさまざまな問題について理解し考える力を養うこと、③ビジネスの場で役に立つ企業データを分析・診断する力を身につけることを大きな目標として勉強します。皆さんは、経済やビジネスの世界と何らかの形で関わりながら生きていくことになりますが、学生時代に経済学的な考え方を学ぶことや現実の企業経営の姿をみるセンスを磨くことは、おそらく皆さんにとっての大きな財産になると思います。

情報システムコースでは、「システムを設計し、構築する力を身につける」、「ソフトウェアを活用し、問題を解決する能力を身につける」ことを両輪とした教育を実施します。コンピュータの基本操作、ハードウェアとソフトウェアに関する理論、ネットワークの仕組み、プログラミングなどを学び、情報処理に関する応用力を身につけます。

まず1年生では学内の情報システムの使い方とあわせてウェブサイトの閲覧やメールの送受信、ワープロや表計算ソフトなどを利用した基本的な情報処理と文書作成、ウェブページの作成等について学びます。そして 2 年生Ⅱ期からはコースに分かれて数理論理学、情報システム学、プログラミング、データベース、セキュリティ等のより専門的な科目を勉強し、今までに学んできた内容にさらに深く取り組みます。このような科目を通し、コンピュータに使われるのではなく自分の考えに従ってコンピュータを活用する力を身に付け、企業や商店におけるデータ分析や、各種サービスを提供するウェブサイトの構築など、実際の社会で役立つ知識を習得します。

地域デザインコースでは、フィールドワークによって地域を見つめ、その地域に生きる人びとを取り巻く自然・歴史・伝統・文化・風土を凝視することからはじめます。等身大の視座から、問題を発見し、分析し、解決策を考えます。そのためには、地域で学び、地域から学を立ち上げていくスタンスで地域をデザインしていくことが肝要です。

地域デザインコースの教育目標は、地域の『活性化と自立』の『内容と方法』を実践の学として探求し、自立した地域づくりを企画立案していく政策能力やマネージメント能力を養成することを主眼に据えています。

平成 23 年度
(2011 年度)
入学者

カリキュラム年次配当表

経済情報学科 平成23年度（2011年度）入学者対象
（ ）は兼担、[ ]は兼任講師

授業科目の区分		授業科目の名称	授業方法	単位数 必修	単位数 選択	教員免許関係 情報	教員免許関係 商業	教員免許関係 公民	学年配当（数字は週当り授業時間） 1年 Ⅰ	1年 Ⅱ	2年 Ⅰ	2年 Ⅱ	3年 Ⅰ	3年 Ⅱ	4年 Ⅰ	4年 Ⅱ	平成23年度の担当者	ページ
専門教育科目	演習科目	基礎演習A	演習	2					2								*1	8
		基礎演習B	演習	2						2							中田 美栄	9
		基礎演習B	演習	2						2							堀池 聡	10
		基礎演習B	演習	2						2							木下 準一郎	11
		基礎演習B	演習	2						2							山本 真弓	12
		基礎演習B	演習	2						2							斎藤 正寿	13
		基礎演習B	演習	2						2							金子 哲	14
		基礎演習B	演習	2						2							森下 博	15
		基礎演習B	演習	2						2							竹川 宏子	16
		発展演習Ⅰ	演習	2							2							
		発展演習Ⅱ	演習	2								2						
		専門演習Ⅰ	演習	2									2					
		専門演習Ⅱ	演習	2										2				
		卒業演習Ⅰ	演習	2											2			
		卒業演習Ⅱ	演習	2												2		
		卒業研究	演習	4												4		
	コースの共通科目	経済情報概論	講義	4					4								*2	17
		数学基礎	講義	2					2								中田 美栄	18
		数学基礎	講義	2					2								山本 真弓	19
		アプリケーションソフト	演習	4		□				4							穂積隆広・森下博・[佐竹邦子]	20
		プレゼンテーションA	演習	2						2	2						[福永 弘之]*3	22
		プレゼンテーションB	演習	2						2	2						石原 敬子 *4	23
		現代経済社会論A	講義		2					2							森 義隆	24
		現代経済社会論B	講義		2						2							
		簿記原理Ⅰ	講義		2		△			2							三宅 伸二	25
		簿記原理Ⅱ	講義		2		▲				2							
		経済学入門	講義		2			◆			2							
		経済統計	講義		2		▲				2							
		民法	講義		2		▲				2							
		会計学入門	講義		2		△				2							
		情報科学入門	講義		2					2							堀池 聡	26
		プログラミング入門	講義		2						2							
		コンピュータ基礎論	講義		2	■					2							
		グラフィックス	講義		2	■				2							田中 正彦	27
		ウェブデザイン	講義		2					2							田中 正彦	28
		基礎経済数学	講義		2					2							中田 美栄	29
		基礎情報数学	講義		2						2							
		統計学	講義		2						2							
		社会経済史	講義		2		▲			2							金子 哲	30
		コミュニケーション論	講義		2	■				2							[萩田 良一]	31
		国際政治学	講義		2			◇		2							斎藤 正寿	32
		国際社会論	講義		2						2							
		マスメディア論	講義		2					2							[三木 進]	33
		比較文化論	講義		2						2							
		インターンシップ	講義		2						2							
		経済情報特論A	講義		2				2								森 義隆	34
		経済情報特論B	講義		2					2							不開講	
		経済情報特論C	講義		2				2								三宅 伸二	35
		経済情報特論C	講義		2				2								高野 敦子	36
		経済情報特論C	講義		2				2								斎藤 正寿	37
		経済情報特論C	講義		2				2								森下 博	38
		経済情報特論C	講義		2				2								沖野 光二	39
		経済情報特論D	講義		2					2							堀池 聡	41
		経済情報特論D	講義		2					2							山本 真弓	42
		経済情報特論D	講義		2					2							沖野 光二	43
		経済情報特論E	講義		2						2							
		経済情報特論F	講義		2							2						

カリキュラム年次配当表

経済情報学科 平成23年度（2011年度）入学者対象

（ ）は兼担、[ ]は兼任講師

授業科目の区分			授業科目の名称	授業方法	単位数 必修	単位数 選択	教員免許関係 情報	教員免許関係 商業	教員免許関係 公民	学年配当（数字は週当り授業時間） 1年 Ⅰ	1年 Ⅱ	2年 Ⅰ	2年 Ⅱ	3年 Ⅰ	3年 Ⅱ	4年 Ⅰ	4年 Ⅱ	平成23年度の担当者	ページ
専門教育科目	コース専修科目	経済ビジネスコース科目	ミクロ経済学	講義		④			◇				4						
			マクロ経済学	講義		④			◇				4						
			経営学総論	講義		④								4					
			簿記論	演習		④		△						4					
			金融論	講義		2		▲					2						
			工業簿記	講義		2		▲					2						
			会計学	講義		2		▲					2						
			会社法	講義		2							2						
			財政学Ⅰ	講義		2			◆					2					
			財政学Ⅱ	講義		2			◆						2				
			産業組織論Ⅰ	講義		2			◆					2					
			産業組織論Ⅱ	講義		2			◆						2				
			国際経済論Ⅰ	講義		2			◆					2					
			国際経済論Ⅱ	講義		2			◆						2				
			証券市場論	講義		2		▲						2					
			経営戦略論Ⅰ	講義		2								2					
			経営戦略論Ⅱ	講義		2									2				
			財務管理論Ⅰ	講義		2								2					
			財務管理論Ⅱ	講義		2									2				
			財務諸表論Ⅰ	講義		2		▲						2					
			財務諸表論Ⅱ	講義		2		▲							2				
			情報会計論Ⅰ	講義		2		▲						2					
			情報会計論Ⅱ	講義		2		▲							2				
			労働経済論	講義		2									2				
			経済政策	講義		2									2				
			職業指導	講義		2		△							2				
			経済ビジネス特論A	講義		2								2					
			経済ビジネス特論B	講義		2									2				
		情報システムコース科目	数理論理学	講義		④							4						
			プログラミングⅠ	講義		④	■						4						
			プログラミングⅡ	講義		④	■							4					
			情報システム学	講義		④	■							4					
			オペレーティングシステム	講義		2	■						2						
			情報ネットワーク	講義		2	■						2						
			アルゴリズム	講義		2	■						2						
			情報デザイン	講義		2	■						2						
			情報基礎理論	講義		2	■							2					
			情報セキュリティ	講義		2	■							2					
			データベースⅠ	講義		2	■							2					
			データベースⅡ	講義		2	■								2				
			オペレーションズ・リサーチ	講義		2								2					
			情報数学	講義		2								2					
			応用プログラミングA	講義		2									2				
			応用プログラミングB	講義		2										2			
			オブジェクト指向方法論	講義		2									2				
			システム解析	講義		2	■								2				
			情報検索論	講義		2	■								2				
			情報法学	講義		2	■								2				
			情報管理論	講義		2	□								2				
			情報システム特論A	講義		2								2					
			情報システム特論B	講義		2									2				

カリキュラム年次配当表

経済情報学科 平成23年度（2011年度）入学者対象
（ ）は兼担、[ ]は兼任講師

授業科目の区分			授業科目の名称	授業方法	単位数		教員免許関係			学年配当（数字は週当り授業時間）								平成23年度の担当者	ページ
										1年		2年		3年		4年			
					必修	選択	情報	商業	公民	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ		
専門教育科目	コース専修科目	地域デザインコース科目	フィールドワーク	演習		④							4						
			地域分析論	講義		④							4						
			人と地域	講義		④								4					
			地域デザイン論	講義		④								4					
			地域経済論Ⅰ	講義		2			◆				2						
			地域経済論Ⅱ	講義		2			◆					2					
			環境と地理	講義		2								2					
			社会調査Ⅰ	講義		2							2						
			社会調査Ⅱ	講義		2								2					
			社会情報論	講義		2							2						
			ジャーナリズム	講義		2									2				
			社会政策Ⅰ	講義		2			◇					2					
			社会政策Ⅱ	講義		2			◆						2				
			行政学Ⅰ	講義		2								2					
			行政学Ⅱ	講義		2									2				
			環境経済論A	講義		2								2					
			環境経済論B	講義		2									2				
			情報社会論	講義		2	■							2					
			いなみ野ため池学	講義		2								2					
			いなみ野まちおこし学	講義		2									2				
			メディアと政治	講義		2								2					
			地域史	講義		2									2				
			地域デザイン特論A	講義		2								2					
			地域デザイン特論B	講義		2									2				

□は情報教員免許必修科目、■は情報教員免許選択科目
△は商業教員免許必修科目、▲は商業教員免許選択科目
◇は公民教員免許必修科目、◆は公民教員免許選択科目

④はコースにおける必修科目

＊1 中田･堀池･木下・山本･斎藤･金子・森下・竹川
＊2 経済ビジネスコース：森・高本・竹川・沖野
情報システムコース：田中・高野・榎木
地域デザインコース：池本･瀧本･木下･金子･岡本
＊3 1年Ⅱ期「プレゼンテーションA」を履修した学生は、2年Ⅰ期には「プレゼンテーションB」を履修すること
＊4 1年Ⅱ期「プレゼンテーションB」を履修した学生は、2年Ⅰ期には「プレゼンテーションA」を履修すること

カリキュラム年次配当表

経済情報学科 平成23年度（2011年度）入学者対象

（ ）は兼担、[ ]は兼任講師

授業科目の区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		教員免許関係			学年配当（数字は週当り授業時間）								平成23年度の担当者	ページ
								1年		2年		3年		4年			
			必修	選択	情報	商業	公民	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ		
教職に関する科目	教職概論	講義		2	□	△	◇	2								岡本 洋之	45
	教育原理	講義		2	□	△	◇	2								岡本 洋之	46
	教育史	講義		2	■	▲	◆						2				
	発達心理学	講義		2	■	▲	◆			2							
	教育心理学	講義		2	□	△	◇		2							(大平 曜子)	47
	教育制度論	講義		2	□	△	◇		2							[笹田 哲男]	48
	教育課程論	講義		2	□	△	◇				2						
	公民科教育法	講義		4			◇					4					
	情報科教育法	講義		4	□							4					
	商業科教育法	講義		4		△						4					
	特別活動論	講義		2	□	△	◇				2						
	教育方法・技術論	講義		2	□	△	◇				2						
	教育情報化演習Ⅰ	演習		2	■	▲	◆					2					
	教育情報化演習Ⅱ	演習		2	■	▲	◆						2				
	生徒指導論（進路指導を含む）	講義		2	□	△	◇			2							
	教育相談（カウンセリングを含む）	講義		2	□	△	◇						2				
	教育実習予備演習Ⅰ	演習		2	□	△	◇			2							
	教育実習予備演習Ⅱ	演習		2	□	△	◇				2						
	教職実践演習（高）	演習		2	□	△	◇								2		
	教育実習事前事後指導	講義		1	□	△	◇							1			
	高等学校教育実習	実習		2	□	△	◇							2			

□は情報教員免許必修科目、■は情報教員免許選択科目
△は商業教員免許必修科目、▲は商業教員免許選択科目
◇は公民教員免許必修科目、◆は公民教員免許選択科目

※教職に関する科目は修得しても卒業要件の単位数には含まれない。
※教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、
日本国憲法（2単位）、体育（2単位）、外国語コミュニケーション（2単位）、情報機器の操作（2単位）について、
指定の科目を修得すること。

授業科目の区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		教員免許関係			学年配当（数字は週当り授業時間）								平成23年度の担当者	ページ
								1年		2年		3年		4年			
			必修	選択	情報	商業	公民	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ		
総合・キャリア関連科目	日本語表現法	演習		2					②		②		②		②	[野田 直恵]	基礎・教養科目編参照
	コンピュータ応用演習	演習		2					②		②		②		②	(河野 稔)	
	特別講義	講義		2				②		②		②		②			
	私のためのキャリア設計	講義		2				②		②		②		②		[有働 壽恵]	
	就職基礎能力Ⅰ	講義		2					②		②		②		②	[山本 清美]	
	就職基礎能力Ⅱ	講義		2						②		②		②			
	就職基礎能力Ⅲ	講義		2							②		②		②		

※総合・キャリア関連科目を修得しても卒業要件の単位数には含まれない。

《演習科目》

科 目 名	基礎演習Ａ				
担当者名	中田 美栄・堀池 聡・木下準一郎・山本 真弓・斎藤 正寿・金子哲・森下 博・竹川 宏子				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》

基礎演習Ａ開設の目的は2つあります。1つは、高等学校までのいわゆる「ホームルーム」機能です。履修登録などの細かい手続きの方法や、勉学の進め方、または学生生活の送り方など様々な事柄について、担当教員からのアドバイスがあったり、また皆さんから教員や演習の仲間に相談をもちかけたりする、いわば大学生活のペースメーカーとしての機能です。

もう1つは、大学での勉学を始める際に、最低限身につけておかなければならない基礎的なマナー（授業の受け方、図書館の使い方、読書の方法、レポートの書き方など）をこの場で修得しておいてもらうという機能です。つまり勉強を始める前に勉強の方法をまず勉強してもらおうという趣旨です。

この演習では、入学時に振り分けられた約10名の学生と担当の教員1名が、毎週1回集まって様々なメニューをこなしていきます。メニューの内容は各教員の個性や専門性に応じて異なりますが、目的は上記の通り「大学生活のイロハ」の修得であることには違いがありません。なお、この基礎演習Ａの担当教員は入学時に指定されますが、続編となるⅡ期の基礎演習Ｂに進む際には、学生の皆さんの方で担当教員を選択することになります。

基礎演習Ａでは、(1) 大学における学習方法、(2) ノートテイキング、(3) 文献・資料の探し方、(4) インターネットによる情報収集、(5) 情報の整理、(6) 文献の読み方、(7) レポートの書き方、などについて学びます。

《授業の到達目標》

・大学生活に慣れ、大学での学習の基本を身につける。
・図書館の利用方法、文献・資料の探し方、インターネットによる情報収集に関する基礎知識を身につける。
・情報の整理、文献の読み方、レポートの書き方の基礎知識を得る。

《テキスト》

各担当教員の指示に従ってください。

《参考文献》

各担当教員の指示に従ってください。

《成績評価の方法》

各担当教員の指示に従ってください。いずれにせよ、演習は毎回必ず出席することが基本中の基本です。

《授業時間外学習》

≪授業のねらい及び概要≫でも述べたように、基礎演習Ａで学ぶことは、大学での学修を充実したものにするうえで、大切な事柄ばかりです。各担当者の指示に従って、その日の授業で学んだことをしっかりと確認しておきましょう。また、事前に課題が出された場合には、授業までにしっかりと取り組んでおきましょう。

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	初回授業時に担当者より説明があります。
第 2 週	
第 3 週	
第 4 週	
第 5 週	
第 6 週	
第 7 週	
第 8 週	
第 9 週	
第１０週	
第１１週	
第１２週	
第１３週	
第１４週	
第１５週	

《演習科目》

科 目 名	基礎演習Ｂ				
担当者名	中田　美栄				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
自然科学のみならず社会科学でも数学が必要であるが、一般的に数学が苦手という人が多い。このクラスでは、苦手を克服するために欠かせない集合と論理の基礎的部分の理解を得る。

《授業の到達目標》
集合の理論的な理解が進む。論理的な思考の能力を上昇させる。日常の生活にも応用できるようになる。

《テキスト》
なし

《参考文献》
なし

《成績評価の方法》
小テストと宿題を 30%、定期試験を 70%カウントする。

《授業時間外学習》
小テストの準備をしたり、宿題をしっかりやることがしっかり復習することになり、それが次の講義を理解しやすくする。

《備考》
出席を取る。授業中の質問は奨励する。遅刻はしないこと。欠席もしないこと。
ノートは沢山書くので、ノートをとるスピードを段々速めるようにすること。
勉強時間はたっぷりとり、粘り強い態度でのぞむこと。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	集合とは何か。集合の定義。
第 2 週	集合と集合でないもの。
第 3 週	色々な集合
第 4 週	集合の演算
第 5 週	集合の演算
第 6 週	ユニバーサルセットと補集合
第 7 週	補集合とドモルガンの法則
第 8 週	命題の定義
第 9 週	命題と命題でない文章との区別
第１０週	命題と集合の関係
第１１週	論理記号
第１２週	命題とドモルガンの法則
第１３週	記号論理
第１４週	述語命題
第１５週	命題関数

《演習科目》

科 目 名	基礎演習Ｂ				
担当者名	堀池　聡				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
Excel は様々な用途に活用できるソフトウェアです。単なる表計算だけではなく、データベースとして利用したり、グラフを作成したり、簡単な繰返し計算によるプログラムも可能です。この基礎演習では Excel の利用技術を向上させるための実習を行います。テーマはカレンダ作成、個人データ管理を予定しています。

《授業の到達目標》
Excel の基本的な利用技術が身につきます。また、技術調査、論理的思考法といった基本的な能力の向上を目指します。

《テキスト》
必要に応じてプリントを配布します。

《参考文献》
適宜、紹介します。

《成績評価の方法》
毎回の授業への取組み(60%)、成果物とそのレポート(40%)により評価します。

《授業時間外学習》
授業ごとに指定するコンピュータ演習や文献調査を行って下さい。

《備考》
同学期の必修科目である「アプリケーションソフト」でも Excel に関する授業があります。基本操作をしっかり学んで下さい。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	演習の進め方に対する説明
第 2 週	Excel の基本操作(1)
第 3 週	Excel の基本操作(2)
第 4 週	Excel の基本操作(3)
第 5 週	演習：カレンダの作成(1)
第 6 週	演習：カレンダの作成(2)
第 7 週	演習：カレンダの作成(3)
第 8 週	演習：カレンダの作成(4)
第 9 週	演習：カレンダの作成(5)
第１０週	Excel の基本操作(4)
第１１週	Excel の基本操作(5)
第１２週	Excel の基本操作(6)
第１３週	演習：データ管理(1)
第１４週	演習：データ管理(2)
第１５週	演習：データ管理(3)

《演習科目》

科 目 名	基礎演習Ｂ				
担当者名	木下　準一郎				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

この演習では、大学卒業後の進路として公務員を目指す学生に向けて、公務員になるための心構えや必要となる情報を提供し、これらの情報をもとにこれから大学で何を学び、どのような大学生活を送っていくかについて、明快なイメージを持てるようになることを目指します。公務員の職種は幅が広いのが特徴です。一般行政部門の他に、教師、警察官、消防官等、いろいろあります。これらの様々な職種を知り、実際に働いている人や、公務員試験対策のエキスパートに会って話を聞きます。

《授業の到達目標》

自分自身のキャリアデザインをおこなう。
社会の現状や就職状況について正しく認識する。
自己表現力を養う。

《テキスト》

テキストは指定しない。必要に応じて資料を配布する。

《参考文献》

『行政ってなんだろう』〔新版〕　新藤宗幸　（岩波ジュニア新書　2009 年）
『地域の価値を創る』　地域情報会議　（時事通信社　1998 年）

《成績評価の方法》

授業中の発表（70%）と討論（30%）により評価する。
授業を 4 回以上欠席した学生には単位を与えない。また 20 分以上の遅刻は欠席とみなす。

《授業時間外学習》

指定された資料を読み、発表・討論の準備を行う。

《備考》

予定表と連絡先を研究室（1W-112)のドアに貼り出しているので、質問や相談のある学生は指定した時間に訪ねてほしい。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	オリエンテーション（演習の進め方および成績評価方法について）
第 2 週	キャリアとは何か
第 3 週	就職活動の流れ
第 4 週	公務員と地方自治
第 5 週	公務員の仕事と待遇
第 6 週	自己分析と社会人基礎力診断
第 7 週	グループの編成分け
第 8 週	外部講師による講義
第 9 週	グループディスカッションⅠ
第１０週	外部講師による講義
第１１週	グループディスカッションⅡ
第１２週	外部講師による講義
第１３週	グループディスカッションⅢ
第１４週	グループによる発表
第１５週	まとめ

《演習科目》

科 目 名	基礎演習Ｂ				
担当者名	山本　真弓				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
数学の勉強を通じて、基礎となる原理・原則の論理的理解、イメージによる概念の直感的理解、適切な問題演習による概念の体得を行います。
特に、グラフが描け将来予想ができるようにします。
また，２人ひと組で計算問題を作成し、解答、解説は発表形式で行い、人前で説明するトレーニングを行います。
最初 20 分間で計算トレーニングを行い、残り 70 分で数学の基礎学力強化を行います。

《授業の到達目標》
人前で発表できるようになる。
計算力が身に着く。
個人個人の基礎数学学力強化ができる。
色々な関数のグラフが描けるようになり、将来予想ができるようになる。

《テキスト》
テキストは使用しません。必要に応じてプリントを配布します。

《参考文献》
必要に応じて授業中に紹介します。

《成績評価の方法》
毎回の授業の前後に実施する小テスト（80%）、単元ごとに課す宿題（10%）、発表内容及び態度（10%）

《授業時間外学習》
復習：その日に学んだことをノートにまとめ直し、理解不足の個所は例題を再び自分自身の手を動かして解いてみて下さい。
予習：前回の授業を再び復習し本当に理解てきているかどうか見直して下さい。次回の計算問題トレーニング担当者は、作成して下さい。

《備考》
毎時間遅刻せずに出席してください。
過去の配布プリント、筆記用具（鉛筆、消しゴム、赤ペン、定規）とノートは必ず持参してください。
携帯電話の使用を禁止します。特に、授業中携帯電話で話をした場合は、その場で単位修得不可能とします。
努力して考えても分からないところは、授業の中の演習中、授業後またはオフィスアワーに質問してください。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	演習の進め方の説明，自己紹介など
第 2 週	計算トレーニング 1、　関数とは
第 3 週	計算トレーニング 2、　グラフとは
第 4 週	計算トレーニング 3、 グラフの描き方
第 5 週	計算トレーニング 4、　基本的な１次関数のグラフ
第 6 週	計算トレーニング 5、　一般の１次関数のグラフ
第 7 週	計算トレーニング 6、 基本的な２次関数のグラフ
第 8 週	計算トレーニング 7、 基本的な n 次関数のグラフ
第 9 週	計算トレーニング 8、 一般的な n 次関数のグラフ
第１０週	計算トレーニング 9、 基本的な指数関数のグラフ
第１１週	計算トレーニング 10、 一般的な指数関数のグラフ
第１２週	計算トレーニング 11、 基本的な対数関数のグラフ
第１３週	計算トレーニング 12、 一般的な対数関数のグラフ
第１４週	計算トレーニング 13、一般的な関数のグラフ
第１５週	学習のまとめ

《演習科目》

科 目 名	基礎演習Ｂ				
担当者名	斎藤　正寿				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

例えば、「テレビで暴力シーンを見ることが多い子供ほど暴力、万引きなどの非行に走りやすいことが総務庁の調査結果で明らかになった。このことから、テレビの暴力シーンが子供に悪影響を与えていると考えられる」と言われたらどうですか？あなたは「ふーんそうかあ」と納得しますか？世間にこういう言説ってよくありますよね。でも大学生の皆さんは、絶対にこれに納得してはいけません。実は大きな「論理的」な落とし穴が、この言説には含まれています。半年間の演習を通じて、「論理的に考える」つまり「言葉を正しく運用する」ことを学んでいきたいと思います。具体的には以下の教科書を輪読し、問題演習を積み重ねていきます。おそらく最初はつまらない作業の連続になると思いますが、続けるうちに論理の楽しい世界が開けてくるかも知れません。半年終わって、上記の言説を読んだとき「ニヤリ」と出来たらしめたものです。

別の言い方をすれば、この演習では、ある事柄を社会科学的に学んだり、考えたりするというのはどういうことなのか、また具体的にどういうことをしなければならないのかを体験してもらう予定です。野球で言えば、一番基礎的なバットやボールの握り方を学ぶ場だと考えてください。

《授業の到達目標》

基礎的な論理学の知識を身につけることで、社会の様々な言説を理解し、かつ批判することができる。

《テキスト》

野矢茂樹『新版論理トレーニング』（産業図書）2006 年

《参考文献》

参考文献は演習をすすめながら、紹介をしていく。

《成績評価の方法》

評価は、毎時間の課題への取り組みと、学期末に課すレポートの内容を総合して行う。評価の割合は、課題への取り組み（50%）、レポート（50%）である。

《授業時間外学習》

毎回、テキスト中の練習問題数問を宿題とするので、それを次の時間までに解いて提出してもらう。

《備考》

我々が、ある「真理」なるものに到達する行為と制度を、仮に「知」と呼ぶならば、「知」のあり方はそれこそ世界に無数に存在している。大学というところは、無数に存在する「知」の中で、科学的「知」なるものを追求しようと努力をする場である。もちろん、科学的「知」だけが「真理」に到達できる道ではない。ただ、せっかく大学に入ったのだから、科学的「知」の方法とその「考え方のくせ」くらい身に付けてみるのもよいと思う。これを身に付けるだけでも、ずいぶんと身の回りの社会や遠い世界の見え方が変わってくるはずである。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	演習の進め方の解説、参加メンバーの確認
第 2 週	『論理トレーニング』序論　論理とは何か
第 3 週	『論理トレーニング』第１章　さまざまな接続関係（1）
第 4 週	『論理トレーニング』第１章　さまざまな接続関係（2）
第 5 週	『論理トレーニング』第１章　さまざまな接続関係（3）
第 6 週	『論理トレーニング』第２章　接続の構造（1）
第 7 週	『論理トレーニング』第２章　接続の構造（2）
第 8 週	まとめと復習
第 9 週	『論理トレーニング』第３章　議論の組み立て（1）
第１０週	『論理トレーニング』第３章　議論の組み立て（2）
第１１週	『論理トレーニング』第３章　議論の組み立て（3）
第１２週	まとめと復習
第１３週	『論理トレーニング』第４章　論証の構造と評価（1）
第１４週	『論理トレーニング』第４章　論証の構造と評価（2）
第１５週	まとめと復習

《演習科目》

科 目 名	基礎演習Ｂ				
担当者名	金子　哲				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

大学生活を送るために不可欠な知的作業の基礎力を養成します。

第一に、図書文献、雑誌論文、データーベース、ネット上の情報などの中から、必要な情報を検索する力を養成します。情報へのアクセスの仕方、条件の絞り込み方法、候補となるキーワードの発想方法、情報が正確であるかを検証する方法、などを学びます。

次に、獲得した情報の組み合わせ方を学び、さらなる情報を如何に獲得するか、を学びます。

最後に、自分の考えを表現する力を養成します。特に、他者の見解を引用する方法を厳密に学びます。

《授業の到達目標》

1.情報検索力の獲得。
2.情報統合力の獲得。
3.オリジナルな考えを導く力の獲得。
4.オリジナルな考えを表現する力の獲得。
5.「先行研究等の情報引用の方法」「大学における標準的な知的著述方法のきまり」などの基礎的知識の獲得。
6.柔軟な思考力の育成。

《テキスト》

なし。

《参考文献》

各自の興味、学習・研究の進捗などにあわせて、随時示します。

《成績評価の方法》

毎回の演習における知的活動（積極的参加の意思を重視します）を 60 パーセント、学期末に示して頂きます成果（レポートになるかプレゼンテーションになるかは演習がある程度進んだ段階で、参加者と協議します）を 40 パーセントとします。

《授業時間外学習》

ともかく、当該演習で選択した「興味ある対象」を常に考え、それに関する情報を貪欲に収集し、反芻しましょう。

《備考》

各自の興味ある対象で、知的に（ある意味『痴的』に）遊びましょう。大学での知的活動対象に禁忌（タブー）はありません。心の奥底からわき出る好奇心（ある意味でのエロースとも言えましょう）を感ずる対象を選び、探求しましょう。

なお、私の守備範囲は歴史学（特に日本中世史）ですが、サブ・カルチャー分野（秋葉系オタク学、アングラ文化論）なども大好きです。「ロクでもないこと」「阿呆なこと」「脱力系」を真面目に全力で探求したい・・・「変人」の参加、大歓迎です！！

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	今期の知的活動の準備。 今期の開講科目に関しての質疑応答、履修方針の確認。 演習活動の準備。 自己紹介や、演習の進め方の確認。
第 2 週	知的情報収集論 1 図書・雑誌論文情報へのアクセスと収集 1
第 3 週	知的情報収集論 2 図書・雑誌論文情報へのアクセスと収集 2
第 4 週	知的情報収集論 3 図書・雑誌論文情報へのアクセスと収集 3
第 5 週	知的情報収集論 4 ネット情報へのアクセスと収集 1
第 6 週	知的情報収集論 5 ネット情報へのアクセスと収集 1
第 7 週	知的情報統合 1 獲得した情報を如何に組み合わせるか 1
第 8 週	知的情報統合 2 獲得した情報を如何に組み合わせるか 2
第 9 週	知的情報統合 3 新しい視座・切り口の見つけ方
第１０週	知的情報収集のステップアップ 1 中間考察を基にしての次なる情報収集論 1
第１１週	知的情報収集のステップアップ 2 中間考察を基にしての次なる情報収集論 2
第１２週	知的情報収集のステップアップ 3 中間考察を基にしての次なる情報収集論 3
第１３週	知的情報統合のステップアップ 最終的に獲得した情報を如何に組み合わせるか
第１４週	新しい視座・切り口の発見方法 大学における知的著述方法のきまり
第１５週	全体の総括

《演習科目》

科 目 名	基礎演習Ｂ				
担当者名	森下　博				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

授業では、ウェブページを制作する過程で、その表現技術と処理技術を学ぶことを目標にします。また皆さんの好奇心を盛り込んだ自己表現を発揮する機会を与えます。

情報化社会において、誰もが手軽に情報を発信できるようになりました。しかし、情報を発信する際には、何をどのように見せるかという人間の「表現技術」と、いかに効果的に魅せるかというコンピュータの「処理技術」が問われてきます。演習では、構想、制作、公開といった段階を踏みながらウェブページを仕上げていくことを目的にします。

Ⅰウェブページの構想

ウェブページを実現するために必要なメディアとその方法について設計を描きます。

Ⅱウェブページの制作

コンピュータを活用し、HTMLによるウェブページの制作に取り組みます。

Ⅲウェブページの公開

ネットワークを通じてウェブページによる情報を発信します。

《授業の到達目標》

○ウェブ上で表現するための技術を理解し、方法を説明することができる。
○ウェブ上で伝えたい情報をわかりやすくまとめることができる。
○ウェブ上で思い通りのデザインを表現することができる。

《テキスト》

適宜、プリントを配布します。

《参考文献》

適宜、参考書を紹介していきます。

《成績評価の方法》

課題進捗状況レポート提出30%
課題提出とその成果70%

《授業時間外学習》

授業内で終えられなかった課題については、次回までに学習を済ませておいて下さい。そして、より理解を深めるため、またさらなる発展のための自主的な学習の取り組みに期待します。

《備考》

授業では、技術を習得しながらそれを自己表現として活用できるように展開していきます。特にウェブページを組み立てていく過程を楽しんでもらいたいと思います。皆さんの積極的な取り組みに期待しています。講義内容に関する質問は、授業時あるいはオフィスアワー等で受け付けます。

《授業計画》

週	授　業　計　画	
第 1 週	Ⅰウェブページの構想	① 演習の目標と概要の説明
第 2 週		② ウェブページ（コンテンツ）の構想
第 3 週		③ ウェブページ（階層構造）の設計
第 4 週	Ⅱウェブページの制作	① リンクの活用
第 5 週		② イメージの活用
第 6 週		③ スタイルシートの活用
第 7 週		④ テーブルの活用
第 8 週		⑤ フォームの活用
第 9 週		⑥ スクリプトの活用
第１０週		⑦ フレームの活用
第１１週		⑧ マルチメディアの活用
第１２週		⑨ クリッカブルマップの活用
第１３週	Ⅲウェブページの公開	① ウェブページのまとめと確認
第１４週		② ネットワークによるウェブページの提出
第１５週		③ ウェブページの公開と意見交換

《演習科目》

科 目 名	基礎演習Ｂ				
担当者名	竹川　宏子				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
私たちの生活と企業は密接なつながりを持っている。企業は製品やサービスを提供すると同時に多くの人々にとっては、働く「働く場」でもある。したがって、これから社会に出ていくためには、企業についてのさまざまな知識が欠かせない。
この演習では、履修者が順番にテキストをまとめ、レジュメを作り発表し、それをもとにディスカッションする。
これらの学習を通じて、企業活動や企業の仕組みについて基本的な知識を身につけることや、本をまとめる力、レジュメをまとめる力をつけることを目的とする。

《授業の到達目標》
○企業の仕組みについて基本的なことを理解できるようになる。
○私たちの生活と企業活動とのつながりが理解できるようになる。
○企業で働くことの意味について考えられるようになる。

《テキスト》
小樽商科大学、高大連携チーム 編『わかる経営学』日本経済評論社、2005 年。

《参考文献》
青木三十一、駒林健一 著『最新版 入門の入門 経営のしくみ』日本実業出版社、2007 年。

《成績評価の方法》
全回出席を前提としたうえで、平常点（授業での報告、質疑応答など）60%、試験（テキスト等の「持ち込み不可」にて実施する）40%として評価する。欠席、遅刻の場合は、その分のまとめ作成・提出を課す。

《授業時間外学習》
連絡用のメールアドレスは、第１回講義の際に伝える。
予習は、テキストの該当箇所を読んでおくこと（該当箇所は事前に提示する）。
復習は、ノートやプリントを使っての内容確認。

《備考》
無断欠席、遅刻はいっさい認めない。やむを得ず欠席した場合は、欠席した分のテキストをまとめ、その提出を課す。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	授業の概要と進め方 企業を取り巻く環境
第 2 週	経営学とは何か
第 3 週	経営戦略論で学ぶこと①
第 4 週	経営戦略論で学ぶこと②
第 5 週	経営戦略論で学ぶこと③
第 6 週	企業におけるマーケティングの役割①
第 7 週	企業におけるマーケティングの役割②
第 8 週	企業におけるマーケティングの役割③
第 9 週	経営組織論で学ぶこと①
第１０週	経営組織論で学ぶこと②
第１１週	経営組織論で学ぶこと③
第１２週	企業における会計の意味と役割①
第１３週	企業における会計の意味と役割②
第１４週	企業における会計の意味と役割③
第１５週	授業のまとめ

《コース共通科目》

科 目 名	経済情報概論				
担当者名	池本　廣希・森・義隆・高本　茂・瀧本　眞一・田中　正彦・木下　準一郎・高野　敦子・金子　哲 岡本　洋之・榎木　浩・竹川　宏子・沖野　光二				
授業方法	講義	単位・必選	4・必	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》

経済情報学部生は、２年次Ⅱ期より「経済ビジネスコース」「情報システムコース」「地域デザインコース」のいずれかのコースに所属して、そこで専門的な学修を積んでいくことになります。しかし、入学時には大半の諸君がそれぞれのコースでどのような勉強をするのか、イメージをつかんでいないことと思います。

この授業では、３つのコースの専門教育を担う教員がリレー講義の形で次々と登場し、諸君にそれぞれの学問領域の面白さを伝え、知的好奇心を刺激していきたいと考えています。１年後の進路選択の重要な手がかりを与えてくれる非常に大切な講義です。

《授業の到達目標》

経済情報学部ではどのようなことを学ぶのか、「経済ビジネスコース」「情報システムコース」「地域デザインコース」での学修についてイメージをつかむ。

《テキスト》

全体を通してのテキストは指定しません。必要に応じてプリントを配布します。

《参考文献》

それぞれの講義担当者の指示に従って下さい。

《成績評価の方法》

各コース 5 週間ずつ講義を担当し、各コース担当期間の最終回に学習のまとめとして筆記試験を実施し成績評価します。
各コース 100 点満点で採点し、3 コース分を合計して 300 点満点、それを 100 点満点に換算して成績評価します。

《授業時間外学習》

毎回の授業内容について、しっかりと復習して下さい。わからないことがあれば、積極的に担当教員に質問して理解を深めましょう。

《備考》

・毎回の授業に必ず出席し、3 回の試験を必ず受験して下さい。出席は毎時間確認します。
・各コースの担当者は下記の通りです。
（経済ビジネス）　森 義隆、高本 茂、竹川宏子、沖野光二
（情報システム）　田中 正彦、高野 敦子、榎木浩
（地域デザイン）　池本 廣希、瀧本 眞一、木下 準一郎、金子 哲、岡本 洋之

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	経済情報概論の授業内容に関する説明 ※詳しい授業計画については、1 回目の授業時にプリントを配布してお知らせします。 地域デザインコース担当授業（1）
第 2 週	地域デザインコース担当授業（2）
第 3 週	地域デザインコース担当授業（3）
第 4 週	地域デザインコース担当授業（4）
第 5 週	地域デザインコース担当授業（5） 地域デザインコース担当授業のまとめ
第 6 週	情報システムコース担当授業（1）
第 7 週	情報システムコース担当授業（2）
第 8 週	情報システムコース担当授業（3）
第 9 週	情報システムコース担当授業（4）
第１０週	情報システムコース担当授業（5） 情報システムコース担当授業のまとめ
第１１週	経済ビジネスコース担当授業（1）
第１２週	経済ビジネスコース担当授業（2）
第１３週	経済ビジネスコース担当授業（3）
第１４週	経済ビジネスコース担当授業（4）
第１５週	経済ビジネスコース担当授業（5） 経済ビジネスコース担当授業のまとめ

《コース共通科目》

科 目 名	数学基礎				
担当者名	中田　美栄				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
大学での勉強に必要な数学を理解するために、高校までの数学で理解不足のところがあればそれを補ったり、理解をより確かなものにする。トピックとしては高校までに習ったことと同じものを扱うことになるが、大学では大学の勉強にふさわしくできる限り理論的に扱う。

《授業の到達目標》
高校までの数学の基礎を確保する。知識としてだけの数学の理解ではなく、論理的にじっくり自分で考えることができる態度を身につける。

《テキスト》
なし

《参考文献》
なし

《成績評価の方法》
頻繁に行なう小テストを 40%、定期試験を 60%カウントする。

《授業時間外学習》
小テストのための準備は効果的な復習になる。研究室に頻繁に質問に来ることにより理解を深める。

《備考》
オリエンテーション中に行なうクラス分けテストにより、クラスを分けて授業を行う。
ノートを沢山とることに慣れ、ノートをとるスピードを次第に増すように努力をすること。
質問を奨励する。出席を取る。遅刻欠席は授業についていけなくなるきっかけとなるのでしないように。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	導入。数学基礎という科目の目的，意図を理解し、どのような態度で、どのような努力が必要であるの科などをしっかり理解し、この科目の勉強全体の心構えを付ける。
第 2 週	集合
第 3 週	集合
第 4 週	関数の定義
第 5 週	関数
第 6 週	関数の例としての一次関数
第 7 週	関数の例としての二次関数
第 8 週	関数のグラフ
第 9 週	図示できるグラフの図示
第１０週	関数の例としての数列
第１１週	数列の色々
第１２週	数列の収束
第１３週	指数関数の定義
第１４週	逆関数
第１５週	対数関数

《コース共通科目》

科 目 名	数学基礎				
担当者名	山本　真弓				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
高校教育を終了するまでに学修した数学の不確実あるいは不十分な部分の補強、補充を行います。
この後に続く経済情報学部の学生として非常に重要な科目を受ける基礎となる科目です。
この科目は、数学の理解度によってクラスが分かれているため、補強しなければならないトピックが、クラスごとに異なることが考えられます。各学生にとって必要な土台をつくります。

《授業の到達目標》
整数、有理数、実数についての演算の意味を理解し、早く正確に計算できるようになる。
日常生活や経営学の観点から分からないことを方程式で表し解けるようになる。
１次関数、２次関数を理解し、未来を予想できるようになる。
数列を理解し、和も計算できるようになる。

《テキスト》
テキストは使用しません。必要に応じてプリントを配布します。

《参考文献》
必要に応じて授業中に紹介します。

《成績評価の方法》
試験(80%)、毎回の授業の前後に実施する小テスト（20%）

《授業時間外学習》
復習：その日に学んだことをノートにまとめ直し、理解不足の個所は例題を再び自分自身の手を動かして解いてみて下さい。
予習：前回の授業を再び復習し本当に理解てきているかどうか見直して下さい。次回の復習テストに備えて下さい。

《備考》
この科目は，オリエンテーション期間中にクラス分テストを実施し、理解度に応じてクラス分けを行います。複数の教員が担当します。
毎時間遅刻せずに出席してください。
過去の配布プリント、筆記用具（鉛筆、消しゴム、赤ペン、定規）とノートは必ず持参してください。
携帯電話の使用を禁止します。特に、授業中携帯電話で話をした場合は、その場で単位修得不可能とします。
基礎を学ぶには、積み重ねが重要となります。毎週復習を行い理解して次の週に臨にで下さい。
努力して考えても分からないところは、授業の中の演習中、授業後またはオフィスアワーに質問してください。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	基礎数学がなぜ必要か？　クラス分け試験の解説
第 2 週	整数に関する演算
第 3 週	整数でない有理数に関する演算
第 4 週	有理数でない実数に関する演算
第 5 週	すべての実数に関する演算
第 6 週	日常生活の観点から分からないことを方程式にし解く
第 7 週	経営学の観点から分からないことを方程式にし解く
第 8 週	これまでの学習の振り返り
第 9 週	１次関数の一般論
第１０週	１次関数のグラフから未来を予想する
第１１週	２次関数の一般論
第１２週	２次関数のグラフから未来を予想する
第１３週	数列
第１４週	数列の和
第１５週	学習のまとめ

《コース共通科目》

科 目 名	アプリケーションソフト				
担当者名	穂積　隆広・森下　博・佐竹　邦子				
授業方法	演習	単位・必選	4・必	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

原則として、毎週テーマや目標とする技能を設定した課題を提示し、それに対する演習結果を提出してもらいます。「コンピュータ演習」よりも、より深くテクニカルな内容を目指し、次のような実習を行います。

・ワープロソフト
　レポートや論文、報告書など本格的な文書の作成や、さまざまな印刷機能の習得
・表計算ソフト
　表の作成や、分析する情報にあわせたグラフの作成、目的に応じたデータの処理
・プレゼンテーションソフト
　より巧妙なプレゼンテーション資料の作成、プレゼンテーション以外の目的での利用

なお、この授業のクラス分けは教員側で設定します。

《授業の到達目標》

現在の社会ではコンピュータを利用して多様な情報を処理する能力が求められています。情報を処理するとは、多くの情報を整理・分析し、なんらかの結果を導いて他者を説得できるだけの情報としてまとめることをいいます。さらにそのまとめた内容を大勢に伝えるために発表することもあります。これらの目的のために現在最も利用されているソフトがMicrosoft社のWord(ワープロ)、Excel(表計算)、PowerPoint(プレゼンテーション)です。この授業ではこれらのソフトを自由に使いこなす技能を身につけるとともに、コンピュータに対する理解を深めることを目標とします。

《テキスト》

プリントやウェブページなどを利用して、資料を配布します。

《参考文献》

授業は原則として次の本の内容にもとづいて進めていきます.
　情報リテラシー Office 2007, FOM 出版

また，最新バージョンの Office ソフトを使っている人は次の本も参考にしてください.
　学生に役立つ Word & Excel & PowerPoint, FOM 出版
　情報リテラシー (Windows 7 / Internet Explorer 8 / Word , Excel , PowerPoint 2010 対応), FOM 出版

この他にも図書館や市販の本を各自の理解度にあわせて参考にするようにしてください。

《成績評価の方法》

・成績は毎回の授業時間内に提出する練習課題（40 点満点）とその内容を元に各自が実践する提出課題の到達度（60 点満点）の合計で評価します。
・この授業は実習なので、出席を重視します。欠席回数が授業全体の 1/3 以上の場合、一切評価しません。
・ペーパーテストは行いません。

《授業時間外学習》

・予習として教科書の指定箇所を読んでおくこと。
・提出課題は、授業時間だけでなく授業外の時間も取り組み、より完成度の高いものになるよう努力すること。
・この授業と直接関係のないものについても Word, Excel, PowerPoint を活用し、常に復習を行うこと。

《備考》

この授業ではコンピュータを活用し，様々な作業を効率よく進める力を身に付けることを目的としています。なかでも手に入れた情報を分析・加工する能力を重視し、表計算ソフトの習得に多くの時間を割いています。この授業に熱心に取り組めばマイクロソフト社が主催するマイクロソフトオフィススペシャリストの資格取得も目指せるでしょう。頑張ってください。

また、コンピュータをより深く理解するためには授業への取り組みだけでなく普段からの経験も重要となります。より高度な応用力を身につけるためにも普段からコンピュータを利用し、習得した技能を活用してください。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	ワープロ (1) 第 01 回 ガイダンスと文字入力の復習 第 02 回 ビジネス文書の編集
第 2 週	ワープロ (2) 第 03 回 文書の作成 第 04 回 図の利用とヘッダー、フッター
第 3 週	ワープロ (3) 第 05 回 表、ワードアート、ページ罫線 第 06 回 図形を利用した文書
第 4 週	ワープロ (4) 第 07 回 段組み文書の作成 第 08 回 応用課題
第 5 週	表計算 (1) 第 09 回 簡単な表の作成 第 10 回 関数の活用
第 6 週	表計算 (2) 第 11 回 相対参照と絶対参照 第 12 回 関数の活用 … VLOOKUP 関数
第 7 週	表計算 (3) 第 13 回 VLOOKUP 関数の応用 第 14 回 条件の判断と論理関数
第 8 週	表計算 (4) 第 15 回 グラフの作成 第 16 回 複合グラフの作成
第 9 週	表計算 (5) 第 17 回 シート間の集計 第 18 回 書式の活用
第１０週	表計算 (6) 第 19 回 データベース関連機能 第 20 回 ピボットテーブル、ピボットグラフ
第１１週	表計算 (7) 第 21 回 コピーとリンク貼り付け 第 22 回 文字列操作関数
第１２週	表計算 (8) 第 23 回 応用課題 第 24 回 応用課題
第１３週	プレゼンテーション (1) 第 25 回 プレゼンテーションソフト基礎 第 26 回 図表の利用
第１４週	プレゼンテーション (2) 第 27 回 スライドの視覚効果 第 28 回 スライドマスタ
第１５週	プレゼンテーション (3) 第 29 回 配布資料とノート 第 30 回 応用課題

《コース共通科目》

科 目 名	プレゼンテーションＡ				
担当者名	福永　弘之				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
オーラルなプレゼンテーションに重点をおいて、(1) プレゼンテーションの定義と種類、(2) プレゼンテーションへの準備、(3) 実践（自己紹介、スクラップでの発表、クラブ、アルバイト紹介)、(4) ゼミ発表（レジュメの書き方とカンタンな製品比較のゼミ発表)、(5) 議論の仕方を学ぶ

《授業の到達目標》
大学で必要なゼミ発表、卒論発表ができるように、プレゼンテーション技法、コミュニケーション作法の修得をめざし、就職での面接力、会社での企画発表できる力を養う。

《テキスト》
福永弘之監修『キャンパスライフとプレゼンテーション』樹村房、2002 年

《参考文献》
茂木秀昭著『ザ・ディベート』筑摩書房、2001 年。
大島武著『「相手の聞きたいこと」を話せ』マキノ出版、2006 年。

《成績評価の方法》
平常点（出席状況、授業態度など）10%、授業中の発表の評価 30%、定期試験 60%をもって行う。

《授業時間外学習》
スクラップ発表のときは事前に配布して要点をまとめてきて発表させる。自己ＰＲ文のときも事前に例題集を配り、家庭で考えてきてから作成させる。

《備考》

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	授業の概要と進め方 学士力、YES プログラム、社会人基礎力とプレゼンテーション
第 2 週	プレゼンテーションのアウトラインⅠ
第 3 週	プレゼンテーションのアウトラインⅡ
第 4 週	プレゼンテーションのやさしい概説Ⅰ
第 5 週	プレゼンテーションのやさしい概説Ⅱ
第 6 週	自己紹介、クラブ紹介、アルバイト紹介
第 7 週	自己紹介、クラブ紹介、アルバイト紹介 店・ふるさと紹介、スクラップによる発表　演習Ⅰ
第 8 週	自己紹介、クラブ紹介、アルバイト紹介 店・ふるさと紹介、スクラップによる発表　演習Ⅱ
第 9 週	ゼミ発表の仕方とレジュメ
第１０週	就職とプレゼンテーションⅠ　マナーなど（ビデオ使用）
第１１週	就職とプレゼンテーションⅡ　エントリーシート、自己ＰＲ文作成演習
第１２週	会議とプレゼンテーション
第１３週	企画とプレゼンテーション（ビデオ使用）
第１４週	議論をしようⅠ　パネルディベート演習
第１５週	本講義のまとめと要点の整理

《コース共通科目》

科 目 名	プレゼンテーションB				
担当者名	石原　敬子				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
大学での学修のあらゆる場面で必要となる文章表現によるプレゼンテーションについて学ぶ。
授業では、文章作法、構想の練り方、文章の組み立て方、論理的な書き方について解説する。毎時間の演習、添削指導を通じて文章を書く力を身につける。

《授業の到達目標》
・演習を通じて、文章作法を身につける。
・資料の内容について、ポイントを押さえて要約できるようになる。
・序論・本論・結論のスタイルでまとまりのある文章を書けるようになる。
・レポート、論文の書き方を身につける。

《テキスト》
プリントを配布する。

《参考文献》
小笠原喜康著『大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書、2002年。
大島弥生他著『ピアで学ぶ大学生の日本語表現－プロセス重視のレポート作成』ひつじ書房、2005年。
菊田千春・北林利治著『論理的に書き、プレゼンする技術』東洋経済新報社、2006年。
その他、授業時に紹介する。

《成績評価の方法》
毎回の授業での課題に対する評価と学期末のレポートに基づいて行う。評価の割合は、授業時の演習課題を 60%、学期末のレポート40%とする。
なお、学期末のレポートを提出しなかった場合には単位を与えないので注意すること。

《授業時間外学習》
・毎時間取り組んだ演習課題については、翌週に添削して返却する。指摘された事柄を確認・理解し、もう一度自分なりにまとめなおすなどして、スキルアップに努めよう。
・第10週目以降は、学期末のレポート作成に向けて毎回宿題を出すので、しっかりと取り組むこと。

《備考》

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	授業の概要と進め方
第 2 週	基本的な文章作法を身につけよう
第 3 週	文章を要約するⅠ
第 4 週	文章を要約するⅡ
第 5 週	感想文を書くⅠ
第 6 週	感想文を書くⅡ
第 7 週	議論をふまえて自分の考えを表現しようⅠ
第 8 週	議論をふまえて自分の考えを表現しようⅡ
第 9 週	議論をふまえて自分の考えを表現しようⅢ
第１０週	議論をふまえて自分の考えを表現しようⅣ
第１１週	レポートを書こうⅠ：　よいレポートとは／テーマを決めて構想を練る
第１２週	レポートを書こうⅡ：　情報検索
第１３週	レポートを書こうⅢ：　文章を組み立てる
第１４週	レポートを書こうⅣ：　引用の仕方を身につける
第１５週	学習のまとめ レポートの提出

《コース共通科目》

科 目 名	現代経済社会論Ａ				
担当者名	森　義隆				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

所定のテキストに従って講議するが、必要な場合関連するデータや資料を新聞などから引用したプリントを配布する。学ぶべき事実や知識はかなり多岐にわたるが、それぞれは簡潔な説明に終始しているので、経済関係の事典など参照して理解を確実にすることが大事である。

《授業の到達目標》

この講義では、現代の日本経済を理解するために最低限必要と思われる基礎的な知識や事実をそれぞれの項目にコンパクトにまとめ体系的に整理して説明する。現実の日本経済の姿を適確に理解することに大きな目的がある。登場するデータや現象の相互に関連しあう側面を深く理解するにはそれぞれの分野の経済理論が必要であるが、そうした理論を基礎から学ぶための準備段階と位置付けしてもらえれば結構である。

《テキスト》

ビジュアル『日本経済の基本（第３版）』小峰隆夫（日経文庫）日本経済新聞社、2006 年

《参考文献》

『経済データの読み方（新版）』鈴木正俊（岩波新書）岩波書店、2006 年
ベーシック『日本経済入門（第３版）』岡部直明（日経文庫）日本経済新聞社、2004 年

《成績評価の方法》

小テスト(30 点）と定期試験(70 点）の結果で判定する。

《授業時間外学習》

毎回講義で学んだことを確認するための空欄充填式の小問題を課外学習として提供する。

《備考》

授業中は静粛にすること、携帯電話は使用しないこと。以上の２点は厳守。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	講義の目的と心構え　　日本経済を見る視点、GDP とは何か
第 2 週	日本経済：成長の歩み、　消費と貯蓄
第 3 週	設備投資の役割と実績（高度成長のエンジン）
第 4 週	バブル経済とその後遺症われた 10 年
第 5 週	産業構造の変化、IT 革命と主導的産業の成長力、企業収益
第 6 週	日本的経営、日米の違い、産業・企業の再生
第 7 週	M&A、企業買収
第 8 週	財政政策、景気対策
第 9 週	財政再建と一般会計
第１０週	財政の役割、税制改革、消費税
第１１週	地方財政、公共事業
第１２週	少子高齢化の進展と労働力不足問題
第１３週	若年層の失業（ニート、フリーター）
第１４週	年金、医療、社会保障
第１５週	中国経済の動向

《コース共通科目》

科 目 名	簿記原理Ⅰ				
担当者名	三宅　伸二				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
この講義では、簿記原理Ⅰ・Ⅱを通じて、会計学関係科目の基礎となる簿記の基本について学習します。この科目を学んだ後、会計学入門、簿記論、会計学、工業簿記、財務諸表論、情報会計論へと学びを広め深めることで、会計学のより深い知識を習得することができます。そして、税理士、公認会計士などの職業会計人を目指すこともできます。

《授業の到達目標》
テキストに沿って板書を中心に進めていきます。授業をきちんと聞いておればテキストは必要ありませんが、きちんと聞く自信のない人や、確かな知識を身につけたい人はテキストを併用されることを勧めます。

《テキスト》
蛭川幹夫「基本簿記」実教出版（2008）2,000 円

《参考文献》
ＴＡＣ出版「合格テキスト日商簿記３級」ver.5.0
ＴＡＣ出版「合格トレーニング日商簿記３級」ver.5.0
日商簿記検定合格を目指す人には最適です。

《成績評価の方法》
到達度確認試験（３回）の状況（９０％）と宿題（１０％）で評価します。

《授業時間外学習》
宿題を出します。

《備考》
ぜひ、早い段階で日商簿記検定を目指してください。先が見えてきます。検定は、６月、１１月、２月と年３回あります。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	ガイダンス 簿記とは
第 2 週	貸借対照表
第 3 週	損益計算書
第 4 週	取引と勘定記入
第 5 週	仕訳と転記
第 6 週	試算表
第 7 週	決算
第 8 週	精算表
第 9 週	現金・預金取引
第１０週	商品売買取引１
第１１週	商品売買取引２
第１２週	掛取引
第１３週	手形１
第１４週	手形２
第１５週	手形３

《コース共通科目》

科 目 名	情報科学入門				
担当者名	堀池　聡				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
情報技術の進展には目を見張るものがあり、生活のあらゆる局面に浸透しています。情報技術の基本的な知識を習得することにより、現在の情報処理環境をより有効に活用でき、新しい技術にも柔軟に対応できます。情報技術は幅広い項目から構成されますが、本講義ではその中でも特に中核となる技術を中心に、基本的な内容について講義を行います。

《授業の到達目標》
情報科学の基本事項を理解します。２年以降に学ぶ情報系の講義にスムーズに取り組んでいけるようになります。

《テキスト》
『情報科学入門』　伊藤　俊彦著（ムイスリ出版）

《参考文献》
適宜紹介します。

《成績評価の方法》
毎回行う確認テストを 25%、最後に行う総合テストを 75%の割合で評価します。

《授業時間外学習》
教科書と配布プリントを用いて復習に力を入れて下さい。予習としては、次回の講義範囲に関し教科書に目を通してくおいて下さい。

《備考》
理解をより深めるため、周辺の情報処理システムを観察しつつ、本講義を受講してください。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	本講義の概要と狙いについて
第 2 週	情報の基礎１ 　情報とは何か 　データと情報の基礎
第 3 週	情報の基礎２ 　データと情報の表現
第 4 週	情報技術の基礎１ 　情報技術とは何か
第 5 週	情報技術の基礎２ 　コンピュータの基礎
第 6 週	情報技術の基礎３ 　ハードウェアの基礎
第 7 週	ソフトウェアとデータベース１ 　ソフトウェアの基礎 　言語プロセッサ
第 8 週	ソフトウェアとデータベース２ 　プログラム作成の技術 　ソフトウェアの開発
第 9 週	ソフトウェアとデータベース３ 　データベースの基礎
第１０週	ネットワークの基礎１ 　ネットワークとは何か
第１１週	ネットワークの基礎２ 　ネットワークの基礎技術
第１２週	ネットワークの基礎３ 　インターネット技術の基礎
第１３週	ビジネスと情報技術の活用１ 　情報社会と情報システム
第１４週	ビジネスと情報技術の活用２ 　情報システムのセキュリティ
第１５週	まとめ

《コース共通科目》

科 目 名	グラフィックス				
担当者名	田中　正彦				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
コンピュータグラフィックスの基礎的技法を学び，イラスト作成などの作品制作に結びつける。
この授業では色や形の情報を数値で表すベクトルグラフィックスを主に扱います。
フリーのＣＧソフトである Inkscape を用いて演習を行います。
授業では e-Learning システムを利用します。

《授業の到達目標》
次のことがらを理解し活用することができる。
・画像の表現方法、データの扱い方、色彩、構成
・ドローソフトの使い方、グラフィックスの基礎的技法

《テキスト》
なし
資料は e-Learning システムや学内ネットワークを通じて適宜配布する。

《参考文献》
CG に関する書籍は数多く出版されているので、いろいろ読んでみることを薦めます。
また、CG に限らず絵画を見ることも作品制作の参考になります。
http://ei-www.hyogo-dai.ac.jp/~masahiko/

《成績評価の方法》
毎回課題提出があります。
毎回の提出物の評価の合計を成績評価とします。(100%)

《授業時間外学習》
その時間までの内容をしっかり理解し、活用できる場面を考えること。
作成しようとする作品に必要な資料を集めること。

《備考》
基本をきっちり理解し、楽しく作品制作にとりくみましょう。
連絡先 e メール masahiko@lab.hyogo-dai.ac.jp

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	授業概要と e ラーニング登録作業
第 2 週	ソフトウエアのインストールと基本的な使い方
第 3 週	ビットマップデータとベクトルデータ
第 4 週	パスの構造と編集
第 5 週	ベジェ曲線を描くツール
第 6 週	色、グループ化
第 7 週	グラデーション
第 8 週	画像ファイルを使う
第 9 週	パスの編集
第１０週	レイヤー
第１１週	クリップ、マスク
第１２週	パスの演算
第１３週	文字
第１４週	印刷とレイアウト
第１５週	作品制作

《コース共通科目》

科 目 名	ウェブデザイン				
担当者名	田中　正彦				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
コミュニケーションでは、伝えたい情報を適切にデザインすることが重要である。
特に Web 上のコンテンツでは、ユーザビリティ（使いやすさ）とアクセシビリティ（アクセスしやすさ）も考慮しなければならない。
Web ページの制作を通して、Web に関する知識と技術と、目的や対象に合った情報デザインの習得を目指す。
授業では e-Learning システムを利用します。

《授業の到達目標》
次のことがらを理解し活用することができる。
・HTML(XHTML)と CSS、Web そのものの特徴
・情報の構造とデザイン、目的・対象に応じたデザイン
・アクセシビリティ、ユーザビリティ

《テキスト》
なし
資料は e-Learning システムや学内ネットワークを通じて適宜配布する。

《参考文献》
『Web 標準の教科書』益子貴寛（秀和システム）
『詳細 HTML&XHTML&CSS 辞典 第三版』大藤幹（秀和システム）
『ウェブ・ユーザビリティ』ヤコブ・ニールセン（MdN）
『WEB デザイン・ユーザビリティ』池谷義紀（ソフトバンク）

《成績評価の方法》
毎回課題提出があります。
毎回の提出物の評価の合計を成績評価とします。(100%)

《授業時間外学習》
その時間までの内容をしっかり理解し、活用できる場面を考えること。
作成しようとする Web ページに必要な資料を集めること。

《備考》
連絡先 e メール masahiko@hyogo-dai.ac.jp

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	ガイダンス、e ラーニングへの登録
第 2 週	Web 全体の基礎知識／HTML の基本 Web ページ作成の手順
第 3 週	XHTML の基本 XHTML の基本的な記述方法
第 4 週	XHTML(続き) 表のある Web ページを作る
第 5 週	XHTML(続き) 画像の Web ページを作る／ここまでのまとめ
第 6 週	CSS 情報の意味構造と表現のデザイン
第 7 週	CSS(続き) 空間をデザインする
第 8 週	CSS(続き) フォント関係をデザインする
第 9 週	CSS(続き) class を利用してデザインする
第１０週	CSS(続き) 背景をデザインする
第１１週	応用(1) スタイルの切替をする
第１２週	応用(2) ページ全体をレイアウトする
第１３週	応用(3) 統一されたデザイン
第１４週	応用(4) サイトデザイン
第１５週	応用(5) ユーザビリティとアクセシビリティ

《コース共通科目》

科 目 名	基礎経済数学				
担当者名	中田　美栄				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
コンピュータサイエンスの勉強のみならず経済学の勉強にも数学は必要である。中でも線形代数学は重要である。線形代数学は数学の中の大きな分野であるが、基礎経済数学では、線形代数学の比較的具体的なトピックであるマトリックス（行列)の基礎的理解を身につける。

《授業の到達目標》
マトリックス(行列）の演算ができる。そのための数学の記号を使った議論になれる。関数の正しい理解と正しい取り扱いに慣れる。

《テキスト》
なし

《参考文献》
なし

《成績評価の方法》
頻繁に行なう小テストと宿題を 30%、定期試験を 70%カウントする。

《授業時間外学習》
小テストのための準備勉強や宿題をするために勉強を深めることが復習となり、理解を深めることにより次の勉強が理解しやすい状態を作る。

《備考》
勉強の望ましい態度として、知識ばかり追い求めるのではなく、むしろ考えられる頭脳になることを目指した勉強をすること。そのためには分からないところを分かるまで追求する態度を身につけるようにすること。
出席を取る。遅刻や欠席をすると授業がかなり分かりづらくなるのでできるだけしないようにすること。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	ベクトルとマトリックス（行列)。定義と表現
第 2 週	行列の演算
第 3 週	行列の演算
第 4 週	平面のベクトルと連立一次方程式
第 5 週	空間のベクトルと連立一次方程式
第 6 週	色々な行列
第 7 週	逆行列
第 8 週	可逆行列の定義
第 9 週	行列式
第１０週	行列式の計算
第１１週	行列式の計算
第１２週	行列式と可逆の判定
第１３週	連立一次方程式とクラメルの公式
第１４週	行列の固有値と固有ベクトル
第１５週	行列の対角化

《コース共通科目》

科 目 名	社会経済史				
担当者名	金子　哲				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

この講義はね、「ものを覚える」ための講義ではないんだ。「柔らか頭をつくる」ための講義って感じかな。だから、この講義では、クソ面白くない暗記をしたり、コリコリ勉強をする必要はないんだ。

格好良く言えば、「商業・資本の奥底に潜んでいる非合理的感性の究明」なんて御題目になるんだろうけど、いわゆる経済学の分野からはアクセスしないつもり。切り口は、歴史学・民俗学。日本中世（平安時代末期・鎌倉時代・南北朝時代・室町時代・安土桃山時代）を中心に、古代や近世にも乱入するぞ。

歴史って言ったって、教科書に出でくるようなマトモな素材は扱わないよ。手当たり次第に、「トンガッタ」素材や「脱力系」素材を見つけて、「遊び倒す」予定なんだ。極力、グラフィカルな講義にしたいな、と思ってるんだ。うーん、こりゃ「頭が悪くなる」講義だね、確実に。

商業・資本って言う奴は、よくよく見てみると、「性（セックス）」と濃厚な関係を結んでいるんだけど、この方面にも真正面からぶつかるぞ！　「危なネタ」も満載、ということになっちゃいます、当然に。前近代の一見不条理な感覚が、実は現代人の感性の奥底に澱（おり）のように沈殿している、ことに気付いてもらえれば、もの凄く嬉しいな！

《授業の到達目標》

この講義ではね、まっとうな知識は身に付かないよ。非実用的で、猥雑で、ジャンク（屑）な、知れば知るほど頭の悪くなる知識は身に付くけどね。お酒の席で馬鹿受けするネタ、を確実にゲットできるのが唯一の実用的利益かな？

そしてなにより大切なのは、経済行為の底に潜む呪術性、被排除性を感知できるようになる第一歩を踏み出せることかな？　これは一生を書けてかんがえなくなはならない大問題だけど、その解決へのシード（種）が獲得できるように頑張ろう！

《テキスト》

なし

《参考文献》

『戦国時代論』勝俣鎮夫（岩波書店）←ハードカバーの学術書だけど、読みやすくブッ飛んだ内容。
『増補　無縁・公界・楽』網野善彦（「平凡社ライブラリー」平凡社）←必読教養書。危険な内容。
『はじめての構造主義』橋爪大三郎（「講談社現代新書」講談社）←「柔らか頭」のための基本書。
『排除の構造』今村仁司（「ちくま学芸文庫」筑摩書房）←頭痛に襲われたいという方へ。
『週間朝日百科　日本の歴史』（朝日新聞社）←前衛的な内容を平易でグラフィカルに読みやすく。

《成績評価の方法》

学期の最後に行うペーパーテスト(100 点)で評価します。自筆ノート（ワープロ書き不可、コピー不可）と直接配布したレジュメ（コピー不可）の持ち込みのみ可とします。

《授業時間外学習》

受講する前には、まず常識を捨て去り、柔らか頭をつくるように努力してください。そして、前回までの講義のイメージを頭の中に再現してみてください。そして、積極的かつ自主的に参考文献を読破してください。

《備考》

この講義には、まともな人は出てこないよ。あっちの世界に行っちゃった電波系の人、重い病苦を背負った人、同性愛の人、危ない趣味の人、まともじゃない職業の人、売春婦（夫）などがテンコ盛りです。対象とする場所・時も、異常なものばかり。「ワタシ、清らかな世界だけ見て生きたいの」という方はこの講義の登録をしないほうが賢明かと思います。また「歴史大好き」というカシコイ諸君もこの講義は避けることをオススメします。有名人・有名な事項は一つも出てきません。知っていても馬鹿になることばかりです。（私ハ歴史屋ダケド、歴史ガ嫌イデス。歴史ノコトモアマリ知リマセン。）アナール史学の視座での講義になるから、「人間はそうそう進歩するもんじゃない」という「構造主義」的感覚で突っ走りるつもりです。「進歩主義的」な感覚の方には、喉越しの悪い講義になっちゃいます。

まっ、この講義はせいぜい「刺身のツマ」か「薬味」といったところ。大量に食べると中毒するけど、少しはいいじゃない？　こんなピリピリ刺激的なコマがあったって。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	はじめに
第 2 週	講義の方法論に関して　　「商業」「経済」というマジカルで怪しい存在
第 3 週	所有論１　　パンツ交換から考える、ものに籠もる所有者の魂
第 4 週	所有論２　　パンツによる魂の支配と商返し（万葉集のアヤシゲなネタ）
第 5 週	所有論３　　縁の世界
第 6 週	縁切りの原理１　　「市」という場の構造
第 7 週	縁切りの原理２　　「市」の立つ時
第 8 週	縁切りの原理３　　交換と交歓（商業の本質と、フリーセックスの場の構造）
第 9 週	縁切りの原理４　　遍歴する怪しい人々（商人の発生）　海賊・商人・アウトロー
第１０週	縁切りの原理５　　無縁の場１（前近代都市論）
第１１週	縁切りの原理６　　無縁の場２（中世絵巻物の世界への誘い）
第１２週	徳政令と地興（ぢおこし）１　復活・蘇生する所有権と、現行民法
第１３週	徳政令と地興（ぢおこし）２　年季、時効
第１４週	貨幣論・排除論・王権論　　特別な「ただ一つの存在」の機能
第１５週	おわりに

《コース共通科目》

科 目 名	コミュニケーション論				
担当者名	萩田　良一				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
マスコミュニケーションなしには私たちの生活は成り立たない。しかし、最近はインターネット・携帯電話の躍進など、マスコミュニケーションを取り巻く環境は、今激しい変化にさらされています。コミュニケーションとはどのようなものか、まずその基本を理解します。そのうえでマスコミュニケーション、特に典型的なマスコミュニケーションである広告に軸足を置いて、その実態や問題点を検証していきます。
そして、マスコミュニケーションとその主要因であるマスメディアへの理解を深めることにより、激動している情報環境への正しい対応の手掛かりを得るようにしていきます。

《授業の到達目標》
○言語の発生からインターネットの登場までを検証して、コミュニケーションの構造を理解する。
○マスコミュニケーション（ネットを含む）とマスメディアの実態及び問題点を把握する。
○典型的なマスコミュニケーションである広告活動の実態及び問題点を把握する。
○マスメディアに接するにはどうすればよいのか。その考え方（メディアリテラシー）を理解する。

《テキスト》
テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

《参考文献》
「思考と行動における言語」Ｓ.Ｉ．ハヤカワ　岩波現代叢書
「孤独な群集」D.リースマン　みすず書房
「幻影の時代」Ｄ．Ｊ．ブーアスティン　創元新社

《成績評価の方法》
レポート課題等の提出　60%
期末のレポート　40%

《授業時間外学習》
・予習の方法
　適時課題を出すので、その課題をやってきてください。
・復習の方法
　授業で取り上げたジャンルのニュースや広告を、実際にマスメディアを通して視聴してください。そして授業内容を再確認しつつ自分なりの見解をまとめてください。疑問点が生じた場合は質問してください。

《備考》
以下の授業計画は暫定的なものであり、授業の進行状況によって変更する場合がある。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	コミュニケーションとは、その基本的な仕組み。
第 2 週	コミュニケーションの歴史。言語の発生からインターネットの出現まで。
第 3 週	大衆社会を背景とした「マスコミュニケーション」の成立。
第 4 週	広告の出現と発展。マスコミュニケーションの発展とともに歩んだその軌跡。
第 5 週	広告の受け手。公衆から大衆そして分衆へ。
第 6 週	広告の送り手としての新聞媒体。
第 7 週	広告の送り手としてのテレビ媒体。
第 8 週	広告の送り手としてのインターネット。
第 9 週	広告活動の視点から見たコミュニケーションの流れ。
第１０週	広告表現　送り手の意図は広告表現にどう表れているか。
第１１週	広告計画　送り手の意図は広告計画にどう反映されているか。
第１２週	広告効果　広告情報の到達・認知から受け手の反応までを分析・検証。
第１３週	マスメディア、その問題点。
第１４週	メディアリテラシー　マスコミュニケーションによる情報の洪水にさらされている私たちは、どのようにその動きを理解し対応していけばよいのか。
第１５週	まとめのレポートと講評。

《コース共通科目》

科 目 名	国際政治学				
担当者名	斎藤　正寿				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

国際政治という現象をよりよく理解するためには、その混沌とした現実を上手に切り取ることの出来る「概念」を修得し、その概念を上手に「操作する」ことが必要となってくる。国際政治は、広義の「国際関係」の一部と考えることもできるし、また広く「政治現象」の１つのバリエーションと捉えることも可能である。

この半年間の講義では、国際政治を後者の立場から捉えて、政治学的思考に必要な概念・ボキャブラリーを学ぶことから出発し、次第に国際社会特有のアクター（国家、国民、多国籍企業、NGO 等）の特徴を理解することを目標としたい。その後に現実に起こっている「国際政治」をどのような概念操作で理解することができるのかを、諸君と討論を重ねながら考えていきたい。

《授業の到達目標》

国際政治学の基本的概念を習得できる。
現代に生起する様々な国際問題の構造的な理解が可能となる。

《テキスト》

テキストは使用しない。講義中に必要な資料を配付する。

《参考文献》

参考文献は講義をすすめながら、紹介をしていく。

《成績評価の方法》

学期末の定期試験期間に筆記試験（100%）を実施する。

《授業時間外学習》

講義ごとに必ず、授業内容のスケルトンと、講義内容に関連する資料を集めたものを１枚のプリント（場合によってはそれ以上の量）にして配布しますので、それをよく読み理解して下さい。なお、読んでなお不明な点があれば講義の際、もしくはオフィスアワーに遠慮なく質問に来て下さい。

《備考》

「モデル（model）とマドゥル（muddle)」という言葉があります。モデルはお分かりの通り「模型」のことです。マドゥルはぐちゃぐちゃの「混乱状態」をいいます。現実の国際政治は、固有の人間が固有の場所と時間で行っている事柄の連鎖です。これをテレビや新聞で毎日じーっと眺めていても、マドゥルを見ているだけで分かった感じがしません。時には具体的な人物や場所や時間を捨て去って、思い切り抽象化したモデルで考えないと、なるほどという理解は得られないものです。しかしモデルはあくまでモデル。大切な事柄をあっさり捨て去っている可能性があります。そこで再び現実の舞台に目を移す必要が出てきます。国際政治を理解するという行為は、このモデルとマドゥルの間の知的な往復運動に他ならないと講義担当者は考えています。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	（構造）さまざまなアクター
第 2 週	国家（1）　帝国・王国
第 3 週	国家（2）　近代主権国家・絶対主義
第 4 週	国家（3）　近代主権国家・国民国家
第 5 週	近代国際体系
第 6 週	勢力均衡、パワーポリティクス
第 7 週	相互依存、国家と世界経済
第 8 週	世界システム
第 9 週	（事例）米ソ冷戦と核兵器
第１０週	ポスト冷戦
第１１週	国連と地域主義
第１２週	国際経済と政治
第１３週	エスニシティ、民族紛争
第１４週	地球環境と南北問題
第１５週	21 世紀前半の国際社会

《コース共通科目》

科 目 名	マスメディア論				
担当者名	三木　進				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
国際情勢が緊張の度合いを深め、政治、経済は混乱を極める。それに呼応したかのように異常気象や地震、火山噴火などの天変地異が地球規模で続いている。こうした時代にあっては、事態を正確に把握し、ほんの少しでも先を見通そうとする、たゆまぬ努力が求められる。それを可能にするのが「情報」である。氾濫する多用な情報を、読み解く力を身につけるのが授業のねらいである。それは、世の中と、自分自身を知る行為でもある。一方的な講義ではなく、学生の皆さんの参加を図る。毎回、授業の最後２０分間に、その日の内容に即した課題を出し、分析や感想を書いてもらう。次回に、その内容を紹介し、互いに高め合う。文章力を磨くと共に、より深く、多面的でバランスの取れた考え方を養う。また、講義を通し、講師自身の新聞記者、サンＴＶニュース解説者としての、事件事故、災害、暴力団等社会問題など、さまざまな取材経験を伝えると共に、最新の「ニュース解説」も行い、「今」を見詰める。

《授業の到達目標》
新聞、ＴＶ、映画、ラジオ、雑誌、そしてインターネットなどのマスメディアと向かい合い、一見娯楽に見える大量の情報に対し、自身の分析力、批判力を持って接し、選択的に情報を活かし、豊かに生きる力を身につける。また、報道の現場を知ることによって、より深く社会や人間を理解し、さまざまな物事を判断、決断する際に欠かせないバランス感覚と、深い人間性を身につけ、併せて社会人として必須の会話、文章力、さらにプレゼンテーション等、コミュニケーション力も向上させる。

《テキスト》
使用しない。毎回、別途にレジメ、資料を配布する。

《参考文献》
「徹底検証　日本の五大新聞」（奥村宏・七つ森社）
「ゼミナール　日本のマス・メディア」（春原昭彦、武市英雄編、日本評論社）
「池上彰のメディア・リテラシー入門」（池上彰、オクムラ書店）
「大震災地下で何が」（三木進などの共著、神戸新聞総合出版センター）
「ふるさと全史」上・下（三木進などの共著、神戸新聞総合出版センター）

《成績評価の方法》
毎回、授業の終わりの課題及び授業中の討論への参加が６０％、定期試験が４０％。

《授業時間外学習》
社会の動きや事件事故、報道に注目しよう。映画を観たり、コミックを読む時も、これまでとは違ってジャーナリズム的な観点を忘れずに。授業が進むに連れ、新聞やＴＶの見方が変わったか、接する時間が変わったかをチェックしよう。

《備考》
世の中を知ろう、そして社会人となる日に向け、自らを鍛えよう。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第１週	はじめに　マスメディアとは。三木の自己紹介を兼ねて　アンケート
第２週	新聞の読み方　全国、地方紙の特徴、各面の紹介、マスメディアの軸としての新聞　この日の新聞・朝刊を購読
第３週	新聞の歴史　ジャーナリズムとは、戦時下の新聞、言論の自由、タブーは　報道の現場から　《ＤＶＤ視聴》
第４週	新聞に何ができるか１　震災報道の現場から記者、カメラマンの記録
第５週	新聞に何ができるか２　中央と地方、全国紙の記者、地方記者の仕事から
第６週	新聞になにができるか３　地域を知ることの重要さ、歴史を知り、自らのアイデンティティーを
第７週	新聞の未来は　若者の新聞離れ、活字離れ、だからこそ新聞を読もう
第８週	ＴＶ　景気と番組　なぜ視聴者参加番組が急増したか　韓流、再放送の流れは
第９週	ＴＶ　広告費が軽減される中でのスポンサーと視聴率、民放の未来は　《ＤＶＤ視聴》
第10週	ＴＶ　国営放送とは　不祥事乗り越え頑張るＮＨＫ　国際化の波の中で　ＢＢＣ、アルジャジーラの紹介
第11週	メディア・リテラシー　誘拐報道、松本サリン事件等を通して
第12週	映画は変わる　邦画、アニメの台頭　リメイク、ハリウッドの衰退、３Ｄの登場
第13週	ラジオの可能性、ＦＭ局の挑戦、雑誌は、出版は、時代とともにどう変わる
第14週	ＩＴ時代にどんな情報発信が可能か。マスメディアの対極としてのミニコミ、個人による情報発信は　アンケート
第15週	終わりに　情報を得る手段は整ったか、日常の努力のヒントを紹介する

《コース共通科目》

科 目 名	経済情報特論Ａ				
担当者名	森　義隆				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ｉ期

《授業のねらい及び概要》

野村證券、野村総合研究所から講師を招いて、「証券市場の役割と証券投資」について実践的に学びます。各講師とも野村證券等で豊富な実務経験を積まれた資産運用のプロフェショナルです。授業は、単なる株式講座ではなく、ダイナミックな経済の動きの中での身近な資産（お金）を巡る問題を具体的に分かりやすく説明します。社会人としてすべて知っておくべきことばかりです。

《授業の到達目標》

資本主義社会である日本においては、お金がすべてではないにしろ、お金と無関係に暮らすことなど不可能です。それどころか、少子高齢社会を迎え、年金・保険など、お金を巡る知識は必要不可欠なものとなってきます。この授業では、これからの経済社会において当然必要とされるお金（資産）との付き合い方に関する知識を身近な問題として実践的に学ぶことをとおして、今後の経済社会のあり方を考えていきます。

《テキスト》

『証券投資の基礎』野村證券投資情報部編（丸善）2002

《参考文献》

『日本の資本市場』氏家純一編（東洋経済新聞社）

《成績評価の方法》

期末試験での成績(100 点)で評価する。

《授業時間外学習》

金融資本市場・経済に関するトピックを取り上げる機会が多いので、日経新聞等の経済情報に日ごろから目を通しておくことが望ましい。

《備考》

野村證券、野村総合研究所から現役のスタッフを招いての授業です。今、金融・証券の現場で起きていることを“生”で聞くことのできる貴重な時間になるでしょう。就職試験対策にも大いに役立つでしょう。授業では最前列に陣取り、兵大生の熱意を野村證券のスタッフに示しましょう。「兵大生って結構使えるんだ」と思わせましょう。せっかくの接点です。大いに利用しましょう。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	ガイダンス
第 2 週	経済情報の捉え方
第 3 週	金融市場の役割とその変化
第 4 週	債券市場の役割と投資の基礎知識
第 5 週	株式市場の役割と投資の基礎知識①
第 6 週	株式市場の役割と投資の基礎知識②
第 7 週	投資信託の役割とその仕組み
第 8 週	証券投資のリスク・リターン
第 9 週	ポートフォリオ・マネジメント
第１０週	日本の株式市場の歴史
第１１週	外国為替相場とその変動メカニズムについて
第１２週	賢人たちの資産運用
第１３週	資本市場における投資家心理
第１４週	資産運用とライフ・プランニング
第１５週	まとめ

《コース共通科目》

科 目 名	経済情報特論Ｃ				
担当者名	三宅　伸二				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
この授業では、簿記を初めて学ぶ人を対象に、簿記の基本的考え方・仕組みを学び、初歩的な財務諸表が作成できることを目的とします。少人数での授業を前提として行いますので、定員は 15 名とします。希望者が定員を超過した場合は、電卓のテスト等で選抜します。授業には 12 桁の電卓が必要です。

《授業の到達目標》
初級財務諸表（貸借対照表、損益計算書）の作成を目標としますが、より具体的には、６月中旬に実施される日本商工会議所簿記検定３級合格を目指します。

《テキスト》
使用しません。基本事項の解説と問題演習が中心となります。

《参考文献》
「合格テキスト日商簿記３級」TAC 出版

《成績評価の方法》
到達度確認試験（3回）の状況（９０％）と宿題（１０％）で評価します。

《授業時間外学習》
日商簿記検定３級合格の標準学習時間は３８時間です。９０分授業１５回で２２時間３０分ですので、１５時間３０分不足します。これを埋め合わせるには１日３０分の授業外学習が必要です。その日の授業内容を確実にマスターするため、毎日３０分間演習問題を解いてもらいます。

《備考》
簿記を初めて学ぶ人を対象として、知識ゼロから丁寧に教えますので安心して受講してください。ただし、「やる気」は必要です。簿記３級のレベルは、それほど難しくはありません。しかし、「たかが３級、されど３級」です。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	定員調整とガイダンス（電卓を用意すること） 簿記の基礎
第 2 週	日常の手続き 仕訳と勘定記入
第 3 週	商品売買
第 4 週	現金
第 5 週	当座預金
第 6 週	小口現金
第 7 週	約束手形
第 8 週	為替手形
第 9 週	その他の期中取引
第１０週	試算表の作成１
第１１週	試算表の作成２
第１２週	決算手続１
第１３週	決算手続２
第１４週	精算表の作成
第１５週	伝票会計

《コース共通科目》

科 目 名	経済情報特論Ｃ				
担当者名	高野　敦子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ｉ期

《授業のねらい及び概要》
インターネット，電子商取引，POS システム，情報家電など身近なビジネスや日常の様々な場面で私たちの生活を支えている情報システムについて，一般利用者の立場からその仕組みと社会との関わりについて学びます。また，情報に関する時事問題について考えていきます。各テーマの導入として，ＩＴパスポート試験問題を取り上げますので，資格取得のための学習のスタートと位置付けて取り組むこともできます。

《授業の到達目標》
(1)これからの情報関連授業で学ぶことが実際の社会や暮らしとどのように関連しているかを知ることができます。また，(2)資格試験の概要と学習方法を知ることができます。

《テキスト》
特定のテキストは使用しません。授業時に必要な資料を配布します。

《参考文献》
必要に応じて指示します。

《成績評価の方法》
到達目標(1)については，試験によって見ます。（2）については，毎回提出してもらう課題を見ます。平常点（出席および毎回の課題）を 50%，期末試験を 50%の割合で評価します。ただし，課題をすべて提出することが期末試験を受けるための前提となります。

《授業時間外学習》
授業内に終了できなかった課題については，次の授業までに完成させて，提出してください。

《備考》

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	ユーザインターフェース
第 2 週	情報ネットワーク
第 3 週	インターネットと情報システム
第 4 週	情報システムの仕組み
第 5 週	社会基盤としての情報システム
第 6 週	電子商取引と電子マネー
第 7 週	ユビキタスコンピューティング
第 8 週	コンピュータセキュリティ
第 9 週	マルチメディア
第１０週	Web デザイン
第１１週	地域情報化
第１２週	ＩＴストラテジー
第１３週	くらしのアルゴリズム
第１４週	学習のまとめ
第１５週	練習問題

《コース共通科目》

科 目 名	経済情報特論Ｃ				
担当者名	斎藤　正寿				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
台詞が英語で書かれたマンガを、英文法を確認しながらゆっくりと輪読していきます。諸君になじみのあるマンガを使用しながら、英語の力を付けていくのが目標です。高等学校までの英語が苦手であった人向けに開講されますので、かなり基礎的な部分にまでさかのぼりながら、授業を進めていきます。

《授業の到達目標》
英語の基礎的な文法を習得することができる。
基礎的な英語読解力を習得することができる。
中程度の英語の語彙、表現を習得することができる。

《テキスト》
輪読するマンガはこちらで用意します。

《参考文献》
特に指定しませんが、辞書類の携帯は必須です。

《成績評価の方法》
評価は、毎時間の課題への取り組みと、学期末に課すレポートの内容を総合して行います。評価の割合は、課題への取り組み（70%）、レポート（30%）です。

《授業時間外学習》
毎週、次の時間にとりあげるマンガに出てくる単語を調べてきてもらいます。また基礎的な英文法についての練習問題を毎週解いてきて提出してもらいます。

《備考》
英語の苦手な人向けに、丁寧に英文法の復習をおこなう演習形式の授業ですので、定員を 10 名に絞って実施します。受講希望者は講義初日に必ず出席して下さい。定員を超えた場合にはその場で何らかの方法で選抜を行います。また、講義には必ず辞書（電子辞書も可）を持ってきて下さい。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	受講者の確定、なおこの場で使用するマンガを相談の上決定する。 受講希望者は必ず第１回目に出席すること。
第 2 週	マンガの輪読、英文法の復習
第 3 週	マンガの輪読、英文法の復習
第 4 週	マンガの輪読、英文法の復習
第 5 週	マンガの輪読、英文法の復習
第 6 週	マンガの輪読、英文法の復習
第 7 週	マンガの輪読、英文法の復習
第 8 週	マンガの輪読、英文法の復習
第 9 週	マンガの輪読、英文法の復習
第１０週	マンガの輪読、英文法の復習
第１１週	マンガの輪読、英文法の復習
第１２週	マンガの輪読、英文法の復習
第１３週	マンガの輪読、英文法の復習
第１４週	マンガの輪読、英文法の復習
第１５週	マンガの輪読、英文法の復習

《コース共通科目》

科 目 名	経済情報特論Ｃ				
担当者名	森下　博				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》

コンピュータで実行できるソフトウェアにおいて、ワープロと並んで活用されているものに表計算ソフトがあります。表計算ソフトで何ができるのでしょうか。表を作る、計算をする、そしてグラフを描くことができますが、それだけではありません。日常のさまざまな場面で活用できる手段がつまっています。本授業では、表計算ソフトを活用することで道具としての強みや醍醐味を感じられるきっかけを与えます。

表計算ソフトの活用方法について、段階を踏みながら学習します。

Ⅰ表計算の活用「入門」

基礎となる表やグラフの作成やデータの並び替えなど、一つ一つ確認しながらその手法を学んでいきます。

Ⅱ表計算の活用「実行」

大量データを用いたシミュレーションを実行し、あらたな表計算の世界を感じてもらいたいと思います。

Ⅲ表計算の活用「応用」

より早く、正確に結果を得るための考え方や方法を幅広く学びます。さまざまな関数、フォームを用いて、自由自在に操れるように鍛錬します。最終的に、作品制作を通じて、表計算ソフト活用の集大成をおこないます。

《授業の到達目標》

○問題解決するために最適なアプリケーションの機能を取捨選択することができる。
○問題解決するための手順を組み立て、正確に実行することができる。
○結果出力するための表現センスを磨き、思い通りに実現することができる。

《テキスト》

適宜、プリントを配布します。

《参考文献》

適宜、参考書を紹介していきます。

《成績評価の方法》

課題進捗状況レポート提出 30%
課題提出とその成果 70%

《授業時間外学習》

授業内で終えられなかった課題については、次回までに学習を済ませておいて下さい。そして、より理解を深めるため、またさらなる発展のための自主的な学習の取り組みに期待します。

《備考》

日々の作業において表計算ソフトは欠かせない存在になりました。アイデア次第でさらに活用の機会を広げることが可能です。皆さんの積極的な取り組みを願っています。講義内容に関する質問は、授業時あるいはオフィスアワー等で受け付けます。

《授業計画》

週	授　業　計　画	
第 1 週	Ⅰ表計算の活用「入門」	① 表計算の活用事例の紹介
第 2 週		② データ入力と表スタイル
第 3 週		③ データベースによる検索抽出と並び替え
第 4 週		④ 条件付き書式の活用
第 5 週		⑤ ハイパーリンクの活用
第 6 週	Ⅱ表計算の活用「実行」	① さまざまな関数の利用とセル参照の理解
第 7 週		② 目的に応じたグラフの作成
第 8 週		③ シミュレーションの実行(1)
第 9 週		④ シミュレーションの実行(2)
第１０週		⑤ シミュレーションの実行(3)
第１１週	Ⅲ表計算の活用「応用」	① フォームの各種ボタンの活用
第１２週		② 他のアプリケーションとの統合的な使い方
第１３週		③ 課題作品の構想
第１４週		④ 課題作品の制作
第１５週		⑤ 課題作品の提出

《コース共通科目》

科 目 名	経済情報特論Ｃ				
担当者名	沖野　光二				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
高等学校の商業科・総合学科などで簿記・会計を学習してきた学生の中で、簿記・会計の知識を「自らの意志で」「継続して」「さらに向上させたい」ことを希望する入学直後の１年生を受講対象に、高大継続学習による引き延ばし型の少人数講義として開講します。具体的には、日本商工会議所主催簿記検定３級の合格者を対象に、同検定２級の早期合格を一つの目標として、同検定の出題範囲とレベルについて、ワークブックによる問題演習を中心に解説します。なお、講義内容の性格上、定員を６名にし、履修登録締め切り前である第１回講義日に選抜を行います。必ず出席して下さい。

《授業の到達目標》
１．日本商工会議所簿記検定３級のレベルの出題範囲の知識獲得の確認
２．日本商工会議所簿記検定２級のレベルの出題範囲の知識獲得と知識確認（特に商業簿記）

《テキスト》
文部科学省検定済教科書高等学校商業用の『新簿記』及び『新会計』（実教出版）。具体的には後日説明します。
２級対策のワークブック「商業簿記編」。具体的には後日説明します。

《参考文献》
中央経済社編『新版会計法規集（第２版）』中央経済社、2010 年９月。
大藪俊哉編著『簿記テキスト（第５版）』中央経済社、2010 年４月。
桑原知之編著『日商簿記２級 出題パターンと解き方 過去問題集』ネットスクール出版、(最新版)。
桑原知之編著『日商簿記１級 出題パターンと解き方 過去問題集』ネットスクール出版、(最新版)。

渡部裕亘ほか編著『新検定簿記ワークブック／２級商業簿記』中央経済社、(最新版)。
渡部裕亘ほか編著『新検定簿記講義／２級商業簿記（平成 23 年度版）』中央経済社。
岡本清ほか編著『新検定簿記ワークブック／２級工業簿記』中央経済社、(最新版)。
岡本清ほか編著『新検定簿記講義／２級工業簿記（平成 23 年度版）』中央経済社。

渡部裕亘ほか編著『新検定簿記ワークブック／１級会計学』中央経済社、(最新版)。
渡部裕亘ほか編著『新検定簿記講義／１級会計学（平成 23 年度版）』中央経済社。
岡本清ほか編著『新検定簿記ワークブック／１級原価計算』中央経済社、(最新版)。
岡本清ほか編著『新検定簿記講義／１級原価計算（平成 23 年度版）』中央経済社。
岡本清ほか編著『新検定簿記ワークブック／１級工業簿記』中央経済社、(最新版)。
岡本清ほか編著『新検定簿記講義／１級工業簿記（平成 23 年度版）』中央経済社。
その他、随時紹介します。

《成績評価の方法》
平常点（学習意欲など）(60%)と日本商工会議所主催簿記検定２級の受験状況(40%)。

《授業時間外学習》
検定試験の学習方法で重視すべきことは、まず日常生活の中から集中して学習の時間を割くことです。経済情報特論Ｃの講義時間のみでは、合格レベルには達しません。
例えば、専門学校などの検定対策コースの講義時間（知識のインプット）を見れば、90 分講義を１回分として、３級コースで 10 回から 12 回、２級コースで商業簿記 10 回、工業簿記 10 回、この程度です。つまり、専門学校と言えども、出席して教室でただ座っているだけでは意味がなく、合格者はその何倍も予習復習（特に問題演習）に時間を費やしていると言うことです。

《備考》
日本商工会議所主催簿記検定は、簿記・会計の学習到達目標の一つとして意義が見出される試験です。検定合格を目標に簿記・会計を学ぶことは学習意欲（インセンティブ）を高め持続させる意味で非常に効率的です。
しかし、他の資格検定試験にも共通していえることは、取得（合格）する時期とレベルに注意が必要ということです。日本商工会議所簿記検定１級合格が大学相当のレベルで、税理士の受験資格が得られる水準です。一方、２級は高校相当のレベルで、大学入試の科目免除が受けられる水準です。
従って、２級合格を大学卒業の最終目標とせず、早急に合格し、１級検定、ファイナンシャルプランナー試験（暮らしに関わるお金の運用の提案を行う専門家）、国税専門官試験（国税の徴収執行機関である税務署の職員【国家公務員】）、公認会計士試験（上場企業経営者を相手にする上場企業を対象とした会計監査業務の専門家）、税理士試験（企業・個人を問わず、納めるべき税額（課税所得）の算定根拠となる確定申告書類の作成業務の専門家）など、本来大学生が目指すべき次のステップの資格試験に向けてチャレンジして下さい。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	ガイダンス（講義の内容・意義の説明と選抜）
第 2 週	簿記一巡の手続きと財務諸表
第 3 週	現金預金取引
第 4 週	有価証券取引
第 5 週	債権債務取引
第 6 週	手形取引
第 7 週	引当金取引
第 8 週	一般商品売買取引と特殊商品取引売買
第 9 週	固定資産取引と減価償却費の算定
第１０週	損益取引
第１１週	株式会社会計
第１２週	税金と決算処理
第１３週	本支店会計
第１４週	帳簿組織
第１５週	まとめ

《コース共通科目》

科 目 名	経済情報特論Ｄ				
担当者名	堀池　聡				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
IT パスポート試験の出題範囲のうち、アルゴリズムとデータ構造、表計算、データベース、セキュリティを取り上げ、関連した技術や問題の解法を学習します。

《授業の到達目標》
受講終了後に講義内容を再度復習することにより、本講義で扱った範囲に対しては IT パスポート試験の合格レベルに達することを目標とします。

《テキスト》
『平成 22 年度　栢木先生の IT パスポート試験教室』栢木厚　技術評論社

《参考文献》
適宜提示します。

《成績評価の方法》
授業の最初に前週の授業内容に関するテストを行います。その小テストの合計点(100%)により成績を評価します。

《授業時間外学習》
授業内容を十分復習し、練習問題を解くなどして、翌週の試験に備えて下さい。

《備考》
授業の性質上 10 人程度の小人数のクラス編成とします。受講希望者は必ず第一回目の授業に参加して受講許可を得て下さい。
「情報科学入門」の授業をできるかぎり同時に受講して下さい。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	授業概要 授業の進め方，IT パスポートとは
第 2 週	アルゴリズムとデータ構造に対する IT パスポート試験対策(1)
第 3 週	アルゴリズムとデータ構造に対する IT パスポート試験対策(2)
第 4 週	アルゴリズムとデータ構造に対する IT パスポート試験対策(3)
第 5 週	表計算に対する IT パスポート試験対策(1)
第 6 週	表計算に対する IT パスポート試験対策(2)
第 7 週	表計算に対する IT パスポート試験対策(3)
第 8 週	表計算に対する IT パスポート試験対策(4)
第 9 週	データベースに対する IT パスポート試験対策(1)
第１０週	データベースに対する IT パスポート試験対策(2)
第１１週	データベースに対する IT パスポート試験対策(3)
第１２週	セキュリティに対する IT パスポート試験対策(1)
第１３週	セキュリティに対する IT パスポート試験対策(2)
第１４週	セキュリティに対する IT パスポート試験対策(3)
第１５週	まとめ

《コース共通科目》

科 目 名	経済情報特論Ｄ				
担当者名	山本　真弓				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

数学基礎では、高校教育を終了するまでに学修した数学の不確実あるいは不十分な部分の補強、補充を行いましたが、特に山本クラスでは、まだまだ足りない部分があります。この授業では、この足りない部分を補強します。

《授業の到達目標》

実数の演算が早く正確にできるようになる。
指数関数、対数関数を理解し計算ができるようになる。
数列を理解し、計算できるようになる。

《テキスト》

テキストは使用しません。必要に応じてプリントを配布します。

《参考文献》

必要に応じて授業中に紹介します。

《成績評価の方法》

毎回の授業の前後に実施する小テスト（90%）、単元ごとに課す宿題（10%）

《授業時間外学習》

復習：その日に学んだことをノートにまとめ直し、理解不足の個所は例題を再び自分自身の手を動かして解いてみて下さい。
予習：前回の授業を再び復習し本当に理解てきているかどうか見直して下さい。次回の復習テストに備えて下さい。

《備考》

学習効果を上げるため 10 人以下（特に 1 年生対象）とします。
登録は担当教員が許可した人に限ります。WEB で勝手に登録しても履修を認めませんのでご注意ください。
毎時間遅刻せずに出席してください。
過去の配布プリント、筆記用具（鉛筆、消しゴム、赤ペン、定規）とノートは必ず持参してください。
携帯電話の使用を禁止します。特に、授業中携帯電話で話をした場合は、その場で単位修得不可能とします。
努力して考えても分からないところは、授業の中の演習中、授業後またはオフィスアワーに質問してください。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	基礎数学学力チェック
第 2 週	実数演算の仕組み
第 3 週	実数演算計算演習
第 4 週	指数の定義
第 5 週	指数計算演習
第 6 週	指数関数のグラフ
第 7 週	対数の定義
第 8 週	対数の計算演習
第 9 週	対数関数のグラフ
第１０週	数列
第１１週	等差数列
第１２週	等差数列の和
第１３週	等比数列
第１４週	等比数列の和
第１５週	学習のまとめ

《コース共通科目》

科 目 名	経済情報特論Ｄ				
担当者名	沖野　光二				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
簿記・会計の知識を「自らの意志で」「継続して」「さらに向上させたい」ことを希望する１年生を受講対象に、高大継続学習による引き延ばし型の少人数講義として開講します。具体的には、日本商工会議所主催簿記検定３級の合格者を対象に、同検定２級の早期合格を一つの目標として、同検定の出題範囲とレベルについて、ワークブックによる問題演習を中心に解説します。なお、講義内容の性格上、定員を６名にし、履修登録締め切り前である第１回講義日に選抜を行います。必ず出席して下さい。
Ⅰ期開講の「経済情報特論Ｃ」（担当：沖野）の合格者は、講義のねらいの趣旨から受講者選抜によって受講を許可しない場合があります。

《授業の到達目標》
１．日本商工会議所簿記検定３級のレベルの出題範囲の知識獲得の確認
２．日本商工会議所簿記検定２級のレベルの出題範囲の知識獲得と知識確認（特に商業簿記）

《テキスト》
文部科学省検定済教科書高等学校商業用の『新簿記』及び『新会計』（実教出版）。具体的には後日説明します。
２級対策のワークブック「商業簿記編」。具体的には後日説明します。

《参考文献》
中央経済社編『新版会計法規集（第２版）』中央経済社、2010 年９月。
大藪俊哉編著『簿記テキスト（第５版）』中央経済社、2010 年４月。
桑原知之編著『日商簿記２級 出題パターンと解き方 過去問題集』ネットスクール出版、(最新版)。
桑原知之編著『日商簿記１級 出題パターンと解き方 過去問題集』ネットスクール出版、(最新版)。

渡部裕亘ほか編著『新検定簿記ワークブック／２級商業簿記』中央経済社、(最新版)。
渡部裕亘ほか編著『新検定簿記講義／２級商業簿記（平成 23 年度版）』中央経済社。
岡本清ほか編著『新検定簿記ワークブック／２級工業簿記』中央経済社、(最新版)。
岡本清ほか編著『新検定簿記講義／２級工業簿記（平成 23 年度版）』中央経済社。

渡部裕亘ほか編著『新検定簿記ワークブック／１級会計学』中央経済社、(最新版)。
渡部裕亘ほか編著『新検定簿記講義／１級会計学（平成 23 年度版）』中央経済社。
岡本清ほか編著『新検定簿記ワークブック／１級原価計算』中央経済社、(最新版)。
岡本清ほか編著『新検定簿記講義／１級原価計算（平成 23 年度版）』中央経済社。
岡本清ほか編著『新検定簿記ワークブック／１級工業簿記』中央経済社、(最新版)。
岡本清ほか編著『新検定簿記講義／１級工業簿記（平成 23 年度版）』中央経済社。
その他、随時紹介します。

《成績評価の方法》
平常点（学習意欲など）(60%)と日本商工会議所主催簿記検定２級の受験状況(40%)。

《授業時間外学習》
検定試験の学習方法で重視すべきことは、まず日常生活の中から集中して学習の時間を割くことです。経済情報特論Ｃの講義時間のみでは、合格レベルには達しません。
例えば、専門学校などの検定対策コースの講義時間（知識のインプット）を見れば、90 分講義を１回分として、３級コースで 10 回から 12 回、２級コースで商業簿記 10 回、工業簿記 10 回、この程度です。つまり、専門学校と言えども、出席して教室でただ座っているだけでは意味がなく、合格者はその何倍も予習復習（特に問題演習）に時間を費やしていると言うことです。

《備考》
日本商工会議所主催簿記検定は、簿記・会計の学習到達目標の一つとして意義が見出される試験です。検定合格を目標に簿記・会計を学ぶことは学習意欲（インセンティブ）を高め持続させる意味で非常に効率的です。
しかし、他の資格検定試験にも共通していえることは、取得（合格）する時期とレベルに注意が必要ということです。日本商工会議所簿記検定１級合格が大学相当のレベルで、税理士の受験資格が得られる水準です。一方、２級は高校相当のレベルで、大学入試の科目免除が受けられる水準です。
従って、２級合格を大学卒業の最終目標とせず、早急に合格し、１級検定、ファイナンシャルプランナー試験（暮らしに関わるお金の運用の提案を行う専門家）、国税専門官試験（国税の徴収執行機関である税務署の職員【国家公務員】）、公認会計士試験（上場企業経営者を相手にする上場企業を対象とした会計監査業務の専門家）、税理士試験（企業・個人を問わず、納めるべき税額（課税所得）の算定根拠となる確定申告書類の作成業務の専門家）など、本来大学生が目指すべき次のステップの資格試験に向けてチャレンジして下さい。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 １ 週	ガイダンス（講義の内容・意義の説明と選抜）
第 ２ 週	簿記一巡の手続きと財務諸表
第 ３ 週	現金預金取引
第 ４ 週	有価証券取引
第 ５ 週	債権債務取引
第 ６ 週	手形取引
第 ７ 週	引当金取引
第 ８ 週	一般商品売買取引と特殊商品取引売買
第 ９ 週	固定資産取引と減価償却費の算定
第１０週	損益取引
第１１週	株式会社会計
第１２週	税金と決算処理
第１３週	本支店会計
第１４週	帳簿組織
第１５週	まとめ

《教職に関する科目》

科 目 名	教職概論				
担当者名	岡本　洋之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
教職の歴史や意義とはどのようなものか，これからの教員に求められる資質・能力とは何か，教員の仕事とはどのようなものか，教員の身分保障と地位はどのようなものか，教育職員免許状の授与と取得の条件とは何か，教員の研修・服務とはどのようなものか，等について講義する。

《授業の到達目標》
教員の資質向上が焦眉の課題である状況のなかで，教育実習を行う教職課程履修者は，その責任が以前にもまして重くなったことをよく認識して，教育実習に積極的に取り組むことが求められよう。その意味で本講義は，将来教職の道を歩む履修者にとって，教員になるための基礎的・基本的態度と知識を学ぶことをめざす。

《テキスト》
授業中に紹介する。

《参考文献》
授業中に紹介する。

《成績評価の方法》
出席点 40%，レポート 60%。ただし教育学のイロハであるが，受講生の様子等によりこれを変更することがある。下記《授業計画》も同じである。

《授業時間外学習》
本授業の理解を深めるのに有効であると判断される場合には，休日に，教育に関する学外の催し等に参加し，それを本授業に振り替えることがある。

《備考》
本科目の単位を取得することは，4年次配当の「高等学校教育実習」を履修登録するための要件である。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	オリエンテーション
第 2 週	教えるとはどういうことかを考える⑴映画「フラガール」鑑賞
第 3 週	教えるとはどういうことかを考える⑵映画「フラガール」鑑賞（続き）
第 4 週	教えるとはどういうことかを考える⑶ディスカッション
第 5 週	世界と日本の教育史に学ぶ⑴
第 6 週	世界と日本の教育史に学ぶ⑵
第 7 週	特別授業・教育実習生から話を聴く
第 8 週	教師の仕事は学ぶこと⑴教材研究の実際
第 9 週	教師の仕事は学ぶこと⑵知の世界に分け入って遊ぶ
第１０週	日本近代教員養成史概観⑴ロボット人間をつくる「道具」としての教員
第１１週	日本近代教員養成史概観⑵教養教育中心の「学芸大学」での教員づくりとその挫折
第１２週	日本近代教員養成史概観⑶教育行政の右往左往のなかで――今日の免許・採用のしくみができるまで――
第１３週	人権教育を考える⑴在日外国人教育の今昔
第１４週	人権教育を考える⑵教員に求められる資質・能力との関連
第１５週	本授業の総括

《教職に関する科目》

科 目 名	教育原理				
担当者名	岡本　洋之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》

広い視野をもって教育を俯瞰する授業である。ポイントは，(1)人間とは何かを考える，(2)世界教育史に学ぶ，(3)日本の教育の流れを押さえ，これから教師になる者の歴史的位置づけを考える，(4)人権教育の概略を知る，(5)「総合的な学習」を検討しつつ，未来の教育の展望を探る，の諸点である。なお開講期間中に教育実習生の大半が実習を終えるので，彼らからの聴き取りも行う。

《授業の到達目標》

教育の基礎・基本である原理的内容の理解が，この授業の目標である。つまり，教育の概念や教育観を学ぶことを通じて，今日の学校教育の課題や問題について考え，分析することができるようにすることを目指す。

《テキスト》

『教職教養 教育原理これだけは暗記しとこう 2012 年度版』教員採用試験情報研究会（一ツ橋書店）

《参考文献》

授業中に紹介する。

《成績評価の方法》

出席点 40%，レポート 60%。ただし教育学のイロハであるが，受講生の様子等によりこれを変更することがある。下記《授業計画》も同じである。

《授業時間外学習》

本授業の理解を深めるのに有効であると判断される場合には，休日に，教育に関する学外の催し等に参加し，それを本授業に振り替えることがある。

《備考》

本科目の単位を取得することは，4 年次配当の「高等学校教育実習」を履修登録するための要件である。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	オリエンテーション
第 2 週	人間とは何かを考える(1)映画「サラエボの花」鑑賞
第 3 週	人間とは何かを考える(2)映画「サラエボの花」鑑賞（続き）
第 4 週	人間とは何かを考える(3)ディスカッション
第 5 週	世界教育史に学ぶ(1)筋が通った教育者とは――ペスタロッチが問いかけるもの――
第 6 週	世界教育史に学ぶ(2)教育は時代を反映するもの――モニトリアル・システムを考える――
第 7 週	特別授業・教育実習生から話を聴く
第 8 週	日本教育史に学ぶ(1)イロハから帝王学まで――手習塾（寺子屋）は近世のフリースクールだった――
第 9 週	日本教育史に学ぶ(2)水道方式――「下から」の教育方法現代化――
第１０週	日本教育史に学ぶ(3)能力主義――「上から」の教育方法現代化――
第１１週	日本教育史に学ぶ(4)ゆれ動く学校教育――経済審議会答申から現在まで――
第１２週	人権教育を考える(1)部落問題のとらえ方
第１３週	人権教育を考える(2)解放教育の歴史――同和教育から人権教育へ――
第１４週	未来の教育への展望――「総合的な学習」が問いかける，「自分で考える人間」づくり――
第１５週	本授業の総括

《教職に関する科目》

科 目 名	教育心理学				
担当者名	大平　曜子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
教育心理学は一般心理学の応用部門であり、また教育科学の一分野です。教育が生きた人間を扱う実践的な営みであることから、教育心理学も対象である子どもたちの人間形成に関わる科学として、独自な理論と方法を提示しなければなりません。受講者には、子どもの立場と教師の立場を考えながら、しかし、教室だけでなく、社会で応用できる教育心理学を理解し、人間科学的視点を養っていただきたい。
　授業では、広範な領域の中から「発達」と「学習」に重点を置き、パーソナリティと適応、測定と評価や学級集団、教師の心理なども含めて、教育実践に役立つ心理学とは何かを考えていきます。また、事例により実感を持って理解するとともに、教育者としての立場や役割、教育の楽しさに気づくこともねらいの一つです。

《授業の到達目標》
○教育に関する心理学的事実や法則を説明できる。
○教育心理学を自らの学習や教職希望者としての態度の形成に役立てる。
○教育効果の検証ができる。

《テキスト》
配布プリントを使用する

《参考文献》
「絶対役立つ教育心理学」藤田哲也編著　ミネルヴァ書房
その他、適宜紹介する

《成績評価の方法》
課題レポートの提出（４０％)、定期試験(６０％)とし、１００点満点で、６０点以上を合格とする。
授業欠席回数が授業実施回数の３分の１以上欠席した者は最終試験の受験資格はない。

《授業時間外学習》
プリントに基づいて授業内容を振り返り、ノートの整理や専門用語の確認をおこなう。
課題レポートは、適宜紹介する参考文献等を活用して作成する。

《備考》
目的意識を持ち、主体的に授業に臨むこと。プリントやノートに書き込みをし、自分のノートをつくること。
受講者は、毎時間の終了時に「本時の振り返り」を記入し、学習内容を明確にします。
教師を目指す者には、ふさわしい授業態度と取り組みの姿勢を期待します。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	オリエンテーション（授業の進め方について、教育心理学を学ぶ意味について）
第 2 週	教育心理学の課題（教育心理学の定義、心理学との関係、教育心理学の意義と役割、方法について）
第 3 週	発達の基礎理論（1）発達原理　発達の学説
第 4 週	発達の基礎理論（2）発達の様相　成熟と発達　発達課題
第 5 週	学習の基礎理論（1）学習成立の過程と学習理論
第 6 週	学習の基礎理論（2）学習の方法　学習成立の過程
第 7 週	学習の基礎理論（3）記憶と学習
第 8 週	学習の基礎理論（4）動機とやる気　　学習意欲と学習活動
第 9 週	教授過程　（1）学習指導法　（2）授業の最適化
第１０週	知能とは、学力とは、何か
第１１週	測定と評価（1）評価の意義と役割　（2）学力評価、知能測定
第１２週	測定と評価（3）評価の実際
第１３週	パーソナリティ理論、適応障害
第１４週	集団の機能と構造、人間関係、集団による学習指導
第１５週	教師の役割 学習のまとめ

《教職に関する科目》

科 目 名	教育制度論				
担当者名	笹田　哲男				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
明治以降の日本教育制度史を、学校制度史を中心に学んだのち、現代日本の学校制度、教育行政制度等の課題について、検討を加えていく授業です。

《授業の到達目標》
１．近代以降の日本の教育制度史についての知識を獲得する。
２．現代日本の学校教育制度、教育行政制度などに関する知識を獲得する。
３．現代日本の学校教育制度、教育行政制度などの課題について考える力を獲得する。

《テキスト》
『要説 教育制度[三訂版]』森秀夫（学芸図書）

《参考文献》
その都度、紹介します。

《成績評価の方法》
授業時間内に実施する筆記試験の結果で100%評価します。

《授業時間外学習》
教科書の指定箇所を読んでおくこと。

《備考》
「子どもの学習権」、「国家の教育への関わり方」などについては、とくに時間をとって、皆さんとともに検討したいと考えています。積極的な受講を、期待しています。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	教育制度、公教育の歴史類型、学校制度について
第 2 週	日本教育制度史（1）明治期 ＶＴＲ使用
第 3 週	日本教育制度史（2）大正～昭和20年期 ＶＴＲ使用
第 4 週	日本教育制度史（3）昭和20年以降 ＶＴＲ使用
第 5 週	現代日本の教育制度（1）初等教育制度 ＶＴＲ使用
第 6 週	現代日本の教育制度（2）中等教育制度
第 7 週	現代日本の教育制度（3）高等教育制度
第 8 週	現代日本の教育制度（4）社会教育制度
第 9 週	現代日本の教育制度（5）その他（教員養成制度等） ＶＴＲ使用
第１０週	海外主要国の学校制度 ＶＴＲ使用
第１１週	教育制度と「教育法の体系」 ＶＴＲ使用
第１２週	教育行財政のしくみと教育法
第１３週	学校、教職員と教育法（1）
第１４週	学校、教職員と教育法（2）
第１５週	まとめ

平成 22 年度
(2010 年度)
入学者

カリキュラム年次配当表

経済情報学科 平成22年度（2010年度）入学者対象

（ ）は兼担、[ ]は兼任講師

授業科目の区分		授業科目の名称	授業方法	単位数 必修	単位数 選択	教員免許関係 情報	教員免許関係 商業	教員免許関係 公民	学年配当（数字は週当り授業時間） 1年 I	1年 II	2年 I	2年 II	3年 I	3年 II	4年 I	4年 II	平成23年度の担当者	ページ
専門教育科目	演習科目	基礎演習A	演習	2					2									
		基礎演習B	演習	2						2								
		発展演習Ⅰ	演習	2							2						中田 美栄	54
		発展演習Ⅰ	演習	2							2						森 義隆	55
		発展演習Ⅰ	演習	2							2						高本 茂	56
		発展演習Ⅰ	演習	2							2						瀧本 眞一	57
		発展演習Ⅰ	演習	2							2						堀池 聡	58
		発展演習Ⅰ	演習	2							2						山本 真弓	59
		発展演習Ⅰ	演習	2							2						斎藤 正寿	60
		発展演習Ⅰ	演習	2							2						森下 博	61
		発展演習Ⅱ	演習	2								2					中田 美栄	62
		発展演習Ⅱ	演習	2								2					森 義隆	63
		発展演習Ⅱ	演習	2								2					高本 茂	64
		発展演習Ⅱ	演習	2								2					瀧本 眞一	65
		発展演習Ⅱ	演習	2								2					堀池 聡	66
		発展演習Ⅱ	演習	2								2					山本 真弓	67
		発展演習Ⅱ	演習	2								2					斎藤 正寿	68
		発展演習Ⅱ	演習	2								2					森下 博	69
		専門演習Ⅰ	演習	2									2					
		専門演習Ⅱ	演習	2										2				
		卒業演習Ⅰ	演習	2											2			
		卒業演習Ⅱ	演習	2												2		
		卒業研究	演習	4												4		
	コース共通科目	経済情報概論	講義	4					4									
		数学基礎	講義	2					2									
		アプリケーションソフト	演習	4		□				4								
		プレゼンテーションA	演習	2						2	2						[福永 弘之]*1	70
		プレゼンテーションB	演習	2						2	2						石原 敬子 *2	71
		現代経済社会論A	講義		2					2								
		現代経済社会論B	講義		2						2						堀池 聡	72
		簿記原理Ⅰ	講義		2		△			2								
		簿記原理Ⅱ	講義		2		▲				2						三宅 伸二	73
		経済学入門	講義		2			◆			2						高本 茂	74
		経済統計	講義		2		▲				2						不開講	
		民法	講義		2		▲				2						(今井 俊介)	75
		会計学入門	講義		2		△				2						三宅 伸二	76
		情報科学入門	講義		2					2								
		プログラミング入門	講義		2						2						田中 正彦	77
		コンピュータ基礎論	講義		2	■					2						堀池 聡	78
		グラフィックス	講義		2	■				2								
		ウェブデザイン	講義		2					2								
		基礎経済数学	講義		2					2								
		基礎情報数学	講義		2						2						山本 真弓	79
		統計学	講義		2						2						高野 敦子	80
		社会経済史	講義		2		▲			2								
		コミュニケーション論	講義		2	■				2								
		国際政治学	講義		2			◇		2								
		国際社会論	講義		2						2						斎藤 正寿	81
		マスメディア論	講義		2					2								
		比較文化論	講義		2						2						岡本 洋之	82
		インターンシップ	講義		2						2						榎木 浩	83
		経済情報特論A	講義		2				2									
		経済情報特論B	講義		2					2								
		経済情報特論C	講義		2				2									
		経済情報特論D	講義		2					2								
		経済情報特論E	講義		2						2						穂積 隆広	84
		経済情報特論E	講義		2						2						金子 哲	85
		経済情報特論E	講義		2						2						岡本 洋之	86
		経済情報特論F	講義		2							2					榎木 浩	87
		経済情報特論F	講義		2							2					金子 哲	88
		経済情報特論F	講義		2							2					岡本 洋之	89

カリキュラム年次配当表

経済情報学科 平成22年度（2010年度）入学者対象
（ ）は兼担、[ ]は兼任講師

授業科目の区分			授業科目の名称	授業方法	単位数 必修	単位数 選択	教員免許関係 情報	教員免許関係 商業	教員免許関係 公民	学年配当（数字は週当り授業時間） 1年 I	1年 II	2年 I	2年 II	3年 I	3年 II	4年 I	4年 II	平成23年度の担当者	ページ
専門教育科目	コース専修科目	経済ビジネスコース科目	ミクロ経済学	講義		④			◇				4					石原 敬子	90
			マクロ経済学	講義		④			◇				4					森 義隆	91
			経営学総論	講義		④								4					
			簿記論	演習		④		△						4					
			金融論	講義		2		▲					2					高本 茂	92
			工業簿記	講義		2		▲					2					三宅 伸二	93
			会計学	講義		2		▲					2					三宅 伸二	94
			会社法	講義		2							2					國友 順市	95
			財政学Ⅰ	講義		2			◆					2					
			財政学Ⅱ	講義		2			◆						2				
			産業組織論Ⅰ	講義		2			◆					2					
			産業組織論Ⅱ	講義		2			◆						2				
			国際経済論Ⅰ	講義		2			◆					2					
			国際経済論Ⅱ	講義		2			◆						2				
			証券市場論	講義		2		▲						2					
			経営戦略論Ⅰ	講義		2								2					
			経営戦略論Ⅱ	講義		2									2				
			財務管理論Ⅰ	講義		2								2					
			財務管理論Ⅱ	講義		2									2				
			財務諸表論Ⅰ	講義		2		▲						2					
			財務諸表論Ⅱ	講義		2		▲							2				
			情報会計論Ⅰ	講義		2		▲						2					
			情報会計論Ⅱ	講義		2		▲							2				
			労働経済論	講義		2									2				
			経済政策	講義		2									2				
			職業指導	講義		2		△							2				
			経済ビジネス特論A	講義		2								2					
			経済ビジネス特論B	講義		2									2				
		情報システムコース科目	数理論理学	講義		④							4					中田 美栄	96
			プログラミングⅠ	講義		④	■						4					西田 悦雄	97
			プログラミングⅡ	講義		④	■							4					
			情報システム学	講義		④	■							4					
			オペレーティングシステム	講義		2	■						2					榎木 浩	98
			情報ネットワーク	講義		2	■						2					堀池 聡	99
			アルゴリズム	講義		2	■						2					高野 敦子	100
			情報デザイン	講義		2	■						2					西田 悦雄	101
			情報基礎理論	講義		2	■							2					
			情報セキュリティ	講義		2	■							2					
			データベースⅠ	講義		2	■							2					
			データベースⅡ	講義		2	■								2				
			オペレーションズ・リサーチ	講義		2								2					
			情報数学	講義		2								2					
			応用プログラミングA	講義		2									2				
			応用プログラミングB	講義		2										2			
			オブジェクト指向方法論	講義		2									2				
			システム解析	講義		2	■								2				
			情報検索論	講義		2	■								2				
			情報法学	講義		2	■								2				
			情報管理論	講義		2	□								2				
			情報システム特論A	講義		2								2					
			情報システム特論B	講義		2									2				

カリキュラム年次配当表

経済情報学科 平成22年度（2010年度）入学者対象
（ ）は兼担、[ ]は兼任講師

授業科目の区分			授業科目の名称	授業方法	単位数 必修	単位数 選択	教員免許関係 情報	教員免許関係 商業	教員免許関係 公民	学年配当（数字は週当り授業時間） 1年 Ⅰ	1年 Ⅱ	2年 Ⅰ	2年 Ⅱ	3年 Ⅰ	3年 Ⅱ	4年 Ⅰ	4年 Ⅱ	平成23年度の担当者	ページ
専門教育科目	コース専修科目	地域デザインコース科目	フィールドワーク	演習		④							4					池本・瀧本・木下・金子・岡本	102
			地域分析論	講義		④							4					（田端 和彦）	103
			人と地域	講義		④								4					
			地域デザイン論	講義		④								4					
			地域経済論Ⅰ	講義		2			◆				2					瀧本 眞一	104
			地域経済論Ⅱ	講義		2			◆					2					
			環境と地理	講義		2								2					
			社会調査Ⅰ	講義		2							2					[根本 敏行]	105
			社会調査Ⅱ	講義		2								2					
			社会情報論	講義		2							2					木下 準一郎	106
			ジャーナリズム	講義		2									2				
			社会政策Ⅰ	講義		2			◇					2					
			社会政策Ⅱ	講義		2			◆						2				
			行政学Ⅰ	講義		2								2					
			行政学Ⅱ	講義		2									2				
			環境経済論A	講義		2								2					
			環境経済論B	講義		2									2				
			情報社会論	講義		2	■							2					
			いなみ野ため池学	講義		2								2					
			いなみ野まちおこし学	講義		2									2				
			メディアと政治	講義		2								2					
			地域史	講義		2									2				
			地域デザイン特論A	講義		2								2					
			地域デザイン特論B	講義		2									2				

□は情報教員免許必修科目、■は情報教員免許選択科目
△は商業教員免許必修科目、▲は商業教員免許選択科目
◇は公民教員免許必修科目、◆は公民教員免許選択科目

④はコースにおける必修科目

＊1 1年Ⅱ期「プレゼンテーションA」を履修した学生は、2年Ⅰ期には「プレゼンテーションB」を履修すること
＊2 1年Ⅱ期「プレゼンテーションB」を履修した学生は、2年Ⅰ期には「プレゼンテーションA」を履修すること

カリキュラム年次配当表

経済情報学科 平成22年度（2010年度）入学者対象
（ ）は兼担、[ ]は兼任講師

授業科目の区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		教員免許関係			学年配当（数字は週当り授業時間）								平成23年度の担当者	ページ
								1年		2年		3年		4年			
			必修	選択	情報	商業	公民	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ		
教職に関する科目	教職概論	講義		2	□	△	◇	2									
	教育原理	講義		2	□	△	◇	2									
	教育史	講義		2	■	▲	◆						2				
	発達心理学	講義		2	■	▲	◆			2						[山田 佳代子]	107
	教育心理学	講義		2	□	△	◇		2								
	教育制度論	講義		2	□	△	◇		2								
	教育課程論	講義		2	□	△	◇				2					[上寺 常和]	108
	公民科教育法	講義		4			◇					4					
	情報科教育法	講義		4	□							4					
	商業科教育法	講義		4		△						4					
	特別活動論	講義		2	□	△	◇				2					[上寺 常和]	109
	教育方法・技術論	講義		2	□	△	◇				2					(河野 稔)	110
	教育情報化演習Ⅰ	演習		2	■	▲	◆					2					
	教育情報化演習Ⅱ	演習		2	■	▲	◆						2				
	生徒指導論（進路指導を含む）	講義		2	□	△	◇			2						[上寺 常和]	111
	教育相談（カウンセリングを含む）	講義		2	□	△	◇						2				
	教育実習予備演習Ⅰ	演習		2	□	△	◇			2						岡本 洋之	112
	教育実習予備演習Ⅱ	演習		2	□	△	◇				2					岡本 洋之	113
	教職実践演習（高）	演習		2	□	△	◇								2		
	教育実習事前事後指導	講義		1	□	△	◇							1			
	高等学校教育実習	実習		2	□	△	◇							2			

□は情報教員免許必修科目、■は情報教員免許選択科目
△は商業教員免許必修科目、▲は商業教員免許選択科目
◇は公民教員免許必修科目、◆は公民教員免許選択科目

※教職に関する科目は修得しても卒業要件の単位数には含まれない。
※教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、日本国憲法（2単位）、体育（2単位）、外国語コミュニケーション（2単位）、情報機器の操作（2単位）について、指定の科目を修得すること。

授業科目の区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		教員免許関係			学年配当（数字は週当り授業時間）								平成23年度の担当者	ページ
								1年		2年		3年		4年			
			必修	選択	情報	商業	公民	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ		
総合・キャリア関連科目	日本語表現法	演習		2					②		②		②		②	[野田 直恵]	基礎・教養科目編参照
	コンピュータ応用演習	演習		2					②		②		②		②	(河野 稔)	
	特別講義	講義		2				②		②		②		②			
	私のためのキャリア設計	講義		2				②		②		②		②		[有働 壽恵]	
	就職基礎能力Ⅰ	講義		2					②		②		②		②	[山本 清美]	
	就職基礎能力Ⅱ	講義		2						②		②		②		[山本 清美]	
	就職基礎能力Ⅲ	講義		2							②		②		②	[山本 清美]	

※総合・キャリア関連科目を修得しても卒業要件の単位数には含まれない。

《演習科目》

科 目 名	発展演習Ⅰ				
担当者名	中田　美栄				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
人は日常生活においても、論理的に考える力を持っていることは役に立つが、特に学問には不可欠であるといえる。その論理的思考能力をきたえるために数学は非常に有効である。基礎演習Ｂの次のステップとして、発展演習Ⅰでは、特に述語論理の基礎的勉強をする。

《授業の到達目標》
述語論理の勉強が、日常生活の中でも役に立つことが実感できるようにする。

《テキスト》
なし

《参考文献》
なし

《成績評価の方法》
小テストと宿題で30%、定期試験で70%カウントする。

《授業時間外学習》
小テストのための準備や宿題をすることは効率的な復習になる。それは同時に次の講義を理解しやすくする準備でもある。

《備考》
出席を取る。遅刻や欠席は授業についていく妨げになるので、できれば一回もしないようにすること。
質問を歓迎するので、遠慮なく質問し、質問する能力を付けること。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	集合と関数の定義
第 2 週	命題論理と推論
第 3 週	限定記号と限定命題
第 4 週	限定記号と限定命題
第 5 週	限定命題の否定
第 6 週	限定命題の応用
第 7 週	限定命題の応用
第 8 週	命題論理とスイッチ回路
第 9 週	命題論理とスイッチ回路
第１０週	命題論理とスイッチ回路
第１１週	ブール代数の定義
第１２週	ブール代数式と基本公式
第１３週	ブール代数の演算
第１４週	ブール代数と論理回路
第１５週	ブール代数と論理回路

《演習科目》

科 目 名	発展演習Ⅰ				
担当者名	森　義隆				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
私たちの身近な経済や社会の問題をニュースや新聞記事から取り上げて、何がどのように問題となっているのか、を考える。こうした問題関心の形成とアプローチの方向を示すのがこの演習の目的である。特に、現在日本の社会には高齢者の医療や年金、若者の失業など緊急に解決を要する問題が山積している。どんな解決法があるのか、議論したい。

《授業の到達目標》
演習での輪読や報告、討論を通じて、各自がどのような問題に関心を示し、数回のレポート作成を通して問題への関心がより明確に形成されたかどうかを確認する。例えば、若者の失業は他の年齢層の失業に比べてどのような特徴があるのか、それは何が原因となって発生しているのか、また現在の政府はそれに対してどのような政策を打ち出しているのか、こうした一連の考察によってどこまで認識を高めることができたかが分かるようになる。

《テキスト》
テキストはとくに指定しない。その都度、新聞記事やインターネットで検索して教材とする。

《参考文献》
必要に応じて適宜紹介する。

《成績評価の方法》
演習への参加意欲、態度や討論（50%）、テーマに応じたレポートの提出（50%）などで評価する。

《授業時間外学習》
その都度テーマに即したレポート課題を与え、その解答を報告してもらう。また、こちらからいくつかのコメントを付して返却する。

《備考》
授業中の携帯電話の使用（通信もメールも)禁止。遅刻や欠席はしないこと。もし正当な理由があれば考慮するので、事前事後を問わず必ず報告すること。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	演習の目的と各自の現在の関心を確認する ゼミナールの幹事を決める
第 2 週	わが国の 2010 年度一般会計予算の内容と政策の重点
第 3 週	資料配布と討論（1）
第 4 週	資料配布と討論（2）
第 5 週	レポート課題（1）　何をどのように分析するか
第 6 週	レポートの添削とコメント：　文章作成の要領を習熟する 原稿用紙の書き方、図表や数字の表現など
第 7 週	資料配布と討論（3）　インターネット検索上の注意事項、関連資料の検索の仕方など
第 8 週	資料配布と討論（4）　新聞記事の読み方
第 9 週	レポート課題（2）　テーマの設定と論文の構成、展開の仕方
第１０週	レポートの添削とコメント：「はじめに」から本文、「まとめ」まで文章の転結を学ぶ
第１１週	レポート報告へのコメントの意味や内容を理解し、改善の方向を確認する
第１２週	資料配布と討論（5）
第１３週	資料配布と討論（6）
第１４週	各自の問題意識にどのような変化が生じたか、また従来のものの見方がどのように変化したか、各自で確認する
第１５週	最終レポートの作成と総括的議論

《演習科目》

科 目 名	発展演習Ⅰ				
担当者名	高本　茂				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
経済学を基礎の基礎から学びます。

《授業の到達目標》
経済学的なものの見方がどういうものかを身につけるようにします。

《テキスト》
木暮太一『今までで一番やさしい経済の教科書』(ダイヤモンド社)
坪井賢一『めちゃくちゃわかるよ経済学』(ダイヤモンド社)
弘兼憲史『知識ゼロからの経済学入門』(幻冬舎)

《参考文献》
大久保隆弘『経済学が面白いほどわかる本・マクロ経済編／マーケット論』(中経出版)
大久保隆弘『経済学が面白いほどわかる本・マクロ経済編／経済政策論』(中経出版)

《成績評価の方法》
日頃の学習態度（100%）をもって評価する。

《授業時間外学習》
新聞の経済記事をよく読みなさい。

《備考》
私が経済学を本格的に学び始めたのは４０歳近くになってからです。経済学という学問は学習の順序さえ間違えなければ必ずマスターできるものです。一緒に頑張っていきましょう。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	木暮太一『今までで一番やさしい経済の教科書』 第１章「日本経済の話」（1）
第 2 週	第１章「日本経済の話」（2）
第 3 週	第２章「経済と政策の話」（1）
第 4 週	第２章「経済と政策の話」（2）
第 5 週	第３章「仕事で使う経済学」（1）
第 6 週	第３章「仕事で使う経済学」（2）
第 7 週	第４章「グローバル経済の話」
第 8 週	第５章「今さら聞けないお金の話」（1）
第 9 週	第５章「今さら聞けないお金の話」（2）
第１０週	坪井賢一『めちゃくちゃわかるよ経済学』 １．日本の景気はいい？それとも悪い？（1）
第１１週	１．日本の景気はいい？それとも悪い？（2）
第１２週	２．借金大国日本の未来はどうなる（1）
第１３週	２．借金大国日本の未来はどうなる（2）
第１４週	３．グローバルな企業価値の争奪戦（1）
第１５週	３．グローバルな企業価値の争奪戦（2）

《演習科目》

科 目 名	発展演習Ⅰ				
担当者名	瀧本　眞一				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》

まず、地域研究とはいかなるものかを考えます。つぎに、『いろはにほへと加古川事典』または『地域よ甦れ』からさまざまな地域の特徴などを学びます。さらに、文献や資料を読破し、各自が興味を抱いた事柄を、各自が住んでいる市や町と比較して探求します。その結果をミニレポートにまとめ、発表し、議論し、探求を深めます。適切な発表の仕方についても考えます。

また、ノートパソコンを資料収集・ミニレポート作成・発表に活用します。

《授業の到達目標》

加古川地域に関して、さまざまな文献や資料を読み、問題発見能力・問題分析能力を高めます。

《テキスト》

特に使用しません。必要に応じてプリントなどを配布します。

《参考文献》

適宜、紹介しますが、自分で探す能力を身につけることも必要です。

《成績評価の方法》

授業へ取組、ミニレポートを統合して評価します。

割合は、取組・40 点、ミニレポート・60 点とします。ただし、出席率が一定程度に満たないときは、単位を認定しない場合もあります。

《授業時間外学習》

特に指定はしませんが、新聞や図書をよく読み、地域のことについての関心を深めてください。

《備考》

学生諸君には、次の事柄を心がけて欲しいと思います。

1. 本を読むこと
2. 新聞を読むこと
3. 皆と議論すること
4. 現場へ出かけること
5. 文献を探すこと
6. 楽しんで進めること

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	オリエンテーション
第 2 週	『いろはにほへと加古川事典』を読む
第 3 週	『いろはにほへと加古川事典』を読む
第 4 週	問題意識に関する意見交換とミニレポート作成の準備
第 5 週	現地を歩く
第 6 週	ミニレポート作成と発表
第 7 週	『いろはにほへと加古川事典』を読む
第 8 週	『いろはにほへと加古川事典』を読む
第 9 週	問題意識に関する意見交換とミニレポート作成の準備
第１０週	現地を歩く
第１１週	ミニレポート作成と発表
第１２週	『いろはにほへと加古川事典』を読む
第１３週	問題意識に関する意見交換とミニレポート作成の準備
第１４週	現地を歩く
第１５週	ミニレポート作成と発表

《演習科目》

科 目 名	発展演習Ⅰ				
担当者名	堀池　聡				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
現代の情報セキュリティの中核技術である暗号について学習します。
暗号の歴史、用途、基本方式について学んだ後、暗号解読の実習を行います。

《授業の到達目標》
暗号の学習を通じて、文献調査、論理的思考法、コンピュータ操作といった基本的な技術の向上を目指します。英語で記述された初歩的な換字式暗号文を頻度分析により解読できるようにもなります。

《テキスト》
演習の初回に指定します。

《参考文献》
適宜、紹介します。

《成績評価の方法》
毎回の授業への取組み(60%)とレポート(40%)により評価します。

《授業時間外学習》
授業ごとに指定するコンピュータ演習や文献調査を行って下さい。

《備考》

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	演習の概要説明
第 2 週	暗号の基本技術説明(1)
第 3 週	暗号の基本技術説明(2)
第 4 週	暗号の基本技術説明(3)
第 5 週	サイモン・シン著「暗号解読」上巻輪講(1)
第 6 週	サイモン・シン著「暗号解読」上巻輪講(2)
第 7 週	サイモン・シン著「暗号解読」上巻輪講(3)
第 8 週	サイモン・シン著「暗号解読」上巻輪講(4)
第 9 週	換字式暗号解読に必要となるパソコン操作(1)
第１０週	換字式暗号解読に必要となるパソコン操作(2)
第１１週	換字式暗号解読に必要となるパソコン操作(3)
第１２週	換字式暗号解読に必要となるパソコン操作(4)
第１３週	暗号解読演習(1)
第１４週	暗号解読演習(2)
第１５週	まとめと発表

《演習科目》

科 目 名	発展演習Ⅰ				
担当者名	山本　真弓				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
数学の勉強を通じて、基礎となる原理・原則の論理的理解、イメージによる概念の直感的理解、適切な問題演習による概念の体得を行います。
特に、数列を理解し応用できるようにします。
また，２人ひと組で計算問題を作成し、解答、解説は発表形式で行い、人前で説明するトレーニングを行います。
最初 20 分間で計算トレーニングを行い、残り 70 分で数学の基礎学力強化を行います。

《授業の到達目標》
人前で発表できるようになる。
計算力が身に着く。
個人個人の基礎数学学力強化ができる。
色々な数列を理解できるようになり応用できるようになる。

《テキスト》
テキストは使用しません。必要に応じてプリントを配布します。

《参考文献》
必要に応じて授業中に紹介します。

《成績評価の方法》
毎回の授業の前後に実施する小テスト（80%）、単元ごとに課す宿題（10%)、発表内容及び態度（10%）

《授業時間外学習》
復習：その日に学んだことをノートにまとめ直し、理解不足の個所は例題を再び自分自身の手を動かして解いてみて下さい。
予習：前回の授業を再び復習し本当に理解てきているかどうか見直して下さい。次回の計算問題トレーニング担当者は、作成して下さい。

《備考》
毎時間遅刻せずに出席してください。
過去の配布プリント、筆記用具（鉛筆、消しゴム、赤ペン、定規）とノートは必ず持参してください。
携帯電話の使用を禁止します。特に、授業中携帯電話で話をした場合は、その場で単位修得不可能とします。
努力して考えても分からないところは、授業の中の演習中、授業後またはオフィスアワーに質問してください。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	演習の進め方の説明，自己紹介など
第 2 週	計算トレーニング 1、数列とは
第 3 週	計算トレーニング 2、数列演習問題
第 4 週	計算トレーニング 3、等差数列とは
第 5 週	計算トレーニング 4、等差数列の和
第 6 週	計算トレーニング 5、等差数列の演習問題
第 7 週	計算トレーニング 6、等比数列とは
第 8 週	計算トレーニング 7、等比数列の和
第 9 週	計算トレーニング 8、等比数列の演習問題
第１０週	計算トレーニング 9、階差数列について
第１１週	計算トレーニング 10、階差数列の演習問題
第１２週	計算トレーニング 11、一般的な数列の問題
第１３週	計算トレーニング 12、数学的帰納法について
第１４週	計算トレーニング 13、数学的帰納法の演習問題
第１５週	学習のまとめ

《演習科目》

科 目 名	発展演習Ⅰ				
担当者名	斎藤　正寿				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》

基礎演習Ｂでは、野矢茂樹『新版論理トレーニング』の第１～２部を中心にトレーニングを行ったが、発展演習Ⅰでは、『新版論理トレーニング』の第３部「演繹」を中心に論理的な言語運用能力を鍛えていくつもりである。いままでの演習が広い意味での論理をとらえる練習であったとすると、これからはかなり厳密な意味での論理の運用について学んでいくことになる。もちろん、発展演習から初めて『新版論理トレーニング』を行おうという人にも、十分に配慮をするつもりである。

野球で言えば、バットを実際に振ってヒットを狙ってみたり、ボールを遠くの野手めがけて投げ込んでみたりする、そうした事柄を学ぶ場であると思っていただきたい。

《授業の到達目標》

ある程度高度な論理学の知識を身につけることで、社会の様々な言説を理解し、かつ批判することができる。

《テキスト》

野矢茂樹『新版論理トレーニング』(2006 年、産業図書)

《参考文献》

参考文献は演習をすすめながら、紹介をしていく。

《成績評価の方法》

評価は、毎時間の課題への取り組みと、学期末に課すレポートの内容を総合して行う。評価の割合は、課題への取り組み（50%）、レポート（50%）である。

《授業時間外学習》

毎回、テキスト中の練習問題数問を宿題とするので、それを次の時間までに解いて提出してもらう。

《備考》

文字通り理屈っぽい演習です。理屈がお好きであれば是非ご参加下さい。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	演習の進め方の解説、参加メンバーの確認
第 2 週	『論理トレーニング』第４章　論証の構造と評価（1）
第 3 週	『論理トレーニング』第４章　論証の構造と評価（2）
第 4 週	『論理トレーニング』第５章　演繹と推測（1）
第 5 週	『論理トレーニング』第５章　演繹と推測（2）
第 6 週	まとめと復習
第 7 週	『論理トレーニング』第６章　価値評価（1）
第 8 週	『論理トレーニング』第６章　価値評価（2）
第 9 週	『論理トレーニング』第６章　価値評価（3）
第１０週	『論理トレーニング』第７章　否定（1）
第１１週	『論理トレーニング』第７章　否定（2）
第１２週	『論理トレーニング』第８章　条件構造（1）
第１３週	『論理トレーニング』第８章　条件構造（2）
第１４週	『論理トレーニング』第８章　条件構造（3）
第１５週	まとめと復習

《演習科目》

科 目 名	発展演習Ⅰ				
担当者名	森下　博				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》

授業では、自分のおこないたいことをコンピュータへ伝達するための方法(プログラミング)を学びます。グラフィカルな作品を制作する過程において、表現できる楽しさを感じてもらいたいと思います。

発展演習Ⅰでは、プログラミングを用いた作品制作を通じて、コンピュータへ伝達するための言語とその記し方を学びます。そして、作品の構想、制作、公開と段階的に授業を展開していきます。

Ⅰプログラミング作品の構想

プログラミング（C言語）を用いた作品を制作するにあたり、アイデアを出して、それを実現するための必要な方策を練ります。

Ⅱプログラミング作品の制作

グラフィックスプログラミング（C言語）を用いて、情報伝達（提示）作品を制作します。コンピュータを活用し、目の前で確認しながら演習を進めます。

Ⅲプログラミング作品の公開

作品の見やすさや使いやすさなどを工夫し、表現の可能性を探ります。最終的に、提出された作品の実演会ができればよいと思います。

《授業の到達目標》

○プログラミング言語の命令を理解し、役割を説明することができる。
○プログラム全体の流れを把握し、手順を説明することができる。
○伝えたい内容を思い通りの表現で作品を作り上げることができる。

《テキスト》

適宜、プリントを配布します。

《参考文献》

適宜、参考書を紹介していきます。

《成績評価の方法》

課題進捗状況レポート提出 30%
課題提出とその成果 70%

《授業時間外学習》

授業内で終えられなかった課題については、次回までに学習を済ませておいて下さい。そして、より理解を深めるため、またさらなる発展のための自主的な学習の取り組みに期待します。

《備考》

プログラミングをおこなう場合に大切なのは、実現したいことを正確にコンピュータに伝える力を身に付けることです。また、うまくいかない時にも一つ一つ原因を探りながら解決できる根気を養うことです。うまくいった時、コンピュータはその役割を存分に発揮し、期待に応えてくれます。講義内容に関する質問は、授業時あるいはオフィスアワー等で受け付けます。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	Ⅰプログラミング作品の構想　① 演習の目標と概要の説明
第 2 週	② プログラミングとは?
第 3 週	③ 記述の方法と実行の手順
第 4 週	Ⅱプログラミング作品の制作　① ウィンドウの座標設計
第 5 週	② 情報（メッセージ）の表示
第 6 週	③ 情報（メッセージ）の装飾
第 7 週	④ 情報（メッセージ）の選択制御
第 8 週	⑤ 情報（メッセージ）の移動制御
第 9 週	⑥ 情報（メッセージ）の切替制御
第１０週	⑦ 情報（メッセージ）の速度制御
第１１週	⑧ 情報（メッセージ）の色彩制御
第１２週	⑨ 情報（メッセージ）の画面制御
第１３週	Ⅲプログラミング作品の公開　① 作品のまとめと確認
第１４週	② ネットワークによる作品の提出
第１５週	③ 作品の公開と意見交換

《演習科目》

科 目 名	発展演習Ⅱ				
担当者名	中田　美栄				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
自然科学の勉強には数学が必要である。そしてその数学の理解には集合と関数の理解が不可欠である。この演習では特に、関数のことを勉強する。

《授業の到達目標》
関数の理解を深めることにより、多くのことが統一的に理解できるようになり、数学が分かりやすくなる。

《テキスト》
なし

《参考文献》
なし

《成績評価の方法》
小テストと宿題を30%、定期試験を70%カウントする。

《授業時間外学習》
小テストと宿題の準備をすることが、復習になることはもちろんのこと、次回の授業を理解しやすくする。

《備考》
出席を取る。遅刻、欠席は授業についていきにくくするのでしないように。
質問は遠慮なくいつでもするように。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	集合と関数の定義
第 2 週	過去に出会った関数と初めて出会う関数
第 3 週	関数のグラフ
第 4 週	平面に図示できる関数のグラフとできない関数のグラフ
第 5 週	関数のグラフでありうる集合とありえない集合
第 6 週	多項関数
第 7 週	関数の和
第 8 週	関数の和のグラフ
第 9 週	関数の積
第１０週	関数の積のグラフ
第１１週	合成関数
第１２週	合成関数
第１３週	単射、全射、全単射
第１４週	逆関数
第１５週	逆関数

《演習科目》

科 目 名	発展演習Ⅱ				
担当者名	森　義隆				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

わが国の財政の現状と税制の改革について考える。厳しい経済不況の中にあっても年金、医療、介護等の社会福祉関連の予算は削減できず、また若者の失業など雇用問題も喫緊の解決を要する問題である。こうした一般歳出の面からも公共事業の整理・見直しだけでは予算の無駄の削減にも限界がある。与野党ともに税収の安定的な確保の手段として「消費税」の引上げが近い将来重要な政策課題になることは頭では分かっている。そこで、税制の基本的な体系と消費税の目的税としての意義を学ぶことは重要である。そうした問題の背景を基礎からしっかり学ぶのが目的である。

《授業の到達目標》

日本の税制の体系と基本的な知識を習得する。特に、所得税や法人税、消費税などの国税と地方所得税（住民税）、譲与税などの地方税の関係、直接税と間接税の関係などはどのような行政上の観点からどのように考えたらいいのか、また全体の税収不足を補い財政赤字を減らして均衡を達成する「財政再建」のシナリオは同であるか、など基礎から理解する。とりわけ、広く浅く税収が確保でき、資源配分の観点からも中立的な「消費税」に焦点をあて、各自の考えを整理しこの問題への理解を深める。

《テキスト》

石　弘光『税の負担はどうなるか』中公新書、2004

《参考文献》

横山・馬場・堀場著『現代財政学』有斐閣、2009
小此木潔『消費税をどうするか』岩波新書、2009

《成績評価の方法》

4回のレポート(80点）と口頭報告(20点）で評価する。

《授業時間外学習》

各種の税制の仕組みを理解するために、税収規模とその用途を具体的に調べる。また国際比較を通じてわが国税収構造と歳出構造の特徴を調査する。

《備考》

経済問題のうち、とりわけ税制や年金・福祉関連の税源確保に関心を持つ学生の履修を望む。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	講義の狙いと全体の概観
第 2 週	第1章　税負担増は不可避か　-----税を取り巻く環境の変化 (1) バブル崩壊後の景気低迷と財政出動 (2) 巨額な財政赤字の累増とその弊害
第 3 週	(3) 少子・高齢社会の到来 論点整理と総括討論
第 4 週	第2章　いま何故、税制改革か　------あるべき税制を求めて (1) あるべき税制に向けての抜本改革 (2) 税制改革の目標（中立か活力か）
第 5 週	(3)「あるべき税制」の構築に向けて 論点整理と総括討論　　レポート課題（1）提出
第 6 週	第3章　税・社会保障負担のあり方　-----負担は皆で「広く」「公平」に (1) 国民負担率の将来像 (2) 社会保障給付の増加と費用負担
第 7 週	(3) 少子・高齢化と相続税、贈与税 論点整理と総括討論
第 8 週	第4章　変わる国民の税意識 (1) 国民の参加と選択 (2) 対話集会で得たもの
第 9 週	(3) 国民の税意識は健全だ 論点整理と総括討論　　レポート課題（2）提出
第１０週	第5章　空洞化した所得税　-----基幹税としてどう修復するか (1) 税収は確保できない (2) 所得控除とその見直し
第１１週	(3) 年金課税のあり方 論点整理と総括討論　　レポート課題（3）提出
第１２週	第6章　高まる消費税への期待 ----最後の手段か (1) 市民権を得た消費税 (2) 消費税の次の局面
第１３週	(3) 消費税の将来設計 論点整理と総括討論
第１４週	最近2年間に現れた消費税をめぐる議論　財政再建計画 各政党の政策評価
第１５週	演習の総仕上げとしての総括レポート（4）の作成と提出

《演習科目》

科 目 名	発展演習Ⅱ				
担当者名	高本　茂				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
前半はテキストを輪読し、後半は議論と質疑応答を行います。

《授業の到達目標》
経済学を基礎の基礎から身につける。

《テキスト》
坪井賢一『めちゃくちゃわかるよ経済学』
弘兼典史『知識ゼロからの経済学』

《参考文献》
大久保隆弘『経済学が面白いほどわかる本・マクロ経済編／マーケット論』
大久保隆弘『経済学が面白いほどわかる本・マクロ経済編／経済政策論』

《成績評価の方法》
日頃の学習態度（100%）をもって評価する。

《授業時間外学習》
新聞の経済記事をよく読みなさい。

《備考》
私が経済学を学び始めたのは４０歳近くになってからです。経済学は学習の順序さえ間違わなければ必ず身に付くものです。一緒に頑張っていきましょう。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	坪井賢一『めちゃくちゃわかるよ経済学』(続き) ４．世界は一つの市場になる（1）
第 2 週	世界は一つの市場になる（2）
第 3 週	５．３つの経済思想で経済がわかる（1）
第 4 週	３つの経済思想で経済がわかる（2）
第 5 週	弘兼憲史『知識ゼロからの経済学』 １．経済学を通じて世界を読み解く（1）
第 6 週	経済学を通じて世界を読み解く（2）
第 7 週	２．生活することは経済活動を行うこと（1）
第 8 週	生活することは経済活動を行うこと（2）
第 9 週	３．買い手と売り手の思惑で値段が決まる―ミクロ経済学の基礎（1）
第１０週	買い手と売り手の思惑で値段が決まる―ミクロ経済学の基礎（2）
第１１週	４．国の実力はＧＤＰに表れる（1）
第１２週	国の実力はＧＤＰに表れる（2）
第１３週	経済学の復習とまとめ（1）
第１４週	経済学の復習とまとめ（2）
第１５週	経済学の復習とまとめ（3）

《演習科目》

科 目 名	発展演習Ⅱ				
担当者名	瀧本　眞一				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

まず、地域研究とはいかなるものかを考えます。文献や資料を読破し、各自が興味を抱いた事柄を、各自が住んでいる市や町と比較して探求します。その結果をミニレポートにまとめ、発表し、議論し、探求を深めます。適切な発表の仕方についても考えます。

また、ノートパソコンを資料収集・ミニレポート作成・発表に活用します。

《授業の到達目標》

加古川地域に関しての研究を深めていくため、各自のテーマ探しをおこない、決定したテーマの研究を深めていきます。

《テキスト》

特に使用しません。必要に応じてプリントなどを配布します。

《参考文献》

適宜、紹介しますが、自分で探す能力を身につけることも必要です。

《成績評価の方法》

授業への取組、レポートで評価します。割合は、取組・40%、レポート・60%とします。

ただし、出席率が一定程度に満たないときは、単位を認定しない場合もあります。

《授業時間外学習》

特に指定はしませんが、新聞や図書をよく読み、地域のことに関心を持ってください。

《備考》

学生諸君には、次の事柄を心がけて欲しいと思います。

1. 本を読むこと
2. 新聞を読むこと
3. 皆と議論すること
4. 現場へ出かけること
5. 文献を探すこと
6. 楽しんで進めること

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	オリエンテーション
第 2 週	『いろはにほへと加古川事典』を読む
第 3 週	『いろはにほへと加古川事典』を読む
第 4 週	『都市と地方』の新聞記事を読む
第 5 週	居住地の状況を調査する～名産品
第 6 週	居住地の状況をレポートする～名産品
第 7 週	居住地の状況を調査する～人口の推移と面積
第 8 週	居住地の状況をレポートする～人口の推移と面積
第 9 週	居住地の状況を調査する～大型小売店
第１０週	居住地の状況をレポートする～大型小売店
第１１週	居住地の状況を調査する～駅のバリアフリー化
第１２週	居住地の状況をレポートする～駅のバリアフリー化
第１３週	居住地の状況を調査する～コンビニエンスストア
第１４週	居住地の状況をレポートする～コンビニエンスストア
第１５週	まとめ

《演習科目》

科 目 名	発展演習Ⅱ				
担当者名	堀池　聡				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
インターネットで用いられる公開鍵暗号方式の RSA について学習します。まず，RSA

《授業の到達目標》
暗号の学習を通じて、文献調査、論理的思考法，コンピュータ操作といった基本的な技術の向上を目指します。具体的な知識として、最新の暗号の手法とその強度を理解します。

《テキスト》
演習の初回に指定します。

《参考文献》
適宜、紹介します。

《成績評価の方法》
毎回の授業への取組み(60%)とレポート(40%)により評価します。

《授業時間外学習》
授業ごとに指定するコンピュータ演習や文献調査を行って下さい。

《備考》

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	演習の概要説明
第 2 週	サイモン・シン著「暗号解読」下巻輪講(1)
第 3 週	サイモン・シン著「暗号解読」下巻輪講(2)
第 4 週	サイモン・シン著「暗号解読」下巻輪講(3)
第 5 週	RSA 暗号の数学的基礎(1)
第 6 週	RSA 暗号の数学的基礎(2)
第 7 週	RSA 暗号の数学的基礎(3)
第 8 週	RSA 暗号に必要となる Excel 関数の演習(1)
第 9 週	RSA 暗号に必要となる Excel 関数の演習(2)
第１０週	RSA 暗号に必要となる Excel 関数の演習(3)
第１１週	RSA 暗号に必要となる Excel 関数の演習(4)
第１２週	エクセルによる Excel 暗号の演習(1)
第１３週	エクセルによる Excel 暗号の演習(2)
第１４週	エクセルによる Excel 暗号の演習(3)
第１５週	まとめと復習

《演習科目》

科 目 名	発展演習Ⅱ				
担当者名	山本　真弓				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
数学の勉強を通じて、基礎となる原理・原則の論理的理解、イメージによる概念の直感的理解、適切な問題演習による概念の体得を行います。
特に、確率を理解し応用できるようにします。
また，２人ひと組で計算問題を作成し、解答、解説は発表形式で行い、人前で説明するトレーニングを行います。
最初 20 分間で計算トレーニングを行い、残り 70 分で数学の基礎学力強化を行います。

《授業の到達目標》
人前で発表できるようになる。
計算力が身に着く。
個人個人の基礎数学学力強化ができる。
確率を理解できるようになり応用できるようになる。

《テキスト》
テキストは使用しません。必要に応じてプリントを配布します。

《参考文献》
必要に応じて授業中に紹介します。

《成績評価の方法》
毎回の授業の前後に実施する小テスト（80%）、単元ごとに課す宿題（10%)、発表内容及び態度（10%）

《授業時間外学習》
復習：その日に学んだことをノートにまとめ直し、理解不足の個所は例題を再び自分自身の手を動かして解いてみて下さい。
予習：前回の授業を再び復習し本当に理解てきているかどうか見直して下さい。次回の計算問題トレーニング担当者は、作成して下さい。

《備考》
毎時間遅刻せずに出席してください。
過去の配布プリント、筆記用具（鉛筆、消しゴム、赤ペン、定規）とノートは必ず持参してください。
携帯電話の使用を禁止します。特に、授業中携帯電話で話をした場合は、その場で単位修得不可能とします。
努力して考えても分からないところは、授業の中の演習中、授業後またはオフィスアワーに質問してください。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	演習の進め方の説明，自己紹介など
第 2 週	計算トレーニング 1、集合について
第 3 週	計算トレーニング 2、集合の演習問題
第 4 週	計算トレーニング 3、順列について
第 5 週	計算トレーニング 4、順列の演習問題
第 6 週	計算トレーニング 5、円順列について
第 7 週	計算トレーニング 6、円順列の演習問題
第 8 週	計算トレーニング 7、組み合わせについて
第 9 週	計算トレーニング 8、組み合わせの演習問題
第１０週	計算トレーニング 9、確率の意味
第１１週	計算トレーニング 10、確率の加法定理
第１２週	計算トレーニング 11、確率の乗法定理
第１３週	計算トレーニング 12、独立試行の確率
第１４週	計算トレーニング 13、確率の演習問題
第１５週	学習のまとめ

《演習科目》

科 目 名	発展演習Ⅱ				
担当者名	斎藤　正寿				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

演習の前半では、あるまとまった量の論説や書籍を批判的に読んでいく練習をしていきたい。その後、自ら選択したトピックについてリサーチを行ってもらい、自分の意見を文章で書いていく練習を行う予定である。最後には全員のレポートを全員で輪読しながら批判的に読み、相互に評価をおこなって演習のしめくくりとしたい。

一応の論理の基礎的修練を終えた諸君と、「自分の意見を文章の形で表現する」練習を行っていく。自分の意見を「書き言葉」で相手（読者）に納得してもらうためには、どのような技術が必要になるのかを明確にして、その技術を体得していくことが演習の目標である。

《授業の到達目標》

ある程度高度な論理学の知識を身につけることで、社会の様々な言説を理解し、かつ批判することができる。
論理学の知識をベースに、明解で説得的な文章を書いたり、口頭で発表をおこなったりすることができる。

《テキスト》

特に指定しない。演習の中で資料を適宜配付していく。

《参考文献》

参考文献は演習をすすめながら、紹介をしていく。

《成績評価の方法》

評価は、毎時間の課題への取り組みと、学期末に課すレポートの内容を総合して行う。評価の割合は、課題への取り組み（50%）、レポート（50%）である。

《授業時間外学習》

毎回、テキスト中の練習問題数問を宿題とするので、それを次の時間までに解いて提出してもらう。 また演習後半には独自の課題のリサーチを積極的に進めてもらう。

《備考》

むかしアメリカに留学していたとき、ある教授のオフィスの扉に、哲学者デカルトの有名な言葉「我思う、ゆえに我あり。」のパロディが貼ってあり、それにはこう書いてありました。「我書く、ゆえに我思う。」

我々は何か書くべき内容が頭に浮かんだときに初めて、「書く」という行為が始まると考えがちですが、実は「書き始めなければ考えることができない」領域が、我々の周りには多く存在します。とりあえず書き始める、これをこの演習では実践してみたいと思います。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	前期の復習
第 2 週	『論理トレーニング』第９章　推論の技術（1）
第 3 週	『論理トレーニング』第９章　推論の技術（2）
第 4 週	『論理トレーニング』第９章　推論の技術（3）
第 5 週	『論理トレーニング』第９章　推論の技術（4）
第 6 週	『論理トレーニング』第 10 章　批判への視点（1）
第 7 週	『論理トレーニング』第 10 章　批判への視点（2）
第 8 週	『論理トレーニング』第 10 章　批判への視点（3）
第 9 週	『論理トレーニング』第 11 章　論文を書く（1）
第１０週	『論理トレーニング』第 11 章　論文を書く（2）
第１１週	最終口頭発表のための課題の説明
第１２週	発表準備（1）　各自課題の批判的読解
第１３週	発表準備（2）　レジュメ、説明の作法
第１４週	口頭発表会（1）
第１５週	口頭発表会（2）

《演習科目》

科 目 名	発展演習Ⅱ				
担当者名	森下　博				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

授業では、発展演習Ⅰで学んだプログラミング技術を活用して、あらたなテーマで作品を制作します。アイデアをかたちにすることの難しさとともに面白さを感じながら、楽しめる作品を構築します。

発展演習Ⅱでは､プログラミングを用いた作品制作を通じて､自分の思い通りにコンピュータへ伝達できる技術の習得を目指します。そして、作品の構想、制作、公開と段階的に授業を展開していきます。

Ⅰプログラミング作品の構想

プログラミング（C言語）を用いた作品を制作するにあたり、アイデアを出して、それを実現するための必要な方策を練ります。

Ⅱプログラミング作品の制作

考えや情報をイメージとしてまとめた情報伝達（提示）作品を制作します。コンピュータを活用し、目の前で確認しながら演習を進めます。

Ⅲプログラミング作品の公開

作品の見やすさや使いやすさなどを工夫し、表現の可能性を探ります。最終的に、提出された作品の実演会ができればよいと思います。

《授業の到達目標》

○プログラム全体の流れを把握し、手順を説明することができる。
○伝えたい内容を思い通りの表現で作品を作り上げることができる。
○構成する作品の見やすさや使いやすさを追及し、実現することができる。

《テキスト》

適宜、プリントを配布します。

《参考文献》

適宜、参考書を紹介していきます。

《成績評価の方法》

課題進捗状況レポート提出 30%
課題提出とその成果 70%

《授業時間外学習》

授業内で終えられなかった課題については、次回までに学習を済ませておいて下さい。そして、より理解を深めるため、またさらなる発展のための自主的な学習の取り組みに期待します。

《備考》

グラフィックスプログラミングを活用して、真っ白なウィンドウから一つずつ作品を組み立てていきます。思い通りの表現が可能になってくると、プログラミング言語の理解力が加速し、さらにアイデアが広がってきます。講義内容に関する質問は、授業時あるいはオフィスアワー等で受け付けます。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	Ⅰプログラミング作品の構想　① 演習の目標と概要の説明
第 2 週	② 発展演習Ⅰで制作した作品の実行
第 3 週	③ 記述の方法と実行の確認
第 4 週	Ⅱプログラミング作品の制作　① ウィンドウの構想
第 5 週	② テキストの表示と装飾
第 6 週	③ イメージとマッピング
第 7 週	④ 動作ボタンの作成と配置
第 8 週	⑤ 動作ボタンの実行と確認
第 9 週	⑥ 動作ボタンの切替とユーザビリティ
第１０週	⑦ 動作ボタンと情報との連動
第１１週	⑧ 動作ボタンの応用(速度調整)
第１２週	⑨ 動作ボタンの発展(色彩調整)
第１３週	Ⅲプログラミング作品の公開　① 作品のまとめと確認
第１４週	② ネットワークによる作品の提出
第１５週	③ 作品の公開と意見交換

《コース共通科目》

科 目 名	プレゼンテーションＡ				
担当者名	福永　弘之				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
オーラルなプレゼンテーションに重点をおいて、(1) プレゼンテーションの定義と種類、(2) プレゼンテーションへの準備、(3) 実践（自己紹介、スクラップでの発表、クラブ、アルバイト紹介)、(4) ゼミ発表（レジュメの書き方とカンタンな製品比較のゼミ発表)、(5) 議論の仕方を学ぶ

《授業の到達目標》
大学で必要なゼミ発表、卒論発表ができるように、プレゼンテーション技法、コミュニケーション作法の修得をめざし、就職での面接力、会社での企画発表できる力を養う。

《テキスト》
福永弘之監修『キャンパスライフとプレゼンテーション』樹村房、2002 年

《参考文献》
茂木秀昭著『ザ・ディベート』筑摩書房、2001 年。
大島武著『「相手の聞きたいこと」を話せ』マキノ出版、2006 年。

《成績評価の方法》
平常点（出席状況、授業態度など）10%、授業中の発表の評価 30%、定期試験 60%をもって行う。

《授業時間外学習》
スクラップ発表のときは事前に配布して要点をまとめてきて発表させる。自己ＰＲ文のときも事前に例題集を配り、家庭で考えてきてから作成させる。

《備考》

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	授業の概要と進め方 学士力、YES プログラム、社会人基礎力とプレゼンテーション
第 2 週	プレゼンテーションのアウトラインⅠ
第 3 週	プレゼンテーションのアウトラインⅡ
第 4 週	プレゼンテーションのやさしい概説Ⅰ
第 5 週	プレゼンテーションのやさしい概説Ⅱ
第 6 週	自己紹介、クラブ紹介、アルバイト紹介
第 7 週	自己紹介、クラブ紹介、アルバイト紹介 店・ふるさと紹介、スクラップによる発表　演習Ⅰ
第 8 週	自己紹介、クラブ紹介、アルバイト紹介 店・ふるさと紹介、スクラップによる発表　演習Ⅱ
第 9 週	ゼミ発表の仕方とレジュメ
第１０週	就職とプレゼンテーションⅠ　マナーなど（ビデオ使用）
第１１週	就職とプレゼンテーションⅡ　エントリーシート、自己ＰＲ文作成演習
第１２週	会議とプレゼンテーション
第１３週	企画とプレゼンテーション（ビデオ使用）
第１４週	議論をしようⅠ　パネルディベート演習
第１５週	本講義のまとめと要点の整理

《コース共通科目》

科 目 名	プレゼンテーションB				
担当者名	石原　敬子				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
大学での学修のあらゆる場面で必要となる文章表現によるプレゼンテーションについて学ぶ。
授業では、文章作法、構想の練り方、文章の組み立て方、論理的な書き方について解説する。毎時間の演習、添削指導を通じて文章を書く力を身につける。

《授業の到達目標》
・演習を通じて、文章作法を身につける。
・資料の内容について、ポイントを押さえて要約できるようになる。
・序論・本論・結論のスタイルでまとまりのある文章を書けるようになる。
・レポート、論文の書き方を身につける。

《テキスト》
プリントを配布する。

《参考文献》
小笠原喜康著『大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書、2002年。
大島弥生他著『ピアで学ぶ大学生の日本語表現－プロセス重視のレポート作成』ひつじ書房、2005年。
菊田千春・北林利治著『論理的に書き、プレゼンする技術』東洋経済新報社、2006年。
その他、授業時に紹介する。

《成績評価の方法》
毎回の授業での課題に対する評価と学期末のレポートに基づいて行う。評価の割合は、授業時の演習課題を 60%、学期末のレポート40%とする。
なお、学期末のレポートを提出しなかった場合には単位を与えないので注意すること。

《授業時間外学習》
・　毎時間取り組んだ演習課題については、翌週に添削して返却する。指摘された事柄を確認・理解し、もう一度自分なりにまとめなおすなどして、スキルアップに努めよう。
・　第10週目以降は、学期末のレポート作成に向けて毎回宿題を出すので、しっかりと取り組むこと。

《備考》

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	授業の概要と進め方
第 2 週	基本的な文章作法を身につけよう
第 3 週	文章を要約するⅠ
第 4 週	文章を要約するⅡ
第 5 週	感想文を書くⅠ
第 6 週	感想文を書くⅡ
第 7 週	議論をふまえて自分の考えを表現しようⅠ
第 8 週	議論をふまえて自分の考えを表現しようⅡ
第 9 週	議論をふまえて自分の考えを表現しようⅢ
第１０週	議論をふまえて自分の考えを表現しようⅣ
第１１週	レポートを書こうⅠ：　よいレポートとは／テーマを決めて構想を練る
第１２週	レポートを書こうⅡ：　情報検索
第１３週	レポートを書こうⅢ：　文章を組み立てる
第１４週	レポートを書こうⅣ：　引用の仕方を身につける
第１５週	学習のまとめ レポートの提出

《コース共通科目》

科 目 名	現代経済社会論Ｂ				
担当者名	堀池　聡				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
現代経済社会の実際を知るために、現代社会を理解する上での基礎知識を習得し、民間企業等で活躍している方々から経済社会の現場で起きていることを学びます。現場の話は外部講師によるオムニバス形式の講義で、外部講師としては公認会計士、地元加古川市の企業経営者、企業の人事担当者などを予定しています。

《授業の到達目標》
各講師の話を通じて、今の経済社会を実感することを目標とします。 将来の自分の姿を思い描くための助けにもなります。

《テキスト》
なし

《参考文献》
必要に応じ、各講師から指示します。

《成績評価の方法》
毎回授業で作成するレポート(50%)と、まとめのレポート(50%)により評価します。
毎回のレポートの採点では、受講態度も考慮します。

《授業時間外学習》
毎回の講義内容を振り返り、レポートを作成して下さい。

《備考》
第１回目のガイダンスを必ず受講して下さい。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	本年度の講師は確定していないので、昨年度の実績を参考としての講師を掲げておく。 第１回目は堀池によるガイダンスを実施し、講義スケジュール、レポート成績評価について詳しく説明する。
第 2 週	堀池 聡 現代社会を知るための基礎知識(1)
第 3 週	堀池 聡 現代社会を知るための基礎知識(2)
第 4 週	柳本　周介(株) オフィスビギン（代表）
第 5 週	松本　敦子 フォトグラファー（撮影対象　物撮り、ポートレイト）
第 6 週	松本　敦子 フォトグラファー（撮影対象　物撮り、ポートレイト）
第 7 週	堀池 聡 現代社会を知るための基礎知識(3)
第 8 週	石本　徳三郎 ＮＰＯ法人　日本健康住宅協会 名誉理事
第 9 週	前川容洋 前川建設株式会社　代表取締役社長
第１０週	小長谷　敦子 公認会計士
第１１週	松本　壽泰 ネクスト・ワン株式会社　総務部監査室長
第１２週	有吉　直美 （株）チクマ　キャンパス事業部 服飾コーディネーター
第１３週	中村耕治 ㈱光洋　管理本部　人事総務部　採用課　課長
第１４週	堀池　聡 現代社会を知るための基礎知識(4)
第１５週	堀池　聡 レポート作成とまとめ

《コース共通科目》

科 目 名	簿記原理Ⅱ				
担当者名	三宅　伸二				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
この授業では、簿記原理Ⅰに続いて、会計学関係科目の基礎となる簿記の基本について学習します。

《授業の到達目標》
日商簿記検定３級のレベルを目標とします。

《テキスト》
蛭川幹夫「基本簿記」実教出版（2008）ver.3.0

《参考文献》
TAC 出版「合格テキスト日商簿記３級」ver.5.0
TAC 出版「合格トレーニング日商簿記３級」ver.5.0
日商簿記検定合格を目指す人には最適です。

《成績評価の方法》
到達度確認試験（３回）の状況（９０％）と宿題（１０％）で評価します。

《授業時間外学習》
宿題を出しますので、次回授業時間時に提出してください。

《備考》
ぜひ、早い段階で日商簿記検定に合格してください。先が見えてきます。検定は６月、１１月、２月と年３回あります。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	簿記原理Ⅰの復習
第 2 週	手形取引（手形貸付、手形借入）
第 3 週	その他の債権・債務 貸付金・借入金
第 4 週	その他の債権・債務 前払金・前受金 未収金・未払金
第 5 週	その他の債権・債務 立替金・預り金
第 6 週	その他の債権・債務 仮払金・仮受金 商品券
第 7 週	固定資産 取得、売却、原価償却
第 8 週	個人企業の資本と税務
第 9 週	訂正仕訳
第１０週	決算手続き１
第１１週	決算手続き２
第１２週	決算手続き３
第１３週	８桁精算表
第１４週	損益計算書・貸借対照表の作成
第１５週	伝票会計

《コース共通科目》

科 目 名	経済学入門				
担当者名	高本　茂				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
経済学全般の基礎的知識を幅広く教える。難易は高校の「現代社会」もしくは「政治・経済」と大学の「経済原論」の中間位となる。したがってミクロ経済学の無差別曲線、様々な費用曲線、パレート最適や、マクロ経済学の 45 度線分析、ＩＳ・LM分析、総需要・総供給分析などの立ち入った専門的知識は教えない。市場の自動調整メカニズム、国民所得をめぐる諸概念、ケインズの乗数理論、信用創造、国際収支の内訳等最も基礎的な内容の修得を目標とし、２年次以降の学習につなげていきたい。ただし、財務諸表や景気指標の見方など、普通の経済学の教科書には載っていないが、新聞の経済記事を読む上で欠かせない事柄については授業で取り上げる。

《授業の到達目標》
現代の経済社会の仕組みを理解し、経済学の入門的知識の修得をめざす。経済ビジネスコースを選択する人にとって、この科目が残り３年間の全ての経済系科目の基礎となる。理論的基礎を身につけることによって、現代の日本経済・世界経済のおおまかな見取り図を各自が描けるようにしたい。また、毎時間授業の最初に経済記事を解説することによって経済事象と親しみ、新聞の経済記事を自由自在に読みこなせることを目標とする。

《テキスト》
独自に作成したプリントをテキストとして用いる。

《参考文献》
『初歩の経済学』高本 茂（幻冬舎ルネッサンス）

《成績評価の方法》
期末に学期全体で学んだ全般的範囲についてペーパーテスト（50%）を行う。日頃の学習態度（50%）を考慮する。

《授業時間外学習》
新聞の経済記事をよく読むこと。

《備考》
経済系学部に入学した以上は、必ず経済学の知識は身につけてもらいたいものです。予備知識の全然ない人たちを相手にするので難しい話をするつもりはありません。極力わかりやすく説明します。ただし無断欠席を繰り返していくとわからなくなるので、毎回必ず出席して下さい。授業中の私語も厳禁！
なお、下記に授業計画を示すが、授業の進行状況により若干変更することもある。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	経済学を学ぶ意義　現在経済社会の歴史的位置　現代経済社会の特質
第 2 週	《戦後日本経済の歩み》　①日本資本主義の成立と発展　②敗戦から戦後復興
第 3 週	③高度経済成長期　④石油ショックと低成長時代の到来　⑤バブルの発生と崩壊 ⑥平成大不況
第 4 週	《市場機構と価格》　①市場の自動調整メカニズム　②独占と市場の失敗
第 5 週	《現代の企業》　①経済主体と経済循環　②株式会社の仕組み
第 6 週	③会社の数字（財務諸表）の読み方
第 7 週	《国民経済と国民所得》　①国民所得をめぐる諸概念　②国民所得の三面等価
第 8 週	《租税と財政》　①現代の財政　②ケインズの考え方（1）
第 9 週	③ケインズの考え方（2）　④財政政策
第１０週	《貨幣と金融》　①貨幣と金融　②金融の仕組みと金融機関
第１１週	③中央銀行と金融政策
第１２週	《国際経済》　①国際分業と貿易　②国際収支の内訳
第１３週	③第２次大戦後の国際経済　④変動相場制による調整の仕組み ⑤日本の対外貿易の内訳と問題点
第１４週	《景気変動と景気指標》　①景気変動の周期性と波動　②現代日本の景気動向と今後の景気見通し
第１５週	現代日本と世界の経済の現状

《コース共通科目》

科 目 名	民法				
担当者名	今井　俊介				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
講義形式を基本とするが、時には例題を掲げて討論方式をもミックスしてみたい。ニュースを賑わす事例はもとより、身近で卑近な例（年金、食品偽装、労働者派遣、家族殺人、教科書問題、サラ金地獄など）を取り上げ関心を呼び起こしたい。私法体系は有機的に連携しているので、各週の講義を独立に終わることなく連携をとるように工夫し、従って予習・復習が極めて重要となる。

《授業の到達目標》
社会規範としての法の存在、価値を自覚させる。民法の主要部分を極力具体的実例を挙げて平易に解説し、現代社会における私法秩序の重要性を理解する。そして法と社会の連結の関心を深めるようにする。最後の講義で実体法から権利実現へ架橋する。

《テキスト》
テキストは使用せず、プリント、資料などで平易に解説する。

《参考文献》
その都度指定する。資料等はコピーのうえ配布する。

《成績評価の方法》
基本的にはペーパーテストによるが（８０％）、中間にレポートを提出させペーパーテストの一部に補充することがある（２０％以内）。

《授業時間外学習》
日々のニュースの中から私法に関連すると思われる事象を拾い出し、参考文献にも目を通し検討のうえ自分の考えを纏める訓練をして欲しい。疑問点は遠慮なく質問に来て欲しい。

《備考》
法学の学習には、隣接諸科学特に政治学、経済学、社会学、心理学等々の広範な知識と理解が要請される。極力そのような講義を聴いて欲しい。また日々の新聞、テレビ、ラジオのニュースや解説に触れて欲しい。なお受講の際は手ごろな六法全書を携行して下さい。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	法学の基礎知識—社会あるところに法あり　法と道徳　公法と私法　私法の原則
第 2 週	総　則（1）—自然人と法人　権利能力　行為能力　成年後見制度
第 3 週	総　則（2）—法律行為、代理、時効
第 4 週	物　権（1）—物権変動、対抗要件
第 5 週	物　権（2）—物権の種類　物権的請求権
第 6 週	債　権（1）—契約の履行　債務不履行　危険負担　瑕疵担保責任
第 7 週	債　権（2）—現代社会における契約の機能　典型契約のうち売買、賃貸借について
第 8 週	債　権（3）—般不法行為とその成立要件・無過失損害賠償責任
第 9 週	債　権（4）—使用者責任
第１０週	債　権（5）—工作物責任　国家賠償責任
第１１週	親族・相続—現代社会における家族法の機能と役割
第１２週	親　族（1）—夫婦・親子・親権
第１３週	親　族（2）—後見・保佐・補助・扶養
第１４週	親　族（3）—相続・遺言・遺留分
第１５週	私的紛争とその解決—紛争解決方法の多様性と利害得失

《コース共通科目》

科 目 名	会計学入門				
担当者名	三宅　伸二				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》

会計の技術基盤は簿記（Book-Keeping）ですから、まず、初級簿記の仕組み（簿記原理）を学びます。続いて、会計の基本原則、一般原則について理解した上で、損益会計、資産会計、負債会計、資本会計の概要へと進みます。

《授業の到達目標》

私たちの日常生活は、企業が供給する物やサービスを抜きにしては考えられません。その企業は、仕入先、販売先、銀行、政府、従業員、投資家などの様々な主体と利害関係を持ちながら活動をしています。会計とは、こうした利害関係者に企業の財務情報を提供するものです。Account には、「計算、会計」という意味のほかに「報告、説明」という意味があるのはそのためです。そして、財務情報の作成には一定のルールがあります。この授業では、財務情報を作成するルールと、財務情報が
いったい何を示しているのか、財務情報から何を読み取り、いかにして企業の今を知るのかについて学びます。

《テキスト》

使用しない。

《参考文献》

授業中に紹介

《成績評価の方法》

到達度確認試験（3回）の状況（９０％）と宿題（１０％）で評価します。

《授業時間外学習》

その日の授業内容に係る宿題を出します。次回授業に提出してください。

《備考》

会計は「ビジネス言語」と言われるように、ビジネス社会での必須知識です。「税理士」「公認会計士」「国税専門官（国家公務員）」などを目指すにも必要です。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	授業方針,成績評価の方法などのオリエンテーション 会計学とは
第 2 週	会計情報
第 3 週	複式簿記の仕組み１
第 4 週	複式簿記の仕組み２
第 5 週	会計原則
第 6 週	財務諸表の体系
第 7 週	貸借対照表
第 8 週	損益計算書
第 9 週	資産会計（流動資産）
第１０週	資産会計（流動資産）
第１１週	資産会計（固定資産）
第１２週	資産会計（固定資産）
第１３週	負債会計
第１４週	資本会計
第１５週	本支店会計

《コース共通科目》

科 目 名	プログラミング入門				
担当者名	田中　正彦				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
コンピュータの動作手順はすべてプログラムで記述されています。
プログラムを知らなくてもパソコンを使うことは出来ますが、どうやって動いているのかを知ることでさらに進んだ利用ができるようになります。
自分が行いたいことがらをパソコンにさせるにはどうしたらよいのかなど、使い方を考えることで思考や表現の幅を広げましょう。
スクイーク e-toys を使って、グラフィカルなプログラミングを演習します。
授業ではパソコンや e- Learning システムを利用します。

《授業の到達目標》
次のことがらを理解し活用することができる。
・プログラムに記述されたとおりに動作すること
・プログラムを記述すると新たな使い方ができること

《テキスト》
なし
資料は e-Learning システムや学内ネットワークを通じて適宜配布する。

《参考文献》
『スクイークであそぼう』とーるやまもと（翔泳社）
『Squeak 入門』Mark J. Guzdial 他（エスアイビーアクセス）
http://www.squeakland.org/

《成績評価の方法》
毎回課題提出があります。
毎回の提出物の評価の合計を成績評価とします。(100%)

《授業時間外学習》
その時間までの内容をしっかり理解し、活用できる場面を考えること。
作成しようとする作品に必要な資料を集めること。

《備考》
連絡先 e メール masahiko@lab.hyogo-dai.ac.jp

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	授業概要と e ラーニング登録作業
第 2 週	etoys の基本的な使い方
第 3 週	モーフ、画像、プロジェクト
第 4 週	ハロ、ビューア、オブジェクトの状態
第 5 週	スクリプト
第 6 週	タートルグラフィックス
第 7 週	条件により処理を変える
第 8 週	複数のオブジェクト
第 9 週	コスチューム
第１０週	繰り返し
第１１週	変数
第１２週	変数の応用
第１３週	他のオブジェクトの状態
第１４週	作品制作
第１５週	作品完成

《コース共通科目》

科 目 名	コンピュータ基礎論				
担当者名	堀池　聡				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
コンピュータが行う情報処理の基本動作の理解を目的とします。まず、コンピュータを構成する要素である中央演算処理装置、ディスク、メモリなどの基本的な要素の動作について説明します。次に、コンピュータ内部でそれらの要素がどのように連携するかについて説明します。

《授業の到達目標》
コンピュータの基本的な動作が理解できます。例えば、パソコンでプログラムを実行させたとき、パソコンの中で各部品が連携してデータを処理する過程の具体的な動きがわかるようになります。

《テキスト》
『コンピュータシステム』　志村正道著　（コロナ社）

《参考文献》
適宜紹介します。

《成績評価の方法》
毎回行う確認テストを25%、最後に行う総合テストを75%の割合で評価します。

《授業時間外学習》
教科書と配布プリントを用いて復習に力を入れて下さい。予習としては、次回の講義範囲に関し教科書に目を通してくおいて下さい。

《備考》
周辺にあるパーソナルコンピュータに関心を持ちながら、本講義を受講して下さい。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	本講義の概要と狙いについて
第 2 週	単体のコンピュータの構成
第 3 週	コンピュータで扱われるデータ表現
第 4 週	コンピュータ内で扱われる演算方法の基本
第 5 週	論理演算の基本
第 6 週	論理回路
第 7 週	中央演算装置の基本構成
第 8 週	中央演算装置の処理高速化の手法
第 9 週	メモリを中心とした記憶装置
第１０週	様々な外部記憶装置の構成
第１１週	アセンブラを中心としたプログラミング(1)
第１２週	アセンブラを中心としたプログラミング(2)
第１３週	オペレーティングシステムの基本的な役割
第１４週	コンピュータネットワークの基本動作
第１５週	まとめ

《コース共通科目》

科 目 名	基礎情報数学				
担当者名	山本　真弓				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
前半では、微分法を学ぶための必要不可欠な基礎数学を学びます。後半では、「微分法」を基礎から勉強します。抽象的な理論を理解し、具体的に展開することにより、情報学や経済学の学習に適応できる基礎学力を養います。

《授業の到達目標》
数列を理解し計算できるようになる。
指数、対数を理解し計算できるようになる。
微分の意味を理解できるようになる。
微分の計算をできるようになる。

《テキスト》
テキストは使用しません。必要に応じてプリントを配布します。

《参考文献》
『三角関数　指数関数　対数関数　-知っておいてほしい関数たち』松井伸也著　（ムイスリ出版）
『微分積分学入門』岩谷輝生著　（学術図書出版社）

《成績評価の方法》
試験(80%)、毎回の授業の前後に実施する小テスト（20%）

《授業時間外学習》
復習：その日に学んだことをノートにまとめ直し、理解不足の個所は例題を再び自分自身の手を動かして解いてみて下さい。
予習：前回の授業を再び復習し本当に理解てきているかどうか見直して下さい。次回の復習テストに備えて下さい。

《備考》
毎時間遅刻せずに出席してください。
過去の配布プリント、筆記用具（鉛筆、消しゴム、赤ペン、定規）とノートは必ず持参してください。
携帯電話の使用を禁止します。特に、授業中携帯電話で話をした場合は、その場で単位修得不可能とします。
基礎を学ぶには、積み重ねが重要となります。毎週復習を行い理解して次の週に臨にで下さい。
努力して考えても分からないところは、授業の中の演習中、授業後またはオフィスアワーに質問してください。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	数列
第 2 週	等差数列の和
第 3 週	等比数列の和
第 4 週	指数関数
第 5 週	対数関数
第 6 週	指数関数、対数関数のグラフ
第 7 週	指数、対数の計算演習
第 8 週	関数の定義、右極限、左極限
第 9 週	極限値
第１０週	極限値の計算演習
第１１週	微分の定義
第１２週	微分の定理
第１３週	微分の計算演習
第１４週	微分の応用
第１５週	学習のまとめ

《コース共通科目》

科 目 名	統計学				
担当者名	高野　敦子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》

内閣支持率、出生率、失業率などなど、世の中、数や数式で表されたいわゆるデータで溢れています。そして、インターネットの普及により私たちはそれらを容易に手に入れることができるようになりました。それらは、いかにも客観的、正確、詳細に現象を表しているように感じられます。確かに、上手に使えば、未来を予測するためにも、自分の主張を正当化してアピールするためにも、強い味方になります。でも反対に使い方を誤ると、とんでもない落とし穴が待ち構えています。大切なことは、その後ろにある現象を偏らない目で見つめることです。そのために必要なのが、「統計的センス」です。これは、訓練で身につけることができます。単なる机上の学問としてではなく、この激動する時代に少しでも安全に気持ちよく暮らしてゆくための知恵として、「統計的センス」を身に付けてもらうことを目的とします。

そのためにこの授業では次のような方針をとります。

1．概念はできるだけ数式を使わずにイメージを大切に説明します。
2．できるだけみなさんに実際に処理し考えてもらいます。概念がわかるためには、手計算も大切です。また、実際に使っていくことを考えると、計算機による処理につなげていくことが必要です。
3．基本的な数学は必要ですし、計算機の知識も必要となるでしょう。その意味では、スタートラインで、出遅れた人もいるでしょうし､授業が物足りなくなる人もいるでしょう｡可能な限り、個人のレベルに合わせた柔軟な進め方をしたいと思います。
4．みなさんの興味がある、あるいは実用的な題材を取上げて、実例を通して学んでいくようにしたいと思います。

《授業の到達目標》

統計の基本的な概念・技法に対して次のことを目指します。

（1）基本的な概念が「わかること」
（2）基本的な技法が「わかって使えること」

具体的には，実用的な題材に対して，計算機を使って基本的な統計処理ができることを目指します。

《テキスト》

特にテキストは使いません。資料を配布します。

《参考文献》

《成績評価の方法》

到達目標⑴については，試験によって見ます。（2）については，確認テストと毎回提出してもらう課題を見ます。平常点（出席および毎回の課題）を 20%，期末試験を 80%の割合で評価します。ただし，課題をすべて提出することが期末試験を受けるための前提となります。

《授業時間外学習》

授業内に終了できなかった課題については，次の授業までに完成させて，提出してください。

《備考》

可能な限りたくさんのデータに接して、手と頭を使って｢統計的｣センスを磨きましょう。そして、データに惑わされない賢い国民、学生、消費者・・・になりましょう。

そのためには、なによりも授業に出席して、時間内めいっぱい手と頭を働かせてください。そしてできれば、日ごろから
データを単なる数字の並びと見るのではなく、その奥にある現象をみつめる習慣をつけましょう。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	現象を読み取る（1）：データの整理
第 2 週	現象を読み取る（2）：グラフと分布
第 3 週	現象を読み取る（3）：正規分布
第 4 週	現象を読み取る（4）：代表値
第 5 週	現象を読み取る（5）：散らばりの尺度（1）
第 6 週	現象を読み取る（6）：散らばりの尺度（2）
第 7 週	現象を読み取る（7）：データの間の関係（1）
第 8 週	現象を読み取る（8）：データの間の関係（2）
第 9 週	未来を予測する（1）：起りやすさの数値化
第１０週	未来を予測する（2）：色々な分布
第１１週	未来を予測する（3）：平均の区間推定（1）
第１２週	未来を予測する（4）：平均の区間推定（2）
第１３週	未来を予測する（5）：仮説検定の概念
第１４週	未来を予測する（6）：平均の仮説検定
第１５週	具体例

《コース共通科目》

科 目 名	国際社会論				
担当者名	斎藤　正寿				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》

「近代国家」、「近代化」、「モダンアート」、「ポストモダン」、「モダン焼」等々、私達の身の回りには「近代的なるもの」があふれています。それでは、一体「近代」とは何なのでしょうか？もちろん「近代」という言葉には多くの意味があり、１つの明確な答えが用意されているわけでありません。講義では、まるで空気のように、私達がふだん意識することのない「近代的」現象を様々な角度から、主に歴史的なアプローチを使って理解することを目標とします。

《授業の到達目標》

文化のもつ曖昧さ、凝集性、そして政治性を理解できる。
様々な国際的事象を理解する思考ツールを習得できる。

《テキスト》

特に指定しません。講義の中で、随時資料を配付します。

《参考文献》

講義の中で紹介をしていきます。

《成績評価の方法》

学期末の定期試験期間に筆記試験（100%）を実施する。

《授業時間外学習》

講義ごとに必ず、授業内容のスケルトンと、講義内容に関連する資料を集めたものを１枚のプリント（場合によってはそれ以上の量）にして配布しますので、それをよく読み理解して下さい。なお、読んでなお不明な点があれば講義の際、もしくはオフィスアワーに遠慮なく質問に来て下さい。

《備考》

毎回、国際的であることを意識しつつ、いろいろなトピックを用意して、諸君とゆっくりと考えてみたいと思います。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	イントロダクション　いろいろな近代
第 2 週	近代以前の世界　1 世界がまだいくつもあった頃
第 3 週	近代以前の世界　2 神の暖かいまなざしがあった頃
第 4 週	近代以前の世界　3 王様がすべての中心であった頃
第 5 週	近代の到来　1 大航海時代のヨーロッパ
第 6 週	近代の到来　2 キリスト教世界の拡大
第 7 週	近代の到来　3 フランス革命の衝撃
第 8 週	近代の到来　4 ヨーロッパ国際体系の成立
第 9 週	近代の到来　5 資本主義の誕生
第１０週	近代の装置　1 近代国家、近代戦争
第１１週	近代の装置　2 市場、貨幣
第１２週	近代の装置　3 学校、監獄、病院
第１３週	近代の思想　1 子ども、経済人
第１４週	近代の思想　2 進歩、進化、人種差別
第１５週	近代の思想　3 計画、文化、博物館

《コース共通科目》

科 目 名	比較文化論				
担当者名	岡本　洋之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
本授業においては，いくつかの国または地域における文化を，主として映画観賞によって感じ取り，それらを比較考察する。

《授業の到達目標》
みなさんの中には，国際社会で渡りあうための豆知識を，本授業で学びたいと考えている人がいるかもしれない。日本人の正座とは違い，韓国・朝鮮人の女性は片ひざを立てて座るとか，日本人が音をたてて麺類を食べるのに対して，英国人はそれを徹底的に嫌うとかである。
これらも大切である。しかしそのような個別の知識を得るだけなら，ガイドブックやインターネットの情報で十分である。大学の授業では，その場でしか学べないことを取り上げたい。そこで本授業では，異文化の中で生活した人々の声に耳を傾け，そこから日本文化や「日本のかたち」などについて，みなさんが自力で思索を深められるようにしたい。

《テキスト》
とくには指定しない。

《参考文献》
とくには指定しない。

《成績評価の方法》
平常点（100%）のみとする。主に授業への参加度を評価の基準とする。
出席状況はただちに評価の対象とはしない。しかし本授業は各映画の比較の積み重ねが重要であるので，欠席が続くと授業の流れについて行けなくなる。その場合にはやむをえず授業から去るよう申し渡すことがあるので，くれぐれも注意されたい。

《授業時間外学習》
必要が生じれば指示する。

《備考》
教育学の見地から，受講生の様子，ならびに受講生からの要望に応じて，実際の授業内容を本シラバスから変更することがある。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	オリエンテーション
第 2 週	映画（作品例：米国映画「顔のない天使」）観賞
第 3 週	続き
第 4 週	続き
第 5 週	続き
第 6 週	レポート作成
第 7 週	映画（作品例：中国映画「芙蓉鎮」）観賞
第 8 週	続き
第 9 週	続き
第１０週	続き
第１１週	レポート作成
第１２週	映画（作品例：日本映画「おくりびと」）観賞
第１３週	続き
第１４週	続き
第１５週	レポート作成と全体のまとめ

《コース共通科目》

科 目 名	インターンシップ				
担当者名	榎木　浩				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
企業等の一員として、組織で働くことの苦労や喜びを体験することを通じて、社会を知る。
８月～９月に企業等で５日間（４０時間）以上の実習を行う。実習の前後に事前事後指導を行う。受入先により、期間・日数・時間は異なる。受入先企業等は、実習生の希望は聞くが、原則として大学が調整して決定する。実習後は、実習成果をレポートとして提出する。

《授業の到達目標》
・企業等で実際に作業ができる。
・報告書が正しく書ける。
・社会人として行動できる。

《テキスト》
使用しない。

《参考文献》
必要に応じて事前指導時に指示する。

《成績評価の方法》
受入先企業等からの報告(50%)と、実習後のレポート(50%)により評価する。
実習での遅刻、欠勤があった場合は、単位認定は行わない。

《授業時間外学習》
実習中毎日の作業日誌を書き、その日の作業報告、翌日の作業計画を示すこと。

《備考》
受入先企業等の人達に、兵庫大学生の良さをアピールしよう。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	Ⅰ期第１週、第２週にオリエンテーション 実習前の８月上旬に事前指導
第 2 週	受入先での実習（受入先により、期間・日数・時間は異なる）
第 3 週	受入先での実習
第 4 週	受入先での実習
第 5 週	受入先での実習
第 6 週	受入先での実習
第 7 週	受入先での実習
第 8 週	受入先での実習
第 9 週	受入先での実習
第１０週	受入先での実習
第１１週	受入先での実習
第１２週	受入先での実習
第１３週	受入先での実習
第１４週	受入先での実習
第１５週	事後指導（報告書、作業日誌の提出）

《コース共通科目》

科 目 名	経済情報特論Ｅ				
担当者名	穂積　隆広				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》

この授業では，情報処理技術者の国家資格『ＩＴパスポート試験』のカリキュラムの３つの分野のうち，テクノロジ系の内容（情報処理の基礎理論，コンピュータやネットワークの基礎知識，アプリケーションの活用など）について学びます．特に他の授業でカバーしきれていない細かなトピックを中心に授業を進めます．

なお，残りの２つの分野（ストラテジ系，マネジメント系）についてはⅡ期開講の経済情報特論Ｆにおいて学びます．あわせて履修することを望みます．

《授業の到達目標》

この授業では，情報処理技術者の国家資格『ＩＴパスポート試験』のテクノロジ系分野の問題に合格する力を身に付けることを目標とします．

《テキスト》

テキストは使用しません．必要に応じてプリントを配布します．

《参考文献》

授業中に適宜指示します．

《成績評価の方法》

毎回実施する小テストの得点（20%）と期末試験の得点（80%）によって評価します。

《授業時間外学習》

各自毎回の授業内容を復習しておいてください．

《備考》

コンピュータに関する各種技能を身に付けるためには授業で習ったことを覚えるだけでなく，それらを組み合わせ，自分で活用する力を身に付けることが重要となります．さまざまなことにコンピュータを活用し，うまく行かないときもなぜうまく行かないのかをしっかりと考えるよう心がけてください．

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	情報処理技術者試験について
第 2 週	2進数と文字コード
第 3 週	ＣＰＵとメモリの関係
第 4 週	ハードディスクの内部構造とディレクトリパス
第 5 週	アナログとデジタルと代表的なデータ形式
第 6 週	ネットワーク基礎
第 7 週	プロトコルとポート番号
第 8 週	暗号化
第 9 週	ウイルスとセキュリティ対策
第１０週	ソフトウェアや開発言語の種類と特徴
第１１週	システムの稼働率
第１２週	データベース基礎
第１３週	練習問題
第１４週	練習問題
第１５週	練習問題

《コース共通科目》

科 目 名	経済情報特論Ｅ				
担当者名	金子　哲				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》

比較的短い論理的な文章を素材として、文章を論理的かつ正確に読解するトレーニングを行います。雰囲気やフィーリングによりなんとなく理解するのではなく、文中に存在するキーワードを発見し、文章の論理構造を明らかにすることを通して、文章の正確な理解を目指します。

副次的目標は、著名な思想家・作家・研究者の文章を読むことを通して、現代社会の代表的な「ものの考え方」に触れることです。思考の幅を広げましょう。

《授業の到達目標》

文章を論理的に読解し、論理構造を明確にイメージし、文章を正確に理解する力、を獲得することが目標です。

《テキスト》

毎回の講義で、文章を配布します。

《参考文献》

随時、紹介します。

《成績評価の方法》

学期末に行うペーパーテストが 50 パーセントです。持ち込みは不可です。

毎回の講義時に行う、その回の講義の理解度を確認する小テストの合計が 50 パーセントです。

《授業時間外学習》

講義前には、前回まで、どのような方法論を用いて文章を読解したか、を反芻してください。

新聞、雑誌、書籍などで、論理的な文章を見た際には、講義で用いた方法論を使った読解方法を試してみてください。

《備考》

真剣な講義への参加を期待します。この講義では、思考の限界点を突破する真剣勝負が求められます。「頭が真っ白」になるまで考えていただきます。

講義を紊乱したり、主体的に思考する姿勢を最初から放棄する受講者が万一存在した場合は、当該受講者の出席を停止することがあります。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	はじめに
第 2 週	文章の論理的読解１
第 3 週	文章の論理的読解２
第 4 週	文章の論理的読解３
第 5 週	文章の論理的読解４
第 6 週	文章の論理的読解５
第 7 週	文章の論理的読解６
第 8 週	文章の論理的読解７
第 9 週	文章の論理的読解８
第１０週	文章の論理的読解９
第１１週	文章の論理的読解１０
第１２週	文章の論理的読解１１
第１３週	文章の論理的読解１２
第１４週	文章の論理的読解１３
第１５週	おわりに

《コース共通科目》

科 目 名	経済情報特論Ｅ				
担当者名	岡本　洋之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》

本授業は教職免許取得要件ではないが，教員になることを考えている人向けの特訓である。主として学習指導案の書き方を学ぶとともに，交替で模擬授業を行う。

《授業の到達目標》

4年次に行う教育実習に向けて，教壇での発声，板書から始まり，子どもたちへのメッセージ伝達の基本をできるようにする。

《テキスト》

とくには定めない。

《参考文献》

とくには定めない。

《成績評価の方法》

平常点（100%）のみとする。主に授業への参加度を評価の基準とする。

《授業時間外学習》

休日に，教育に関する学外の催し等に参加し，それを本授業に振り替えることがある。その他，必要に応じて指示する。

《備考》

(1)本授業は時間割上では2年次以上に配当されることになっているが，授業の運用上，機械的な学年配当は行わないので，履修登録にあたっては演習担当教員等からの指導に従うと同時に，開講時に必ず出席すること。開講時の無届欠席者は履修登録できないことがある。

(2)非配当学年生や，本授業の既履修者，本授業の他の担当者クラスを履修する者には，岡本から単位認定できないが，受講は歓迎する。

(3)教育学のイロハである「個に応じた指導」にかんがみ，受講生の様子ならびに受講生からの要望をうけて，本シラバスとは異なる内容に変更することがある。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	オリエンテーション
第 2 週	模擬授業（担当教員による模範）
第 3 週	模擬授業に向けた内容づくり（教材研究ガイド）
第 4 週	続き（例：授業のアウトラインづくり）
第 5 週	続き（例：教材研究における文献検索）
第 6 週	続き（例：板書計画）
第 7 週	模擬授業（例：受講生A）
第 8 週	続き（例：受講生B）
第 9 週	続き（例：受講生C）
第１０週	続き（例：受講生D）
第１１週	教師の仕事を考える（視聴覚資料または文献から）
第１２週	続き（例：とくに教師が行う「芸」）
第１３週	続き（例：とくに子ども観）
第１４週	続き（例：とくに人権教育）
第１５週	まとめ

《コース共通科目》

科 目 名	経済情報特論Ｆ				
担当者名	榎木　浩				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
情報処理技術者の国家資格『ＩＴパスポート』のカリキュラムにもとづいて、この授業では、情報化と企業活動に関する分析を行うために必要な基礎的知識（ストラテジ系知識）、システム開発のやり方に関する基礎的知識（マネジメント系知識）を学習します。資格取得を目指す諸君がＩ期開講の経済情報特論Ｅ（テクノロジ系）とともに履修することが望ましい。

《授業の到達目標》
ＩＴパスポート試験に合格できる。

《テキスト》
毎回プリントを配布する。

《参考文献》
『よくわかるマスター　ＩＴパスポート試験　対策テキスト』（ＦＯＭ出版）

《成績評価の方法》
毎回の授業時の確認試験(50%)、評価試験(50%)

《授業時間外学習》
事前学習
・授業のプリントを事前にＷｅｂに公開するので、授業までに読んでおくこと。
事後学習
・確認試験の間違ったところをよく復習すること。

《備考》

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	オリエンテーション、練習問題
第 2 週	企業-組織．OR
第 3 週	企業-会計・財務
第 4 週	法務
第 5 週	経営戦略マネジメント
第 6 週	技術戦略マネジメント、ビジネスインダストリ
第 7 週	システム戦略
第 8 週	システム企画
第 9 週	システム開発技術
第１０週	ソフトウェア開発管理技術
第１１週	プロジェクトマネジメント
第１２週	サービスマネジメント
第１３週	システム監査
第１４週	まとめと練習問題
第１５週	評価試験

《コース共通科目》

科 目 名	経済情報特論Ｆ				
担当者名	金子　哲				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

比較的短い論理的な文章を素材として、文章を論理的かつ正確に読解するトレーニングを行います。雰囲気やフィーリングによりなんとなく理解するのではなく、文中に存在するキーワードを発見し、文章の論理構造を明らかにすることを通して、文章の正確な理解を目指します。

副次的目標は、著名な思想家・作家・研究者の文章を読むことを通して、現代社会の代表的な「ものの考え方」に触れることです。思考の幅を広げましょう。

《授業の到達目標》

文章を論理的に読解し、論理構造を明確にイメージし、文章を正確に理解する力、を獲得することが目標です。

《テキスト》

毎回の講義で、文章を配布します。

《参考文献》

随時、紹介します。

《成績評価の方法》

学期末に行うペーパーテストが 50 パーセントです。持ち込みは不可です。

毎回の講義時に行う、その回の講義の理解度を確認する小テストの合計が 50 パーセントです。

《授業時間外学習》

講義前には、前回まで、どのような方法論を用いて文章を読解したか、を反芻してください。

新聞、雑誌、書籍などで、論理的な文章を見た際には、講義で用いた方法論を使った読解方法を試してみてください。

《備考》

真剣な講義への参加を期待します。この講義では、思考の限界点を突破する真剣勝負が求められます。「頭が真っ白」になるまで考えていただきます。

講義を紊乱したり、主体的に思考する姿勢を最初から放棄する受講者が万一存在した場合は、当該受講者の出席を停止することがあります。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	はじめに
第 2 週	文章の論理的読解１
第 3 週	文章の論理的読解２
第 4 週	文章の論理的読解３
第 5 週	文章の論理的読解４
第 6 週	文章の論理的読解５
第 7 週	文章の論理的読解６
第 8 週	文章の論理的読解７
第 9 週	文章の論理的読解８
第１０週	文章の論理的読解９
第１１週	文章の論理的読解１０
第１２週	文章の論理的読解１１
第１３週	文章の論理的読解１２
第１４週	文章の論理的読解１３
第１５週	おわりに

《コース共通科目》

科 目 名	経済情報特論Ｆ				
担当者名	岡本　洋之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
本授業はⅠ期の「経済情報特論 E」（岡本）の続きである。教職免許取得要件ではないが，教員になることを考えている人向けの特訓であり，主として学習指導案の書き方を学ぶとともに，交替で模擬授業を行う。

《授業の到達目標》
Ⅰ期の「経済情報特論 E」（岡本）の内容を深め，4 年次に行う教育実習に向けて，教壇での発声，板書から始まり，子どもたちへのメッセージ伝達の基本をできるようにする。

《テキスト》
とくには定めない。

《参考文献》
とくには定めない。

《成績評価の方法》
平常点（100%）のみとする。主に授業への参加度を評価の基準とする。

《授業時間外学習》
休日に，教育に関する学外の催し等に参加し，それを本授業に振り替えることがある。その他，必要に応じて指示する。

《備考》
(1)本授業は時間割上では 2 年次以上に配当されることになっているが，授業の運用上，機械的な学年配当は行わないので，履修登録にあたっては演習担当教員等からの指導に従うと同時に，開講時に必ず出席すること。開講時の無届欠席者は履修登録できないことがある。
(2)非配当学年生や，本授業の既履修者，本授業の他の担当者クラスを履修する者には，岡本から単位認定できないが，受講は歓迎する。
(3)教育学のイロハである「個に応じた指導」にかんがみ，受講生の様子ならびに受講生からの要望をうけて，本シラバスとは異なる内容に変更することがある。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	オリエンテーション
第 2 週	模擬授業（担当教員による模範）
第 3 週	模擬授業に向けた内容づくり（上級教材研究ガイド）
第 4 週	続き（例：授業のアウトラインづくりを深める）
第 5 週	続き（例：教材研究における文献検索を深める）
第 6 週	続き（例：上級板書計画）
第 7 週	模擬授業（例：受講生 A）
第 8 週	続き（例：受講生 B）
第 9 週	続き（例：受講生 C）
第１０週	続き（例：受講生 D）
第１１週	教師の仕事を考える（視聴覚資料または文献から深める）
第１２週	続き（例：とくに教師が行う「芸」を深める）
第１３週	続き（例：とくに子ども観を深める）
第１４週	続き（例：とくに人権教育を深める）
第１５週	まとめ

《経済ビジネスコース科目》

科 目 名	ミクロ経済学				
担当者名	石原　敬子				
授業方法	講義	単位・必選	4・選必	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

ミクロ経済学の基礎理論を学びながら、経済学的考え方を身につけることを目標とする。周知のように、私たちが暮らしている自由主義経済（市場経済）では、市場メカニズムが重要な役割を演じている。ミクロ経済学は、市場のはたらきを分析するための手法である。そこで、この授業では、基礎的な概念からしっかりと勉強し、市場のはたらきについて理解を深め、私たちの身近にみられる問題について経済学的に分析するための基礎的な力を養いたい。

授業では、テキスト（伊藤元重著『ミクロ経済学（第2版）』日本評論社、2003年）のPart 1とPart 2にしたがって勉強する。まず、ミクロ経済学のもっとも基本的な考え方である需要と供給の理論について勉強する。具体的には、(1) 需要曲線・供給曲線を用いて、価格の変化に関する簡単な分析を行いながら、市場メカニズムのエッセンスについて学び、次いで、(2) 需要曲線とその背後にある消費者行動、(3) 供給曲線とその背後にある生産者の行動について詳しく説明する。そして、(4) 市場経済における資源配分メカニズムについて考察し、この経済体制のもつ特徴について理解を深めたい。

授業の後半（第 8 週目以降）では、「一般均衡理論」の基礎を学びながら、市場のはたらきについてさらに深く考察する。いうまでもなく、財やサービスの生産に利用できる資源には限りがある一方で、われわれの欲望には限りがない。したがって、「限りある資源を用いてわれわれの満足を最大にするには『何を』『どれだけ』『どのように』生産し、いかに分配するか」が大きな課題となる。市場経済では、価格の変化を通じて、個々の消費者や企業の行動を調整し、経済全体として効率的な資源配分へと導くメカニズムが内在されているけれども、この点について、テキストのPart 2にしたがって勉強する。具体的には、まず、消費者行動の理論として、(1) 予算制約のもとでの効用の最大化、(2) 価格や所得の変化が需要に及ぼす影響について解説する。次いで、(3) 企業の利潤最大化行動についてとりあげ、(4) 消費者や企業の行動を集約する形で需給を調整する価格メカニズムと、ここでの資源配分の状態について考察する。

《授業の到達目標》

・ミクロ経済学の基礎的な概念（需要と供給、市場均衡、需要の価格弾力性、費用の諸概念など）を理解する。
・ミクロ経済学の基礎理論を用いて、企業の価格戦略など、身近な問題について考察するできるようになる。
・自由主義経済の特徴、市場のはたらき（資源配分メカニズム）について理解し、説明できるようになる。

《テキスト》

『ミクロ経済学（第2版）』伊藤元重著（日本評論社）、2003年。

《参考文献》

柳川隆・町野和夫・吉野一郎著『ミクロ経済学・入門　ビジネスと政策を読みとく』有斐閣、2008年。
奥野正寛編著『ミクロ経済学』東京大学出版会、2008年。
伊藤元重・下井直毅著『ミクロ経済学　パーフェクトマスター』日本評論社、2007年。　その他適宜紹介する。

《成績評価の方法》

平常点（授業時の課題への取り組み）、中間テスト、期末テストをもって評価する。
（評価の割合は、平常点20%、中間テスト40%、期末テスト40%）

《授業時間外学習》

・経済理論を理解するためには基礎からの積み重ねが重要である。授業で学んだ箇所については、必ずテキストを読んで復習すること。
・授業内容に関する理解を深めるために適宜課題を出すので、しっかりと取り組むこと。
・中間テスト前、期末テスト前には、復習のための勉強会を開催する予定である。積極的に参加しよう。

《備考》

先述のように、経済理論を理解するためには、基礎からの積み重ねが重要である。毎回必ず出席し、毎時間ごとにしっかり復習して理解するように努力していただきたい。質問は随時受け付ける。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	授業の概要 ミクロ経済学とは
第 2 週	需要と供給（1）：需要曲線と供給曲線 需要と供給（2）：需要の価格弾力性、供給の価格弾力性
第 3 週	需要曲線の構造 消費者行動と需要曲線
第 4 週	供給曲線に関する分析（1）：生産のための費用構造について考える
第 5 週	供給曲線に関する分析（2）：利潤最大化行動について考える
第 6 週	市場と価格メカニズム
第 7 週	余剰分析（1）：米価問題、間接税の経済効果について考える。 余剰分析（2）：自由貿易と保護貿易の経済効果について考える
第 8 週	第1週～第7週の復習（中間テストを実施） 消費者行動の理論（1）：無差別曲線と効用
第 9 週	消費者行動の理論（2）：予算制約のもとでの効用最大化行動 消費者行動の理論（3）：所得の変化と需要
第１０週	消費者行動の理論（4）：価格の変化と需要 消費者行動の理論（5）：所得効果と代替効果の比較
第１１週	労働供給に関する分析 生産と費用（1）：生産関数
第１２週	生産と費用（2）：生産要素間の代替と費用 生産と費用（3）：費用最小化行動と費用曲線
第１３週	生産と費用（4）：利潤最大化行動 一般均衡と資源配分（1）：交換の利益
第１４週	一般均衡と資源配分（2）：ボックスダイヤグラム上で見た資源配分とパレート最適 一般均衡と資源配分（3）：生産活動における資源配分
第１５週	一般均衡と資源配分（4）：比較優位の理論 学習のまとめ

《経済ビジネスコース科目》

科 目 名	マクロ経済学				
担当者名	森　義隆				
授業方法	講義	単位・必選	4・選必	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

講義では、まず短期のマクロ経済の構造を国民所得（あるいは国民経済計算）勘定体系の理解からはじめ、単純なケインズ理論、現代の主流派マクロ経済学にまで発展した理論構造を正確に把握することに重点が置かれる。後半では分析の次元を長期化して、なお国際的な広がりの中の国民経済を分析するために、経済成長・景気循環や開放マクロ経済学を取り上げ、技術進歩と生産性の変化、為替レートや経常収支の変動をも考察する。

《授業の到達目標》

マクロ経済学は一国経済全体の動きを捉えるための経済学の基礎の理論である。生産、消費、投資、輸出、輸入などの動きを総括的に理解するための国内総生産・国民所得の理論をしっかり学ぶとともに、マクロ経済全体のあるべき姿を均衡概念と比較しながら現実の経済の構造的特徴を理解することが主要な目的である。いわゆる IS 曲線や LM 曲線を使った既存の分析枠組みなどがそうした目的達成の一助となる。

《テキスト》

『基礎コース　マクロ経済学（第2版）』　岩田規久男（新世社）2005 年

《参考文献》

『マクロ経済学（第2版）』　吉川洋（岩波書店）2003 年
『マクロ経済学・ベーシック』　北坂真一著、有斐閣ブックス、2003 年

《成績評価の方法》

学期末の定期試験（100 点）の結果で判定する。

《授業時間外学習》

テキストの各章末の練習問題及び類似問題を自宅学習とする。後日提出してもらう。詳しい解答も示し解説する。

《備考》

経済ビジネスコースの選択必修科目（4 単位）であるため、しっかり予習や復習を行わないと合格しない危険性がある。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	マクロ経済学とは何か、ミクロ経済学との違い
第 2 週	国内総生産と国内総支出の概念、およびその経済指標としての重要性
第 3 週	45 度線グラフの利用、乗数理論と国民所得の変化（1）：単純な投資乗数
第 4 週	45 度線グラフの利用、乗数理論と国民所得の変化（2）：財政乗数、貿易乗数
第 5 週	投資決定の要因　　：投資関数　　期待収益率と利子率
第 6 週	財市場の均衡と貨幣市場の均衡　IS 曲線と LM 曲線（1）
第 7 週	財市場の均衡と貨幣市場の均衡　IS 曲線と LM 曲線（2）
第 8 週	マクロ経済均衡と財政政策：減税と財政支出
第 9 週	マクロ経済均衡と金融政策：日銀の金利政策、公開市場操作
第１０週	物価変動のマクロ経済モデル：古典派とケインズ派
第１１週	総供給曲線と総需要曲線の導出、フィリップス曲線、
第１２週	AS 曲線と AD 曲線を使ったインフレとデフレの分析
第１３週	経常収支の構造、為替レートとは何か
第１４週	マンデル・フレミングのモデル、円高と不況、J カーブ効果
第１５週	国際マクロ経済学とは何か、展望と課題

《経済ビジネスコース科目》

科 目 名	金融論				
担当者名	高本　茂				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

現代の金融の仕組みとシステムを学んだ後、中央銀行の役割と金融政策、第二次大戦後の国際金融、現代経済社会の理解のカギとも言うべきIS・LM分析等を身につけていけるようにしたい。ビジネスの世界で生きていくためには、新聞の経済記事を自由自在に読みこなせなければならないが、その場合ネックになるのが金融面・証券面の特殊用語・専門用語である。本講義では金融の話を中心に幅広く経済全般の知識を身につけ、新聞の経済記事を読みこなせるようになることを目標にしたい。毎時間、授業の最初にどれかトピックスを選んで、経済記事を一本解説する。

《授業の到達目標》

われわれは、ほぼ例外なしに、金融機関（銀行・保険会社・証券会社）の利用者であり、金融サービスの需要者である。この意味で、われわれ全員が金融とは深いかかわりを持っている。換言すると、金融サービスは、現代の生活に不可欠なライフライン（生命線）と言ってよい。本講義はこうした現代の金融への関心を育むとともに、幅広く経済学全般の知識を身につけるようにしたい。金融機関以外の企業に就職する人にも役立つような授業をするつもりである。

《テキスト》

独自に作製したプリントをテキストとして用いる。

《参考文献》

『入門の入門・金融の仕組み』乃能正男（日本実業出版社）

《成績評価の方法》

期末に学期全体で学んだ全般的範囲についてペーパーテスト（50%）を行う。日頃の学習態度（50%）を考慮する。

《授業時間外学習》

新聞の経済記事をよく読むこと。

《備考》

難しい講義をするつもりはなく、極力わかりやすい授業をするつもりですが、無断欠席を繰り返していくとわからなくなるので、毎回必ず出席してください。授業中の私語も厳禁！
なお、下記に授業計画を示すが、授業の進行状況により若干変更することもある。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	(1) 金融論を学ぶ意義：①現代経済社会の現状 ②金融行為の必然性
第 2 週	(2) 通貨と金融：①貨幣と通貨制度
第 3 週	(2) 通貨と金融：②金融の仕組みと金融機関
第 4 週	(2) 通貨と金融：③中央銀行と金融政策
第 5 週	(2) 通貨と金融：④国際金融
第 6 週	(3) IS・LM分析：①予備的考察 ②IS曲線の導出
第 7 週	(3) IS・LM分析：③LM曲線の導出
第 8 週	(3) IS・LM分析：④財・サービス市場と貨幣市場の均衡の同時達成（一般的均衡）
第 9 週	(4) 現代の金融：①金融政策をめぐる諸問題
第１０週	(4) 現代の金融：②現代日本の金融情勢
第１１週	(4) 現代の金融：③マネーサプライ論争
第１２週	(4) 現代の金融：④日本の企業金融と経営
第１３週	(4) 現代の金融：⑤金融業の新たな展開
第１４週	(4) 現代の金融：⑥金融規制と信用秩序
第１５週	（5）金融と実体経済

《経済ビジネスコース科目》

科 目 名	工業簿記				
担当者名	三宅　伸二				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
日商簿記検定２級レベルの工業簿記を学習します。
まず、工業簿記の全体的な流れを説明した後、費目別計算、部門別計算、個別原価計算、総合原価計算と進んでいきます。

《授業の到達目標》
商業簿記に続いて製造業で実施される帳簿記入の方法を学び、管理会計と原価計算の基礎を身に付けます。

《テキスト》
なし

《参考文献》
適宜、指示します。

《成績評価の方法》
到達度確認試験（３回）の状況（９０％）と宿題（１０％）で評価します。

《授業時間外学習》
その日の授業に係る宿題を出しますので、次回の授業時に提出して下さい。

《備考》
商業簿記の基礎知識(日商３級程度)がなければ理解できません。商業簿記の基礎を身につけた上で、受講してください。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	ガイダンス 工業簿記の基礎
第 2 週	工業簿記の記帳体系
第 3 週	原価の費目別計算（材料１）
第 4 週	原価の費目別計算（材料２）
第 5 週	原価の費目別計算（労務費１）
第 6 週	原価の費目別計算（労務費２）
第 7 週	原価の費目別計算（経費）
第 8 週	製造間接費会計１
第 9 週	製造間接費会計２
第１０週	原価の部門別計算（1）
第１１週	原価の部門別計算（2）
第１２週	製品別計算１（個別原価計算１）
第１３週	製品別計算２（個別原価計算２）
第１４週	製品別計算３（総合原価計算１）
第１５週	製品別計算４（総合原価計算２）

《経済ビジネスコース》

科 目 名	会計学				
担当者名	三宅　伸二				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
ビジネスの言語と言われる会計学について、基礎的諸概念を理解すると共に、財務諸表が読めるようになることをねらいとします。その過程で、折に触れ、キャッシュフロー計算書、税効果会計など新しい会計概念についても説明します。

《授業の到達目標》
企業活動の国際化に伴い、わが国会計の国際会計基準への統一化が急速に進展しています。キャッシュフロー計算書、退職給付会計、税効果会計など新しい会計概念が次々導入されています。これからのビジネス社会で活躍していくためには、このような新しい会計知識を身に付けておく必要があります。この授業では、このような新しい会計が理解できるよう会計の基礎概念を学びます。

《テキスト》
使用しない

《参考文献》
授業中に指示

《成績評価の方法》
到達度確認試験（3回）の状況（９０％）と宿題（１０％）で評価します。

《授業時間外学習》
その日の授業に係る内容の宿題を出しますので、次回の授業時に提出してください。

《備考》
簿記を修めたら次にマスターすべき科目です。税理士、公認会計士、国税専門官（国家公務員）を目指すためには、かならずクリアしなければならない基本科目です。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	簿記原理 企業会計の基本理念 1）一般原則
第 2 週	2）企業会計のしくみ 損益会計 1）収益の認識と測定
第 3 週	2）貸倒引当金 資産会計
第 4 週	1）資産の概念 2）資産の評価
第 5 週	3）有価証券 4）固定資産
第 6 週	5）固定資産の減価償却
第 7 週	6）圧縮記帳 7）リース会計
第 8 週	8）営業権 9）ソフトウェア
第 9 週	１０）減損会計
第１０週	繰延資産
第１１週	負債会計 1）引当金の意義
第１２週	2）退職給付会計
第１３週	資本会計 1）資本金の意義 2）資本金の増減
第１４週	2）合併 3）会社分割
第１５週	連結財務諸表

《経済ビジネスコース科目》

科 目 名	会社法				
担当者名	國友　順市				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
将来、君たちが直接的な関わりを持つ組織としてまず考えられるのは「会社」であろう。その会社の組織を法的に規制するのが会社法である。会社法はきわめて技術的な色彩が強いために、講義内容は難解と感じるかも知れないが、出来るだけ平易な解説に努める予定である。

《授業の到達目標》
会社法の全体的な仕組みを理解すること

《テキスト》
「新　会社法」國友順市・西尾幸夫・田中裕明編著（嵯峨野書院）

《参考文献》
適宜指示する

《成績評価の方法》
試験による評価６０％、出席点４０％

《授業時間外学習》
テキストの次回講義の該当箇所を読んでくること。

《備考》
六法を携帯すること

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	会社の概念、会社法総論
第 2 週	株式会社法総論（法人性・社団性）
第 3 週	株式会社の設立
第 4 週	株式Ⅰ
第 5 週	株式Ⅱ
第 6 週	株式会社の機関総論
第 7 週	株主総会Ⅰ
第 8 週	株主総会Ⅱ
第 9 週	取締役、取締役会Ⅰ
第１０週	取締役会Ⅱ
第１１週	代表取締役
第１２週	会社役員の損害賠償責任
第１３週	資金調達
第１４週	会社の計算、組織変更、解散・清算
第１５週	近時の諸問題

《情報システムコース科目》

科 目 名	数理論理学				
担当者名	中田　美栄				
授業方法	講義	単位・必選	4・選必	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
情報科学に不可欠な有限数学の理論的な基礎を理解することを目的とする。その過程で数学の記号の中で重要なものを取り上げそれを理解し使える数学的教養を身につけ、科学的思考の態度を学ぶ。

《授業の到達目標》
自然科学は数学的モデルを作ることから始めるが、一見数学と関係ないと思える日常的現象でさえ、それを科学するときは、数学的モデルをつくる。そこには必ず関数が現れることを理解する。関数の理解と扱い方を学ぶ。シーブフォーミュラ、ネットワークを理解し、ダイクストラの方法を理解し説明できるようにする。

《テキスト》
なし

《参考文献》
なし

《成績評価の方法》
小テストと宿題を 30%、定期試験を 70%カウントする。

《授業時間外学習》
小テストの準備や宿題をすることが理解を確実にする効果があり、それが次の講義の理解をし易くするという予習的効果につながる。

《備考》
出席を取る。遅刻をしないこと。数学は定義が重要で、まず用語の定義を示し共通の理解をもって、論理的推論で理論を発展させる科学であるので、定義を飛ばしては理解できない。そのため遅刻は厳禁である。一回でも欠席すると、クラスについていくことは難しくなるので、休まないようにすること。もし休まなければいけないことがあれば、すぐに級友にノートを見せてもらい勉強し、分からなければ教師の研究室に聞きに来るなどして、次回の講義には追いついておくこと。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	集合と関数の定義。有限集合の大きさ
第 2 週	総和。　シーブフォーミュラ
第 3 週	シーブフォーミュラ
第 4 週	シーブフォーミュラの応用
第 5 週	単射、全射、全単射
第 6 週	スターリング数
第 7 週	群と同値類。置換群と同値関係
第 8 週	グラフ
第 9 週	グラフ　マッチング
第１０週	ネットワーク
第１１週	ネットワーク
第１２週	ダイクストラの方法
第１３週	ダイクストラの方法
第１４週	判順序集合と関係
第１５週	判順序集合と関係

《情報システムコース科目》

科 目 名	プログラミングⅠ				
担当者名	西田　悦雄				
授業方法	講義	単位・必選	4・選必	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
コンピュータを使って実現できることやプログラミング言語の特徴・歴史などプログラミングの基礎知識を学ぶとともに，課されている問題の解決手段としての処理や制御など技法(前半部分)の獲得と論理的な思考方法の養成を行いながらプログラミング力の基礎の確立を目指します.
授業は基礎知識や論理・方法を説明する講義と，C 言語を使った演習を併せて行い,『プログラミング II』への接続を行います.

《授業の到達目標》
課されている問題解決のための一手段として，プログラミング言語を活用するための基礎(前半部分)を対象とし，プログラミング言語での処理を行う命令等の理解や記述規則に従いながら，処理手順や手続きの記述ができることと処理手順を論理的に分析し応用する力を獲得することを到達目標とします.

《テキスト》
教科書は使用しません．授業に必要な資料はオンライン等で適宜配付します.

《参考文献》
B.W.Kernighan, D.M.Ritchie 著，石田晴久訳,『プログラミング言語 C 第 2 版 -ANSI 規格準拠-』,共立出版，￥2,940.-
C.L.Tondo, S.E.Gimpel 著，矢吹道郎訳,『プログラミング言語 C アンサーブック第 2 版』,共立出版，￥2,415.-
鈴木正人著,『実践 C プログラミング -基礎から設計/実装/テストまで-』，サイエンス社，￥1,995.- など
その他参考文献については必要に応じて適宜紹介します.

《成績評価の方法》
課題の提出および内容点(25%)，筆記による試験(中間試験と定期試験の 2 回)(70%)，平常点(5%)を総合的に判定し評価します．提示された課題のすべての提出と実施する授業のすべての出席を基本とします.
また，欠席回数が 1/3 以上ある場合には認定ができないことがあります.

《授業時間外学習》
授業内で配布する資料を熟読し理解を深めて下さい.
また，計算機実習室が空いている時間帯では計算機は自由に利用できますから，各自で記述したプログラムの動作など確認を行ってください.

《備考》
スムーズな理解のために『プログラミング入門』の既履修が望ましいです.
積極的な学習の姿勢を期待します.
また，授業計画とおりの実施を予定していますが，履修者のより深い理解を促すために授業計画の順序等を変更／修正する場合があります.

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	授業概要およびプログラミング環境の基本整備
第 2 週	C 言語を学ぶための基礎知識／Xming と Emacs の操作
第 3 週	標準出力の概念と標準出力関数
第 4 週	文字，文字列，数字の標準出力
第 5 週	定数と変数／標準入力の概念と標準入力関数
第 6 週	式(1)：代入演算子，算術演算子
第 7 週	式(2)：関係演算子，論理演算子
第 8 週	制御文(1)：条件分岐
第 9 週	制御文(2)：多岐にわたる条件分岐
第１０週	中間試験(筆記)と中間試験返却および解説
第１１週	制御文(3)：多岐にわたる条件分岐(2)
第１２週	制御文(4)：繰り返し(1)，式(インクリメント演算子)
第１３週	制御文(5)：繰り返し(2)，変数の型変換
第１４週	制御文(6)：入れ子制御
第１５週	制御文(7)：その他の制御文

《情報システムコース科目》

科 目 名	オペレーティングシステム				
担当者名	榎木　浩				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
オペレーティングシステムは、計算機ハードウェアとその使用者の間で、便利で有効な計算機環境を提供するシステムです。現在では、携帯電話、パソコンをはじめ、大規模なシステムのために、数多くのオペレーティングシステムが構築されています。しかし、それらのオペレーティングシステムにおける基本的な概念はみな共通しています。この授業では、オペレーティングシステムの基本的な概念や技法を学習します。

《授業の到達目標》
次のことが説明できる。
(1) オペレーティングシステムとはなにか、オペレーティングシステムの歴史
(2) オペレーティングシステムの構成要素と構成法
(3) コンピュータ内部のいろんな動作に対応するプロセスの概念と、プロセスの管理方法
(4) 複数のプロセスが並行して動作するためのプロセスの同期とプロセス間の通信の方法
(5) メモリや仮想メモリの管理技法
(6) データやプログラムを記憶する容器であるファイルの構造やアクセス方法、ディレクトリの管理方法
(7) ハードウェアを直接操作する割り込み、入出力、タイマの管理方法

《テキスト》
『オペレーティングシステムの基礎』　大久保英嗣著（サイエンス社）1997 年

《参考文献》
適宜、紹介します。

《成績評価の方法》
レポート課題２回(30%)、評価試験(70%)

《授業時間外学習》
事前学習
・授業のプリントを事前にＷｅｂに公開するので、授業までに読んでおくこと。
事後学習
・授業開始時に前回の確認を問題形式で行うので、授業内容の復習をしておくこと。

《備考》

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	授業の内容とオペレーティングシステムの説明
第 2 週	オペレーティングシステムの歴史、オペレーティングシステムの構成要素と構成法
第 3 週	プロセスの概念、マルチプログラミング
第 4 週	スケジューリング
第 5 週	並行プロセス
第 6 週	プロセス間通信、デットロック
第 7 週	メモリ割り付け方法
第 8 週	仮想メモリ、ページング、セグメンテーション
第 9 週	仮想メモリ割り付け方法
第１０週	ファイルシステム、ファイル操作、ファイル構造、アクセス方法
第１１週	ディレクトリ構造、ファイル保護、２次記憶の割付方法
第１２週	割込み、タイマ管理
第１３週	入出力装置の制御
第１４週	オペレーティングシステムのまとめ
第１５週	評価試験

《情報システムコース科目》

科 目 名	情報ネットワーク				
担当者名	堀池　聡				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
インターネットに見られるように、ネットワークなくしては情報処理は成り立ちません。この講義ではネットワーク技術の基本を学ぶことにより、計算機とネットワークがどのように関わっているかを理解し、ネットワークの今後の発展にも対応できる知識を習得します。

《授業の到達目標》
情報ネットワークの基本的な動作が理解できます。例えば、自宅のパソコンからインターネットを通じて外部のサイトにアクセスしたとき、パケットがどの経路をたどるか、どのプロトコルが用いられるか等の具体的な動きがわかるようになります。

《テキスト》
『ネットワーク利用の基礎［新訂版］』　野口健一郎　（サイエンス社）

《参考文献》
適宜紹介します。

《成績評価の方法》
毎回行う確認テストを25%、最後に行う総合テストを75%の割合で評価します。

《授業時間外学習》
教科書と配布プリントを用いて復習に力を入れて下さい。予習としては、次回の講義範囲に関し教科書に目を通してくおいて下さい。

《備考》
「情報科学入門」と「コンピュータ基礎論」の両方か、少なくとも一つは必ず受講しておいて下さい。
ネットワークアドレスの設定や、インターネットへのアクセス等、情報ネットワークに触れる機会は多いと思います。講義での内容を復習しながら操作すれば、ネットワークに関する技術が身につきます。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	本講義の概要と狙い
第 2 週	ネットワークにおけるディジタル通信の基本技術
第 3 週	ネットワークの構成要素、形状、種類
第 4 週	通信プロトコルの概要と構成
第 5 週	通信回線の実現方法
第 6 週	代表的なLANについて基本的な技術
第 7 週	ネットワークの広域接続
第 8 週	アプリケーション間通信のためのプロトコル
第 9 週	インターネットの構成方法
第１０週	電子メイルの仕組み
第１１週	WWWの基本構成とプロトコル
第１２週	分散アプリケーションの通信方式
第１３週	インターネットの拡大とそれに伴って発生するセキュリティ問題
第１４週	講義のまとめ(1)
第１５週	講義のまとめ(2)

《情報システムコース科目》

科 目 名	アルゴリズム				
担当者名	高野　敦子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
アルゴリズムとは一言で言えば、何かを行うときの手順です。よく例に出されるのがお料理のレシピです。みなさんの履修登録の手順もアルゴリズムですし、方程式の解き方の手順もアルゴリズムです。 この授業では、コンピュータの処理手順としてのアルゴリズムを主に扱ってゆきます。学び方は色々あると思いますが、この授業では、流れ図（フローチャート）を使って進めて行きます。簡単な構造を表すためにはフローチャートは便利な道具であり、コンピュータ以外の分野でも使われているため、コンピュータの知識のない人にも理解できます。
授業では，説明を聞きながら，コンピュータを使って問題を解くことによって理解を深めます。また，毎回確認テストをすることによって理解度を確認しながら進めます。
《授業の到達目標》
（1）この授業の基本的な目標は，アルゴリズム（手順）の表現方法、問題解決の基本的な力を身に付けることです。
（2）さらに，それぞれの取り組み方によって次のような目標を立てることができます。
システムを作りたい、プログラムを書きたいと思っている人は、個々のアルゴリズムの理解を深めてください。
情報処理の教員免許を狙っている人は、考え方を中心にしっかり理解して欲しいと思います。
情報処理の資格を取りたい人は、授業で取り上げる練習問題をしっかり解きましょう。情報処理技術者試験の問題も組み入れていきたいと思っています。
それ以外の人は、少し広い視野で授業に取り組んでみてください。解決したい問題に対して、やりたい作業の目のつけどころ、効率の良い作業の進め方などを身につけてください。きっと将来役に立つと思います。
《テキスト》
特定のテキストは使用しません。授業時に必要な資料を配布します。
《参考文献》
希望があれば紹介します。それ以外には特に必要ないと思います。
《成績評価の方法》
到達目標(1)については，試験と確認テストによって見ます。（2）については，毎回提出してもらう課題を見ます。平常点（出席および毎回の課題）を 20%，期末試験を 80%の割合で評価します。ただし，課題をすべて提出することが期末試験を受けるための前提となります。
《授業時間外学習》
授業内に終了できなかった課題については，次の授業までに完成させて，提出してください。
《備考》
これからは仕事をする上でも日常生活においても、情報を効率的に処理する能力が問われることになるでしょう。そのための基礎を培うとともに、情報を処理する面白さや楽しみを感じ取ってもらえたらと思います。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	アルゴリズムの基本構造
第 2 週	変数への代入と条件判断の描き方
第 3 週	繰り返し構造の描き方
第 4 週	配列の使い方
第 5 週	トレース表の作成
第 6 週	線形探索アルゴリズム
第 7 週	２分探索アルゴリズム
第 8 週	ソートのアルゴリズム
第 9 週	再帰的アルゴリズム
第１０週	リスト構造
第１１週	木構造
第１２週	逆ポーランド記法
第１３週	グラフ構造
第１４週	学習のまとめ
第１５週	学習の確認と練習問題

《情報システムコース》

科 目 名	情報デザイン				
担当者名	西田　悦雄				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
「情報」は情報端末などの機械だけが扱えるのではありません.
この科目では,「情報」の特性や特徴を捉えて，表現やその技術と思考方法など，より良いコミュニケーションがはかれるよう情報のデザインを学びます.
授業では，基礎的な知識や考え方等を説明する講義を主としますが，それらの理解度をはかるための演習もあわせて行います.

《授業の到達目標》
伝えたい情報を分かりやすくかつ正確に，適切な情報量を伝達するための情報の整理方法の理解，表現の意味の理解の獲得を目標とします.
考え方や表現方法は主観的なものと位置付けられますが，この科目では主観的でなく，客観的な視点での情報を扱います.

《テキスト》
教科書は使用しません．授業に必要な資料はオンライン等で適宜配付します.

《参考文献》
Sinan Si Albir 著，原 隆文 訳,『入門 UML』，オライリージャパン，￥3,360.-
Russ Miles, Kim Hamilton 著，原 隆文 訳,『入門 UML 2.0』，オライリージャパン，￥2,940.-　など.
その他参考文献は必要に応じて適宜紹介します.

《成績評価の方法》
課題の提出点および内容点(40%)，試験に代わる課題(55%)，平常点(5%)とし総合的に判定し評価します.
提示された課題のすべての提出と実施する授業のすべての出席を基本とします.
欠席回数が全授業実施回数の 1/3 以上ある場合には単位認定ができない場合があります.

《授業時間外学習》
授業内で配付する資料を熟読し理解して下さい.

《備考》
課題作成は Microsoft Word，Excel，PowerPoint を使用しますので,『アプリケーションソフト』の既修得が望ましいです.
また，授業計画とおりの実施を予定していますが，より深い理解を促すために授業計画の順序等変更・修正する場合があります.

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	授業概要および導入
第 2 週	意味と形式
第 3 週	整理
第 4 週	形
第 5 週	色
第 6 週	図と表と文
第 7 週	グラフ
第 8 週	レイアウト
第 9 週	モデリングの基礎(1)：「もの」の特性(1)インスタンスとクラス
第１０週	モデリングの基礎(2)：「もの」の特性(2)関係(集約)
第１１週	モデリングの基礎(3)：「もの」の特性(3)関係(汎化・継承)
第１２週	モデリングの基礎(4)：「手続きと制御」シナリオ
第１３週	モデリングの基礎(5)：「手続きと制御」アクティビティ
第１４週	モデリングの基礎(6)：「手続きと制御」状態と事象
第１５週	総合的な課題

《地域デザインコース科目》

科 目 名	フィールドワーク				
担当者名	池本　廣希・瀧本　眞一・木下　準一郎・金子　哲・岡本　洋之				
授業方法	演習	単位・必選	4・選必	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

地域デザインコースの入門演習。学外に出て、屋根のない教室で学ぶ。地域の事象を自分の足と目で直視し、自分の頭で考える。そこに何かを発見する。そこには地域の財産や宝物が見つかるかもしれない。また、とっておきのストーリーやヒストリーを探しあてることができるかもしれない。地域デザインコースの学の立ち上げがここから始まる。

１．授業の最初と最後は、受講生全員集まって授業ガイダンスとまとめをする。
２．授業は、受講生を５つのグループに分け、５人の担当者のフィールドワークをローテーションシステムで授業展開する。
３．５人の担当者のフィールドワークの概要は以下のとおりである。
「いなみ野台地とため池と農の体験ツアー」（池本）
「～中心市街活性化策を探る～」（瀧本）
「ローカル放送の時代：FM 寺田池の挑戦」（木下）
「古い街の『感動スポット』を探求しよう」（金子）
「人権問題の歴史と現状」（岡本）
※上記各概要に関しての詳細は、別途配布する冊子で確認して下さい。

《授業の到達目標》

本演習では、「ものの見方・感じ方」の感得を目指す。本演習での鍛錬により、対象から問題点を発見する能力を向上させる重大な契機が得られよう。この能力は一生をかけて鍛錬して行かなくてはならない。

《テキスト》

なし

《参考文献》

随時紹介する

《成績評価の方法》

フィールドワークの成果物（60%）と発表能力（40%）

《授業時間外学習》

自ら発見した問題点を、整理し、解決法を考察すること。書籍、雑誌、インターネットなどで、積極的に関係する情報を収集し、演習に参加すること。

《備考》

雨天等の際の学外演習は、順延する場合がある。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	フィールドワーク受講生全体のガイダンス
第 2 週	前半：受講生全体のガイダンス 後半：第１回フィールドワーク担当者によるグループごとの事前学習
第 3 週	第１回：フィールドワーク
第 4 週	前半：第１回担当者によるグループごとの事後学習 後半：第２回フィールド担当者によるグループごとの事前学習
第 5 週	第２回：フィールドワーク
第 6 週	前半：第２回担当者によるグループごとの事後学習 後半：第３回フィールドワーク担当者によるグループごとの事前学習
第 7 週	第３回：フィールドワーク
第 8 週	前半：第３回担当者によるグループごとの事後学習 後半：第４回フィールドワーク担当者によるグループごとの事前学習
第 9 週	第４回：フィールドワーク
第１０週	前半：第４回担当者によるグループごとの事後学習 後半：第５回フィールドワーク担当者によるグループごとの事前学習
第１１週	第４回：フィールドワーク
第１２週	前半：第４回担当者によるグループごとの事後学習 後半：フィールドワーク受講生全体のまとめ
第１３週	フィールドワークの総括１
第１４週	フィールドワークの総括２
第１５週	フィールドワークの総括３

《地域デザインコース科目》

科 目 名	地域分析論				
担当者名	田端　和彦				
授業方法	講義	単位・必選	4・選必	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
統計的な分析手法を理解し身に付けるとともに、地理学の考え方についての知識を身に付けることがこの授業の狙いです。地域分析の方法は多数ありますが、まずは数字を使っての分析が中心になります。分析の基本となる横断的分析や時系列分析の意味や、実際の地域経済統計を用いて平均や分散、比率や特化係数の算出、回帰分析などなど統計的な分析手法を学びます。これらは地域分析以外の分析にも応用することができます。またこの授業では経済地理学の重要な理論である産業立地理論を中心に学びます。地域の構造を考える上で重要な考え方となっています。さらにGIS（地理情報システム）を使った分析を学びます。

《授業の到達目標》
・比率や特化係数などの分析手法を理解し、他に応用することができる。
・新聞記事や雑誌に登場する経済の数値について意味を知り間違った使い方をしない。
・経済地理学の基礎である立地論を理解し、それが現在の地域においてどのような意味を持つか説明することができる。
・GIS ソフトを使って分析し、その意味を理解することができる。

《テキスト》
テキストはありません。プリントを配布します。

《参考文献》
吉岡茂、千歳壽一『地域分析調査の基礎』古今書院
大友篤『地域分析入門』東洋経済新報社
中村隆英、新家健精、他『経済統計入門』東京大学出版会

《成績評価の方法》
テストが 80%、その他（小テスト・日常点・レポート）が 20%です。

《授業時間外学習》
事前にプリントを配布する場合には、目を通しておいて下さい。また宿題を課す場合があります。

《備考》
週２回授業があります。半年間で１年分の授業を学びます。実際にパソコンを使っての分析を行なうことがあります。ノートパソコンを借り出すなど、指示に従って下さい。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	1.地域分析の意義：地域の意味や統計学からのアプローチと地理学からのアプローチがあることを学びます。
第 2 週	2.地域分析に必要な基礎知識：地域統計や分析の横断的分析、時系列分析の考え方、地理行列を学びます。
第 3 週	3.地域分析に必要な基礎知識：統計値について学びます。
第 4 週	4.地域分析に必要な基礎知識：回帰分析の意味とその応用による分析方法を学びます。
第 5 週	5.比率の役割と特徴について学びます。比率を使って産業構造や立地分析を行います。
第 6 週	6.特化係数の算出とその意味について学びます。産業集積の分析の方法とその意義を学びます。
第 7 週	7.基盤非基盤分析について学びます。特化係数を使い地域の産業を基盤産業、非基盤産業に分けて分析を行います。
第 8 週	8.基盤非基盤分析の応用として、地域乗数の算出とその意味を学び、事例を通して地域波及効果を理解します。
第 9 週	9.地域間格差の測定手法について学びジニ係数と変動係数を学び、時系列の分析を行います。
第１０週	10.経済立地論１：経済地理分析の立場から、立地論の意義を学び、続いてチューネンの孤立国の考え方を学びます。
第１１週	11.経済立地論２：ヴェーバーの工業立地論について学びます。
第１２週	12.経済立地論３：クリスタラーの中心地理論について学びます。
第１３週	13.GIS について１：地図から GIS の確立に至るまでの歴史を学びます。
第１４週	14.GIS について２：GIS の原理を学び、また市販の GIS ソフトの説明をします。
第１５週	15.GIS について３：フリーウェアとして提供されている GIS ソフトを使っての分析を行ないます。また簡単な GIS 手法でもあるメッシュ法を説明します。

《地域デザインコース科目》

科 目 名	地域経済論Ⅰ				
担当者名	瀧本　眞一				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
地域経済のダイナミックな動きを検証し、地域経済発展が全国経済や他地域に与えた影響を探ります。なぜ地域経済の発展は様々な展開を見せるのかについて実証的に分析します。現状のように地域が力強さを失いつつあるとき、どのような地域経済政策が必要となるのかを課題として探っていきます。

《授業の到達目標》
地域経済がどのように発展してきたのかを、地域類型の動向や全国総合開発計画の変遷などを通じて考察し、今後の地域経済政策を考える基礎力を養います。また、地域経済統計の基本的な見方を学びます。

《テキスト》
特に使用しません。授業の進行に会わせて、必要なプリントを配布します。

《参考文献》
随時、リストを紹介します。

《成績評価の方法》
授業内容に関するミニレポート（40%）、最終レポート（60%）で評価します。
なお、出席が一定程度に満たない場合は、成績の如何にかかわらず単位を認定しない場合もあります。

《授業時間外学習》
特に指定はしませんが、地域問題についての新聞・雑誌・図書をよく読み、地域問題に関しての知識を深めてください。

《備考》
日頃から、新聞や雑誌に掲載されている地域経済や地域政策、企業動向を、よく読む癖をつけてください。授業のヒントや課題などを見つけることができるはずです。また、グループに分けて議論をする機会を設けることも考えています。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	ガイダンス、地域経済を考える視点
第 2 週	地域経済の類型化と特徴～大都市圏と中枢管理機能
第 3 週	地域経済の類型化と特徴～地方知勇数都市と階層的システム
第 4 週	地域経済の類型化と特徴～地方工業都市とその展望
第 5 週	地域経済の類型化と特徴～中山間地域とその再生
第 6 週	戦後地域経済政策の動向～全国総合開発計画と拠点開発方式
第 7 週	戦後地域経済政策の動向～新全国総合開発計画と広域生活圏構想
第 8 週	戦後地域経済政策の動向～第三次全国総合開発計画と定住構想
第 9 週	戦後地域経済政策の動向～第四次全国総合開発計画と交流ネットワーク構想
第１０週	戦後地域経済政策の動向～第五次全国総合開発計画と 21 世紀のデザイン
第１１週	戦後地域経済政策の動向～五全総以降の動向と地域が自立できる地域経済政策
第１２週	地域を分析する統計～「人」に関する主要統計
第１３週	地域を分析する統計～「経済規模」に関する主要統計
第１４週	地域を分析する統計～「経済構造」に関する主要統計
第１５週	地域を分析する統計～近畿・兵庫・加古川の簡単な動向

《地域デザインコース科目》

科 目 名	社会調査Ⅰ				
担当者名	根本　敏行				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

前半は、社会調査の基本的な手法について、その背景や関連する社会経済情勢との関連について学ぶ。特に、ニュースなどの身の回りの社会現象に積極的に興味を持つことに重点を置く。後半は、いくつかの具体的なデータを用いて、調査の基礎的なスキルを学ぶことを目指す。全般的に、受講生が持つ社会経済的領域の興味・関心の度合いをもとに、これに適合した教材、手法を用いることとし、本科目の履修に必要な関連する知識等については授業内で必要に応じて追加的な学習の機会を提供することを検討する余地があるものとする。

《授業の到達目標》

○　社会調査の基礎的な方法論を理解する。
○　ニュース等から普段感じる印象と、統計データなどの社会現象を客観的に示すデータとの関連を理解する。

《テキスト》

特に指定しない。
授業の中で適宜教材を配布する。

《参考文献》

特に指定しない。
授業の中で適宜教材を配布する。

《成績評価の方法》

出席は全体の２／３以上が必要で、１／３以上を欠席した場合は単位は与えない。教室で授業への積極的な参加意欲に応じて成績評価の３０パーセント程度までを加点することができる。
全体で複数回のレポート課題を課すが、全てを提出することを基本とする。これらの記入内容、とりわけ質的な内容の程度に応じて成績評価の７０パーセントとする。提出遅れについては減点する。

《授業時間外学習》

・予習の方法
普段から、身の回りの社会経済の現象に興味・関心を持ち、「なぜだろう」と疑問を持って、時に批判的に社会を観察する習慣を身に付けたい。授業開始後においては、授業で配布されるレポート課題等について、事前に取り組んで理解できないことや知らなかった言葉などについて事前に調べることとする。
・復習の方法
授業で配布される参考資料等について、授業後も全体を読んで内容を理解し、授業時間内で習得した知識やスキルの幅を広げることを目指す。授業内容を再確認し、不明な点は質問するなり自分で調べるなりすること。また、授業中に示された参考図書を読み、それをもとにレポート課題に取り組むこととする。

《備考》

自分の理解度を確認しつつ、わからないところなどはできるだけ授業時に質問すること。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	授業の目的・進め方の説明
第 2 週	社会調査の歴史的背景
第 3 週	社会調査の意義、注意事項
第 4 週	社会調査法の基礎概念（1）変数、記述と説明
第 5 週	社会調査の基礎概念（2）独立変数、従属変数
第 6 週	社会調査の基礎概念（3）仮説と検証
第 7 週	中間テスト１
第 8 週	サンプリングの考え方
第 9 週	サンプリングの実際
第１０週	統計データの特性
第１１週	中間テスト２
第１２週	調査デザイン、分析手法
第１３週	エラーと信頼性
第１４週	社会調査の問題点と今後
第１５週	まとめのレポートと講評

《地域デザインコース科目》

科 目 名	社会情報論				
担当者名	木下　準一郎				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

新聞、テレビなどのマスメディアやインターネットを取り上げ、メディアや情報の社会的な機能を考える。新聞・ラジオ・テレビ等のマスメディアの第一線で活躍しているジャーナリストを講師として迎え、メディアの歴史や役割、取材や報道について数回の講義を予定している。

《授業の到達目標》

メディア社会における情報の意義について様々な学説を理解し、通信と放送の融合という現象を踏まえ、これからの出版や放送のあり方について理論的な考えを身につける。

《テキスト》

テキストは指定しない。必要に応じて資料を配布する。

《参考文献》

『21 世紀放送の論点』　郵政研究所編　（日刊工業新聞社　1998 年）
『ブロードバンド時代の制度設計』　林紘一郎他　（東洋経済新報社　2002 年）

《成績評価の方法》

小テスト（40%）
定期試験（60%）
授業を 5 回以上欠席した学生は定期試験を受ける権利を失う。

《授業時間外学習》

適宜宿題を指示する。

《備考》

オフィスアワーについては研究室（1W-112)のドアに貼り出しているので、質問や相談のある学生は指定した時間に訪ねてほしい。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	オリエンテーション（授業計画の説明および成績評価方法について)、　社会情報とは何か
第 2 週	情報という概念
第 3 週	新聞・出版の歴史
第 4 週	放送の歴史
第 5 週	取材と報道
第 6 週	情報操作
第 7 週	メディア効果の理論 (1)
第 8 週	メディア効果の理論 (2)
第 9 週	小テスト
第１０週	地域メディアの理論
第１１週	コミュニティ放送
第１２週	インターネット規制
第１３週	放送と通信の融合
第１４週	デジタル時代の出版と放送
第１５週	放送の二元的秩序とメディア集中排除

《専門基礎科目群》

科 目 名	発達心理学				
担当者名	山田　佳代子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》

発達とは、人間が受精してから死に至るまでの変化過程のことである。ただし、その変化は、例えば、赤ちゃんが歩けるようになったなどのような進歩的発達だけではなく、退化的発達もある。これは、壮年期以降は、心身の発達は少しずつ衰えていく傾向を示すが、自己の専門性は向上していく。このように、発達心理学は、一生涯の変化を取り扱う。本講義では、各発達段階の基本的事項を押さえ、関心をもてるように最近の話題を取り入れながら、発達心理学の概要をできるだけ分かりやすく説明していく。

《授業の到達目標》

発達心理学の基礎的知識の習得を目指す。そして、発達の各段階を独立してみていくのではなく、発達という枠組みの中で、関連性を見出していくことを目標にする。

《テキスト》

発達心理学　　山本利和編　　培風館

《参考文献》

適宜、指示する。

《成績評価の方法》

試験で評価する。

《授業時間外学習》

配付プリントがある時には、ファイルなどして整理し、管理すること。次回の予習のために、指定した範囲で教科書を読んでおくこと。

《備考》

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	発達心理学とは？　　発達心理学の概要の説明
第 2 週	発達の意味を考える
第 3 週	発達の理論　　代表的な理論の説明など
第 4 週	胎児期から誕生まで　　胎児期の発達などについて
第 5 週	乳児期　　新生児期も含め、心身の発達などについて
第 6 週	幼児期前期　　幼児期前期（3歳くらいまで）の発達について
第 7 週	幼児期後期　　幼児期後期（6歳くらいまで）の発達について
第 8 週	学童期　　身体・知的・社会性の発達などについて
第 9 週	種々の発達検査　　発達検査の概要について
第１０週	青年期①　　青年期の発達についての概要について
第１１週	青年期②　　アイデンティティ、青年期における発達課題について
第１２週	成人期　　成人の認知能力・人格発達・家庭・労働などについて
第１３週	中年期・老年期①　　生理的能力の変化・知的能力の変化・パーソナリティの変化などについて
第１４週	中年期・老年期②　　生理的能力の変化・知的能力の変化・パーソナリティの変化などについて
第１５週	まとめ

《教職に関する科目》

科 目 名	教育課程論				
担当者名	上寺　常和				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
現在の小学校・中学校・高等学校における教育課程の枠組みと内容を理解することが、この講義の眼目である。そのために以下の項目を中心に論ずる。
（1）わが国の教育改革の歴史と教育課程の変遷について
（2）教育課程の意義と目的について
（3）教育課程及び学習指導要領編成の内容について
（4）道徳教育及び特別活動の内容について

《授業の到達目標》
教育課程とは何か、教育課程はどのように編成されるか、編成された教育課程はどのような形態を持つか、わが国の教育課程は歴史的にどのように変遷してきたか、現在の小・中・高校の教育課程はどのような特徴をもつか等について、主体的に考えることができる。

《テキスト》
1.『新しい教育課程論』　広岡 義之編著　　（ミネルヴァ書房）2010年

《参考文献》
必要があれば講義の際に紹介する。

《成績評価の方法》
講義中の発表・態度50%、講義中の小テスト50%。
授業欠席回数が授業実施回数の1/3以上の者には単位を与えない。

《授業時間外学習》
教科書等の指定箇所を熟読して、内容を把握しておくこと。

《備考》
この講義は、将来教職に就きたい人、教員免許状を取得したい人、あるいは教育問題に強い関心を持つ人達のためにあるので、その人達の学習の妨げになる「私語」や「遅刻」はしないこと。また特に自ら進んで講義内容に関心を持ち、関連事項を積極的に勉強する姿勢が必要である。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	本講義のオリエンテーション
第 2 週	教育課程の意義
第 3 週	学習指導要領の意義と内容の歴史的変遷（1）
第 4 週	学習指導要領の意義と内容の歴史的変遷（2）
第 5 週	教育課程編成の教育目的・目標および社会的基盤
第 6 週	教育課程の諸形態について
第 7 週	教育課程の編成　（幼稚園）
第 8 週	教育課程の編成　（小学校）
第 9 週	教育課程の編成　（中学校）
第１０週	教育課程の編成　（高等学校）
第１１週	道徳教育の内容について
第１２週	教育課程における特別活動の意義・役割・位置づけ
第１３週	総合的な学習の時間の取り扱いについて
第１４週	教育課程実施上の配慮事項について
第１５週	新しい学習指導要領の変更点について

《教職に関する科目》

科 目 名	特別活動論				
担当者名	上寺　常和				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

現在の小学校･中学校･高等学校における特別活動の枠組みと内容を理解することが、この講義のねらいである。そのために以下の項目を中心に論ずる。

(1)わが国の特別活動の歴史と変遷について
(2)特別活動の意義と目的について
(3)学習指導要領における特別活動の位置づけについて
(4)道徳教育及び特別活動の内容について

《授業の到達目標》

特別活動とは何か、特別活動はどのように構成されるか、わが国の特別活動は歴史的にどのように変遷してきたか、現在の小・中・高校の特別活動はどのような特徴をもつか等について、基本的な理解ができるようになることを目指す。

《テキスト》

『新しい特別活動論』広岡義之編著（創言社）2009年

《参考文献》

小学校・中学校・高等学校学習指導要領解説　特別活動編
その他、必要に応じて講義の際に適宜紹介する。

《成績評価の方法》

到達目標にかかわる出題範囲の定期試験（80%）、指定された教材を読む等の受講態度（20%）により評価する。
授業欠席回数が授業実施回数の1/3以上のときは、試験の受験資格を失う。

《授業時間外学習》

・受講前に、教材の指定された箇所を読んでおくこと。
・講義中に解説した内容を一旦ノートに記した後、重要と思われる内容を教科書の余白に転記する、あるいは付箋に記して教科書に張り付けるなどし、同時に教科書と読み合わせて講義内容を復習する。

《備考》

この講義は、将来教職に就きたい人、教員免許状を取得したい人、あるいは教育問題に強い関心を持つ人達のためにあるので、その人達の学習の妨げになる「私語」や「遅刻」はしないこと。また特に自ら進んで講義内容に関心を持ち、関連事項を積極的に勉強する姿勢が必要である。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	本講義のオリエンテーション
第 2 週	特別活動の意義
第 3 週	特別活動の歴史
第 4 週	特別活動の目標
第 5 週	学級会活動について
第 6 週	ホームルーム活動について
第 7 週	児童会活動について
第 8 週	生徒会活動について
第 9 週	学校行事について
第１０週	クラブ活動と部活動
第１１週	特別活動と教科指導の関連
第１２週	道徳教育の内容について
第１３週	特別活動の今日的課題と役割
第１４週	「総合的な学習の時間」と特別活動の関係・区分
第１５週	本講義のまとめと重要個所の復習

《教職に関する科目》

科 目 名	教育方法・技術論				
担当者名	河野　稔				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
教職専門科目として、現代的な教育の方法や技術について扱う。学校でも学校以外でも使える方法論を目指し、何かを教える方法をどのように計画し、そのための材料をどのように準備し、成功したかどうかをどのように確かめることができるかを体験的に学習する。授業設計のシステム的アプローチ（教えるための準備と自己評価の手順）に基づいて「何かを教えるための材料（教材）」を自作するための方法を解説し、受講生一人ひとりが毎回の授業で段階的に教材を作成したり、受講生どうしで作成した教材を相互にチェックすることで、「独学を支援する教材」を設計・作成・評価・改善できるようになることを目指す。

《授業の到達目標》
○教材作成に関わる専門用語と手法について説明できるようになる。
○授業設計のシステム的アプローチを、自分の専門となる領域での個別学習教材の自作に活用できる。
○独学を支援する教材の自作体験を通して、他の形態の指導にもシステム的アプローチを応用するこることができる。

《テキスト》
『教材設計マニュアル ― 独学を支援するために』鈴木克明（北大路書房）2002 年

《参考文献》
・『教育の方法と技術』西之園晴夫、宮寺晃夫編著（ミネルヴァ書房）2004 年
・中学校・高等学校の学習指導要領等及び解説書
その他の文献や資料は、授業中に必要に応じて紹介する。

《成績評価の方法》
・自作した教材とその計画書・作成報告書（50%）
・小テストの結果（30%：3 回実施予定）
・授業で課せられる作業や討論への参加態度（20%）
・欠席回数が授業実施回数の 3 分の 1 以上の場合は単位を与えない。

《授業時間外学習》
予習として、教科書の次の回の授業範囲を読んで、教材の企画・作成・評価の手順と方法を把握しておくこと。
復習としては、授業で学習した成果をもとに、教材および教材企画書・報告書の作成の作業を進めておく。また、小テストでは教材作成に関する専門知識や手法について出題するので、教科書を自学自習しておくこと。

《備考》
パソコンを使用して教材および教材企画書・報告書を作成するので、ワープロなどの使用方法を練習しておくこと。
また、ICT（情報コミュニケーション技術）と教育の関係についても論じていくので、授業に関わらず、情報機器や情報システムに積極的に利用してもらいたい。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	オリエンテーション／教材をイメージする／キャロルの時間モデル
第 2 週	教材作りをイメージする：システム的な教材設計・開発の手順／キャランドラのたとえ話
第 3 週	独学を支援する教材のアイディア交換／教材企画書の書き方
第 4 週	小テスト①（第 3、4 章）／教材の責任範囲を明らかにする：学習目標と 3 つのテスト
第 5 週	テストを作成する：学習課題の種類／教材企画書の作成
第 6 週	教材企画書の相互チェック／教材企画書の作成
第 7 週	小テスト②（第 5～7 章）／教材企画書の提出／教材の構造を見きわめる：課題分析
第 8 週	独学を支援する作戦をたてる：ガニェの 9 教授事象と指導方略表
第 9 週	教材パッケージを作成する：形成的評価の 7 つ道具
第１０週	教材パッケージを作成する：形成的評価の 7 つ道具の相互チェック
第１１週	教材パッケージを作成する：7 つ道具チェックリストの提出
第１２週	小テスト③（第 8、9 章）／形成的評価を実施する：形成的評価の方法
第１３週	形成的評価を実施する／教材作成報告書の書き方
第１４週	教材を改善する：教材の改善とその手順／教材作成報告書の作成
第１５週	情報活用能力と独学を支援する教材／教材作成報告書の提出／学習のふり返り

《教職に関する科目》

科 目 名	生徒指導論（進路指導を含む）				
担当者名	上寺　常和				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》

「生きる力」（確かな学力・豊かな人間性・健康と体力）を積極的に推進するには、生徒指導、進路指導、いわゆるガイダンス・カンセリングが必要不可欠である。本講義では、このような生徒の全人格的な育成を主眼とした生徒指導と進路指導を目指し、それぞれの事項についての深い理解ができることをねらいとする。

《授業の到達目標》

学校教育における生徒指導と進路指導の意義と役割を明らかにする。生徒指導と進路指導とは生徒が自己実現を図るためには車の両輪のように必須の内容であり、学校教育の上で重要な位置を占めるものである。本講義では現代における生徒指導及び進路指導の在り方の確立を目指す。

《テキスト》

『新しい生徒指導・進路指導』加澤恒雄・広岡義之編著（ミネルヴァ書房）2007 年

《参考文献》

必要に応じて講義の際に適宜紹介する。

《成績評価の方法》

講義中の発表・態度 50%、講義中の小試験 50%。
授業欠席回数が授業実施回数の 1/3 以上の者には単位を与えない。

《授業時間外学習》

教科書等の指定箇所を熟読し、内容を把握しておくこと。

《備考》

この講義は、将来教職に就きたい人、教員免許状を取得したい人、あるいは教育問題に強い関心を持つ人達のためにあるので、その人達の学習の妨げになる「私語」や「遅刻」はしないこと。また特に自ら進んで講義内容に関心を持ち、関連事項を積極的に勉強する姿勢が必要である。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	本講義のオリエンテーション
第 2 週	生徒指導の教育的意義と課題
第 3 週	生徒指導の原理と理論
第 4 週	児童・生徒理解の進め方
第 5 週	学級経営の進め方
第 6 週	教科指導と生徒指導
第 7 週	生徒指導実践における教師像と研修
第 8 週	学校の生徒指導体制と家庭・地域との連携
第 9 週	進路指導の意義と課題
第１０週	自己の発見と自我同一性の確立
第１１週	就労観・職業観の形成と変容
第１２週	進路指導実践の学校体制
第１３週	学校教育における進路指導の実践展開（1）
第１４週	学校教育における進路指導の実践展開（2）
第１５週	本講義のまとめと重要箇所の復習

《教職に関する科目》

科 目 名	教育実習予備演習Ⅰ				
担当者名	岡本　洋之				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》

本科目は教員になることを考えている人向けの特訓であり，本科目の単位取得が4年次に「高等学校教育実習」を履修登録できる要件となる。主として学習指導案の書き方を学ぶとともに，交替で模擬授業を行う。

《授業の到達目標》

4年次に行う教育実習に向けて，教壇での発声，板書から始まり，子どもたちへのメッセージ伝達の基本をできるようにする。

《テキスト》

とくには定めない。

《参考文献》

とくには定めない。

《成績評価の方法》

平常点（100%）のみとする。主に授業への参加度を評価の基準とする。

《授業時間外学習》

休日に，教育に関する学外の催し等に参加し，それを本授業に振り替えることがある。その他，必要に応じて指示する。

《備考》

教育学のイロハである「個に応じた指導」にかんがみ，受講生の様子ならびに受講生からの要望をうけて，本シラバスとは異なる内容に変更することがある。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	オリエンテーション
第 2 週	模擬授業（担当教員による模範）
第 3 週	模擬授業に向けた内容づくり（教材研究ガイド）
第 4 週	続き（例：授業のアウトラインづくり）
第 5 週	続き（例：教材研究における文献検索）
第 6 週	続き（例：板書計画）
第 7 週	模擬授業（例：受講生A）
第 8 週	続き（例：受講生B）
第 9 週	続き（例：受講生C）
第１０週	続き（例：受講生D）
第１１週	教師の仕事を考える（視聴覚資料または文献から）
第１２週	続き（例：とくに教師が行う「芸」）
第１３週	続き（例：とくに子ども観）
第１４週	続き（例：とくに人権教育）
第１５週	まとめ

《教職に関する科目》

科 目 名	教育実習予備演習Ⅱ				
担当者名	岡本　洋之				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

本授業はⅠ期の「教育実習予備演習Ⅰ」（岡本）の続きである。教員になることを考えている人向けの特訓であり，本科目の単位取得が4年次に「高等学校教育実習」を履修登録できる要件となる。主として学習指導案の書き方を学ぶとともに，交替で模擬授業を行う。

《授業の到達目標》

Ⅰ期の「教育実習予備演習Ⅰ」（岡本）の内容を深め，4年次に行う教育実習に向けて，教壇での発声，板書から始まり，子どもたちへのメッセージ伝達の基本をできるようにする。

《テキスト》

とくには定めない。

《参考文献》

とくには定めない。

《成績評価の方法》

平常点（100%）のみとする。主に授業への参加度を評価の基準とする。

《授業時間外学習》

休日に，教育に関する学外の催し等に参加し，それを本授業に振り替えることがある。その他，必要に応じて指示する。

《備考》

教育学のイロハである「個に応じた指導」にかんがみ，受講生の様子ならびに受講生からの要望をうけて，本シラバスとは異なる内容に変更することがある。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	オリエンテーション
第 2 週	模擬授業（担当教員による模範）
第 3 週	模擬授業に向けた内容づくり（上級教材研究ガイド）
第 4 週	続き（例：授業のアウトラインづくりを深める）
第 5 週	続き（例：教材研究における文献検索を深める）
第 6 週	続き（例：上級板書計画）
第 7 週	模擬授業（例：受講生A）
第 8 週	続き（例：受講生B）
第 9 週	続き（例：受講生C）
第１０週	続き（例：受講生D）
第１１週	教師の仕事を考える（視聴覚資料または文献から深める）
第１２週	続き（例：とくに教師が行う「芸」を深める）
第１３週	続き（例：とくに子ども観を深める）
第１４週	続き（例：とくに人権教育を深める）
第１５週	まとめ

平成 21 年度
(2009 年度)
入学者

カリキュラム年次配当表

経済情報学科 平成21年度（2009年度）入学者対象

（ ）は兼担、[ ]は兼任講師

授業科目の区分		授業科目の名称	授業方法	単位数		教員免許関係			学年配当（数字は週当り授業時間）								平成23年度の担当者	ページ
									1年		2年		3年		4年			
				必修	選択	情報	商業	公民	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ		
教育科目	演習科目	基礎演習Ａ	演習	2					2									
		基礎演習Ｂ	演習	2						2								
		発展演習Ⅰ	演習	2							2							
		発展演習Ⅱ	演習	2								2						
		専門演習Ⅰ	演習	2									2				森 義隆	121
		専門演習Ⅰ	演習	2									2				石原 敬子	122
		専門演習Ⅰ	演習	2									2				高本 茂	123
		専門演習Ⅰ	演習	2									2				瀧本 眞一	124
		専門演習Ⅰ	演習	2									2				三宅 伸二	125
		専門演習Ⅰ	演習	2									2				田中 正彦	126
		専門演習Ⅰ	演習	2									2				木下 準一郎	127
		専門演習Ⅰ	演習	2									2				高野 敦子	128
		専門演習Ⅰ	演習	2									2				金子 哲	129
		専門演習Ⅰ	演習	2									2				岡本 洋之	130
		専門演習Ⅰ	演習	2									2				穂積 隆広	131
		専門演習Ⅰ	演習	2									2				榎木 浩	132
		専門演習Ⅰ	演習	2									2				竹川 宏子	133
		専門演習Ⅰ	演習	2									2				沖野 光二	134
		専門演習Ⅰ	演習	2									2				西田 悦雄	135
		専門演習Ⅱ	演習	2										2			森 義隆	136
		専門演習Ⅱ	演習	2										2			石原 敬子	137
		専門演習Ⅱ	演習	2										2			高本 茂	138
		専門演習Ⅱ	演習	2										2			瀧本 眞一	139
		専門演習Ⅱ	演習	2										2			三宅 伸二	140
		専門演習Ⅱ	演習	2										2			田中 正彦	141
		専門演習Ⅱ	演習	2										2			木下 準一郎	142
		専門演習Ⅱ	演習	2										2			高野 敦子	143
		専門演習Ⅱ	演習	2										2			金子 哲	144
		専門演習Ⅱ	演習	2										2			岡本 洋之	145
		専門演習Ⅱ	演習	2										2			穂積 隆広	146
		専門演習Ⅱ	演習	2										2			榎木 浩	147
		専門演習Ⅱ	演習	2										2			竹川 宏子	148
		専門演習Ⅱ	演習	2										2			沖野 光二	149
		専門演習Ⅱ	演習	2										2			西田 悦雄	150
		卒業演習Ⅰ	演習	2											2			
		卒業演習Ⅱ	演習	2												2		
		卒業研究	演習	4												4		

カリキュラム年次配当表

経済情報学科 平成21年度（2009年度）入学者対象
（ ）は兼担、[ ]は兼任講師

授業科目の区分		授業科目の名称	授業方法	単位数		教員免許関係			学年配当（数字は週当り授業時間）								平成23年度の担当者	ページ
									1年		2年		3年		4年			
				必修	選択	情報	商業	公民	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ		
教育科目	コース共通科目	経済情報概論	講義	4					4									
		数学基礎	講義	2					2									
		アプリケーションソフト	演習	4		□				4								
		プレゼンテーションA	演習	2						2	2							
		プレゼンテーションB	演習	2						2	2							
		現代経済社会論A	講義		2					2								
		現代経済社会論B	講義		2						2							
		簿記原理Ⅰ	講義		2		△			2								
		簿記原理Ⅱ	講義		2		▲				2							
		経済学入門	講義		2			◆			2							
		経済統計	講義		2		▲				2							
		民法	講義		2		▲				2							
		会計学入門	講義		2		△				2							
		情報科学入門	講義		2					2								
		プログラミング入門	講義		2						2							
		コンピュータ基礎論	講義		2	□					2							
		グラフィックス	講義		2	□				2								
		ウェブデザイン	講義		2					2								
		基礎経済数学	講義		2					2								
		基礎情報数学	講義		2						2							
		統計学	講義		2						2							
		社会経済史	講義		2		▲			2								
		コミュニケーション論	講義		2	■				2								
		国際政治学	講義		2			◇		2								
		国際社会論	講義		2						2							
		マスメディア論	講義		2							2						
		比較文化論	講義		2						2							
		インターンシップ	講義		2						2							
		経済情報特論A	講義		2				2									
		経済情報特論B	講義		2					2								
		経済情報特論C	講義		2				2									
		経済情報特論D	講義		2					2								
		経済情報特論E	講義		2						2							
		経済情報特論F	講義		2							2						

カリキュラム年次配当表

経済情報学科 平成21年度（2009年度）入学者対象
（ ）は兼担、[ ]は兼任講師

授業科目の区分			授業科目の名称	授業方法	単位数 必修	単位数 選択	教員免許関係 情報	教員免許関係 商業	教員免許関係 公民	学年配当（数字は週当り授業時間） 1年 I	1年 II	2年 I	2年 II	3年 I	3年 II	4年 I	4年 II	平成23年度の担当者	ページ
専門教育科目	コース専修科目	経済ビジネスコース科目	ミクロ経済学	講義		④			◇				4						
			マクロ経済学	講義		④			◇				4						
			経営学総論	講義		④								4				竹川 宏子	151
			簿記論	演習		④		△						4				三宅 伸二	152
			金融論	講義		2		▲					2						
			工業簿記	講義		2		▲					2						
			会計学	講義		2		▲					2						
			会社法	講義		2							2						
			財政学Ⅰ	講義		2			◆					2				[水野 利英]	153
			財政学Ⅱ	講義		2			◆						2			[水野 利英]	154
			産業組織論Ⅰ	講義		2			◆					2				石原 敬子	155
			産業組織論Ⅱ	講義		2			◆						2			石原 敬子	156
			国際経済論Ⅰ	講義		2			◆					2				[梶山 国宏]	157
			国際経済論Ⅱ	講義		2			◆						2			[梶山 国宏]	158
			証券市場論	講義		2		▲						2				高本 茂	159
			経営戦略論Ⅰ	講義		2								2				竹川 宏子	160
			経営戦略論Ⅱ	講義		2									2			竹川 宏子	161
			財務管理論Ⅰ	講義		2								2				不開講	
			財務管理論Ⅱ	講義		2									2			不開講	
			財務諸表論Ⅰ	講義		2		▲						2				沖野 光二	162, 163
			財務諸表論Ⅱ	講義		2		▲							2			沖野 光二	164
			情報会計論Ⅰ	講義		2		▲						2				沖野 光二	165
			情報会計論Ⅱ	講義		2		▲							2			沖野 光二	166
			労働経済論	講義		2									2			森 義隆	167
			経済政策	講義		2									2			[萩原 史郎]	168
			職業指導	講義		2		△							2			三宅 伸二	169
			経営分析論	講義		2		▲							2			不開講	
			経済ビジネス特論A	講義		2								2				森 義隆	170
			経済ビジネス特論B	講義		2									2			竹川 宏子	171
		情報システムコース科目	数理論理学	講義		④							4						
			プログラミングⅠ	講義		④	■						4						
			プログラミングⅡ	講義		④	■							4				森下 博	172
			プログラミングⅡ	講義		④	■							4				西田 悦雄	173
			情報システム学	講義		④	□							4				榎木 浩	174
			オペレーティングシステム	講義		2	■						2						
			情報ネットワーク	講義		2	□						2						
			アルゴリズム	講義		2	■						2						
			情報デザイン	講義		2	■						2						
			情報基礎理論	講義		2	■							2				西田 悦雄	175
			情報セキュリティ	講義		2	■							2				堀池 聡	176
			データベースⅠ	講義		2	■							2				穂積 隆広	177
			データベースⅡ	講義		2	■								2			穂積 隆広	178
			オペレーションズ・リサーチ	講義		2								2				高野 敦子	179
			情報数学	講義		2								2				中田 美栄	180
			応用プログラミングA	講義		2									2			田中 正彦	181
			応用プログラミングB	講義		2										2			
			オブジェクト指向方法論	講義		2									2			西田 悦雄	182
			システム解析	講義		2	■								2			山本 真弓	183
			情報検索論	講義		2	■								2			高野 敦子	184
			情報法学	講義		2	□								2			[上原 克之]	185
			情報管理論	講義		2	□								2			斎藤 正寿	186
			情報システム特論A	講義		2								2				堀池 聡	187
			情報システム特論B	講義		2									2			高野 敦子	188

カリキュラム年次配当表

経済情報学科 平成21年度（2009年度）入学者対象
（ ）は兼担、[ ]は兼任講師

授業科目の区分			授業科目の名称	授業方法	単位数 必修	単位数 選択	教員免許関係 情報	教員免許関係 商業	教員免許関係 公民	学年配当（数字は週当り授業時間） 1年 Ⅰ	1年 Ⅱ	2年 Ⅰ	2年 Ⅱ	3年 Ⅰ	3年 Ⅱ	4年 Ⅰ	4年 Ⅱ	平成23年度の担当者	ページ
専門教育科目	コース専修科目	地域デザインコース科目	フィールドワーク	演習		④							4						
			地域分析論	講義		④							4						
			人と地域	講義		④								4				金子 哲	189
			地域デザイン論	講義		④								4				瀧本 眞一	190
			地域経済論Ⅰ	講義		2			◆				2						
			地域経済論Ⅱ	講義		2			◆					2				瀧本 眞一	191
			環境と地理	講義		2								2				[南埜 猛]	192
			社会調査Ⅰ	講義		2							2						
			社会調査Ⅱ	講義		2								2				[根本 敏行]	193
			社会情報論	講義		2							2						
			ジャーナリズム	講義		2									2			[森本 章夫]	194
			社会政策Ⅰ	講義		2			◇					2				(河野 真)	195
			社会政策Ⅱ	講義		2			◆						2			(河野 真)	196
			行政学Ⅰ	講義		2								2				木下 準一郎	197
			行政学Ⅱ	講義		2									2			木下 準一郎	198
			環境経済論A	講義		2								2				池本 廣希	199
			環境経済論B	講義		2									2			池本 廣希	200
			情報社会論	講義		2	□							2				[太田 健二]	201
			情報通信論	講義		2	■								2			不開講	
			いなみ野ため池学	講義		2								2				池本 廣希	202
			いなみ野まちおこし学	講義		2									2			瀧本 眞一	203
			メディアと政治	講義		2								2				木下 準一郎	204
			地域史	講義		2									2			未定	205
			地域デザイン特論A	講義		2								2				[亀田 俊和]	206
			地域デザイン特論B	講義		2									2			[亀田 俊和]	207

□は情報教員免許必修科目、■は情報教員免許選択科目
△は商業教員免許必修科目、▲は商業教員免許選択科目
◇は公民教員免許必修科目、◆は公民教員免許選択科目

④はコースにおける必修科目

授業科目の区分	授業科目の名称	授業方法	単位数 必修	単位数 選択	教員免許関係 情報	教員免許関係 商業	教員免許関係 公民	学年配当（数字は週当り授業時間） 1年 Ⅰ	1年 Ⅱ	2年 Ⅰ	2年 Ⅱ	3年 Ⅰ	3年 Ⅱ	4年 Ⅰ	4年 Ⅱ	平成23年度の担当者	ページ
教職に関する科目	教職概論	講義		2	□	△	◇	2									
	教育原理	講義		2	□	△	◇	2									
	教育史	講義		2	■	▲	◆						2			岡本 洋之	208
	発達心理学	講義		2	■	▲	◆			2							
	教育心理学	講義		2	□	△	◇		2								
	教育制度論	講義		2	□	△	◇		2								
	教育課程論	講義		2	□	△	◇				2						
	公民科教育法	講義		4			◇					4				[吉井 直樹]	209, 210
	情報科教育法	講義		4	□							4				西田 悦雄	211, 212
	商業科教育法	講義		4		△						4				[井上 啓]	213～216
	特別活動論	講義		2	□	△	◇				2						
	教育方法・技術論	講義		2	□	△	◇				2						
	生徒指導論（進路指導を含む）	講義		2	□	△	◇			2							
	教育相談（カウンセリングを含む）	講義		2	□	△	◇						2			(琴浦 志津)	217
	総合演習	演習		2	□	△	◇					2				池本 廣希	218
	事前・事後指導	講義		1	□	△	◇							1			
	高等学校教育実習	実習		2	□	△	◇							2			

□は情報教員免許必修科目、■は情報教員免許選択科目
△は商業教員免許必修科目、▲は商業教員免許選択科目
◇は公民教員免許必修科目、◆は公民教員免許選択科目

※教職に関する科目は修得しても卒業要件の単位数には含まれない。
※教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、日本国憲法（2単位）、体育（2単位）、外国語コミュニケーション（2単位）、情報機器の操作（2単位）について、指定の科目を修得すること。

授業科目区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		教員免許関係			学年配当（数字は週当り授業時間）								平成23年度の担当者	ページ
								1年		2年		3年		4年			
			必修	選択	情報	商業	公民	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ		
総合・キャリア関連科目	日本語表現法	演習		2					②		②		②		②	［野田 直恵］	基礎・教養科目編参照
	コンピュータ応用演習	演習		2					②		②		②		②	（河野 稔）	
	特別講義	講義		2				②		②		②		②			
	私のためのキャリア設計	講義		2				②		②		②		②		［有働 壽恵］	
	就職基礎能力Ⅰ	講義		2					②		②		②		②	［山本 清美］	
	就職基礎能力Ⅱ	講義		2						②		②		②		［山本 清美］	
	就職基礎能力Ⅲ	講義		2							②		②		②	［山本 清美］	

※総合・キャリア関連科目を修得しても卒業要件の単位数には含まれない。

《演習科目》

科 目 名	専門演習Ⅰ				
担当者名	森　義隆				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》

ゼミでは指定のテキストを購入の上、輪読形式で逐次進めていくが、わからないことがあれば、わかるまで繰り返し学習する。専門演習Ⅱでは、各人の問題関心を確定し、そのテーマの下にどのように論文を構想し、具体的に書き上げていくか、その方向性でも掴めたら、半ば成功といってもいいだろう。

《授業の到達目標》

この演習ではまず、現代の経済や社会の問題を解明するための分析の手段として有効な「マクロ経済学」を再度学習する。とくに、一国経済の動きを把握するには GDP や物価、雇用、金利、為替などのキーワードに習熟しておくことが基本的に不可欠である。半年かけて徹底的にマスターするように、指導する。練習問題など積極的に取り上げ、解法のテクニックを習得することに主眼を置いている。

《テキスト》

『マクロ経済学・ベーシック』北坂真一、有斐閣ブックス、2003 年

《参考文献》

必要に応じてその都度提示する。

《成績評価の方法》

報告、討論などの態度、熱意（50 点）、およびレポートの評点（50 点）で評価する。

《授業時間外学習》

適宜練習問題を与え、基礎理論の内容を正確に理解させる。マクロ経済学の基礎を学ぶことによって、日本経済新聞や朝日、読売の経済記事が読めるように指導する。

《備考》

演習は大学の授業でも特異な位置にあり、最後の 2 年間に勉強の総仕上げにつながる作業であることを肝に銘じて真面目に、熱意をもって望むことが成否の鍵である。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	演習の計画とゼミ運営上の注意
第 2 週	(1) マクロ経済学の内容、目的、意義
第 3 週	(2) 国内総生産の測定法　この概念の分析的意義
第 4 週	(3) 国民所得の決定　45 度線グラフを使いこなそう
第 5 週	(4) 乗数理論　マクロ経済の単純な均衡概念　ケインズの考え
第 6 週	(5) 経済主体の行動　家計（消費者）の行動
第 7 週	(6) 経済主体の行動　企業の行動
第 8 週	(7) 経済主体の行動　政府の行動　公共財の供給、財政の役割
第 9 週	(8) 経済主体の行動　財政政策と金融政策　マクロ経済の安定化政策
第１０週	(9) ケインズ経済学（1）IS-LM 分析
第１１週	(10) ケインズ経済学（1）財政、金融政策とマクロ経済の均衡　比較静学分析
第１２週	(11) ケインズ経済学（2）AD-AS 分析　両曲線の導出法　形状の特定化
第１３週	(12) ケインズ経済学（2）物価水準の決定　インフレとデフレ　財政政策
第１４週	(13) ケインズ経済学（2）金融政策　フィリップス曲線とスタグフレーション
第１５週	(14) 古典派経済学　基本仮定と市場万能主義、ケインズ派との比較

《演習科目》

科 目 名	専門演習Ⅰ				
担当者名	石原　敬子				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》

日本経済は今日さまざまな側面で転換期にあるといわれる。たとえば、産業の領域についてはこれまでの政策や規制のあり方が見直されている。また、企業経営においても、IT 革命や経済のグローバル化を背景にさまざまな変化が生じている。私のゼミでは、このような現実の問題（とりわけ産業や企業に関する問題）の中から各自興味あるテーマを選んで卒業論文を作成することを最終目的として勉強する。

専門演習Ⅰでは、その準備段階として、基礎的な知識を身につけるために経済学の入門書を輪読する。第1回目の授業でテキストの概要を解説し、第2回目の授業時に各自の関心事に基づいて報告箇所を割り当てる。報告に際しては、各自レジュメを作成して、他の人にわかりやすく説明するよう努めていただきたい。また、学期末には授業で学んだことに基づいてレポートを執筆する。テキストの内容をしっかり理解することに加え、人前で話す力、文章を書く力も身につくよう授業を進めていきたいと考えている。

《授業の到達目標》

・経済学の基礎理論を学び、経済学的な考え方を身につける。
・経済理論が現実の経済問題を考える際にどのように応用されているかを考える。
・わかりやすい報告資料が作成できるようになる。
・わかりやすいプレゼンテーションをする力を身につける。
・論理的にまとまりのあるレポートを作成する。

《テキスト》

伊藤元重著『ビジネス・エコノミクス』日本経済新聞社、2004 年

《参考文献》

授業中に適宜紹介する。

《成績評価の方法》

・授業への参加の姿勢、報告内容、学期末のレポートの内容をもって行う。評価の割合は、授業への参加の姿勢 30%、報告内容 20%、レポート 50%とする。
・演習形式の授業という性質上、出席率が 70%に満たない場合（特別の事情がある場合を除く）、報告を行わなかった場合、レポートを提出しなかった場合には、単位を与えないので注意すること。

《授業時間外学習》

・事前にテキストの該当箇所を読んでくること。
・報告を担当する箇所については、時間をかけて学習し、報告準備をしっかりと行うこと。
・第8週目以降は、レポート作成に取り組む。レポート完成に向けて毎週課題を出すので、しっかりと取り組むこと。

《備考》

・「1時間に1度は発言する」という積極的な気持ちで出席していただきたいと思う。
・レポートについては、卒業論文作成に備えて、添削指導を行う。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	授業の概要 テキストの内容の紹介
第 2 週	第4週目以降の報告者の割り当て レジュメの作り方
第 3 週	経済・ビジネスに関する資料を読んで考える。 レジュメを作ってみよう。
第 4 週	価格戦略と儲けのしくみ（1）
第 5 週	価格戦略と儲けのしくみ（2）
第 6 週	価格からビジネスの構造が見える
第 7 週	市場メカニズムを活用する（1）
第 8 週	市場メカニズムを活用する（2） ※レポート作成について
第 9 週	エージェンシーの理論（1） ※レポート作成の準備（1）：テーマを決める
第１０週	エージェンシーの理論（2） ※レポート作成の準備（2）：構成を考える
第１１週	ビジネスはゲームだ（1） ※レポート作成の準備（3）：資料・文献の収集、情報の検索
第１２週	ビジネスはゲームだ（2） ※レポート作成
第１３週	※レポート作成
第１４週	各自のレポートの内容に関する報告
第１５週	学習のまとめ

《演習科目》

科 目 名	専門演習Ⅰ				
担当者名	高本　茂				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
経済学の再入門。

《授業の到達目標》
経済学をもう一度初歩から学び直す。

《テキスト》
高本茂『初歩の経済学』（幻冬舎ルネッサンス）
中谷巌『マクロ経済学入門』（日経新聞社）

《参考文献》
大久保隆弘『経済学が面白いほどわかる本・マクロ経済編／マーケット論』（中経出版）
大久保隆弘『経済学が面白いほどわかる本・マクロ経済編／経済政策論』（中経出版）

《成績評価の方法》
日頃の学習態度（100%）をもって評価する。

《授業時間外学習》
新聞の経済記事をよく読むこと。

《備考》
難しい議論は抜きにして、経済学の基本を身につけるようにしましょう。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	高本茂『初歩の経済学』 第１章「現代の経済社会の歴史的位置」
第 2 週	第２章「市場機構と価格」
第 3 週	第３章「現代の企業」
第 4 週	第４章「国民経済と国民所得」
第 5 週	第５章「財政政策とその必要性」
第 6 週	第６章「貨幣と金融」（１）
第 7 週	第６章「貨幣と金融」（２）
第 8 週	第７章「国際経済」
第 9 週	第８章「戦後日本経済の歩み」
第１０週	中谷巌『マクロ経済学入門』 第１章　マクロ経済学とは何だろうか
第１１週	第２章　ＧＤＰを理解する
第１２週	第３章　消費や投資の決まり方
第１３週	第４章　所得水準の決まり方
第１４週	第５章　利子率の決まり方
第１５週	第６章　ＩＳ－ＬＭ分析

《演習科目》

科 目 名	専門演習Ⅰ				
担当者名	瀧本　眞一				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
1. 適切な文献（諸君と相談します）を読みます。
2. 地域問題に関連する新聞記事や図書・資料を解説します。
3. 調査・研究の方法論を学びます。
4. 実態調査や取材によって現状を学びます。
5. 各自の研究課題を探っていきます。

《授業の到達目標》
これまでに学んできたことを基礎として、専門演習Ⅰ・Ⅱを通して地域問題・地域づくり・まちづくりの実態を調査・研究します。その中から各自の研究課題を探り、卒業演習Ⅰ・Ⅱの中で、卒業研究として完成させます。

《テキスト》
1. 特に使用しません。
2. 必要に応じてプリントや資料を配布します。
3. 新聞・ニュース・図書・資料も利用します。

《参考文献》
1. 適宜、紹介しますが、自分で探す能力を身につけることも必要です。
2. 各自で発見してください。
3. 新聞・ニュース・図書・資料
4. 『地域再生の条件』本間義人、岩波書店・岩波新書1059、2007年

《成績評価の方法》
発表（40%）、レポート（60%）で評価します。

《授業時間外学習》
特に指定はしませんが、地域問題についての新聞・雑誌・図書をよく読み、地域問題に関しての知識を深めてください。

《備考》
様々な分野に関してのアンテナを広げて欲しいと思います。そのためにも、時間外を有効に活用して見聞を広めてください。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	全体の進度を見て進めますので、回ごとの予定は細かく設定しませんが、おおよそ次の予定に沿って進めます。
第 2 週	文献の読破と発表
第 3 週	文献の読破と発表
第 4 週	文献の読破と発表
第 5 週	文献の読破と発表
第 6 週	レポート作成の準備
第 7 週	現地を歩く
第 8 週	現場レポートの作成と発表
第 9 週	文献の読破と発表
第１０週	文献の読破と発表
第１１週	文献の読破と発表
第１２週	文献の読破と発表
第１３週	レポート作成の準備
第１４週	現地を歩く
第１５週	現場レポートの作成と発表

《演習科目》

科 目 名	専門演習Ⅰ				
担当者名	三宅　伸二				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
簿記の基本概念を説明した後、主に、演習によりレベルアップを図ります。3級に合格すれば、続いて2級を目指します。2級合格後は、税理士試験の「簿記論」「財務諸表論」に向けた勉強に進みます。最初は、レベルがほぼ同じなので、一緒に勉強することになりますが、学年が進むにつれ進度に差が出て、内容が異なってきますので、個別指導に近い形になります。

《授業の到達目標》
まず、日商３級を目指します。

《テキスト》
使用しない。

《参考文献》
授業中に提示

《成績評価の方法》
到達度確認試験（３回）の状況（９０％）と宿題（１０％）で評価します。

《授業時間外学習》
授業時間内の学習だけでは、簿記検定合格には時間が不足です。毎日３０分の家庭学習が必要です。

《備考》
税理士、公認会計士、国税専門官など、職業会計人を目指すためのワンステップになればと考えています。簿記を勉強したくない人は受講しないでください。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	簿記上の取引と仕訳
第 2 週	勘定と転記
第 3 週	勘定の締切りと試算表
第 4 週	６桁精算表
第 5 週	商品売買１
第 6 週	商品売買２
第 7 週	現金
第 8 週	当座預金
第 9 週	手形１
第１０週	手形２
第１１週	貸付金・借入金 未収金・未払金
第１２週	前払金・前受金
第１３週	仮払金・仮受金
第１４週	立替金・預り金 商品券
第１５週	固定資産の処理

《演習科目》

科 目 名	専門演習Ⅰ				
担当者名	田中　正彦				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
立体造形の設計と制作を行います。
授業では次のような演習を行い、ものを見る目と表現力のトレーニングをします。
・３次元 CG ソフトを利用した立体形状のモデリング。
・コンピュータ上で設計した形状を、実際に紙を使って組み立てる。
・コンピュータ上での形状とペーパークラフトとの比較。

《授業の到達目標》
次のことがらを理解し活用することができる。
・立体形状の理解
・３次元 CG ソフトの利用
・文による表現と図を使った表現の違い

《テキスト》
なし
資料は学内ネットワークを通じて適宜配布する。

《参考文献》
http://ei-www.hyogo-dai.ac.jp/~masahiko/

《成績評価の方法》
作品(70%)、レポート(30%)

《授業時間外学習》
その時間までの内容をしっかり理解し、活用できる場面を考えること。
作成しようとする作品に必要な資料を集めること。

《備考》
連絡先 e メール masahiko@lab.hyogo-dai.ac.jp

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	作例の組み立て、授業全体の進行について
第 2 週	３次元 CG ソフトの使い方
第 3 週	モデリングとレンダリング
第 4 週	複雑な形状を作るには
第 5 週	１つの部品でできる形状
第 6 週	展開図を作る
第 7 週	組み立てる
第 8 週	作品の企画
第 9 週	作品の設計
第１０週	試作品の評価
第１１週	修正内容を記述する
第１２週	作り方を説明する
第１３週	複数のソフトの連携
第１４週	展開図の着色と修正
第１５週	作品を完成させる

《演習科目》

科 目 名	専門演習Ⅰ				
担当者名	木下　準一郎				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
本演習では地域社会と地域メディアとの関係について学ぶ。授業は個人・グループによる発表・討論によって進める。

《授業の到達目標》
多様な地域の個性を作り出し、同時に人々の地域アイデンティティを確立する地域メディアの意義について理解できる。

《テキスト》
『地域メディアを学ぶ人のために』　田村紀雄編　（世界思想社　2003年）

《参考文献》
必要に応じて参考文献を指定する。

《成績評価の方法》
授業中の発表（70%）と討論（30%）により評価する。
授業を4回以上欠席した学生には単位を与えない。また20分以上の遅刻は欠席とみなす。

《授業時間外学習》
教科書の指定された箇所、あるいは指定された資料を読み、発表の準備を行う。

《備考》
オフィスアワーについては研究室（1W-112)のドアに貼り出しているので、質問や相談のある学生は指定した時間に訪ねてほしい。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	オリエンテーション（授業計画の説明および成績評価方法について）
第 2 週	文献資料の収集方法
第 3 週	履修者による報告と討論
第 4 週	履修者による報告と討論
第 5 週	履修者による報告と討論
第 6 週	履修者による報告と討論
第 7 週	履修者による報告と討論
第 8 週	履修者による報告と討論
第 9 週	履修者による報告と討論
第１０週	履修者による報告と討論
第１１週	履修者による報告と討論
第１２週	履修者による報告と討論
第１３週	履修者による報告と討論
第１４週	履修者による報告と討論
第１５週	学習のまとめ

《演習科目》

科 目 名	専門演習Ⅰ				
担当者名	高野　敦子				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
前半は全体で講義，実習，調査発表を行います．後半はテーマ毎にグループに分かれて調査，研究を進め，定期的に成果の発表と議論を行います.

《授業の到達目標》
情報化の浸透やインターネットの普及により，私たちが入手できる情報量は爆発的に増加しています．特にインターネット上では，今まで情報を発信してきた企業や専門家に加えて，Blog や掲示板を使って一般消費者によって発せられた情報の重要性にも注目が集まっています．このような情報をより有効に利用するために重要になるのは，情報を収集・抽出する技術，分析・評価する技術、そして実社会において活用する技術です．そのような技術を実習を通して習得します.

《テキスト》
特に使いません.

《参考文献》
適宜紹介します.

《成績評価の方法》
平常点（出席および学期中に提出する課題）を 50%，最終的に完成させる課題を 50%の割合で評価します.

《授業時間外学習》
実習，研究に必要な調査は授業時間外に行ってもらいます.

《備考》

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	インターネットと情報検索
第 2 週	ブログと RSS
第 3 週	嗜好抽出と情報推薦技術
第 4 週	嗜好抽出と情報推薦技術
第 5 週	協調フィルタリング
第 6 週	協調フィルタリング
第 7 週	移動端末における嗜好抽出
第 8 週	ブログと CGM
第 9 週	評判情報の自動抽出
第１０週	評判情報の自動抽出
第１１週	テーマ選定
第１２週	テーマ毎の実習
第１３週	テーマ毎の実習
第１４週	テーマ毎の実習
第１５週	実習のまとめと発表

《演習科目》

科 目 名	専門演習Ⅰ				
担当者名	金子　哲				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》

各自が興味を持っている対象を課題として設定し、その自主的探求を行います。データー、参考文献・論文の検索方法を積極的にサポートします。

各種分析方法に関しても、随時適切な方法論を示していきます。

《授業の到達目標》

第一の目標は、各自が強い関心を有している対象に関する知見を大きくすることです。爾後、一生をかけて考えていく第一歩、すなわちシード（種）となります。

第二の目標は、適切な思考方法論を探求し、論理的思考をする力、の第一歩、すなわちシード（種）を獲得することです。一生をかけて、大木としていきましょう。

第三の目標は、適切なデーター、参考資料を検索する力、の第一歩を踏み出すことです。これも、一生をかけて磨き上げていきましょう。

《テキスト》

なし

《参考文献》

各自にあった参考文献を随時紹介します。

《成績評価の方法》

学期末に提出するレポートが 40 パーセントです。演習内での討議など、演習への参加度が 40 パーセントです。提出したレポートに関して、口頭試問を行います。この口頭試問が 20 パーセントです。

《授業時間外学習》

常にテーマに関して思索するようにしてください。すると、日常生活で出会う様々な情報が、そのテーマと関連を有していることに気づくはずです。そうしましたら、即、調べましょう。

大学で、自宅で、ちょっとした空き時間に、テーマに関して調べ、思索してください。

《備考》

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	はじめに
第 2 週	課題の探求１
第 3 週	課題の探求２
第 4 週	課題の探求３
第 5 週	課題の探求４
第 6 週	課題の探求５
第 7 週	課題の探求６
第 8 週	課題の探求７
第 9 週	課題の探求８
第１０週	課題の探求９
第１１週	課題の探求１０
第１２週	課題の探求１１
第１３週	課題の探求１２
第１４週	小括
第１５週	レポート提出と予備口頭試問

《演習科目》

科 目 名	専門演習Ⅰ				
担当者名	岡本　洋之				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》

本ゼミでは，モノ（形ある服装や道具など）やコト（無形の行事や儀礼など）を通じて，私たちの日常生活の深層を読み解く。たとえばブルマーは，女性が動きやすいようにと作られた服装であるが，日本に入ると特異な発展をとげた。もとは男子の服装だったセーラー服も，日本に入ると女学生の服装の定番に変わり，今ではアニメや漫画を通じて世界に発信されている。

こういうものを扱うゼミは，変だろうか？　いや，文科省も認め，国際学会でも発表されている，堂々たる研究である。

世界史的な広がりの中で，日本の特徴を考えたい。時期は主に近現代を扱う。

《授業の到達目標》

本授業は，「教育から私たちの生活を考える――モノとコトを中心に――」のテーマで，文化史的な方面から私たちの生活を見つめなおす能力を身につける。

《テキスト》

授業中に適宜プリント等を配布する。

《参考文献》

『新版　初めての論文作成術――問うことは生きること――』宅間紘一（日中出版）2003年

《成績評価の方法》

平常点（100%）のみとする。主に授業への参加度を評価の基準とする。

《授業時間外学習》

演習であるので，当然自分で文献を調べ，適宜フィールドワークを行う必要がある。

《備考》

⑴受講生は本授業の開講時までに，必ずワープロソフト（Microsoft Word）の使用とメールの送受信が十分にできるようになっておくことが望ましい。

⑵本授業シラバス，とくに「授業計画」はあくまで見本である。教育学のイロハである「個に応じた教育」を実践するため，実際には受講生の関心をふまえて進める。したがって授業の内容を変更することもある。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	オリエンテーション
第 2 週	セーラー服とは何か
第 3 週	セーラー服の襟の形状の多様性
第 4 週	セーラー服の襟の形の地理的分布
第 5 週	セーラー服の襟の形の地理的分布に隠された，日本人の外来文化への態度（国際学会での議論をもとに）
第 6 週	日本人の外来文化への態度に見る，ケガレ観（文科省の科学研究費を受けた研究成果をもとに）
第 7 週	ケガレから，差別の多重構造を考える（国際学会での議論をもとに）
第 8 週	女子の学校制服のいろいろ
第 9 週	女子の学校制服から，スクール・アイデンティティーを考える（教育史学会における論文研究をもとに）
第１０週	女子の学校制服における，スカートのヒダ（文科省の科学研究費を受けた研究成果をもとに）
第１１週	女子の学校制服における，スカートのヒダから，スクール・アイデンティティーを論ず（長崎県教育史を例に）
第１２週	現代日本のサブカルチャーとしてのセーラー服
第１３週	現代日本のサブカルチャーとしてのセーラー服から，文化の海外発信を考える
第１４週	現代日本のサブカルチャーとしてのセーラー服から，日本の文化の発信の特徴を考える
第１５週	まとめ――セーラー服から，私たちの日常をとりまく文化の深層を探ることができる――

《演習科目》

科 目 名	専門演習Ｉ				
担当者名	穂積　隆広				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	3年・Ｉ期

《授業のねらい及び概要》

専門演習Ｉではもっとも身近なコンピュータネットワーク技術であるWWWの仕組みやページの記述方法などについて説明し，実際にウェブページを作成します．さらに php というプログラム言語を使い，ユーザーの操作によって変化するウェブページの作成を行います.

《授業の到達目標》

現在さまざまな場所でコンピュータが利用されています．そのなかでも実社会で利用されているコンピュータシステムでは複数のコンピュータをネットワークで接続し，処理を分散したり，データを共有したりといったサーバークライアントシステムが特に注目されています．この講義ではこのようなコンピュータシステムで提供されるようなサービスの開発を通し，コンピュータネットワークやインターネットで利用されているハードウェアやソフトウェアの知識を身に付けます.

《テキスト》

必要に応じてプリントを配布します.

《参考文献》

授業中に適宜紹介します.

《成績評価の方法》

数回の課題プログラム（60%）とレポート（40%）を元に採点します.

《授業時間外学習》

授業ではプログラムを作成しますが，どのようなプログラムを作るのかを先に考えていないと先には進めません．毎回予習として自分が作ろうとしているものがどのような仕組みのものかきちんと説明できるよう準備しておいてください．また，授業内で作ったプログラムを振り返り，様々な課題に応用して復習するようにしてください.

《備考》

コンピュータは道具です．道具の使い方は教えますが，それで何をするかは皆さん自身に考えてほしいと思います．自分が本当に興味を持っているものは何なのかと常に考えるよう心がけてください.

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	全体の進度を見て課題を与えるので週ごとの予定はありませんがおおよそ次の予定にしたがって進めていきます. ガイダンスと php の基礎について
第 2 週	php の基本命令
第 3 週	フォームと php の連携
第 4 週	ファイルへの書き込みについて
第 5 週	ファイルからの読み込みと簡単なデータ処理
第 6 週	簡易掲示板の作成
第 7 週	cookie の活用
第 8 週	応用課題
第 9 週	応用課題
第１０週	UNIX の利用について
第１１週	Oracle の利用について
第１２週	データベース基礎
第１３週	データベース基礎
第１４週	応用課題
第１５週	応用課題

《演習科目》

科 目 名	専門演習Ｉ				
担当者名	榎木　浩				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	3年・Ｉ期

《授業のねらい及び概要》
情報システムを開発するチームを「プロジェクト」といいます。専門演習Ｉではゼミのウェブページ作成を通じて、情報システムの企画から開発までを体験し、実践技術やプロジェクトの進め方などＩＴ実務に必要な技術を習得します。
授業では、専門演習（ゼミ）のウェブページを開発します。
・設計書や報告書などさまざまな文書（ドキュメント）を作成
・プログラムを html で作成する
・プロジェクトを問題なく進める
・納期を守る
・想定される問題（リスク）を考え予防策をとる
・システムの問題を解決する
　ほか
文書はすべてパソコンを使った電子文書で作成、プロジェクト内コミュケーションは電子メールで行います。

《授業の到達目標》
・プロジェクトによるシステム開発方法が説明できる。
・各種ドキュメントが正しく作成できる。

《テキスト》
必要に応じてプリントを配布します。

《参考文献》
適宜紹介します。

《成績評価の方法》
平常の取り組み(50%)、開発成果(50%)で評価する。
特別の事情以外の無断欠席・遅刻が続く場合は単位認定しない。

《授業時間外学習》
事後学習
・毎回の作業予定分を次回までに完了させること。

《備考》
学ぶことはたくさんあります。「ソフトウェア開発力・情報技術」「問題設定・解決力」「コミュニケーション力」「チームワーク力」「リーダーシップ」「創造性」「自己学習力」

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	専門演習の内容説明
第 2 週	プロジェクトの結成，ウェブサイト開発方法の説明
第 3 週	基本計画
第 4 週	要求定義
第 5 週	ウェブページ構成・設計
第 6 週	ウェブページ構成・設計
第 7 週	ウェブページ内詳細設計
第 8 週	ウェブページ内詳細設計
第 9 週	ウェブページ作成・単体テスト
第１０週	ウェブページ作成・単体テスト
第１１週	ウェブページ作成・単体テスト
第１２週	ウェブページ作成・単体テスト
第１３週	ウェブ結合・総合テスト
第１４週	ウェブ結合・総合テスト
第１５週	ウェブ公開・運用 まとめと報告

《演習科目》

科 目 名	専門演習Ⅰ				
担当者名	竹川　宏子				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
この演習は、4年次で行う卒業研究の準備段階と位置づけて進めていく。そのため、次の3つのことを行う予定である。第1は、経営学の基本書（テキスト）を輪読し、各自まとめを作り報告すること、第2は新聞やテレビなどで取り上げられている企業活動の実際について学び、その本質を理解すること。第3に企業に関連する時事問題を適宜取り上げて議論することである。

《授業の到達目標》
○経営学の基本書を読んでまとめを作成し、関連資料を収集し、報告ができるようになる。
○グループで協力して一つの課題に取り組み、関連する資料を収集し、報告ができるようになる。
○企業と社会について学び、将来の職業についての意識を高めることができるようになる。

《テキスト》
海野博、所伸之 著『やさしい経営学』 創成社、2007年。

《参考文献》
伊丹敬之、加護野忠男 著『ゼミナール経営学入門　第3版』日本経済新聞社、2003年。

《成績評価の方法》
全回出席を前提として、平常点（テキストのまとめ作成と報告）を70%、グループ報告10%、質疑応答などディスカッションに対する積極性を20%として評価する。

《授業時間外学習》
予習は、テキストのまとめ作成。復習は、まとめを報告したものについて授業中にディスカッションする中で生じた疑問や問題点などを次の回までに調べてくること。

《備考》
グループを作り、メンバー間で協力して調査や報告を行なってもらうことがある。
無断欠席、遅刻はいっさい認めない。やむを得ず欠席した場合は、欠席した分のテキストをまとめ、その提出を課す。遅刻した場合は、その程度に応じてテキストのまとめ作成・提出を課す。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	講義の概要と進め方
第 2 週	テキストの輪読、ディスカッション（経営学の学び方、社会における企業の役割）
第 3 週	テキストの輪読、ディスカッション（企業形態）
第 4 週	テキストの輪読、ディスカッション（株式会社の仕組み）
第 5 週	テキストの輪読、ディスカッション（専門経営者と経営管理）
第 6 週	テキストの輪読、ディスカッション（経営管理思想の展開）
第 7 週	テキストの輪読、ディスカッション（経営戦略；企業の環境分析）
第 8 週	テキストの輪読、ディスカッション（経営戦略；成長戦略）
第 9 週	テキストの輪読、ディスカッション（経営戦略；競争戦略）
第１０週	グループ報告（グループごとに設定した経営戦略関連のテーマ）
第１１週	テキストの輪読、ディスカッション（経営組織の形態①）
第１２週	テキストの輪読、ディスカッション（経営組織の形態②）
第１３週	テキストの輪読、ディスカッション（経営組織の形態②）
第１４週	テキストの輪読、ディスカッション（人的資源管理②）
第１５週	演習のまとめ

《演習科目》

科 目 名	専門演習Ⅰ				
担当者名	沖野　光二				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
テキストを順次読み解いて行きます。受講生に報告範囲を割り当てますので、レジュメを作成し、報告してもらいます。

《授業の到達目標》
１．財務会計に関する基礎知識を修得する。
２．ケーススタディ等を通じて、具体的な企業の実態を学ぶ。
３．就職先の選択時に役立つ思考を養う。

《テキスト》
別途指示します

《参考文献》
適時紹介します。

《成績評価の方法》
出席態度を前提として、課題の報告状況とディスカッションの参加と貢献度（100 点）で評価します。出席態度の芳しくない者は、成績評価の対象としないので特に気を付けること。

《授業時間外学習》
以下の３点を丹念に行うと学習効果が向上します。
１．発表の準備（発表資料の作成やリハーサルを含む）
２．文献資料の入手と熟読
３．企業動向の基礎調査

《備考》
日本商工会議所主催・簿記検定３級以上を取得していることが望ましい。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	演習ガイダンス
第 2 週	テキストを用いて討論する。(その１)
第 3 週	テキストを用いて討論する。(その２)
第 4 週	テキストを用いて討論する。(その３)
第 5 週	テキストを用いて討論する。(その４)
第 6 週	テキストを用いて討論する。(その５)
第 7 週	テキストを用いて討論する。(その６)
第 8 週	テキストを用いて討論する。(その７)
第 9 週	テキストを用いて討論する。(その８)
第１０週	テキストを用いて討論する。(その９)
第１１週	テキストを用いて討論する。(その１０)
第１２週	テキストを用いて討論する。(その１１)
第１３週	テキストを用いて討論する。(その１２)
第１４週	テキストを用いて討論する。(その１３)
第１５週	まとめ

《演習科目》

科 目 名	専門演習Ⅰ				
担当者名	西田　悦雄				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
研究のための環境の構築・整備と研究テーマの設定，進め方の基礎を学びます.

《授業の到達目標》
研究環境である Unix サーバの構築および整備を第一の目標とし，各自が Unix サーバを活用できることが必要です.
また，研究の進捗状況報告や論文作成のための文書組版のための LaTeX2e の理解と活用も必要です.
また，並行して各自の研究テーマの設定や調査などに必要となるスキルや考え方の獲得も目標とします.

《テキスト》
奥村晴彦著,『改訂第５版 LaTeX2e 美文書作成入門』，技術評論社，￥3,339.-

《参考文献》
Alan W.Biermann 著，和田英一監訳,『やさしいコンピュータ科学』，アスキー・メディアワークス，￥4,893.-
砂原秀樹，石井秀治，植原啓介，林周志著,『改訂版プロフェショナル BSD』，ASCII，¥2,940.-
砂原秀樹，石井秀治，植原啓介，林周志著,『プロフェショナル シェルプログラミング』，ASCII，¥2,940.-　など.
その他の参考文献に関しては必要に応じて適宜紹介します.

《成績評価の方法》
基礎課題(50%)，研究テーマに関わる課題(40%)，平常点(10%)として判定し評価します.

《授業時間外学習》
課題，演習および研究に必要な活動に関しては授業時間外で対応して下さい.

《備考》

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	計算機構成の基礎(1)
第 2 週	計算機構成の基礎(2)
第 3 週	Unix の基礎
第 4 週	ネットワークの基礎
第 5 週	研究用サーバの構築(1)
第 6 週	研究用サーバの構築(2)
第 7 週	個人環境の構築(1)
第 8 週	個人環境の構築(2)
第 9 週	テキストエディタ Emacs
第１０週	文書組版 LaTeX2e の基礎(1)
第１１週	文書組版 LaTeX2e の基礎(2)
第１２週	研究テーマに関する調査
第１３週	研究テーマに関する調査
第１４週	テーマ調査の発表
第１５週	演習のまとめ

《演習科目》

科 目 名	専門演習Ⅱ				
担当者名	森　義隆				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
演習は輪読と討論を基本にすえながら、マクロ経済モデルの正確な理解と問題への応用の方法を習得することに集中する。時々は新聞やテレビで報道される経済や社会の問題を取り上げ、経済学ではそれをどのように解釈しどのような分析用具を使って解明したらいいかを考える。インフレ、デフレ、財政赤字、年金、医療、労働力人口の減少、経常収支の構造的黒字、若年層の失業、産業構造の変化、実質成長の低迷、中国やインドの経済的躍進、などなど。

《授業の到達目標》
専門演習Ⅰに引き続いて、この演習ではまずマクロ経済学を完全に理解するため基本モデルの習得はもとより、その応用篇となる経済成長や国際マクロ経済の理論も学ぶ。ここでは、モデルの基本的な操作と有意な解釈を引き出す訓練をも行う。後半には、各自の問題関心に沿って研究のテーマを絞ってもらうために、具体的な日本経済に関する研究書をテキストとして取り上げ、輪読していく。

《テキスト》
吉川　洋『構造改革と日本経済』岩波書店、2003

《参考文献》
各年版『経済財政白書』内閣府

《成績評価の方法》
出席点と講読、討論(50点)、レポート提出（50点）で成績評価する。

《授業時間外学習》
日本経済の構造的問題を理解させることが主目的であるから、短期の循環的政策と長期の構造的政策、構造改革を従来の「骨太の政策」に例を採り逐次検討させる。自宅学習を通じて、問題を浮かび上がらせるとともに本質を理解させる。

《備考》
必ずテキストを購入し、各章節のテーマをしっかり理解することに努めることが極めて肝要。遅刻や無断欠席は厳禁。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	(1) マクロ経済の基本モデル　復習
第 2 週	(2) 財政政策と金融政策のマクロ経済効果を探る
第 3 週	(3) ケインズ経済学と古典派経済学　　何がどう違うのか
第 4 週	(4) マクロ経済学の展開　　経済成長の理論　　初期のモデル
第 5 週	(5) マクロ経済学の展開　　最近の展開と内生的成長モデル レポート課題（1）
第 6 週	「構造改革と日本経済」の分析視角
第 7 週	第1章　日本経済の現状
第 8 週	第2章　なぜ10年は失われたのか 需要か供給か　　レポート課題（2）
第 9 週	第3章　経済成長の源泉
第１０週	技術進歩と需要
第１１週	人口減少と経済成長　　レポート課題（3）
第１２週	第4章　構造改革とは何か
第１３週	需要創出型の構造改革
第１４週	構造改革は弱者切捨てか　　レポート課題（4）
第１５週	第5章　今後の課題　　何をなすべきか

《演習科目》

科 目 名	専門演習Ⅱ				
担当者名	石原　敬子				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

今日の日本の産業・企業は、経済のグローバル化や情報化などを背景に、さまざまな課題に直面している。授業では、専門演習Ⅰに引き続いて、テキストを輪読しながら、現実産業や企業行動を分析するための基礎理論を学ぶとともに、日本経済・産業・企業の現状と課題について検討したい。

専門演習Ⅰと同様に、各時間ごとに報告者を割り当て、テキストの担当箇所について順次レジュメを作成して報告してもらう。この機会を利用して、テキストの内容をしっかり理解することに加え、他の人にわかりやすく説明する力も身につけていただきたいと思う。できれば、Power Point を用いたプレゼンテーションにも挑戦してみよう。第8週目から学期末のレポート作成に向けて少しずつ準備を進める。今回のレポートは卒業研究のテーマも念頭において作成するようにしたい。レポートの内容については、第 14 週に全員報告してもらう予定である。

《授業の到達目標》

・現実の経済問題について経済学の基礎理論を用いて考察できるようにする。
・わかりやすい報告資料が作成できるようになる。
・わかりやすいプレゼンテーションをする力を身につける。
・論理的にまとまりのあるレポートを作成する。

《テキスト》

伊藤元重著『ビジネス・エコノミクス』日本経済新聞社、2004 年

《参考文献》

授業中に適宜紹介する。

《成績評価の方法》

・授業への参加の姿勢、報告内容、学期末のレポートの内容をもって行う。評価の割合は、授業への参加の姿勢 30%、報告内容 20%、レポート 50%とする。
・演習形式の授業という性質上、出席率が 70%に満たない場合（特別の事情がある場合を除く）、報告を行わなかった場合、レポートを提出しなかった場合には、単位を与えないので注意すること。

《授業時間外学習》

・事前にテキストの該当箇所を読んでくること。
・報告を担当する箇所については、時間をかけて学習し、報告準備をしっかりと行うこと。
・第8週目以降は、レポート作成に取り組む。レポート完成に向けて毎週課題を出すので、しっかりと取り組むこと。

《備考》

・「1時間に1度は発言する」という積極的な気持ちで出席していただきたいと思う。
・レポートについては、卒業論文作成に備えて、添削指導を行う。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	授業の概要・受講上の注意 経済・ビジネスに関する資料を読んで考える①
第 2 週	第4週目以降の報告者の割り当て 経済・ビジネスに関する資料を読んで考える②
第 3 週	経済・ビジネスに関する資料を読んで考える③ レジュメを作ってみよう。
第 4 週	経済学で競争戦略を解剖する（1）
第 5 週	経済学で競争戦略を解剖する（2）
第 6 週	デジタル革命は何を変えたか（1）
第 7 週	デジタル革命は何を変えたか（2）
第 8 週	ビジネスは世界に広がる（1） ※レポート作成について
第 9 週	ビジネスは世界に広がる（2） ※レポート作成の準備（1）：テーマを決める
第１０週	ビジネス環境は変わり続ける ※レポート作成の準備（2）：構成を考える
第１１週	経済・ビジネスに関する資料を読んで考える④ ※レポート作成の準備（3）：資料・文献の収集、情報の検索
第１２週	経済・ビジネスに関する資料を読んで考える⑤ ※レポート作成
第１３週	※レポート作成
第１４週	各自のレポートの内容に関する報告
第１５週	学習のまとめ

《演習科目》

科 目 名	専門演習Ⅱ				
担当者名	高本　茂				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
経済学の再入門

《授業の到達目標》
経済学をもう一度初歩から学び直し、最終的には、日経新聞を読みこなす実力を身につける。

《テキスト》
中谷巌『マクロ経済学入門』
小宮一慶『日本経済新聞の数字がわかる本』

《参考文献》
大久保隆弘『経済学が面白いほどわかる本・マクロ経済編／マーケット論』(中経出版)
大久保隆弘『経済学が面白いほどわかる本・マクロ経済編／経済政策論』(中経出版)

《成績評価の方法》
日頃の学習態度(100%)をもって評価する。

《授業時間外学習》
日本経済新聞をよく読みなさい。

《備考》
日経新聞を読みこなす実力を身につけましょう。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	中谷巌『マクロ経済学入門』(続き) 第７章　所得と物価水準の決まり方
第 2 週	第８章　インフレとデフレ
第 3 週	第９章　より進んだ消費と投資の理論
第 4 週	小宮一慶『日本経済新聞の数字がわかる本』 １．ＧＤＰを読み解く
第 5 週	２．企業活動全般を見る
第 6 週	３．業種別の動向を押さえる
第 7 週	４．雇用を見る
第 8 週	５．物価を見る
第 9 週	６．金融の動向を見る
第１０週	７．市場の動きを押さえる
第１１週	８．超大国アメリカの景気を見る
第１２週	９．ヨーロッパの経済を見る
第１３週	１０．アジア経済を見る
第１４週	１１．商品相場を抑える
第１５週	景気動向についての実践トレーニング

《演習科目》

科 目 名	専門演習Ⅱ				
担当者名	瀧本　眞一				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
1. 適切な文献（諸君と相談します）を読みます。
2. 地域問題に関連する新聞記事や図書・資料を解説要約します。
3. 調査・研究の方法論を学びます。
4. 実態調査や取材によって現状を学びます。
5. 各自の研究課題についての小論文を執筆します。

《授業の到達目標》
これまでに学んできたことを基礎として、専門演習 I・II を通して地域問題・地域づくり・まちづくりの実態を調査・研究します。その中から各自の研究課題を探り、卒業演習 I・II の中で、卒業研究として完成させます。

《テキスト》
1. 新聞・ニュース・図書・資料
2. 『地域再生の条件』本間義人、岩波書店・岩波新書 1059、2007 年

《参考文献》
適宜、紹介しますが、自分で探す能力を身につけることも必要です。各自で発見してください。

《成績評価の方法》
発表（40%）、レポート（60%）で評価します。

《授業時間外学習》
特に指定はしませんが、地域問題についての新聞・雑誌・図書をよく読み、地域問題に関しての知識を深めてください。

《備考》
様々な分野に関してのアンテナを広げて欲しいと思います。そのためにも、時間外を有効に活用して見聞を広めてください。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	全体の進度を見て進めますので、回ごとの予定は細かく設定しませんが、おおよそ次の予定に沿って進めます。
第 2 週	文献の読破と発表
第 3 週	文献の読破と発表
第 4 週	文献の読破と発表
第 5 週	文献の読破と発表
第 6 週	現場を歩く
第 7 週	テーマの設定
第 8 週	テーマの設定
第 9 週	テーマの研究
第１０週	テーマの研究
第１１週	テーマの研究
第１２週	レポートの作成
第１３週	レポートの作成
第１４週	レポートの発表
第１５週	まとめ

《演習科目》

科 目 名	専門演習Ⅱ				
担当者名	三宅　伸二				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
主に、演習によりレベルアップを図ります。3級に合格すれば、続いて2級を目指します。2級合格後は、税理士試験の「簿記論」「財務諸表論」に向けた勉強に進みます。最初は、レベルがほぼ同じなので、一緒に勉強することになりますが、学年が進むにつれ進度に差が出て、内容が異なってきますので、個別指導に近い形になります。

《授業の到達目標》
まず、日商3級を目指します。

《テキスト》
授業中に指示

《参考文献》
授業中に指示

《成績評価の方法》
到達度確認試験（3回）の状況（９０％）と宿題（１０％）で評価します。

《授業時間外学習》

《備考》
税理士、公認会計士、国税専門官など、職業会計人を目指すためのワンステップになればと考えています。簿記を勉強したくない人は受講しないでください。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	有価証券
第 2 週	資本
第 3 週	試算表
第 4 週	決算手続き 精算表の作成
第 5 週	決算整理 有価証券の評価
第 6 週	決算整理 現金過不足、消耗品
第 7 週	決算整理 売上原価１
第 8 週	決算整理 売上原価２
第 9 週	決算整理 貸倒引当金
第１０週	決算整理 固定資産の減価償却
第１１週	決算整理 費用･収益の繰り延べ・見越し
第１２週	訂正仕訳
第１３週	８桁精算表の作成
第１４週	勘定の締切りと財務諸表の作成
第１５週	伝票会計

《演習科目》

科 目 名	専門演習Ⅱ				
担当者名	田中　正彦				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
ペーパークラフトの設計と制作、および展示を行います。
授業では次のような演習を行い、ものを見る目と表現力のトレーニングをし、人に伝える方法について考えます。
・コンピュータを利用したペーパークラフトの設計。
・ペーパークラフト作品の仕様書の記述。
・大学祭での展示の企画と実施。

《授業の到達目標》
次のことがらを理解し活用することができる。
・各種グラフィックソフトの連携
・いろいろなメディアを用いた表現

《テキスト》
なし
資料は学内ネットワークを通じて適宜配布する。

《参考文献》
http://ei-www.hyogo-dai.ac.jp/~masahiko/

《成績評価の方法》
作品(70%)、レポート(30%)

《授業時間外学習》
その時間までの内容をしっかり理解し、活用できる場面を考えること。
作成しようとする作品に必要な資料を集めること。

《備考》
連絡先 e メール masahiko@lab.hyogo-dai.ac.jp

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	展示の企画
第 2 週	作品の着色
第 3 週	作品の組み立て
第 4 週	組み立て方の説明
第 5 週	展示の実施
第 6 週	作品の評価
第 7 週	良い作品とは
第 8 週	仕様を考える
第 9 週	仕様にもとづく評価
第１０週	モデリング時点での作品の改良
第１１週	展開時点での作品の改良
第１２週	着色時点での作品の改良
第１３週	組み立て時点での作品の改良
第１４週	作品の説明
第１５週	作品の比較

《演習科目》

科 目 名	専門演習Ⅱ				
担当者名	木下　準一郎				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
本演習では地域社会と地域メディアとの関係について学ぶ。授業は個人・グループによる発表・討論によって進める。
選んだテーマについて5,000字程度のゼミ論文を執筆する。

《授業の到達目標》
多様な地域の個性を作り出し、同時に人々の地域アイデンティティを確立する地域メディアの意義について理解できる。
専門演習Ⅰで行った研究を発展させて、卒業研究に取り掛かる準備を進める。

《テキスト》
テキストは指定しない。必要に応じて資料を配布する。

《参考文献》
履修者の研究内容に合わせて参考文献を紹介する。

《成績評価の方法》
授業中の発表（30%）、討論（20%）、およびゼミ論文（50%）によって評価する。
授業を4回以上欠席した学生には単位を与えない。また20分以上の遅刻は欠席とみなす。

《授業時間外学習》
指定された資料を読み、発表の準備を行う。

《備考》
オフィスアワーについては研究室（1W-112)のドアに貼り出しているので、質問や相談のある学生は指定した時間に訪ねてほしい。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	オリエンテーション（授業計画の説明および成績評価方法について）
第 2 週	ゼミ論文の書き方
第 3 週	ゼミ論文研究計画の発表
第 4 週	参考文献の紹介と収集
第 5 週	履修者による報告と討論
第 6 週	履修者による報告と討論
第 7 週	履修者による報告と討論
第 8 週	履修者による報告と討論
第 9 週	履修者による報告と討論
第１０週	履修者による報告と討論
第１１週	履修者による報告と討論
第１２週	履修者による報告と討論
第１３週	履修者による報告と討論
第１４週	履修者による報告と討論
第１５週	学習のまとめ

《演習科目》

科 目 名	専門演習Ⅱ				
担当者名	高野　敦子				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	3 年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
コンピュータに理解可能な情報を Web 情報に付加する仕組みとして，XML，セマンティック Web やメタ情報について，Web 上に公開されているツールを使いながら，その意味を体験し，これからの Web のあり方について考えます.

《授業の到達目標》
今や Web はあらゆる情報提供・発信・交換のための社会基盤としてなくてはならないものになっています．しかし，情報量が増えるに従って，目的とする Web の情報を探し出すことが困難になってきています．その問題を解決するためには，Web 上の情報をコンピュータに処理させる新たな仕組みが必要です．コンピュータに情報の意味までを理解させることは困難です．であるならば，コンピュータにも理解可能な形の情報を付加する仕組みがあればいいのではないでしょうか．そのような仕組みについて考える力を身につけます.

《テキスト》
特に用いません.

《参考文献》
適宜紹介します.

《成績評価の方法》
平常点（出席および学期中に提出する課題）を 50%，最終的に完成させる課題を 50%の割合で評価します.

《授業時間外学習》
実習，研究に必要な調査は授業時間外に行ってもらいます.

《備考》

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	今日の Web の問題点とセマンティック Web
第 2 週	XML による Web 文書の構造化
第 3 週	XML による Web 文書の構造化
第 4 週	RDF による記述
第 5 週	RDF による記述
第 6 週	オントロジー
第 7 週	セマンティック Web の応用
第 8 週	セマンティック Web の応用
第 9 週	テーマ選定
第１０週	テーマ別実習
第１１週	テーマ別実習
第１２週	テーマ別実習
第１３週	テーマ別実習
第１４週	テーマ別実習
第１５週	実習のまとめと発表

《演習科目》

科 目 名	専門演習Ⅱ				
担当者名	金子　哲				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

各自が興味を持っている対象を課題として設定し、その自主的探求を行います。データー、参考文献・論文の検索方法を積極的にサポートします。

各種分析方法に関しても、随時適切な方法論を示していきます。

《授業の到達目標》

第一の目標は、各自が強い関心を有している対象に関する知見を大きくすることです。爾後、一生をかけて考えていく第一歩、すなわちシード（種）となります。

第二の目標は、適切な思考方法論を探求し、論理的思考をする力、の第一歩、すなわちシード（種）を獲得することです。一生をかけて、大木としていきましょう。

第三の目標は、適切なデーター、参考資料を検索する力、の第一歩を踏み出すことです。これも、一生をかけて磨き上げていきましょう。

《テキスト》

なし

《参考文献》

各自にあった参考文献を随時紹介します。

《成績評価の方法》

学科末に提出するレポートが 40 パーセントです。演習内での討議など、演習への参加度が 40 パーセントです。提出したレポートに関して、口頭試問を行います。この口頭試問が 20 パーセントです。

《授業時間外学習》

常にテーマに関して思索するようにしてください。すると、日常生活で出会う様々な情報が、そのテーマと関連を有していることに気づくはずです。そうしましたら、即、調べましょう。

大学で、自宅で、ちょっとした空き時間に、テーマに関して調べ、思索してください。

《備考》

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	はじめに
第 2 週	課題の探求１
第 3 週	課題の探求２
第 4 週	課題の探求３
第 5 週	課題の探求４
第 6 週	課題の探求５
第 7 週	課題の探求６
第 8 週	課題の探求７
第 9 週	課題の探求８
第１０週	課題の探求９
第１１週	課題の探求１０
第１２週	課題の探求１１
第１３週	課題の探求１２
第１４週	小括
第１５週	レポート提出と予備口頭試問

《演習科目》

科 目 名	専門演習Ⅱ				
担当者名	岡本　洋之				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

本ゼミでは，Ⅰ期に続き，モノ（形ある服装や道具など）やコト（無形の行事や儀礼など）を通じて，私たちの日常生活の深層を読み解く。たとえばブルマーは，女性が動きやすいようにと作られた服装であるが，日本に入ると特異な発展をとげた。もとは男子の服装だったセーラー服も，日本に入ると女学生の服装の定番に変わり，今ではアニメや漫画を通じて世界に発信されている。

こういうものを扱うゼミは，変だろうか？　いや，文科省も認め，国際学会でも発表されている，堂々たる研究である。

世界史的な広がりの中で，日本の特徴を考えたい。時期は主に近現代を扱う。

《授業の到達目標》

本授業は，「教育から私たちの生活を考える――モノとコトを中心に――」のテーマで，文化史的な方面から私たちの生活を見つめなおす能力を身につける。

《テキスト》

授業中に適宜プリント等を配布する。

《参考文献》

『新版　初めての論文作成術――問うことは生きること――』宅間紘一（日中出版）2003年

《成績評価の方法》

平常点（100%）のみとする。主に授業への参加度を評価の基準とする。

《授業時間外学習》

演習であるので，当然自分で文献を調べ，適宜フィールドワークを行う必要がある。

《備考》

(1)受講生は本授業の開講時までに，必ずワープロソフト（Microsoft Word）の使用とメールの送受信が十分にできるようになっておくことが望ましい。

(2)本授業シラバス，とくに「授業計画」はあくまで見本である。教育学のイロハである「個に応じた教育」を実践するため，実際には受講生の関心をふまえて進める。したがって授業の内容を変更することもある。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	オリエンテーション
第 2 週	セーラー服の歴史を深める（国際服飾学会の論文をもとに）
第 3 週	セーラー服の襟の形状の多様性（長崎歴史文化博物館資料を中心とした，長崎学研究成果からの考察）
第 4 週	セーラー服の襟の形の地理的分布（外来文化，とくにキリシタン関係の問題との関連を探る）
第 5 週	セーラー服の襟の形の地理的分布に隠された，日本人の外来文化への態度を深めて考察（教育史学会での議論をもとに）
第 6 週	日本人，とくに長崎住民の外来文化への態度に見る，ケガレ観とキリシタン弾圧（高橋眞司氏の哲学研究成果をもとにして，永井隆から秋月辰一郎への思想的発展をたどることにより，カトリック思想と親鸞について考える）
第 7 週	ケガレから，差別の多重構造――とくにキリシタンと被差別部落の対立問題――を考える（本島等氏らの証言をもとに）
第 8 週	女子の学校制服のいろいろ（佐藤秀夫のライフワークとしての研究成果をもとに）
第 9 週	女子の学校制服から，スクール・アイデンティティーに関する考察を深める（比較教育風俗研究会における論文研究をもとに）
第１０週	女子の学校制服における，スカートのヒダ（長崎県と京都府に見られた現象をもとに）
第１１週	女子の学校制服における，スカートのヒダから，スクール・アイデンティティーをより深く論ず（桑田直子氏の島根県津和野における研究を援用する）
第１２週	現代日本のサブカルチャーとしてのセーラー服（記号論も含めて深める）
第１３週	現代日本のサブカルチャーとしてのセーラー服から，文化の海外発信を考える（アニメ，声優の海外への発信も含めて深める）
第１４週	現代日本のサブカルチャーとしてのセーラー服から，日本文化の発信の特徴を深める
第１５週	まとめ――セーラー服を出発点として，私たちの日常をとりまく文化の深層を，より深く探ることができる――

《演習科目》

科 目 名	専門演習Ⅱ				
担当者名	穂積　隆広				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

専門演習ⅡではⅠで学んだphpを使い，データベースと連携させたウェブページの作成について学びます．そしてそれらを通して卒業演習で作成するウェブアプリケーションの方向性や内容を決定していく予定です．

《授業の到達目標》

現在さまざまな場所でコンピュータが利用されています．そのなかでも実社会で利用されているコンピュータシステムでは複数のコンピュータをネットワークで接続し，処理を分散したり，データを共有したりといったサーバークライアントシステムが特に注目されています．この講義ではこのようなコンピュータシステムで提供されるようなサービスの開発を通し，コンピュータネットワークやインターネットで利用されているハードウェアやソフトウェアの知識を身に付けます．

《テキスト》

必要に応じてプリントを配布します．

《参考文献》

授業中に適宜紹介します．

《成績評価の方法》

作成したウェブページと数回のレポートを中心（約70%）に評価しますが，授業態度や発表内容も重視（約30%）します．

《授業時間外学習》

授業ではプログラムを作成しますが，どのようなプログラムを作るのかを先に考えていないと先には進めません．毎回予習として自分が作ろうとしているものがどのような仕組みのものかきちんと説明できるよう準備しておいてください．また，授業内で作ったプログラムを振り返り，様々な課題に応用して復習するようにしてください．

《備考》

現在インターネットでは今まで考えもしなかったようなさまざまなサービスを提供するウェブページが次々と生まれてきています．そのようなウェブページに出会ったときは単に利用するだけに終わらず，どんな仕組みで動いているのだろうと少しでも考えてみるよう心がけてください．

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	全体の進度を見て課題を与えるので週ごとの予定はありませんがおおよそ次の予定にしたがって進めていきます． ガイダンスとデータベースの設計について
第 2 週	データテーブルの作成
第 3 週	oracle と php の連携について
第 4 週	php とデータの並べ替え
第 5 週	php とデータの絞込み１
第 6 週	php とデータの絞込み２
第 7 週	php とデータのグループ化１
第 8 週	php とデータのグループ化２
第 9 週	php とデータの追加
第１０週	php とデータの変更
第１１週	php とデータの削除
第１２週	応用課題
第１３週	応用課題
第１４週	応用課題
第１５週	応用課題

《演習科目》

科 目 名	専門演習Ⅱ				
担当者名	榎木　浩				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
情報システムを開発するチームを「プロジェクト」といいます。専門演習Ⅱでは実際にプロジェクトを作り、情報システムの企画から開発までの実体験を通じて、実践技術やプロジェクトの進め方などＩＴ実務に必要な技術を習得します。
授業では、簡単なＷｅｂアプリケーションを開発します。
・設計書や報告書などさまざまな文書（ドキュメント）を作成
・プログラムを作成する
・プロジェクトを問題なく進める
・納期を守る
・想定される問題（リスク）を考え予防策をとる
・システムの問題を解決する
　ほか
文書はすべてパソコンを使った電子文書で作成、プロジェクト内コミュケーションは電子メールで行います。
《授業の到達目標》
・プロジェクトによるシステム開発方法が説明できる。
・各種ドキュメントが正しく作成できる。
・問題発生時の対応ができる。
・Ｗｅｂページ&プログラミングコンテストのテーマに則したシステムを完成させ、コンテストに応募する。
《テキスト》
必要に応じてプリントを配布します。
《参考文献》
適宜紹介します。
《成績評価の方法》
平常の取り組み(50%)、開発成果(50%)で評価する。
特別の事情以外の無断欠席・遅刻が続く場合は単位認定しない。
《授業時間外学習》
事後学習
・毎回の作業予定分を次回までに完了させること。
《備考》
学ぶことはたくさんあります。「ソフトウェア開発力・情報技術」「問題設定・解決力」「コミュニケーション力」「チームワーク力」「リーダーシップ」「創造性」「自己学習力」
《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	専門演習の内容説明
第 2 週	プログラミング、データベースの説明と演習
第 3 週	プログラミング、データベースの説明と演習
第 4 週	プログラミング、データベースの説明と演習
第 5 週	基本計画と要求定義
第 6 週	基本計画と要求定義
第 7 週	概要設計
第 8 週	概要設計
第 9 週	詳細設計
第１０週	詳細設計
第１１週	プログラミング・単体テスト
第１２週	プログラミング・単体テスト
第１３週	ププログラミング・単体テスト
第１４週	ウェブ結合・総合テスト
第１５週	ウェブ公開 まとめと報告

《演習科目》

科 目 名	専門演習Ⅱ				
担当者名	竹川　宏子				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
この演習は、4年次で行う卒業研究の準備段階として進めていく。そのため、次の3つのことを行う予定である。第1は、経営学の基本書（テキスト）を輪読し、各自まとめを作り報告すること、第2は新聞やテレビなどで取り上げられている企業活動の実際について学び、その本質を理解すること。第3に企業に関連する時事問題を適宜取り上げて議論することである。

《授業の到達目標》
○経営学の基本書を読んでまとめを作成し、関連資料を収集し、報告ができるようになる。
○グループで協力して一つの課題に取り組み、関連する資料を収集し、報告ができるようになる。
○企業と社会について学び、将来の職業についての意識を高めることができるようになる。

《テキスト》
海野博、所伸之 著『やさしい経営学』 創成社、2007年。

《参考文献》
伊丹敬之、加護野忠男 著『ゼミナール経営学入門　第3版』日本経済新聞社、2003年。

《成績評価の方法》
全回出席を前提として、平常点（テキストのまとめ作成と報告）を70%、グループ報告10%、質疑応答などディスカッションに対する積極性を20%として評価する。

《授業時間外学習》
予習は、テキストのまとめ作成。復習は、まとめを報告したものについて授業中にディスカッションする中で生じた疑問や問題点などを次の回までに調べてくること。

《備考》
グループを作り、メンバー間で協力して調査や報告を行なってもらうことがある。
無断欠席、遅刻はいっさい認めない。やむを得ず欠席した場合は、欠席した分のテキストをまとめ、その提出を課す。遅刻した場合は、その程度に応じてテキストのまとめ作成・提出を課す。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	講義の概要と進め方
第 2 週	テキストの輪読、ディスカッション（経営学の学び方、社会における企業の役割）
第 3 週	テキストの輪読、ディスカッション（企業形態）
第 4 週	テキストの輪読、ディスカッション（株式会社の仕組み）
第 5 週	テキストの輪読、ディスカッション（専門経営者と経営管理）
第 6 週	テキストの輪読、ディスカッション（経営管理思想の展開）
第 7 週	テキストの輪読、ディスカッション（経営戦略；企業の環境分析）
第 8 週	テキストの輪読、ディスカッション（経営戦略；成長戦略）
第 9 週	テキストの輪読、ディスカッション（経営戦略；競争戦略）
第１０週	グループ報告（グループごとに設定した企業戦略関連のテーマ）
第１１週	テキストの輪読、ディスカッション（経営組織の形態①）
第１２週	テキストの輪読、ディスカッション（経営組織の形態②）
第１３週	テキストの輪読、ディスカッション（人的資源管理①）
第１４週	テキストの輪読、ディスカッション（人的資源管理②）
第１５週	演習のまとめ

《演習科目》

科 目 名	専門演習Ⅱ				
担当者名	沖野　光二				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
テキストを順次読み解いて行きます。受講生に報告範囲を割り当てますので、レジュメを作成し、報告してもらいます。

《授業の到達目標》
１．財務会計に関する基礎知識を修得する。
２．ケーススタディ等を通じて、具体的な企業の実態を学ぶ。
３．就職先の選択時に役立つ思考を養う。

《テキスト》
別途指示します

《参考文献》
適時紹介します。

《成績評価の方法》
出席態度を前提として、課題の報告状況とディスカッションの参加と貢献度（100 点）で評価します。出席態度の芳しくない者は、成績評価の対象としないので特に気を付けること。

《授業時間外学習》
以下の３点を丹念に行うと学習効果が向上します。
１．発表の準備（発表資料の作成やリハーサルを含む）
２．文献資料の入手と熟読
３．企業動向の基礎調査

《備考》

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	演習ガイダンス
第 2 週	テキストを用いて討論する。(その１)
第 3 週	テキストを用いて討論する。(その２)
第 4 週	テキストを用いて討論する。(その３)
第 5 週	テキストを用いて討論する。(その４)
第 6 週	テキストを用いて討論する。(その５)
第 7 週	テキストを用いて討論する。(その６)
第 8 週	テキストを用いて討論する。(その７)
第 9 週	テキストを用いて討論する。(その８)
第１０週	テキストを用いて討論する。(その９)
第１１週	テキストを用いて討論する。(その１０)
第１２週	テキストを用いて討論する。(その１１)
第１３週	テキストを用いて討論する。(その１２)
第１４週	テキストを用いて討論する。(その１３)
第１５週	まとめ

《演習科目》

科 目 名	専門演習Ⅱ				
担当者名	西田　悦雄				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
研究を進めて行く段階では，理論に基づく実験が必要となりますが，コンピュータ上でのシミュレータを作成し実験を行います．研究環境である Unix サーバ上でのシミュレータ作成のための基礎を学びます．

《授業の到達目標》
「プログラミング I」「プログラミング II」等で学んだ C 言語をさらに補足し，より実践的なプログラミングのための知識の獲得を目標とします．
また，並行して各自が設定した研究テーマもさらに進めることも目標とします．

《テキスト》
教科書は使用しません．必要な資料は適宜配付します．

《参考文献》
B.W.Kernighan, D.M.Ritchie 著，石田晴久訳，『プログラミング言語 C 第 2 版 -ANSI 規格準拠-』,共立出版，￥2,940.-
B.W.Kernighan, Rob.Pike 著，福崎俊博訳，『プログラミング作法』,ASCII，￥2,940.-
その他の参考文献は必要に応じて適宜紹介します．

《成績評価の方法》
基礎課題(40%)，研究テーマに関わる課題(50%)，平常点(10%)として判定し評価します．

《授業時間外学習》
基礎課題(40%)，研究テーマに関わる課題(50%)，平常点(10%)として判定し評価します．

《備考》

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	Unix サーバ・メンテナンス
第 2 週	データ構造とアルゴリズム
第 3 週	C プログラミングの補足
第 4 週	C プログラミングの補足
第 5 週	C プログラミングの拡張
第 6 週	C プログラミングの拡張
第 7 週	C プログラミングによる実装
第 8 週	C プログラミングによる実装
第 9 週	コンピュータシミュレーションの基礎
第１０週	コンピュータシミュレーションの基礎
第１１週	コンピュータシミュレーションの基礎
第１２週	研究テーマに関する調査
第１３週	研究テーマに関する調査
第１４週	研究テーマ調査の発表
第１５週	演習のまとめ

《経済ビジネスコース科目》

科 目 名	経営学総論				
担当者名	竹川　宏子				
授業方法	講義	単位・必選	4・選必	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
私たちを取り巻く社会は、目まぐるしく変化している。とりわけ 20 世紀に大きく進展した情報化・国際化の流れは、社会を大きく変化させることとなった。これらの変化の主な要因として考えられるのが、大企業の登場である。この授業では、企業と私たちが直接かかわる身近な問題から入り、企業と社会とのかかわり、企業活動の本質などについて解説する。なお、企業にかかわる大きなニュースについては、随時、テキストの範囲を超えてトピックスとして取り上げていきたい。

《授業の到達目標》
○社会における企業の役割を理解できるようになる。
○株式会社の制度と意味について理解できるようになる。
○企業活動の内容（経営の諸機能、経営管理、経営戦略）について理解できるようになる。
○社会の変化と企業の対応（国際経営、環境経営、非営利組織）について理解できるようになる。
○これからの企業のあり方や組織での働き方について考えられるようになる。

《テキスト》
周佐喜和、竹川宏子、辻井洋行、仲本大輔 著『経営学１－企業の本質－』実教出版、2009 年。
周佐喜和、竹川宏子、辻井洋行、仲本大輔 著『経営学２－グローバル・環境・情報化社会とマネジメント－』実教出版、2009 年。

《参考文献》
守屋貴司、近藤宏一、小沢道紀 著『はじめの一歩　経営学』ミネルヴァ書房、2007 年。

《成績評価の方法》
全回出席を前提としたうえで、定期試験 80%（なお、試験はテキスト等の「持ち込み不可」にて実施する）、課題レポート作成を 20%として評価する。

《授業時間外学習》
連絡用のメールアドレスは、第１回講義の際に伝える。
予習は、テキストの該当箇所を読んでくること（該当箇所は、第１回目の授業時に提示する）。
復習は、授業のノートを見返して疑問点を考えてくることとする。

《備考》
経営学は実学であるから、現実社会の企業関連ニュースに対して、常に関心を持って接することが必要である。また、将来の自分の仕事について調べたり考えたりすることも経営学を学ぶことにつながるので、知識を詰め込むだけでなく、意欲的に学ぶことを期待する。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	授業の概要説明と進め方 現代企業における企業経営
第 2 週	企業活動と利害関係者
第 3 週	株式会社の制度と意味
第 4 週	財務と会計
第 5 週	人的資源管理
第 6 週	生産管理
第 7 週	マーケティング
第 8 週	経営管理
第 9 週	経営戦略
第１０週	グローバリゼーションと企業
第１１週	多国籍企業の経営戦略
第１２週	環境経営
第１３週	多様化する組織と企業
第１４週	事例研究《ＶＴＲ視聴》
第１５週	授業のまとめ

《経済ビジネスコース科目》

科 目 名	簿記論				
担当者名	三宅伸二				
授業方法	演習	単位・必選	4・選必	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
週２回の授業があるので、基本的には、週の最初の時間は基本的な内容について簿記の原理的解説を行う。次の時間に解説した内容に関連する問題を解き、知識の定着を図る。

《授業の到達目標》
会計学の基礎となる簿記の知識と技術の習得

《テキスト》
使用しないが、合格テキスト日商簿記３級 Ver.3.0（TAC 出版）に準拠して授業を行う。持っていれば役に立つ。

《参考文献》
授業中に指示する

《成績評価の方法》
到達度確認試験（３回）の状況（９０％）と宿題（１０％）で評価します。

《授業時間外学習》
その日の授業に係る内容の宿題を出しますので、次回授業時に提出してください。

《備考》
簿記の知識は実社会に出てから必要になります。この機会にしっかりマスターし、日商簿記検定３級、２級を取得してください。そして、さらにプロフェッショナルな会計人として国税専門官、税理士,公認会計士などを目指してください。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	簿記の基礎１（勘定と仕訳）
第 2 週	簿記の基礎２（勘定記入と試算表）
第 3 週	商品売買１（三分法）
第 4 週	商品売買２（返品・値引き）
第 5 週	現金・預金
第 6 週	手形取引１
第 7 週	手形取引２
第 8 週	前受金・前払金／仮払金・仮受金
第 9 週	固定資産
第１０週	試算表１
第１１週	試算表２
第１２週	決算手続き１（精算表）
第１３週	決算手続き２（現金過不足、消耗品、売上原価）
第１４週	決算手続き３（貸倒引当金、減価償却、繰延・見越し）
第１５週	伝票会計

《経済ビジネスコース科目》

科 目 名	財政学Ⅰ				
担当者名	水野　利英				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
財政について、制度、現状、経済学の基礎的な応用を含め、全般的な説明をします。

《授業の到達目標》
財政について、ひと通りのことを知ること

《テキスト》
なし。毎回、講義ノートを配る予定です。

《参考文献》
授業の中で指示します。
講義ノートなど、講義に関連した材料をhttp://tmizuno.la.coocan.jp/においておく予定です。

《成績評価の方法》
最終試験によります。(100%)

《授業時間外学習》
毎回講義ノートを配布しておくので、復習しておくこと 。

《備考》
財政学は、「少子高齢化」時代の鍵となる、もっとも重要な応用経済分野です。財政学について、基本的な理解がないと、ニュースや新聞がわからないだけでなく、お年寄りと会話することもできません。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	イントロダクション
第 2 週	日本財政の現状
第 3 週	予算制度
第 4 週	市場経済の限界と財政の役割
第 5 週	公共財
第 6 週	税の分類・租税原則
第 7 週	税の現状・所得税
第 8 週	法人税・消費税
第 9 週	税の効果
第１０週	公的年金
第１１週	公的年金
第１２週	地方財政
第１３週	公共事業と財政投融資
第１４週	公債と財政政策
第１５週	予備日、試験

《経済ビジネスコース科目》

科 目 名	財政学Ⅱ				
担当者名	水野　利英				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
日経新聞から、財政関係の資料を取ってきて、検討するとともに、社会保障などについては、データを用いて、現状を分析します。下の計画は一例で、そのとき話題になっているテーマによって、下の計画と具体的な内容は、変わってきます。出席者が少ないときは、演習方式にして、何回か発表してもらいます。

《授業の到達目標》
今、財政で問題になってテーマを考えるとともに、それらの問題についてデータを用いて、検討できる能力を養います。

《テキスト》

なし。

《参考文献》

授業の中で指示します。

《成績評価の方法》
レポートと発表など(100%)

《授業時間外学習》
日頃から、財政関係のニュースを見たり、新聞記事を読んで、問題意識を高めておくこと。

《備考》
この講義では、積極的な参加が要されます。日頃から、どんな問題が話題になっているか、新聞を注意して読んでおいてください。新聞の経済関係の記事を読まない(読めない)ようでは、就職活動も期待できません。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	年金改革と税制改正(I)
第 2 週	年金改革と税制改正(II)
第 3 週	年金改革と税制改正(III)
第 4 週	年金改革と税制改正(IV)
第 5 週	健康保険・高齢者医療制度と介護保険(I)
第 6 週	健康保険・高齢者医療制度と介護保険(II)
第 7 週	健康保険・高齢者医療制度と介護保険(III)
第 8 週	健康保険・高齢者医療制度と介護保険(IV)
第 9 週	24年度予算の検討(I)
第１０週	24年度予算の検討(II)
第１１週	24年度予算の検討(III)
第１２週	24年度予算の検討 (IV)
第１３週	24年度予算の検討(V)
第１４週	24年度予算の検討(VI)
第１５週	予備日、報告など

《経済ビジネスコース科目》

科 目 名	産業組織論Ⅰ				
担当者名	石原　敬子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》

産業組織論（Industrial Organization)は、われわれの周辺にある現実の諸産業を研究対象とするものである。ここではたんに現状を分析するにとどまらず、さらに進んで、政策のあり方を論じることが多い。事実、この領域での研究成果は、現実の競争政策や規制改革の理論的基礎を提供している。

そこで、この講義では、主として政策論的視点に立って、産業組織論の基礎理論と近年の新しい動向を中心に解説する。具体的には、まず、(1) 自由主義経済の基本的特徴について考察し、この経済体制において競争が促進されるべき根拠を確認する。次いで、(2) 産業組織分析に用いられる基礎的な概念やゲーム理論について解説する。そして、(3) 規制改革の具体例、競争政策の領域での政策論争をとりあげ、諸産業に対する政策の方向性について考察したい。

《授業の到達目標》

・われわれの生活している自由主義経済の基本的特徴、市場のはたらきとその限界について理解する。
・産業組織分析の基本的概念や基礎理論を理解する。
・競争政策や規制緩和など、現実産業に対する政策のあり方について考察するための基礎知識を身につける。

《テキスト》

伊藤元重著『ミクロ経済学（第2版)』日本評論社、2003年。(2年次の「ミクロ経済学」で使用したテキスト。第3～5週、第8週、第10・11週に使用する)
その他、適宜プリントを配布する。

《参考文献》

泉田成美・柳川隆著『プラクティカル　産業組織論』有斐閣、2008年。
井手秀樹・鳥居昭夫・竹中康治著『入門・産業組織』有斐閣、2010年。
新庄浩二編著『産業組織論（新版)』有斐閣、2003年。
石原敬子著『競争政策の原理と現実』晃洋書房、1997年。
その他、適宜授業時に紹介する。

《成績評価の方法》

・平常点（授業時に取り組む課題）および学期末の筆記試験をもって評価する。評価の割合は、平常点30%、期末テスト70%とする。

《授業時間外学習》

・毎時間、プリントを配布して授業を進める。次の時間までに授業内容をしっかりと復習しておくこと。
・学期末には、復習のための勉強会を開催する予定である。積極的に参加しよう。

《備考》

・授業内容を理解するには、基礎からの積み重ねが重要となる。毎回必ず出席し、わからないことをそのままにせず、理解に努めていただきたい。質問は随時受け付ける。
・1回目の講義のときに、この授業の概要と受講に際しての注意事項を説明する。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	産業組織論の概要とこの講義の特徴
第 2 週	自由主義経済の基本的特徴
第 3 週	価格理論による分析（1)：　完全競争市場の長期均衡
第 4 週	価格理論による分析（2)：供給独占の理論
第 5 週	価格理論による分析（3)：独占的価格設定と資源配分
第 6 週	自由主義経済と競争の役割（1)：・経済的自由の保障　・競争の情報伝達機能
第 7 週	自由主義経済と競争の役割（2)：・資源配分効率　　・生産効率　・技術革新の推進
第 8 週	「市場の失敗」と政府の役割
第 9 週	産業組織分析（1)：市場構造に関する分析
第１０週	産業組織分析（2)：協調のメカニズム
第１１週	産業組織分析（3)：参入阻止行動
第１２週	産業組織分析（4)：現実政策への適用
第１３週	競争政策の基礎理論（1)：ハーバード学派の政策論
第１４週	競争政策の基礎理論（2)：シカゴ学派の政策論
第１５週	学習のまとめ

《経済ビジネスコース科目》

科 目 名	産業組織論Ⅱ				
担当者名	石原　敬子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

競争政策は、自由主義経済において根本的に重要な経済政策と位置づけられており、世界各国で施行されている。産業組織論は、競争政策の基礎理論として発展してきた経緯があり、ここでの研究成果は、現実の政策施行に経済学的根拠を提供している。そこで、この講義では、産業組織論の領域でのさまざまな分析をとりあげながら、競争政策の役割とそのあり方について勉強する。

具体的には、まず、(1) 競争政策の目的、(2) アメリカの反トラスト政策と日本の独禁政策の歩み・現実政策の動向について解説する。その後、(3) 近年の規制緩和の動きや (4) 競争政策の具体的な内容（カルテル規制、合併規制、不公正な取引方法に対する政策など）について、これらの政策の背景にある経済学的な考え方を理論分析もとりあげながら学び、現実政策のあり方について考察する。

《授業の到達目標》

・われわれが生活している自由主義経済の基本的特徴と競争政策の役割について理解を深める。
・現実の産業に対する政策のあり方について考察するための知識を身につける。

《テキスト》

泉田成美・柳川隆著『プラクティカル　産業組織論』有斐閣、2008年。
その他、適宜プリントを配布する。

《参考文献》

小田切宏之著『競争政策論　独占禁止法事例とともに学ぶ産業組織論』日本評論社、2008年。
土井教之編著『産業組織論入門』ミネルヴァ書房、2008年。
川濱昇・瀬領真悟・泉水文雄・和久井理子著『ベーシック経済法　独占禁止法入門(第3版)』有斐閣、2010年。
R.ピトフスキー編・石原敬子・宮田由紀夫訳『アメリカ反トラスト政策論』晃洋書房、2010年。
石原敬子著『競争政策の原理と現実』晃洋書房、1997年。
その他、授業時に適宜紹介する。

《成績評価の方法》

・平常点（授業時に取り組む課題）および学期末の筆記試験をもって評価する。評価の割合は、平常点30%、期末テスト70%とする。

《授業時間外学習》

・毎時間、プリントを配布して授業を進める。次の時間までに授業内容をしっかりと復習しておくこと。
・学期末には、復習のための勉強会を開催する予定である。積極的に参加しよう。

《備考》

・第1回目の講義のときに、この授業の概要と受講に際しての注意事項を説明する。
・この講義を受講するには、「産業組織論Ⅰ」を履修済みであることが望ましい。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	授業の概要、受講上の注意 アメリカの反トラスト政策（1）：シャーマン法制定と第2次世界大戦までの政策路線
第 2 週	アメリカの反トラスト政策（2）：市場構造主義の時代・自由放任主義の時代
第 3 週	アメリカの反トラスト政策（3）：1990年代以降の動向
第 4 週	日本の独占禁止政策と産業政策（1）：独占禁止法制定から1970年代までの政策
第 5 週	日本の独占禁止政策と産業政策（2）：1980年代以降の動向
第 6 週	自然独占と規制（1）：・自然独占とは ・公正報酬率規制とアバーチ・ジョンソン効果
第 7 週	自然独占と規制（2）：自然独占分野での政策のあり方について
第 8 週	参入の経済効果（1）：コンテスタブル市場理論
第 9 週	参入の経済効果（2）：参入規制の経済効果と規制緩和
第１０週	寡占市場の理論：クールノーモデルを用いた分析
第１１週	カルテル・談合
第１２週	合併と企業結合規制
第１３週	不公正な取引方法について（1）：・略奪的価格設定、・再販価格維持行為
第１４週	不公正な取引方法について（2）：・抱き合わせ販売　・優越的地位の濫用
第１５週	学習のまとめ

《経済ビジネスコース科目》

科 目 名	国際経済論Ⅰ				
担当者名	梶山　国宏				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
貿易、国際投資、マクロ経済の相互依存や経済統合など、複数の国にまたがる経済活動や経済現象はグローバル化の進展とともに年々重要性を増しています。この科目では、国際貿易の仕組みと貿易政策の意義を理解するために必要な基礎理論を学ぶことを目的とした講義を行います。講義では理論の説明は必要最小限にとどめ、内容はできるだけ平易なものになるよう心がけます。国際経済に対する興味・関心を誘うため、講義内容に関連した新聞・雑誌の経済記事や資料映像（ビデオ）なども適宜とりあげます。

《授業の到達目標》
○各国はなぜ貿易をするのか、また各国は何を輸出し、何を輸入するかについて説明できるようになる。
○輸出財と輸入材の交換比率はどのように決まるのかを説明できるようになる。
○貿易からの利益はどのようなものか説明できるようになる。
○貿易政策（特に関税）の経済効果について説明できるようになる。

《テキスト》
仙頭佳樹『最もやさしい国際経済学』（多賀出版）

《参考文献》
大川昌幸『コア・テキスト国際経済学』（新世社）
石川城太・菊地徹・椋寛『国際経済学をつかむ』（有斐閣）

《成績評価の方法》
・授業中の質疑応答などへの参加状況やノートテイキングなどの平常点評価 20%。
・中間テスト 20%。
・定期試験（参照不可で実施する）60%。

《授業時間外学習》
・予習の方法
指定されたテキストの次回予定された内容の箇所は事前に必ず読み疑問点をチェックしておいてください。
・復習の方法
講義修了後、ノートで前回の講義内容を確認し、疑問点があれば次回までにメールで質問事項を送ってください。

《備考》
・現実の国際経済問題に対する理解を深めるためには、常に最新の経済情報に接している必要があるので、新聞・雑誌の経済記事を講読する習慣をつけ、国際経済問題をとりあげた報道番組やドキュメンタリーなども関心をもって見るようにしてください。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	国際分業の基礎１　比較生産費説・2財のケース
第 2 週	国際分業の基礎２　比較生産費説・多数財のケース
第 3 週	国際分業の基礎３　比較生産費説への批判と国際競争力指標
第 4 週	国際分業の基礎４　ヘクシャー・オリーン理論とレオンティエフ逆説
第 5 週	国際分業の基礎５　プロダクト・サイクル論
第 6 週	国際貿易の一般均衡理論１　自給自足経済での均衡
第 7 週	国際貿易の一般均衡理論２　貿易がある場合の均衡・小国のケース
第 8 週	貿易からの利益　貿易利益と交易条件
第 9 週	産業内貿易　規模の経済と産業内貿易
第１０週	まとめと中間テスト
第１１週	貿易政策１　貿易政策の目的と手段
第１２週	貿易政策２　輸入関税の経済効果・部分均衡分析
第１３週	貿易政策３　ストルパー・サミュエルソン定理と有効保護率
第１４週	貿易政策４　保護貿易主義
第１５週	学習のまとめ

《経済ビジネスコース科目》

科 目 名	国際経済論Ⅱ				
担当者名	梶山　国宏				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
貿易、国際投資、マクロ経済の相互依存や経済統合など、複数の国にまたがる経済活動や経済現象はグローバル化の進展とともに年々重要性を増しています。この科目では、国際経済のマクロ的側面を理解するために必要な基礎理論を学ぶことを目的とした講義を行います。講義では理論の説明は必要最小限にとどめ、内容はできるだけ平易なものになるよう心がけます。国際経済に対する興味・関心を誘うため、講義内容に関連した新聞・雑誌の経済記事や資料映像（ビデオ）なども適宜とりあげます。

《授業の到達目標》
○国際収支の構造を理解し、国際収支表の内容を説明できるようになる。
○開放経済における国民所得の決定メカニズムを説明できるようになる。
○地域統合の具体的形態と経済効果について説明できるようになる。
○直接投資の具体的方法と経済効果について説明できるようになる。

《テキスト》
仙頭佳樹『最もやさしい国際経済学』（多賀出版）

《参考文献》
大川昌幸『コア・テキスト国際経済学』（新世社）
石川城太・菊地徹・椋寛『国際経済学をつかむ』（有斐閣）

《成績評価の方法》
・授業中の質疑応答などへの参加状況やノートテイキングなどの平常点評価 20%。
・中間テスト 20%。
・定期試験（参照不可で実施する）60%。

《授業時間外学習》
・予習の方法
指定されたテキストの次回予定の箇所を事前に必ず読み疑問点をチェックしておいてください。
・復習の方法
講義修了後、ノートで前回の講義内容を確認し、疑問点があれば次回までにメールで質問事項を送ってください。

《備考》
・現実の国際経済問題に対する理解を深めるためには、常に最新の経済情報に接している必要があるので、新聞・雑誌の経済記事を講読する習慣をつけ、国際経済問題をとりあげた報道番組やドキュメンタリーなども関心をもって見るようにしてください。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	国際収支表１　経常収支
第 2 週	国際収支表２　資本収支
第 3 週	為替レート１　為替取引と外国為替市場
第 4 週	為替レート２　為替レート制度と為替レートの決定理論
第 5 週	所得分析と乗数理論１　国民所得水準の決定
第 6 週	所得分析と乗数理論２　外国貿易乗数
第 7 週	所得分析と乗数理論３　景気変動の国際的波及
第 8 週	貿易不均衡の分析１　国際収支調整策
第 9 週	貿易不均衡の分析２　アブソープション・アプローチ
第１０週	まとめと中間テスト
第１１週	地域経済統合１　地域統合の諸形態
第１２週	地域経済統合２　地域統合の具体例
第１３週	直接投資１　多国籍企業と企業内貿易
第１４週	直接投資２　直接投資の経済効果
第１５週	学習のまとめ

《経済ビジネスコース科目》

科 目 名	証券市場論				
担当者名	高本　茂				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
現代の経済は財・サービスの取引（実物取引）に対してお金の取引（マネー経済）が数倍・数十倍の規模に拡大している。マネー経済の実情と動向を知ることなしには、現代経済社会の仕組みは理解できなくなっている。ビジネスの世界で生きていくためには、新聞の経済記事を自由自在に読みこなせなければならないが、その場合ネックになるのが金融面・証券面の特殊用語・専門用語である。本講義では株式の話を中心に幅広く経済全般の知識を身につけ、新聞の経済を読みこなせるようになることを目標にしたい。
毎時間、授業の最初にどれかトピックスを選んで、経済記事を一本解説する。なお授業では高等数学などは使わないが算数は使うので、ポケット電卓を常時持参されたい。期末試験にも計算問題を出題する。

《授業の到達目標》
証券市場は経済社会の心臓部である。証券市場の存立意義と仕組みを中心に、広く経済のシステムと経済現象全般についての幅広い知識を身につけることを目標にしたい。金融機関（銀行・保険会社・証券会社）以外の企業に就職する人にも役立つような授業をするつもりである。

《テキスト》
独自に作成したプリントをテキストとして用いる。

《参考文献》
『経済のことがおもしろいほどわかる本（株と投資入門編）』　岩本秀雄（中経出版）
『入門の入門・”株”の仕組み』　杉村富生（日本実業出版社）

《成績評価の方法》
期末に学期全体で学んだ全般的範囲についてペーパーテスト（50%）を行う。日頃の学習態度（50%）を考慮する。

《授業時間外学習》
新聞の経済記事をよく読むこと。

《備考》
難しい講義はするつもりはなく、極力わかりやすい授業をするつもりですが、無断欠席を繰り返していくとわからなくなるので、毎回必ず出席して下さい。授業中の私語も厳禁！
なお、下記に授業計画を示すが、授業の進行状況により若干変更することもある。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	(1) 「証券市場論」を学ぶ意義：①現代経済社会の現状　②株式と株式会社
第 2 週	(1) 「証券市場論」を学ぶ意義：③株式会社の仕組み　④金融と金融市場
第 3 週	(2) 株式投資の基本：①有価証券としての株式の本質　②株式売買　③株式投資に必要なもの
第 4 週	(3) 株式市場の成り立ち：①株式市場の参加者　②証券会社の役割と業務
第 5 週	(3) 株式市場の成り立ち：③証券業界の実態　④証券業界の直面する課題
第 6 週	(4) 株価の決定要因：①企業業績と株価（ファンダメンタル分析）　②投資の尺度 ③売買時期の選択（チャート分析）
第 7 週	(4) 株価の決定要因：④株価指数（市場全体の動向、マクロ的要因）⑤信用取引
第 8 週	(5) 公社債市場：①公社債（債券）市場　②様々な利回り
第 9 週	(5) 公社債市場：③社債の発行形態　④公社債とリスク
第１０週	(5) 公社債市場：⑤金利の期間構造理論　⑥転換社債　⑦ワラント債
第１１週	(6) 金融派生商品（デリバティブ）：①先物取引
第１２週	(6) 金融派生商品（デリバティブ）：②オプション取引　③スワップ取引
第１３週	(7) 大暴落の研究：①暴落の背景　②暴落のメカニズム
第１４週	(7) 大暴落の研究：③アメリカのブラックマンデーと日本の平成大暴落
第１５週	(7) 大暴落の研究：④リーマン危機と世界同時不況

《経済ビジネスコース科目》

科 目 名	経営戦略論Ⅰ				
担当者名	竹川　宏子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
経済は好況と不況を繰り返している。そのような景気の変動の中で企業を存続させ、成長させることが大変困難であることは、昨今の大企業の倒産を見れば明らかである。しかしながら、厳しい経済状況であるにもかかわらず、利益をあげている企業もまた存在する。その成長をもたらしているものは何か？それはその企業の経営戦略を見れば明らかになる。別の言い方をすれば、近所で人気のカフェは「良い戦略」を採用しているかもしれないし、あまり人の入らない定食屋は「間違った戦略」を採用しているかもしれないということである。この授業では、経営戦略とは何か、経営戦略をどのようにして策定していくのかについて、基本的な経営戦略の考え方と理論を学ぶ。

《授業の到達目標》
○経営戦略の本質を理解することができるようになる。
○基本的な戦略の理論を理解することができるようになる。
○社会や競争環境の変化に応じて積極的な戦略を考えることができるようになる。

《テキスト》
佐久間信夫、芦澤成光 編著『経営戦略論』創成社、2004年。

《参考文献》
山倉健嗣 著『新しい戦略マネジメント』同文館出版、2007年。

《成績評価の方法》
全回出席を前提としたうえで、
・定期試験90%（なお、試験はテキスト等の「持ち込み不可」にて実施する）
・課題レポート作成を10%
として評価する。

《授業時間外学習》
連絡用のメールアドレスは、第1回講義の際に伝える。
予習は、テキストの該当箇所を読んでくること（該当箇所は、第1回目の授業時に提示する）。
復習は、授業のノートを見返して分からない点をピックアップしてくること。

《備考》
企業戦略に関わる話題は、実は私たちの身近でたくさん見ることができる。自分の身近にある店や会社をよく観察し、原因を考えてみてほしい。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	講義の概要と進め方
第 2 週	経営戦略とは何か 経営戦略学習の意義
第 3 週	経営戦略の理論①
第 4 週	経営戦略の理論②
第 5 週	企業の環境分析
第 6 週	企業の内部分析
第 7 週	事業ドメインの策定と決定①
第 8 週	事業ドメインの策定と決定②
第 9 週	競争戦略；業界の収益性を決める５つの要因
第１０週	競争戦略；競争戦略の基本モデル
第１１週	競争戦略；コア・コンピタンス
第１２週	事例研究《VTR 視聴》
第１３週	統合的マーケティング戦略①
第１４週	統合的マーケティング戦略②
第１５週	授業のまとめ

《経済ビジネスコース科目》

科 目 名	経営戦略論Ⅱ				
担当者名	竹川　宏子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
経済は好況と不況を繰り返している。そのような景気の変動の中で企業を存続させ、成長させることが大変困難であることは、昨今の大企業の倒産を見れば明らかである。しかしながら、厳しい経済状況であるにもかかわらず、利益をあげている企業もまた存在する。その成長をもたらしているものは何か？それはその企業の経営戦略を見れば明らかになる。別の言い方をすれば、近所で人気のカフェは「良い戦略」を採用しているかもしれないし、あまり人の入らない定食屋は「間違った戦略」を採用しているかもしれないということである。この授業では、経営戦略とは何か、経営戦略をどのようにして策定していくのかについて、基本的な経営戦略の考え方と理論を学ぶ。

《授業の到達目標》
○経営戦略の本質を理解することができるようになる。
○基本的な戦略の理論を理解することができるようになる。
○社会や競争環境の変化に応じて戦略を考えることができるようになる。

《テキスト》
佐久間信夫、芦澤成光 編著『経営戦略論』創成社、2004年。

《参考文献》
山倉健嗣 著『新しい戦略マネジメント』同文館出版、2007年。

《成績評価の方法》
全回出席を前提としたうえで、
・定期試験90%（なお、試験はテキスト等の「持ち込み不可」にて実施する）
・課題レポート作成を10%
として評価する。

《授業時間外学習》
連絡用のメールアドレスは、第1回講義の際に伝える。
予習は、テキストの該当箇所を読んでくること（該当箇所は、第1回目の授業時に提示する）。
復習は、授業のノートを見返して分からない点を調べてくること。

《備考》
当該科目を履修する上で履修しておくことが望ましい科目は「経営戦略論Ⅰ」である。
企業の経営に関する話題には、日常的に関心を払っていることが望ましい。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	講義の概要と進め方
第 2 週	提携戦略とM&A①
第 3 週	提携戦略とM&A②
第 4 週	経営資源の展開と競争優位の構築①
第 5 週	経営資源の展開と競争優位の構築②
第 6 週	イノベーションと研究開発①
第 7 週	イノベーションと研究開発①
第 8 週	経営戦略と組織①
第 9 週	経営戦略と組織②
第１０週	事例研究《VTR視聴》
第１１週	非営利組織の経営戦略①
第１２週	非営利組織の経営戦略②
第１３週	情報ネットワーク化と経営戦略①
第１４週	情報ネットワーク化と経営戦略②
第１５週	授業のまとめ

《経済ビジネスコース科目》

科 目 名	財務諸表論Ⅰ				
担当者名	沖野　光二				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》

本講義は、会計学（2年Ⅱ期配当科目）の上位科目であり、財務諸表論の入門及び基礎レベルを一通り取り扱う予定です。認識対象、制度的基礎、会計公準と一般原則、費用の会計、収益の会計、資本の会計を中心に説明し、講義を進めて行きます。

具体的には費用の会計では、現金主義、発生主義、費用概念、費用認識と資産化を扱い、収益の会計では、収益概念、現金主義、実現主義、販売主義、費用収益対応の原則を扱い、さらに資本の会計では、資本概念、資本の構成と分類、利益処分を扱う予定です。

特に、費用収益対応の原則と資本概念を正確に理解できるように進めて行きます。

Ⅱ期開講予定の財務諸表論Ⅱを受講希望する者は、この科目が先修要件としているので、必ず合格する様にして下さい。財務諸表論Ⅰの内容を理解していなければ（単位取得できなければ）、財務諸表論Ⅱは、レベル的にも時間的にも勉強できません。

《授業の到達目標》

財務諸表論は、株主、債権者等、企業を取り巻く企業外部の各種利害関係者に対し、企業の財政状態（貸借対照表又は財政状態計算書）、経営成績（損益計算書又は包括利益計算書）、現金及び現金等価物の変動状態（キャッシュフロー計算書）、資本構成（株主持分変動計算書）等に関する会計情報を、財務諸表（Financial Statements）を媒介にして、企業経営者が提供することを目的とする財務会計の学問です。経営者、従業員等の企業内部の利害関係者への報告を目的とする管理会計としばしば対比されます。

会社法及び金融商品取引法に基づき作成される２種類の公表財務諸表は、企業の活動状況を企業外部のわれわれが知ることのできる法的根拠のある開示情報です。法務省法務局の登記簿情報の開示などを除いて、この他の方法による企業情報の獲得手段には、法的根拠がありません。法的根拠があるということは、情報を作成し開示するための統一したルールが必ずあります。この公表財務諸表作成のルールとルール制定に至る理論を学ぶのが財務諸表論です。

《テキスト》

武田隆二著　『会計学一般教程（第７版）』 中央経済社
その他、後日案内する。

《参考文献》

中央経済社編『新版会計法規集（第２版）』中央経済社
古賀智敏著『価値創造の会計学』税務経理協会
武田隆二著『最新財務諸表論(第 11 版)』中央経済社
田中弘著『財務諸表論を学ぶための会計用語集』税務経理協会
田中弘著『複眼思考の会計学―国際会計基準は誰のものか』税務経理協会
友杉芳正ほか編著『財務情報の信頼性―会計と監査の挑戦』税務経理協会
あずさ監査法人 IFRS 本部編著『IFRS の固定資産会計』中央経済社
岩谷誠治著『システム開発のための収益認識プロセスと会計の接点』中央経済社

《成績評価の方法》

出席態度を前提として、「論述式の」定期試験の結果（100 点）で評価する。なお、教育的見地から評価を調整（加点および減点）する場合もある。テキストは必ず購入して講義に臨むこと。

《授業時間外学習》

財務諸表論の理論を体系的に学ぶためには、実務に適用されているルールを同時に理解する必要があります。このルールは上記参考文献に掲載した「新版会計法規集」に体系的にまとめられています。法規集を手元に置いて教科書や参考文献を読み進めると効率的に学習できます。

《備考》

財務諸表論の勉強ももちろんのことですが、「知識を獲得すること」（所有すること）は、最適な行動をとるという目的をなすための「手段」にすぎません。「知識は活用する（利用する）」ために存在意義があります。知識のインプット（例えば、講義でノートをとることや図書館で調べる事をすることなど）は、アウトプットの前提にすぎません。用語や概念の定義やその関係（体系）を第三者に説明するために紙の上に記述（アウトプット）できなければ、その知識について活用できるレベルで理解したとは言えません。

用語や概念の定義が、まず書けないと、自らの考えを論述することは、不可能です。財務諸表論のアウトプット･トレーニングの参考文献を紹介しますので、今からすぐにトレーニングしましょう。

１．田中弘著　『財務諸表論－合格する答案を書くトレーニング－（第２版）』　税務経理協会
２．田中弘著　『財務諸表論の学び方－合格答案を書く技法』　税務経理協会
３．武田隆二著　『論述式合格答案作成のシナリオ』　ＴＡＣ出版

上記３冊は、テニヲハの付け方や論文展開の構成を解説するたぐいの本とは一線を画します。アウトプットができるためのインプットを日ごろからできる様にする考え方が解説してあります。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	講義ガイダンス
第 2 週	会計の認識対象と財務会計の位置づけ　（財務会計・管理会計・制度会計・情報会計・外部報告会計・内部報告会計の関係及び国際会計基準への対応）
第 3 週	法と会計、会計公準と一般原則
第 4 週	一般原則の内容と会計情報基準の体系
第 5 週	産業構造の変化と会計モデル（プロダクト型、ファイナンス型、ナレッジ型）
第 6 週	費用会計（その１）
第 7 週	費用会計（その２）
第 8 週	収益会計（その１）
第 9 週	収益会計（その２）
第１０週	費用収益対応の原則
第１１週	損益計算の構造
第１２週	資本会計（その１）
第１３週	資本会計（その２）
第１４週	計算書類の範囲と業績報告（株主資本等変動計算書の位置付け）
第１５週	まとめ

《経済ビジネスコース科目》

科 目 名	財務諸表論Ⅱ				
担当者名	沖野　光二				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

本講義は、財務諸表論Ⅰの後継上位科目としての性格を有しています。損益計算書論、貸借対照表論、連結財務諸表論を中心に説明し、講義を進めて行きます。

具体的には、損益計算書の構造と貸借対照表の本質、棚卸資産の払出単価の算定方法、固定資産の減価償却方法、債権の評価方法、引当金の本質・計上要件と分類、連結財務諸表の基礎を扱う予定です。

《授業の到達目標》

財務諸表論Ⅰを参照のこと。

知識のアウトプット・トレーニングを意識したインプット方法。

《テキスト》

武田隆二著　『会計学一般教程（第７版）』　中央経済社

その他、後日案内する。

《参考文献》

International Financial Reporting Standards, "2010 International Financial Reporting Standards IFRS as issued at 1 January 2010," (ISBN-13:978-1-907026-7)

国際会計基準委員会財団編　『国際財務報告基準 IFRS 2009』　中央経済社

Pricewaterhousecoopers, "Manual of Accounting - UK GAAP 2010," CCH (ISBN-13:978-1847982315)

Deloitte iGAAP 2010, "Financial Statements for UK Listed Groups," LexisNexis UK(ISBN-13:978-0754537700)

Deloitte ukGAAP 2010, "Financial Reporting for UK Unlisted Entities,"LexisNexis UK(ISBN-13:978-0754538042)

Deloitte ukGAAP 2009, "Financial Statements for Unlisted Groups," LexisNexis UK(ISBN-13:978-0754535850)

古賀智敏著　『知的資産の会計：マネジメント・測定・開示』　東洋経済新報社

古賀智敏監修　『会計基準のグローバリゼーション』　同文館

古賀智敏ほか著　『IFRS 国際会計基準と日本の会計実務（第３版）』　同文館

山田真哉著　『女子大生会計士の事件簿』『同２』『同３』『同４』『同５』『同６』　英治出版

日本公認会計士協会編　『監査実務指針ハンドブック（平成 22 年版）』　第一法規

安藤英義（編代表）　『会計学大辞典（第五版）』　中央経済社

神戸大学会計学研究室編　『会計学辞典（第六版）』　同文館

財務諸表論Ⅰも参照のこと。

《成績評価の方法》

出席態度を前提として、「論述式の」定期試験の結果（100 点）で評価する。なお、教育的見地から評価を調整（加点および減点）する場合もある。テキストは必ず購入して講義に臨むこと。

《授業時間外学習》

財務諸表の作成にあたってのルールが国際標準化に向かっている。上記参考文献を手始めに自学自習を求めたい。特に上記参考文献の１冊目は、財務諸表作成の国際ルールとなる国際財務報告基準の最新版であり、２冊目は 2009 年度版の和訳版で、日本語の最新版であるので是非とも目を通すことを希望します。

《備考》

財務諸表論Ⅰも参照のこと。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	講義ガイダンス、アウトプット・トレーニングの意義
第 2 週	損益計算書論（その１）
第 3 週	損益計算書論（その２）
第 4 週	損益計算書論（その３）、包括利益計算書（Statement of Comprehensive Income）
第 5 週	貸借対照表論（その１）
第 6 週	貸借対照表論（その２）
第 7 週	貸借対照表論（その３）
第 8 週	貸借対照表論（その４）
第 9 週	貸借対照表論（その５）
第１０週	貸借対照表論（その６）、財政状態計算書（Statement of Financial Position）
第１１週	キャッシュフロー計算書（その１）、直説法と間接法
第１２週	キャッシュフロー計算書（その２）
第１３週	連結財務諸表の基礎（その１）、本支店合併財務諸表との比較
第１４週	連結財務諸表の基礎（その２）
第１５週	まとめ

《経済ビジネスコース科目》

科 目 名	情報会計論Ⅰ				
担当者名	沖野　光二				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》

本講義では、企業情報のディスクロージャー制度を取り扱い、実際の企業の財務情報（決算広告や有価証券報告書など）を入手し、分析し、読解することを内容とします。

講義科目名にある「情報」の意味は、イコール「コンピュータ」ではありませんので、毎回コンピュータを受講生が操作する講義ではありません。必要に応じて、Web ページの閲覧などで、コンピュータ環境を利用します。

《授業の到達目標》

簿記や会計学概論の履修により、簿記会計特有の計算構造（借方・貸方の複式仕訳と貸借一致の原則など）を習得しましたが、その知識の役割は、①財務情報の作成（経営管理者、会計担当者に必要）と②財務情報の利用（あらゆる利害関係者に必要）の大きく２つの側面があります。情報会計論は、②の財務情報利用者（User oriented）の立場から会計理論を考え、企業等の情報提供者は、いかなる基準で情報を作成し、発信すべきかを理論付ける分野です。

財務情報利用者は、企業を取り巻く各種利害関係者（Stakeholders）に該当しますが、その中にあなた方も就職予備軍・投資家予備軍として含まれております。就職希望企業の経営情勢予測（成長途上か衰退の一途か）を見極められる為にも、財務情報の分析・解読ができる能力（スキル）を身につけておくことが王道ではないでしょうか。

《テキスト》

後ほど指定します。

《参考文献》

河﨑照行編著『ネットワーク社会の税務・会計』税務経理協会
河﨑照行編著『電子情報開示のフロンティア』中央経済社
河﨑照行編著『e ディスクロージャー:電子情報開示の理論と実践』中央経済社
日経産業新聞編『市場占有率(最新版)』日本経済新聞社
日本経済新聞社編『日経業界地図（最新版）』日本経済新聞社
新日本有限責任監査法人編著『会計士が教える会社分析のテクニック』中央経済社
田中弘ほか著『経営分析を学ぶ』税務経理協会
田中弘著『会計データの読み方・活かし方—経営分析の基本的技法』中央経済社
新日本有限責任監査法人編著『有価証券報告書の作成ポイントと読み方』税務研究会出版局
住友信託銀行証券代行部編著『有価証券報告書における役員報酬開示の事例分析(別冊商事法務 No.349)』商事法務
中央三井信託銀行証券代行部編著『有価証券報告書におけるコーポレート・ガバナンス体制開示事例集(別冊商事法務 No.350)』商事法務
坪井達也=岡寛共著　『Excel で学ぶ財務/財務で学ぶ Excel』　エーアイ出版

《成績評価の方法》

出席態度を前提として、数回にわたる課題の提出内容の結果（100 点）。なお、教育的見地から評価を調整（加点および減点）する場合もある。

《授業時間外学習》

就職希望先の企業をしっかりと調べることは、必要不可欠です。しかし、企業の公式 Web ページのみから獲得できる情報は客観性が高く信頼性の高い情報といえるのでしょうか？このような問題提起を念頭に置きつつ、企業の内容を講義時間外にもどんどん調べるようにしましょう。

《備考》

課題は、確実に行なって下さい。もちろんのことですが、その内容（成果）により単位認定評価（成績評価）を行ないますので、ただ単に課題提出済の要件では単位は与えられません。しっかりとした内容にまとめてください。

情報会計論の科目は、仕訳については触れません。当然のことながら、勘定科目は出てきますが、簿記が苦手な者も受講し、学習することができます。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	・講義ガイダンス
第 2 週	・情報会計論の位置付け
第 3 週	・ディスクロージャー制度
第 4 週	・財務情報の入手方法
第 5 週	・財務情報の分析
第 6 週	・情報会計と制度会計 ・会計コミュニケーションの基礎概念
第 7 週	・会計測定システムと情報選択基準 ・会計伝達システムと情報開示基準
第 8 週	・会計データモデルの展開
第 9 週	・会計報告書の分析的フレームワーク
第１０週	・グラフィック･コミュニケーション
第１１週	・電子開示システム
第１２週	・IR（インベスター・リレーションズ）
第１３週	・データベースディスクロージャー
第１４週	・XBRL
第１５週	まとめ

《経済ビジネスコース科目》

科 目 名	情報会計論Ⅱ				
担当者名	沖野　光二				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

本講義は、情報会計論Ⅰの後継上位科目としての性格を有しています。

具体的には、従来の紙面ベースの開示書類とインターネット関連技術を利用した電子ベースの開示情報を比較し、その特質を判断できる能力と財務情報そのものを分析し、読解できる能力を養うことを目的としています。

電子開示システム（米国 SEC の EDGAR や我が国金融庁の EDINET など）を説明し、法定開示（強制開示）と任意開示、さらに IR（インベスター・リレーションズ）の内容を解説する。

受講生には、課題を多く出すつもりですので、とり組んでもらいたいと思います。

《授業の到達目標》

情報会計論Ⅰを参照のこと。

《テキスト》

後ほど案内します。

《参考文献》

チャールズホフマンほか著『IFRS 時代のレポーティング戦略—XBRL で進化するビジネスのしくみ』ダイヤモンド社
松村勝弘ほか著『財務諸表分析入門—Excel でわかる企業力』ビーケイシー
帝国データバンク情報部著『大不況下 危ない取引先の見分け方』中経出版
PricewaterhouseCoopers, "Illustrative Financial Statements 2009 - IFRS and UK," Croner CCH Group Ltd(ISBN-13:978-1847981110)
Deloitte iGAAP 2011, "IFRS Reporting for the UK,"Tolley(ISBN-13:978-0754539933)
情報会計論Ⅰも参照のこと。

《成績評価の方法》

出席態度を前提として、数回にわたる課題の提出内容の結果（100 点）。なお、教育的見地から評価を調整（加点および減点）する場合もある。指定されたテキストは必ず購入すること。

《授業時間外学習》

情報会計論Ⅰを参照のこと。

《備考》

情報会計論Ⅰを参照のこと。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	・講義ガイダンス
第 2 週	・財務情報の入手方法と分析（その１）
第 3 週	・財務情報の入手方法と分析（その２）
第 4 週	・財務情報の入手方法と分析（その３）
第 5 週	・財務情報の入手方法と分析（その４）
第 6 週	・財務情報の入手方法と分析（その５）
第 7 週	・IR（インベスター・リレーションズ）（その１）
第 8 週	・IR（インベスター・リレーションズ）（その２）
第 9 週	・IR（インベスター・リレーションズ）（その３）
第１０週	・IR（インベスター・リレーションズ）（その４）
第１１週	・IR（インベスター・リレーションズ）（その５）
第１２週	・IR（インベスター・リレーションズ）（その６）
第１３週	・IR（インベスター・リレーションズ）（その７）
第１４週	・ケーススタディ
第１５週	まとめ

《経済ビジネスコース科目》

科 目 名	労働経済論				
担当者名	森　義隆				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
この授業では以下の内容を学ぶ予定である。
(1) 序論（労働経済論の目的と意義）　(2) 労働市場の理論　(3) わが国の労働統計　(4) 能力と賃金格差
(5) 人的資本と教育投資　(6) 失業の長期化と対策　(7) 若者の雇用

《授業の到達目標》
現在わが国経済はなだらかな景気回復局面にあるといわれる。しかし、景気判断も詳しく見ると業種や地域などで違いがあって、一概には確定できない。とくに、雇用や物価などの指標は相変わらず厳しい情勢にあり、2007年12月現在でも失業率が全国平均で3.8%、有効求人倍率が1を下回っている。なお、完全失業者は231万人と、数年前に比べて若干改善している。この講義では、失業の原因は何か、失業にはどんなタイプがあるのか、その失業を削減するにはどのような経済政策が考えられるのか、などを解説する。

《テキスト》
『労働経済学入門』大田聡一・橘木俊詔編、有斐閣、2004年

《参考文献》
『労働市場の理論』大橋勇雄、東洋経済新報社、1990年
『労働経済白書』各年版、厚生労働省

《成績評価の方法》
期末の定期試験の成績(100点）で評価する。

《授業時間外学習》
身近かな雇用・失業の問題を毎日のニュースや新聞・雑誌の記事から考える。企業サイドの雇用マインドや求職者の意識の変化など経済不況の背後の事情を考えさせる。

《備考》
労働経済学はマクロ経済学の重要な1分野であり、今なお発展している。したがって、この学習にはマクロ経済学やミクロ経済学のコア部分の理解が前提である。また、新聞やテレビなどで雇用関連の経済指標の推移をフォローしておくことが肝要である。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	弟1章　講義の目的と意義
第 2 週	第2章　労働市場の理論（1）　マクロとミクロ
第 3 週	第2章　労働市場の理論（2）
第 4 週	第3章　労働統計と雇用統計（1）
第 5 週	第3章　労働統計と雇用統計（2）
第 6 週	第4章　能力と賃金格差　いろいろな仮説（1）:人的資本理論
第 7 週	仮説（2）：シグナリング理論 仮説（3）：効率賃金仮説
第 8 週	第5章　教育、訓練の役割　大学教育の収益率の国際比較　内部労働市場と正規従業員
第 9 週	非正規社員と雇用・就業形態の変化
第１０週	労働関係の法制度と市場制度
第１１週	第6章　失業とその対策
第１２週	失業の原因　需要不足かミスマッチか
第１３週	弟7章　若者の失業と求職行動　労働者派遣法の問題点
第１４週	ニートとフリーターに対する構造政策
第１５週	終章　企業の雇用政策の転換と政府の労働市場政策

《経済ビジネスコース科目》

科 目 名	経済政策				
担当者名	萩原 史朗				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

この科目では、応用経済学の観点から、日本経済の現状と今後の経済政策のあり方について講義を行います。現在、日本では、経済のグローバル化による企業の海外進出と熾烈な価格競争、それに伴う正規雇用の減少と非正規雇用の増加、平均所得の低下、若者の就職難、ワーキング・プアの増加、地域経済の衰退および地方財政の悪化、といった現象が起こっています。また、900 兆円を超える巨額の累積債務に加え、今後、急激に高齢化が進むことから、消費税の増税、社会保険料の値上げ、年金の受給額の減少等が予想されます。さらに、2011 年度の日本経済は景気の腰折れが懸念されており、それほど楽観できる状況ではないと思われます。

このように、これから多くの困難が待ち受けている日本経済ですが、どのようにすれば我々国民の生活は少しでも改善されるのでしょうか？この科目では、まず、こうした問題の事実やその仕組みを、講義資料および報道番組の映像資料を用いて説明していきます。その後、今後のあるべき日本経済および日本社会の姿を、皆さんと議論を交えながら考察していきたいと思います。

《授業の到達目標》

日本経済新聞の記事の内容を理解できるようになる。また、日本経済の現状と課題について理解し、今後必要とされる経済政策について論理的に説明できるようになる。

《テキスト》

テキストは使用しません。代わりに講義資料を配布いたしますので、大事に保存してください。

《参考文献》

[1]飯田泰之（2010）『ゼロから学ぶ経済政策　日本を幸福にする経済政策のつくり方』光文社新書。
[2]池田信夫（2009）『希望を捨てる勇気－停滞と成長の経済学』ダイヤモンド社。
[3]岩田規久男（2006）『「小さな政府」を問いなおす』ちくま新書。
[4]岩田規久男・飯田泰之（2006）『ゼミナール経済政策入門』日本経済新聞社。
[5]NHK スペシャル『ワーキングプア』取材班（2008）『ワーキングプア解決への道』ポプラ社。
[6]社会保障教育オフィス内田編（2008）『高校生・大学生・社会人の必須科目「社会保障」―年金・労働・医療・保健・介護・福祉』文芸社。
[7]竹中平蔵（2006）『構造改革の真実　竹中平蔵大臣日誌』日本経済新聞社。
[8]竹中平蔵・池田信夫・土居丈朗・鈴木亘（2010）『日本経済「余命 3 年」≪徹底討論≫財政危機をどう乗り越えるか』PHP 研究所。
[9]橘木俊詔（2006）『経済格差－何が問題なのか』岩波新書。
[10]八田達夫（2008）『ミクロ経済学Ⅰ市場の失敗と政府の失敗への対策』東洋経済新報社。
[11]八田達夫（2009）『ミクロ経済学Ⅱ効率化と格差是正』東洋経済新報社。
[12]八代尚宏（2006）『労働市場改革の経済学』東洋経済新報社。

《成績評価の方法》

成績評価は、中間試験（30 点満点）、期末試験（70 点満点）の合計 100 点満点で行い、60 点未満の場合には不可、60～69 点の場合には可、70～79 点の場合には良、80～89 点の場合には優、90 点以上の場合には秀とします。

《授業時間外学習》

新聞、ニュース、雑誌等に目を通し、現在、日本経済で何が起こっているかを注意深く観察してください。

《備考》

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	講義の概要と経済政策の考え方
第 2 週	データと映像で見る戦後の日本経済の推移と直近の日本経済
第 3 週	バブル崩壊と「失われた 10 年」(1)：90 年代以降の日本経済と経済政策
第 4 週	バブル崩壊と「失われた 10 年」(2)：なぜ「失われた 10 年」は起こったか？景気対策派 vs. 構造改革派
第 5 週	サブプライム・ローン問題と日本経済
第 6 週	円高と日本経済
第 7 週	中間試験
第 8 週	グローバル化と経済格差（1）：格差の現状と格差発生のメカニズム
第 9 週	グローバル化と経済格差（2）：ワーキング・プアの解決に向けた各国の取組み
第１０週	グローバル化と日本企業（1）：日本的経営の現状
第１１週	グローバル化と日本企業（2）：ゲーム理論を用いた日本的経営の分析
第１２週	今後の日本の社会のあり方をめぐって（1）：日本の社会保障制度の現状と問題点
第１３週	今後の日本の社会のあり方をめぐって（2）：先進各国の社会保障制度
第１４週	今後の日本の社会のあり方をめぐって（3）：オランダ・デンマークのフレキシキュリティ制度
第１５週	学習のまとめ

《経済ビジネスコース科目》

科 目 名	職業指導				
担当者名	三宅　伸二				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
この授業では、高等学校において、生徒が職業についての基礎となる知識・技術及び勤労を重んずる態度と個性に応じた適切な進路を選択できる能力を養えるよう、社会のさまざまな仕組み、職業の実際などの知識・技術を修得する。

《授業の到達目標》
生徒が将来の進路を適切に選択し，自己実現が図れるための適切な指導・援助の在り方やその指導法を修得する。

《テキスト》
授業中に指示する。

《参考文献》
授業中に指示する。

《成績評価の方法》
到達度確認試験（３回）の状況（９０％）と宿題（１０％）で評価します。

《授業時間外学習》
職業に関する新聞記事等を配布するので、読んでおくこと。小テストの範囲に含まれる。

《備考》
教職（「商業」）免許の必修科目です。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	学校教育における職業指導の位置付け
第 2 週	職業指導の意義
第 3 週	職業指導の性格
第 4 週	職業指導の諸活動
第 5 週	職業指導の歴史的背景
第 6 週	教育課程上の位置付け
第 7 週	職業指導主事（進路指導主事）の制度化
第 8 週	職業指導の研究と発展
第 9 週	職業指導の今日的課題
第１０週	職業指導と生徒指導との関連
第１１週	職業指導と各教科・科目との関連
第１２週	職業指導と特別活動との関連
第１３週	職業指導とホームルーム活動
第１４週	職業指導の基礎的概念のまとめ
第１５週	試験

《経済ビジネスコース科目》

科 目 名	経済ビジネス特論Ａ				
担当者名	森　義隆				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
講義では OECD 編集の世界の経済成長に関する報告書を概観し、どのような社会経済的要因が経済成長をもたらしたのか、またそれを理論的に解明する枠組み（成長理論）を新古典派のソロー・モデルに求め、詳しく解説する。成長に関する理論と実証について基礎から学習するのが本講義の目的である。

《授業の到達目標》
講義ではスティグリッツの「マクロ経済学」第6章を中心に、世界の経済成長の実績を観察し、成長グループの間にどのような違いがあるのか、また現在の先進国と中国やインドのような新興経済諸国、アフリカの発展途上国との間に成長パターンの違いをもたらした原因は何か、一般に経済成長はどのような社会経済的要因によって決定されるのか、を理論的に学ぶ。こうした成長理論のを習得することによって、現在の日本経済の低成長と景気停滞の原因をよりよく理解できる。

《テキスト》
なし

《参考文献》
OECD 編『経済成長論』春名章二訳、中央経済社、2005
エーベル／バーナンキ『マクロ経済学（上）理論編』伊多波、大野ほか訳、CPA 出版、2006
ステイグリッツ『入門経済学』（第3版）藪下/秋山ほか訳、東洋経済新報社、2005

《成績評価の方法》
2回のレポート(40点）と定期試験（60点）の結果で評価する。

《授業時間外学習》
経済成長の基礎理論の理解のために必要とされる経済数学の知識もあわせて習得するようドリルを用意する。

《備考》
一般に経済発展や貧困,特に中国やインドの新興経済諸国の問題に関心があり、マクロ経済学を既修得している学生を歓迎する。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	講義の概要と計画
第 2 週	1.　OECD 諸国における成長実績
第 3 週	2.　成長率の決定式：マクロ経済の恒等式と１人当たりの産出量
第 4 週	3.　生産性を計測する
第 5 週	4.　投資と生産性：貯蓄率と投資率の関係
第 6 週	5.　生産性上昇の要因　（1）教育と労働力の質　（2）資源の再配分
第 7 週	生産性上昇の要因　（3）技術進歩　（4）特許と知識
第 8 週	6.　生産関数の知識と応用　ソローの成長理論
第 9 週	7.　全要素生産性とソローの残差：成長要因の測定
第１０週	8.　先進国の成長会計　アメリカ、日本、ドイツ、フランス、イギリス
第１１週	9.　経済成長の定常状態とは何か。
第１２週	経済成長の定常状態とは何か。　定常状態成長の動学モデルとその運用法
第１３週	10.　政府の経済成長政策　（1）構造改革
第１４週	政府の経済成長政策　（2）財政金融政策　（3）貿易政策
第１５週	まとめ

《経済ビジネスコース科目》

科 目 名	経済ビジネス特論Ｂ				
担当者名	竹川 宏子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
新興国の競争力向上や国内景気の低迷などで企業間の競争が激化する中､正規雇用する人材については､その質が厳しく問われている。つまり、企業にとって戦力となる人材がより一層求められる時代になってきている。こういった社会背景のもとで課される使命は、新卒雇用も同様であり、いかに自社に利益をもたらす人材かが問われる。
こういった背景のもと、ビジネスの世界において常識とされる事項を一つ一つ確認し、理解させることで、就職活動や学生各人のキャリア形成の基礎を作ることが授業の目的である。授業概要は、企業が必要とする人材について考え、仕事への取り組みや仕事の技法と知識について学ぶ。

《授業の到達目標》
○組織における個人の役割について理解が深まる。
○ビジネス活動の基本が理解できるようになる。
○自らのキャリア設計を考えられるようになる。

《テキスト》
プリントを配布する。

《参考文献》
森脇道子 編著『ビジネスワーク論』実教出版、2000年。
キャリア総研 著『仕事の常識　基本テキスト』日本能率協会マネジメントセンター、2007年。

《成績評価の方法》
全回出席を前提としたうえで、
・定期試験80%（なお、試験はテキスト等の「持ち込み不可」にて実施する）
・課題レポート20%
として評価する。

《授業時間外学習》
連絡用のメールアドレスは、第1回講義の際に伝える。
予習は、テキストの該当箇所を読んで分からない言葉を調べてくること（該当箇所は、ひとつ前の授業時に提示する)。
復習は、授業時に関連があるから読んでおくようにと指示した箇所に目を通すこと。

《備考》

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	授業の概要と進め方 ビジネス実務とは何か
第 2 週	学生と社会人の違いについて
第 3 週	企業が必要とする人材について
第 4 週	ビジネス活動の基本①
第 5 週	ビジネス活動の基本②
第 6 週	ビジネス活動の基本③
第 7 週	顧客の立場で考える
第 8 週	ビジネスシーンにおける人間関係とコミュニケーション①
第 9 週	ビジネスシーンにおける人間関係とコミュニケーション②
第１０週	仕事と情報
第１１週	仕事の改善
第１２週	社会の変化とビジネスワーク①
第１３週	社会の変化とビジネスワーク②
第１４週	パーソナルワークの充実
第１５週	授業のまとめ

《情報システムコース科目》

科 目 名	プログラミングⅡ				
担当者名	森下　博				
授業方法	講義	単位・必選	4・選必	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》

この授業では、プログラミングⅠの基礎を踏まえて、より幅広いプログラミング技法を身に付けることを目標とします。自らの考えを記述できる表現力と、正確に実行できる技術力を身に付けます。知的好奇心をもった取り組みの姿勢が重要です。

プログラミングを行うことの意義を明確にし、解決手段の一つとしてプログラミング言語を自由に扱うことができるように学習していきます。まず、C言語の出力、演算、入力、条件分岐、繰り返しといった文法を用いて、基礎的なプログラムを組めるかどうかの確認をおこないます。そして、C言語の配列、関数、ポインタ、構造体、ファイルの入出力といった文法を確実に習得していきます。その理論を理解するとともに、コンピュータを活用し、目の前で確認しながら演習を進めます。そうして、実行したい内容を正確に記述できる力を身に付け、これまでの文法を活かした発展的なプログラミングが組めるようにします。最終的に、ファイル操作と検索を含む実践的な課題制作をおこない、この授業の集大成にしたいと思います。

《授業の到達目標》

○プログラミング言語の文法を理解し、役割を説明することができる。
○問題解決するための手順を考え、整理して説明することができる。
○プログラミング言語を活用して、実行したい内容を記述することができる。

《テキスト》

適宜、プリントを配布します。

《参考文献》

適宜、参考書を紹介していきます。

《成績評価の方法》

授業内演習課題の提出 30%
最終提出課題とその成果 10%
筆記試験 60%

《授業時間外学習》

授業内で終えられなかった課題については、次回までに学習を済ませておいて下さい。そして、より理解を深めるため、またさらなる発展のための自主的な学習の取り組みに期待します。

《備考》

プログラミングをおこなう場合に大切なのは、自分が実行したいことをイメージし、手順を組み立て、それを決められた文法にしたがって正確に記すことです。土台をかためながら一歩一歩着実に前進していくことを期待します。講義内容に関する質問は、授業時あるいはオフィスアワー等で受け付けます。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	第 1 回　概要の説明と事例の紹介 第 2 回　プログラミングの手順の確認
第 2 週	第 3 回　入力文と出力文の確認 第 4 回　条件文と繰り返し文の確認
第 3 週	第 5 回　一次元配列とは 第 6 回　データ集計と一次元配列
第 4 週	第 7 回　データの比較と一次元配列 第 8 回　データの並び替えと一次元配列
第 5 週	第 9 回　二次元配列とは 第10回　行列演算と二次元配列
第 6 週	第11回　文字配列 第12回　多次元配列
第 7 週	第13回　関数の定義と呼び出し 第14回　関数の引数と戻り値
第 8 週	第15回　関数の型と値の引き渡し 第16回　再帰関数
第 9 週	第17回　関数と一次元配列 第18回　関数と二次元配列
第１０週	第19回　ポインタとは 第20回　ローカル変数とグローバル変数
第１１週	第21回　関数とポインタ 第22回　関数と配列とポインタ
第１２週	第23回　構造体とは 第24回　構造体の型と演算子
第１３週	第25回　ファイルへのデータ出力 第26回　ファイルからのデータ入力
第１４週	第27回　辞書検索プログラムの基礎 第28回　辞書検索プログラムの応用
第１５週	第29回　ファイル操作と検索を含む課題の制作 第30回　課題の総括と提出

《情報システムコース科目》

科 目 名	プログラミングⅡ				
担当者名	西田　悦雄				
授業方法	講義	単位・必選	4・選必	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
プログラミングの基礎知識を学ぶとともに，課されている問題の解決手段としてのプログラミングの処理や制御など技法(後半部分)の獲得や論理的な思考方法の養成を行いながらプログラミングの基礎の確立を目指します.
授業は基礎となる知識や理論・方法を説明する講義と，C 言語を使った演習を併せて行う形態で行います.
また，よりよいプログラミングのためのデータ構造やその応用などにも触れます.

《授業の到達目標》
課されている問題解決のための一手段として，プログラミング言語を活用するための基礎(後半部分)を対象とし，プログラミング言語での処理を行う命令等の理解や記述規則に従いながら、処理の手順や手続きを記述できることや処理手順を論理的に分析し応用する力を獲得することを到達目標とします.
また問題解決へのアプローチを柔軟にすることも併せて目標とします.

《テキスト》
教科書は使用しません．授業に必要な資料はオンライン等で適宜配付します.

《参考文献》
B.W.Kernighan, D.M.Ritchie 著，石田晴久訳,『プログラミング言語 C 第 2 版 -ANSI 規格準拠-』,共立出版，￥2,940.-
C.L.Tondo, S.E.Gimpel 著，矢吹道郎訳,『プログラミング言語 C アンサーブック第 2 版』,共立出版，￥2,415.-
鈴木正人著,『実践 C プログラミング -基礎から設計/実装/テストまで-』，サイエンス社，￥1,995.- など
その他参考文献は必要に応じて適宜紹介します.

《成績評価の方法》
課題の提出および内容点(25%)，筆記による試験(中間試験と定期試験の 2 回)(70%)，平常点(5%)を総合的に判定し評価します．提示された課題のすべての提出と実施する授業のすべての出席を基本とします.
また，欠席回数が 1/3 以上ある場合には認定ができないことがあります.

《授業時間外学習》
授業内で配布する資料を熟読し理解を深めて下さい.
また，計算機実習室が空いている時間帯では計算機は自由に利用できますから，各自で記述したプログラムの動作など確認を行ってください.

《備考》
スムーズな理解のために『プログラミング I』,『アルゴリズム』の既履修が望ましいです．積極的な学習の姿勢を期待します.
また，授業計画とおりの実施を予定していますが，履修者のより深い理解を促すために授業計画の順序等を変更／修正する場合があります.

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	授業概要(ガイダンス)および『プログラミング I』の復習
第 2 週	配列(1)：一次元数値配列
第 3 週	配列(2)：一次元文字配列
第 4 週	配列(3)：多次元配列
第 5 週	配列(4)：配列の応用
第 6 週	関数(1)：関数の基本
第 7 週	関数(2)：再帰呼び出し関数
第 8 週	中間試験(筆記)と中間試験返却および解説
第 9 週	ポインタ(1)：ポインタの基本，ポインタと配列・文字列
第１０週	ポインタ(2)：ポインタと関数，ポインタの配列
第１１週	構造体(1)：構造体の基本，データ構造
第１２週	構造体(2)：構造体とポインタ
第１３週	構造体(3)：構造体の応用，共用体
第１４週	ファイル入出力関数
第１５週	その他補足および総括

《情報システムコース科目》

科 目 名	情報システム学				
担当者名	榎木　浩				
授業方法	講義	単位・必選	4・選必	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》

情報システムは高度化する情報社会に欠かせない存在であり、コンピュータやネットワークといった情報技術の側面からだけではなく、情報技術を利用するという側面からも理解する必要があります。
期前半は、情報システムとは何かという一般論からはじまり、さまざまな社会活動における情報システムの利用についての基礎を学習し、情報システムの全体像を大所高所から理解することを目標とします。
期後半は、複雑で大規模な情報システムの開発で重要となるソフトウェア開発について学びます。開発に必要な工学的な手法を「ソフトウェア工学」と呼びます。ソフトウェア技術者が最低理解しておかなければならないソフトウェア工学の基礎知識を習得します。
授業方法は、週２コマのうち、１つを講義中心、もう１つを演習中心とする。

《授業の到達目標》

次のことが説明できる。
(1) 情報システムとコンピュータの役割
(2) 社会基盤・生活基盤としての情報システム
(3) 行政・ビジネスと情報システムのかかわり
(4) 顧客、商取引、組織と情報システムの関係
(5) 情報の共有方法
(6) 情報システムの倫理
(7) 情報システムの新たな活用方法
(8) システム開発とは
(9) システム開発の技法
(10) 要求工学（要求定義や要求分析手法）
(11) ソフトウェア設計（ソフトウェアの構造．構造化設計，オブジェクト設計など）
(12) ソフトウェア実装（プログラミング言語，ソフトウェア開発環境など）
(13) ソフトウェア品質（ソフトウェアのテストと信頼性）
(14) プロジェクト管理（ソフトウェア開発のプロジェクトの管理手法）

《テキスト》

毎回プリントを配布します。

《参考文献》

適宜、紹介します。

《成績評価の方法》

レポート（２回を予定）(20%)、前半評価試験(40%)、後半評価試験(40%)

《授業時間外学習》

事前学習
・授業のプリントを事前にＷｅｂに公開するので、授業までに読んでおくこと。
事後学習
・授業中の演習を復習すること。

《備考》

情報システムのほとんどがコンピュータを用いて実現されている状況から、「情報システム＝コンピュータ」というイメージがあります。しかし、もっと広い意味で情報システムは、人間の活動に必要な情報の収集・処理・伝達・利用にかかわる仕組みと見なすことができます。極端ですが、コンピュータがなくても情報システムは存在するとも言えます。このことを常に頭に置きながら、情報システムの根幹をなすコンピュータシステムを考えて欲しいと思います。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	授業内容の説明、情報システムとは、情報システムとコンピュータ
第 2 週	社会基盤・生活基盤としての情報システム
第 3 週	行政・ビジネスと情報システム
第 4 週	ネットビジネス・電子商取引と情報システム
第 5 週	顧客情報・組織と情報システム
第 6 週	情報の共有と検索、情報システムと倫理
第 7 週	前半のまとめ、前半評価試験
第 8 週	情報システムの開発
第 9 週	システム開発モデル、開発手順
第１０週	基本計画と外部設計
第１１週	内部設計・プログラム設計・プログラミング
第１２週	ソフトウェアテスト・運用保守
第１３週	ソフトウェア品質
第１４週	プロジェクト管理
第１５週	後半のまとめ、後半評価試験

《情報システムコース科目》

科 目 名	情報基礎理論				
担当者名	西田　悦雄				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
コンピュータの自動実行を司る理論の「オートマトン」の基礎知識とともに正則(正規)表現を学び，情報科学の根幹となる理論の獲得を目指します．授業は理論や動作などの説明を行う講義を主としますが，理解度の向上のためのレポートも実施します．

《授業の到達目標》
オートマトンは数式モデルでの表現，自然言語での表現，有向グラフによる視覚的な状態遷移図での表現の 3 つの表現が可能ですが，これらの 3 つの表現方法が示す「機械」を正確に理解できることを目標とします．また，正則表現では，論理的な思考とその正確な表現方法の獲得を目標とします．

《テキスト》
教科書は使用しません．授業に必要な資料は必要に応じて適宜オンライン等で配布します．

《参考文献》
.Hopcroft :et 著，野崎，高橋，町田，山崎共訳，『オートマトン言語理論 計算機論Ⅰ 第 2 版』，サイエンス社，￥2,940.-
A.V.Aho :et 著，原田賢一訳，『コンパイラ[第 2 版]』，サイエンス社，￥9,240.-

《成績評価の方法》
課題の提出および内容点(25%)，筆記による定期試験の点数(70%)，平常点(5%)とし，総合的に判定・評価します．
課題は提示したすべてを対象とし，実施する授業回数すべての出席を基本とします．
また，欠席回数が 1/3 以上となった場合には単位認定ができないことがあります．

《授業時間外学習》
配布資料を熟読し，予習・復習を行って理解を深めて下さい．

《備考》
数理論理学」，「コンピュータ基礎論」の単位既修得(履修)が望ましいです．
また，授業計画とおりの実施を予定してますが，履修者のより深い理解を促すために状況に応じて授業計画の順序等を変更・修正する場合があります．

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	授業概要，準備しての基礎知識(1)：アルファベット，言語，文字列，有向グラフ
第 2 週	準備としての基礎知識(2)：集合と関係
第 3 週	決定性有限オートマトン(1)
第 4 週	決定性有限オートマトン(2)
第 5 週	非決定性有限オートマトン(1)
第 6 週	非決定性有限オートマトン(2)
第 7 週	非決定性有限オートマトン(3)
第 8 週	ε動作の非決定性有限オートマトン(1)
第 9 週	ε動作の非決定性有限オートマトン(2)
第１０週	有限オートマトンのまとめ
第１１週	正則表現(1)
第１２週	正則表現(2)
第１３週	正則表現(3)
第１４週	正則表現(4)
第１５週	まとめ

《情報システムコース科目》

科 目 名	情報セキュリティ				
担当者名	堀池　聡				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
インターネットの発展により様々なサービスがネットワークを通じて手軽に利用できるようになっています。一方、個人情報流出の問題やネット犯罪の危険に遭遇する可能性も高くなっています。この講義では、情報セキュリティに関するしっかりとした基本知識を身につけることを目標としています。情報セキュリティの考え方から始まり、ウィルス、ファイアーウォール、暗号といった基本技術、さらにはシステムの監査や診断といった課題も学びます。

《授業の到達目標》
情報セキュリティ技術の基本について理解します。例えば，Web で入力したパスワードはどの程度安全か、自宅のパソコンに対してどのような脅威が存在し、その脅威から守るにはどうすれば良いかがわかります。

《テキスト》
『情報セキュリティ　標準テキスト』 情報セキュリティ標準テキスト編集員会編 (オーム社)

《参考文献》
適宜紹介します。

《成績評価の方法》
毎回行う確認テストを 25%、最後に行う総合テストを 75%の割合で評価します。

《授業時間外学習》
教科書と配布プリントを用いて復習に力を入れて下さい。予習としては、次回の講義範囲に関し教科書に目を通してくおいて下さい。

《備考》
「情報ネットワーク」を必ず受講しておいて下さい。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	講義の進め方と情報のセキュリティの概要について
第 2 週	情報セキュリティの考え方： 情報セキュリティの定義と情報セキュリティの必要性
第 3 週	不正攻撃(1)： 情報システムの脆弱性について
第 4 週	不正攻撃(2)： 不正攻撃の定義、種類
第 5 週	ウィルス： 不正プログラムの種類、ウィルスの種類とその対策
第 6 週	ファイアーウォール： ファイアーウォールの役割、機能、構成
第 7 週	暗号(1)： 暗号技術とその応用
第 8 週	暗号(2)： 公開鍵暗号方式の詳細
第 9 週	認証： 利用者認証、第三者認証、認証応用技術
第１０週	監査： セキュリティ監査と診断、各種ツールについて
第１１週	情報セキュリティポリシー： 考え方と対策
第１２週	標準化： 国際標準、国内標準、と関連法規について
第１３週	セキュリティ管理者： 不正アクセス基準から見たセキュリティ管理者の業務
第１４週	まとめ(1)
第１５週	まとめ(2)

《情報システムコース科目》

科 目 名	データベースⅠ				
担当者名	穂積　隆広				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》

この授業ではまずデータベースを作成するときに必要な知識として，データベースの中で実際にデータを蓄える表のような役割のリレーションと，そのリレーションの組み合わせによる新しいリレーションの作成について説明します．そしてそのリレーションに効率よくデータを蓄積するためのデータの分解や整理方法（正規化）について説明します．

可能な範囲でコンピュータを利用した演習も行いたいと思っています．

《授業の到達目標》

データベースとは単なるデータの集まりではなく，その集められたデータの中から必要なデータだけを効率よく取り出したり，複数のデータを結合して新しいデータを作成したり，一部のデータを変更しても他のデータとの間に不整合が起きないようにしたりするさまざまな仕組みを含めたものをデータベースと言います．しかしそのような仕組みがあるとは言っても利用する人間が正しく使用しなければさまざまな問題が起きてしまいます．この授業ではこのようなデータベースを利用する上で気をつけるべき知識を身に付け，効率よくデータベースを利用する技術を身に付けることを目的とします．

《テキスト》

「データベース入門」 増永良文 著 （サイエンス社 1,900円）

（このテキストはⅡ期のデータベースⅡでも使用します）

《参考文献》

授業中に適宜指示します．

《成績評価の方法》

毎回の課題やレポート（20%），期末試験（80%）をもとに評価します。

《授業時間外学習》

毎回授業前に教科書を読んで予習しておくこと．また，授業後はその日の授業とプリントの内容を振り返り復習しておくこと．また，自分の身の回りのデータをどうすれば効率よく蓄積し，活用できるかを常に考えるよう心がけること．

《備考》

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	データベース基礎：データベースとは何か
第 2 週	データベース基礎：データモデルについて
第 3 週	データベース基礎：リレーショナルデータモデル
第 4 週	リレーショナルデータベース：リレーションと第１正規形
第 5 週	リレーショナルデータベース：候補キーと主キー
第 6 週	リレーショナルデータベース：リレーショナル代数
第 7 週	リレーショナルデータベース：リレーショナル代数
第 8 週	リレーショナルデータベース：更新時異状
第 9 週	リレーショナルデータベース：第２正規形
第１０週	リレーショナルデータベース：第３正規形
第１１週	リレーショナルデータベース：関数従属性
第１２週	リレーショナルデータベース：情報無損失分解
第１３週	リレーショナルデータベース：ＳＱＬについて
第１４週	リレーショナルデータベース：ＳＱＬについて
第１５週	リレーショナルデータベース：応用課題

《情報システムコース科目》

科 目 名	データベースⅡ				
担当者名	穂積　隆広				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

この授業ではⅠ期に学んだリレーショナルデータベースについて，そのデータベース操作・記述言語であるＳＱＬについて説明します．そしてその上でデータベースに対して起こるさまざまな障害やその対処のための仕組みについて学び，データベースを高度に活用する技術を身に付けます．

可能な範囲でコンピュータを利用した演習も行いたいと思っています．

《授業の到達目標》

データベースとは単なるデータの集まりではなく，その集められたデータの中から必要なデータだけを効率よく取り出したり，複数のデータを結合して新しいデータを作成したり，一部のデータを変更しても他のデータとの間に不整合が起きないようにしたりするさまざまな仕組みを含めたものをデータベースと言います．しかしそのような仕組みがあるとは言っても利用する人間が正しく使用しなければさまざまな問題が起きてしまいます．この授業ではこのようなデータベースを利用する上で気をつけるべき知識を身に付け，効率よくデータベースを利用する技術を身に付けることを目的とします．

《テキスト》

「データベース入門」 増永良文 著 （サイエンス社 1,900円）

（このテキストはⅠ期のデータベースⅠで使用したものと同じものです）

《参考文献》

授業中に適宜指示します．

《成績評価の方法》

毎回の課題やレポート（20%）、期末試験（80%）をもとに評価します．

《授業時間外学習》

毎回授業前に教科書を読んで予習しておくこと．また，授業後はその日の授業とプリントの内容を振り返り普及しておくこと．また，自分の身の回りのデータをどうすれば効率よく蓄積し，活用できるかを常に考えるよう心がけること．

《備考》

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	リレーショナルデータベース：復習
第 2 週	リレーショナルデータベース：ＳＱＬ（単純質問）
第 3 週	リレーショナルデータベース：ＳＱＬ（条件指定）
第 4 週	リレーショナルデータベース：ＳＱＬ（グループ化と集約関数）
第 5 週	リレーショナルデータベース：ＳＱＬ（その他）
第 6 週	リレーショナルデータベース：データベース管理システムについて
第 7 週	リレーショナルデータベース：データベースの設計について
第 8 週	リレーショナルデータベース：トランザクション
第 9 週	リレーショナルデータベース：トランザクション
第１０週	リレーショナルデータベース：同時実行制御について
第１１週	リレーショナルデータベース：同時実行制御について
第１２週	リレーショナルデータベース：同時実行制御について
第１３週	リレーショナルデータベース：障害時回復について
第１４週	その他のデータベースについて
第１５週	その他のデータベースについて

《情報システムコース科目》

科 目 名	オペレーションズ・リサーチ				
担当者名	高野　敦子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
この授業では，表計算ソフト（Excel）を使って，企業経営を中心とする様々な問題を効率的に解くＯＲ手法を実践的に学びます。特に従来表計算ソフトとして使ってきた Excel の問題解決のための意思決定サポートツールとしての機能を学びます。
何か新しいことを始める時，あるいは現在遂行中の作業を改善しようとするとき，より効率的な計画を立てたり，立案した計画が円滑に実施されるように管理することが必要となります。ＯＲはこのような問題を科学的に解決するための「問題解決学」です。
ＯＲが行う分析と意思決定は，大企業でも中小企業でも，商店でも農家でも，金融機関でも行政機関でも，生産工場でもサービス業でも，何を行う場合にも必要となります。また，コンピュータが自由に利用できるようになったことによって，ますますＯＲ的な発想が効果を上げられるようになりました。誰もがＯＲを学ぶことによって問題解決能力を高めることができるでしょう。

《授業の到達目標》
（1）問題解決能力を高めることができます。さらに，（2）従来表計算ソフトとして使ってきた Excel の問題解決のための意思決定サポートツールとしての機能を使いこなすことができるようになります。

《テキスト》
特に使いません。

《参考文献》
適宜紹介します。

《成績評価の方法》
到達目標(1)については，試験と確認テストによって見ます。（2）については，毎回提出してもらう課題を見ます。平常点（出席および毎回の課題）を 20%，期末試験を 80%の割合で評価します。ただし，課題をすべて提出することが期末試験を受けるための前提となります。

《授業時間外学習》
授業内に終了できなかった課題については，次の授業までに完成させて，提出してください。

《備考》

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	ＯＲの歴史 ＯＲ手法の例
第 2 週	日程管理
第 3 週	ＰＥＲＴ計算
第 4 週	ＰＥＲＴを使った日程管理
第 5 週	線形計画法とは
第 6 週	線形計画法の代表例
第 7 週	輸送問題
第 8 週	在庫管理
第 9 週	在庫管理手法のシュミレーションによる検討
第１０週	待ち行列とモンテカルロシュミレーション
第１１週	待ち行列のシュミレーションによる検討
第１２週	現在価値 期待値
第１３週	動的計画法
第１４週	意思決定
第１５週	学習のまとめ

《情報システムコース科目》

科 目 名	情報数学				
担当者名	中田　美栄				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
線形代数を勉強する。線形代数は情報科学、工学にとどまらず、社会学など広範囲の分野に登場する重要な数学であるので、その基礎を理論的に理解する。論理的な思考のみならず抽象的な思考も訓練されるので、難しいがそれを勉強することは自分の能力を高めることになる。

《授業の到達目標》
できる限り理論的なアプローチをし、線形代数を使う数学的モデルを理解できるために必要な基礎理解を得る。知識そのものより、この科目を勉強することにより論理的思考、抽象的思考、緻密な思考の能力が鍛えられる。

《テキスト》
なし

《参考文献》
なし

《成績評価の方法》
小テストと宿題を30%、定期試験を70%カウントする。

《授業時間外学習》
小テストと宿題は、講義の復習と理解の確認となり、それが次の授業のための態勢をととのえる。

《備考》
出席を取る。数学の授業は途中から聴いても分かりづらいので遅刻をしないように。欠席はできれば一回もないようにしてほしい。もし欠席した場合は、すぐにノートを級友からコピーさせてもらい勉強する。自分で勉強して分からないときは、教師の研究室に質問にくる等対応をして、次回の授業に追いついておくこと。
基礎経済数学のほうが同じ線形代数を扱う情報数学と比べ、ごく一部の具体的なトピックを扱っているので、それを先に勉強するとこの授業が理解しやすい。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	集合と関数の定義の復習
第 2 週	線形空間とベクトル
第 3 週	線形空間のいろいろ
第 4 週	部分空間
第 5 週	ベクトルの一次結合
第 6 週	ベクトルが生成する部分空間
第 7 週	ベクトルの一次独立と一次隷属
第 8 週	基底
第 9 週	線形空間の次元
第１０週	様々な線形空間の次元
第１１週	線形写像
第１２週	線形写像の固有値と固有ベクトル
第１３週	行列
第１４週	線形写像と行列
第１５週	行列の対角化

《情報システムコース科目》

科 目 名	応用プログラミングＡ				
担当者名	田中　正彦				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
Ｊａｖａ言語を使ったプログラミングの演習を行い、クラス、オブジェクト、構造について学びます。
授業では学内ネットワークシステム、演習用サーバ、e-Learning システムを利用します。

《授業の到達目標》
次のことがらを理解し活用することができる。
・Java 言語の構造、Java によるプログラミング
・オブジェクト指向の考え方

《テキスト》
なし
資料は e-Learning システムや学内ネットワークを通じて適宜配布する。

《参考文献》
『コア Java2 Vol.1 基礎編 改訂版』ホーストマン他（アスキー）
『独りで習う Java』三谷純（翔泳社）
http://java.sun.com/javase/ja/6/docs/ja/
http://ei-www.hyogo-dai.ac.jp/~masahiko/

《成績評価の方法》
毎回課題提出があります。
毎回の提出物の評価の合計を成績評価とします。(100%)

《授業時間外学習》
その時間までの内容をしっかり理解し、活用できる場面を考えること。
作成しようとする課題に必要な資料を集めること。

《備考》
自ら考えることで、思考と表現の幅を広げましょう。
連絡先 e メール masahiko@lab.hyogo-dai.ac.jp

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	Java 言語の概要と処理系の使い方
第 2 週	基本データ型と基本的な制御構造
第 3 週	配列、論理式
第 4 週	文字列、コマンドライン引数
第 5 週	クラス、インスタンス
第 6 週	クラスの定義、継承
第 7 週	複数のクラスを使う
第 8 週	線形リスト
第 9 週	入出力、例外処理
第１０週	グラフィックス
第１１週	API を調べる
第１２週	マウスを使う
第１３週	総合課題、データの表現
第１４週	総合課題、更新
第１５週	総合課題、配布

《情報システムコース科目》

科 目 名	オブジェクト指向方法論				
担当者名	西田　悦雄				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
コンピュータの自動実行を司る理論の「オートマトン」の基礎知識とともに正則(正規)表現を学び，情報科学の根幹となる理論の獲得を目指します．授業は理論や動作などの説明を行う講義を主としますが，理解度の向上のためのレポートも実施します．

《授業の到達目標》
オートマトンは数式モデルでの表現，自然言語での表現，有向グラフによる視覚的な状態遷移図での表現の 3 つの表現が可能ですが，これらの 3 つの表現方法が示す「機械」を正確に理解できることを目標とします．また，正則表現では，論理的な思考とその正確な表現方法の獲得を目標とします．

《テキスト》
教科書は使用しません．授業に必要な資料は必要に応じて適宜オンライン等で配布します．

《参考文献》
J.Hopcroft :et 著，野崎，高橋，町田，山崎共訳，『オートマトン言語理論 計算機論Ⅰ 第２版』，サイエンス社，￥2,940.-
A.V.Aho :et 著，原田賢一訳，『コンパイラ[第２版]』，サイエンス社，￥9,240.-

《成績評価の方法》
課題の提出および内容点(25%)，筆記による定期試験の点数(70%)，平常点(5%)とし，総合的に判定・評価します．
課題は提示したすべてを対象とし，実施する授業回数すべての出席を基本とします．
また，欠席回数が 1/3 以上となった場合には単位認定ができないことがあります．

《授業時間外学習》
配布資料を熟読し，予習・復習を行って理解を深めて下さい．

《備考》
「数理論理学」，「コンピュータ基礎論」の単位既修得(履修)が望ましいです．
また，授業計画とおりの実施を予定してますが，履修者のより深い理解を促すために状況に応じて授業計画の順序等を変更・修正する場合があります．

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	授業概要，準備しての基礎知識(1)：アルファベット，言語，文字列，有向グラフ
第 2 週	準備としての基礎知識(2)：集合と関係
第 3 週	決定性有限オートマトン(1)
第 4 週	決定性有限オートマトン(2)
第 5 週	非決定性有限オートマトン(1)
第 6 週	非決定性有限オートマトン(2)
第 7 週	非決定性有限オートマトン(3)
第 8 週	ε動作の非決定性有限オートマトン(1)
第 9 週	ε動作の非決定性有限オートマトン(2)
第１０週	有限オートマトンのまとめ
第１１週	正則表現(1)
第１２週	正則表現(2)
第１３週	正則表現(3)
第１４週	正則表現(4)
第１５週	まとめ

《情報システムコース科目》

科 目 名	システム解析				
担当者名	山本　真弓				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

システム解析とは、様々な情報を集約・整理し，適切な意思決定を行うための方法を探究する学問と考えられます。データ解析、予測は、情報などの分野に限らず、経済などあらゆる分野で必要となります。この授業では、特に解析手法など基本的な技法について学習し、あわせて種々の学問分野を横断する「ものの見方」、「考え方」、「センス」を養います。
前半では、基礎となる線型代数、微分積分学の復習を行います。後半では、微分方程式、ラプラス変換など基本的な手法を学び、最後にこれらの手法を使ってデータ解析の基礎を学びます。

《授業の到達目標》

線形代数の基礎を思いだし、できるようになる。
微分法を思いだし、できるようになる。
基本的な積分を理解し計算できるようになる。
基本的な微分方程式が解けるようになる。
基本的なラプラス変換ができるようになる。
これらを用いてデータ解析の基礎を身につける。

《テキスト》

テキストは使用しません。必要に応じてプリントを配布します。

《参考文献》

必要に応じて授業中に紹介します。

《成績評価の方法》

試験(80%)、毎回の授業の前後に実施する小テスト（20%）

《授業時間外学習》

復習：その日に学んだことをノートにまとめ直し、理解不足の個所は例題を再び自分自身の手を動かして解いてみて下さい。
予習：前回の授業を再び復習し本当に理解できているかどうか見直して下さい。次回の復習テストに備えて下さい。

《備考》

この科目は、特に基礎知識を要求されます。線形代数，微分を理解した上で受講したほうが望ましいです。
基礎を学ぶには、積み重ねが重要となります。毎週復習を行い理解して次の週に臨に下さい。
毎時間遅刻せずに出席してください。
過去の配布プリント、筆記用具（鉛筆、消しゴム、赤ペン、定規）とノートは必ず持参してください。
携帯電話の使用を禁止します。特に、授業中携帯電話で話をした場合は、その場で単位修得不可能とします。
努力して考えても分からないところは、授業の中の演習中、授業後またはオフィスアワーに質問してください。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	基礎数学の学力チェック
第 2 週	線型代数の復習（1）：説明
第 3 週	線型代数の復習（2）：計算演習
第 4 週	微分の復習（1）：説明
第 5 週	微分の復習（2）：計算演習
第 6 週	積分（1）：:説明
第 7 週	積分（2）：計算演習
第 8 週	これまでの学習のふり返り
第 9 週	微分方程式（1）：説明
第１０週	微分方程式（2）：計算演習
第１１週	ラプラス変換（1）：:説明
第１２週	ラプラス変換（2）：計算演習
第１３週	データ解析の基礎（1）：:説明
第１４週	データ解析の基礎（2）：計算演習
第１５週	学習のまとめ

《情報システムコース科目》

科 目 名	情報検索論				
担当者名	高野　敦子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
インターネットの急速な普及によりもたらされたこの情報化社会の中で、情報を収集・管理・利用したり、データベースを検索したりすることが、日常生活の中でごく当たり前の行動となっています。誰もが簡単に大量の情報を得やすくなったということは、逆に確かな情報を効率よく入手するための技術が高度になったとも言えます。また、単なる検索技術の習得だけでなく、情報の構造、世の中の情報の流れ、インターネットをはじめとする情報システムの仕組みを理解し、さらに情報を見る目を養う必要が高まったということです。そのような情報スキルを身につけるための基礎となる知識や技術を学びます。授業の中では、パソコンを使った実習も多く取り入れていきます。

《授業の到達目標》
情報を検索することは、ほとんどの場合それ自体が目的ではありません。何かの問題解決のためのひとつのプロセスです。ですから、みなさんがこの授業で得た知識や技術を実際の問題解決の場で活用できるようになることが目標です。まずは、日常生活の中での問題解決に必要な情報を効率的に検索できること、次に、他の授業におけるレポート作成や研究に必要な情報を収集できること、さらには、ビジネスにおける問題解決に必要な情報検索のスキルを身につけることが目標です。

《テキスト》
特に使用しません。その都度、資料を提示します。

《参考文献》
授業の中で適宜紹介します。

《成績評価の方法》
毎回、前の授業の内容から復習テストを行います（評価の 50%）。これは、情報検索に関する基礎的な知識の定着度を評価します。また実習課題があり、その提出物を評価します（評価の 50%）。これによって情報検索の技術が身に付いたかどうかを評価します。

《授業時間外学習》
授業時間外に復習テストのための勉強をすることによって、知識や技術の定着を図ってください。

《備考》
授業の中で学んだことを，積極的に日常生活や他の科目の学習の中で実践してください。情報社会で生きるための大きな力になるはずです。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	情報と問題解決
第 2 週	情報の構造（分類，シソーラスなど）
第 3 週	情報検索におけるインデックスの活用
第 4 週	情報検索におけるインデックスの活用
第 5 週	インターネットを使った情報検索
第 6 週	キーワード検索
第 7 週	キーワード検索
第 8 週	進化する検索エンジン
第 9 週	データベース検索
第１０週	情報の活用と発信
第１１週	大容量情報検索(データマイニングを中心に)
第１２週	大容量情報検索(データマイニングを中心に)
第１３週	情報の信頼性
第１４週	情報検索の適用例と関連技術
第１５週	まとめと復習

《情報システムコース科目》

科 目 名	情報法学				
担当者名	上原　克之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

本授業は、現在われわれの現前に展開されている高度情報化社会について法的な観点から諸制度・諸問題を検討していくことを通じて、高度情報化社会への理解を深め、高度情報化社会における法的なものの考え方を身につけることを学習するものです。具体的には、メディアやインターネットなどにおける法律問題、情報公開・個人情報保護の問題、電子商取引、知的財産法に関する法的しくみ・考え方などを扱っていきます。

《授業の到達目標》

○「表現の自由」の意義と限界について理解できる。
○放送・通信・インターネットなどの基本的なしくみやさまざまな問題点について説明できる。
○情報公開・個人情報保護の制度について説明できる。
○知的財産について理解し、正しい情報倫理を身につけている。

《テキスト》

指定しませんが、プリントを配布します。法令集（六法）を持参して下さい（デイリー六法（三省堂）、ポケット六法（有斐閣）、コンパクト六法（岩波書店）などを推奨します）。

《参考文献》

『情報法入門』石村善治・堀部政男（編）、法律文化社、2000
『新・情報の法と倫理』原田三朗・日笠完治・鳥居壮行、北樹出版、2006
『マス・メディア法入門（第３版）』日本評論社、2003
別冊ジュリスト『メディア判例百選』堀部政男・長谷部恭男（編）、有斐閣、2005

《成績評価の方法》

平常点（15%）
定期試験（85%）
出席状況などが３分の２に満たない受講生には特別の課題を課すことによることもあります。

《授業時間外学習》

・予習の方法
最初の授業時に配布されるプリントをよく読んでおき、理解しにくい点などをチェックしておく。
・復習の方法
授業プリント、授業中にとってノート・メモなどを使って自分なりのノート整理をする。疑問点、関心をもった点などを参考書インターネットなどを用いて自分で調べてみる。その結果もノートに整理する。

《備考》

情報法学の対象とする分野は、現在マスメディアその他で問題となっていることが多いので新聞その他の情報に日頃から関心をもって接することが大切です。
自分で調べてもよくわからなかった点など遠慮なく授業終了後に質問してください。
授業中の私語、携帯電話の使用は、厳禁。授業中授業以外のことをするような受講者も受講をお断りします。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	はじめに：情報化社会における情報法の概念
第 2 週	情報と憲法（その１）：表現の自由概説
第 3 週	情報と憲法（その２）：表現の自由と名誉、プライバシー、わいせつ表現
第 4 週	放送制度・通信制度
第 5 週	インターネットと法（その１）：概説、ＩＴ基本法
第 6 週	インターネットと法（その２）：情報セキュリティ、不正アクセスの防止など
第 7 週	マスメディアと法（その１）：概説
第 8 週	マスメディアと法（その２）：報道の自由、取材の自由
第 9 週	マスメディアと法（その３）：マスメディアの特権と責任、編集権と内部的自由
第１０週	情報公開
第１１週	個人情報保護
第１２週	電子商取引
第１３週	知的財産法（その１）概説、著作権法
第１４週	知的財産法（その２）特許法等
第１５週	学習のまとめ

《情報システムコース科目》

科 目 名	情報管理論				
担当者名	斎藤　正寿				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

講義の内容は大きく３つに分けられます。１つは、コンピュータやインターネットを社会生活の様々な側面で活用する試みを「情報化」という言葉で表すとすると、近年の「情報化」が、ビジネスのあり方をいかに変えてきているかを考えます。２つめに、近年の「情報化」が、社会で働く個々人の働き方や考え方にどのような変化をもたらしているかを議論します。そして最後に、近年の「情報化」がもたらした新しいタイプの社会的リスク（犯罪、格差等）について考察したいと思います。これらのテーマを出来るだけ多くの実例を紹介しながら諸君と考えていきます。

「情報」の高等学校教諭一種免許状を取得するには、必ず「情報と職業」という分野を履修しなければならないと定められています。本講義「情報管理論」がこれに該当しますので、「情報」の免許取得を目指す諸君は必ず履修して下さい。

《授業の到達目標》

IT 社会を考察するのに必須の知識やボキャブラリーを習得できる。
IT 社会のメリット、デメリットを具体的に理解できる。
情報科教員として生徒に授業を行う際に必要な内容と視点を習得できる。

《テキスト》

特に指定しません。講義の際に毎回資料を配付します。

《参考文献》

講義の中で適宜ご紹介していきます。

《成績評価の方法》

講義中にテストを実施したり、レポートを課したりします。これらの結果を総合して評価します（レポート 50%、テスト 50%）。テストやレポートの詳細については、講義の中で説明します。

《授業時間外学習》

講義ごとに必ず、授業内容のスケルトンと、講義内容に関連する資料を集めたものを１枚のプリント（場合によってはそれ以上の量）にして配布しますので、それをよく読み理解して下さい。なお、読んでなお不明な点があれば講義の際、もしくはオフィスアワーに遠慮なく質問に来て下さい。

《備考》

諸君はすでに（携帯電話を含めた）コンピュータやインターネットを日常の学生生活において十分に使いこなしているはずです。それでは大学以外の一般的な社会で、そして学生以外の（いわゆる）社会人がどのようにコンピュータやインターネットを利用し（または利用しないで）、どのような社会生活を行っているのでしょうか。あるいはコンピュータやインターネットは果たして我々の社会をどのように支えたり、変化させたりしてきているのでしょうか。そのような疑問に答えようとするのが本講義です。

この講義は前述のとおり「情報」教職免許の必修科目（教科に関する科目）ですが、卒業要件単位にカウントされますので、免許取得を希望しない学生諸君が履修しても、もちろん構いません。ただし、他の情報システムコースの専門科目とは異なり、コンピュータやインターネットの「中身」そのものに立ち入ることはしません。あくまでコンピュータやインターネットと社会の関係について考察するものですので、誤解のなきようにお願いします。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	イントロダクション
第 2 週	情報化によるビジネス環境の変化（1）
第 3 週	情報化によるビジネス環境の変化（2）
第 4 週	新しいビジネスモデル（1）
第 5 週	新しいビジネスモデル（2）
第 6 週	新しいビジネスモデル（3）
第 7 週	労働環境と労働意識の変化（1）
第 8 週	労働環境と労働意識の変化（2）
第 9 週	労働環境と労働意識の変化（3）
第１０週	情報化社会の新しいリスク（1）
第１１週	情報化社会の新しいリスク（2）
第１２週	情報化社会の新しいリスク（3）
第１３週	リスクマネジメント（1）
第１４週	リスクマネジメント（2）
第１５週	リスクマネジメント（3）

《情報システムコース科目》

科 目 名	情報システム特論Ａ				
担当者名	堀池　聡				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
基本情報処理技術者試験午前問題の出題範囲のうち、コンピュータ構成要素、システム構成要素、アルゴリズムとプログラミングを取り上げ、関連した技術や問題の解法を学習します。

《授業の到達目標》
受講終了後に講義内容を再度復習することにより、本講義で扱った範囲に対しては情報処理技術者試験午前問題の合格レベルに達することを目標とします。

《テキスト》
『基本情報技術者標準教科書』 大滝みや子編 （オーム社）

《参考文献》
適宜提示します。

《成績評価の方法》
毎週授業の最初に前週の授業内容に関するテストを行う。その小テストの合計点(100%)により成績を評価する。

《授業時間外学習》
授業内容を十分復習し，練習問題を解くなどして、翌週の試験に備えてください。

《備考》
授業の性質上 10 人程度の小人数のクラス編成とする。受講希望者は必ず第一回目の授業に参加して受講許可を得て下さい。
「情報科学入門」「コンピュータ基礎論」「アルゴリズム」の各講義を受講しておいて下さい。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	授業の進め方ならびに概要
第 2 週	コンピュータ構成要素に対する基本情報処理技術者試験対策(1)
第 3 週	コンピュータ構成要素に対する基本情報処理技術者試験対策(2)
第 4 週	コンピュータ構成要素に対する基本情報処理技術者試験対策(3)
第 5 週	コンピュータ構成要素に対する基本情報処理技術者試験対策(4)
第 6 週	システム構成要素に対する基本情報処理技術者試験対策(1)
第 7 週	システム構成要素に対する基本情報処理技術者試験対策(2)
第 8 週	システム構成要素に対する基本情報処理技術者試験対策(3)
第 9 週	システム構成要素に対する基本情報処理技術者試験対策(4)
第１０週	システム構成要素に対する基本情報処理技術者試験対策(5)
第１１週	アルゴリズムとプログラミングに対する基本情報処理技術者試験対策(1)
第１２週	アルゴリズムとプログラミングに対する基本情報処理技術者試験対策(2)
第１３週	アルゴリズムとプログラミングに対する基本情報処理技術者試験対策(3)
第１４週	アルゴリズムとプログラミングに対する基本情報処理技術者試験対策(4)
第１５週	アルゴリズムとプログラミングに対する基本情報処理技術者試験対策(5)

《情報システムコース科目》

科 目 名	情報システム特論Ｂ				
担当者名	高野　敦子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
通常の講義で学んでいる情報技術を情報技術者試験の問題を題材として学ぶことにより，理解を深め，知識を定着させることを目的とします。具体的には、情報の表現方法，データベース，ＩＴストラテジなどの項目について、情報技術者試験の各種問題を解きます。情報技術者試験の対策も兼ねています。

《授業の到達目標》
情報の表現方法，データベース，ＩＴストラテジなどの項目について理解が深まります。情報技術者試験の対策ができます。

《テキスト》
『基本情報技術者標準教科書』 大滝みや子編 （オーム社）

《参考文献》
適宜指示します。

《成績評価の方法》
毎回授業の最初に行う確認テストの合計点（100%）で評価します。

《授業時間外学習》
毎回授業の復習をし，確認テストに備えてください。

《備考》

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	情報の表現
第 2 週	情報の表現
第 3 週	情報の表現
第 4 週	情報の表現
第 5 週	情報の表現
第 6 週	データベース
第 7 週	データベース
第 8 週	データベース
第 9 週	データベース
第１０週	データベース
第１１週	ＩＴストラテジー
第１２週	ＩＴストラテジー
第１３週	ＩＴストラテジー
第１４週	ＩＴストラテジー
第１５週	ＩＴストラテジー

《地域デザインコース科目》

科 目 名	人と地域				
担当者名	金子　哲				
授業方法	講義	単位・必選	4・選必	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》

個人が所属する、各レベルの共同体の発生と、共同体内の諸原理を考えます。それらの原理により、人間が如何なる行動をとるか、を考えましょう。

難しく表現すれば、共同体論と政治過程論とを扱います。

《授業の到達目標》

どのようなお偉いさんでも、その人の視点からしか世界を見、考えることしかできません。則ち、地域から見、考えることしかできません（ニューヨークもアキバも地域です）。グローバルな思索をなす場合でも、自分の視座、すなわち地域性を十分に任意記する必要があります（これができないのがアメリカ？）。

各個人を中心として、バームクーヘンのような同心円状に、各レベルの共同体、地域が重なっています。家族、家、ご近所、町内会・・・、などのように。この各レベルの共同体は一体何であり、どのように誕生したか、そこでは、どのような正統性原理等が働き、人間がどの様に行動するか、等々を思索するシード（種）の獲得を、この講義では目指します。

《テキスト》

なし

《参考文献》

京極純一『日本の政治』（1983年09月20日、東京大学出版会）
網野善彦『東と西の語る日本の歴史』（1998年09月10日、講談社学術文庫）

《成績評価の方法》

学期末に行う確認テスト（ペーパーテスト）を60パーセントとします。比較的小人数の講義になるので、講義への積極的参加を40パーセントとし、随時行う小テスト等で評価します。

《授業時間外学習》

柔軟な思考ができるように、頭のストレッチをしてから講義に臨んでください。また、常に周囲の人間行動に関心を持ち、観察してください。参考文献を自主的に読破してみてください。

《備考》

最新鋭の研究成果を反映させるつもりです。それが大学教員の責務と考えています。故にシラバスの内容と講義とが完全に一致しない可能性がありますが、この点を納得の上で履修してください。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	はじめに　地域とは？　地域からの視座
第 2 週	日本の地域１　弥生文化を持たない待機
第 3 週	日本の地域２　東北日本と東日本
第 4 週	日本の地域３　中部日本
第 5 週	日本の地域４　近畿と中国地方
第 6 週	日本の地域５　四国・九州地方
第 7 週	東日本と西日本の文化差
第 8 週	地域的王権　郡司・武士とは？1
第 9 週	地域的王権　郡司・武士とは？2
第１０週	共同体の発生
第１１週	共同体のシステム
第１２週	共同体内の行動原理１
第１３週	共同体内の行動原理２
第１４週	共同体内の行動原理３
第１５週	おわりに

《地域デザインコース科目》

科 目 名	地域デザイン論				
担当者名	瀧本　眞一				
授業方法	講義	単位・必選	4・選必	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
地域をデザインするための様々な基礎的な理論と現実について講義します。また、「地域づくり・まちづくり」について学び、さまざまな局面での地域デザインの手法も学びます。

《授業の到達目標》
今、「地域」という言葉が様々局面で注目されています。また、「持続可能性」・「再生」という言葉も同様に注目されています。この３つの言葉をキーワードとして現代社会を考えると、国や地方の政策の転換が迫られていることが読み取れます。そこで、この授業では、「地域」という言葉を中心に据えて、そのあり方を構築していく～デザインする～ための視点を習得することを目標とします。

《テキスト》
特に使用しません。必要に応じてプリントや資料を配布します。

《参考文献》
1. 適宜、紹介しますが、自分で探す能力を身につけることも必要です。
2. 各自で発見してください。
3. 新聞・ニュース・図書・資料
4. 『地域の計画まちづくり』日本まちづくり協会、技術書院、2005年
   『「村」が地域ブランドになる時代』関満博・足利亮太郎、新評論、2007年

《成績評価の方法》
授業内容に関するミニレポート（40%）、最終レポート（60%）で評価します。
ただし、出席を重視し、出席率が一定程度に満たない場合は、単位を認定しないこともあります。

《授業時間外学習》
特に指定はしませんが、地域問題についての新聞・雑誌・図書をよく読み、地域問題に関しての知識を深めてください。

《備考》
特にありませんが、新聞・雑誌などで「まちづくり」に関する知識を深めてください。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	開発計画の変遷
第 2 週	開発計画の変遷
第 3 週	課題の発見・整理の手法
第 4 週	課題の発見・整理の手法
第 5 週	計画・予測の手法
第 6 週	計画・予測の手法
第 7 週	評価・利害調整の手法
第 8 週	評価・利害調整の手法
第 9 週	中心市街地問題を考える
第１０週	中心市街地問題を考える
第１１週	流域圏としての計画を考える
第１２週	流域圏としての計画を考える
第１３週	コンパクトシティを考える
第１４週	コンパクトシティを考える
第１５週	全国事例に学ぶ

《地域デザインコース科目》

科 目 名	地域経済論Ⅱ				
担当者名	瀧本　眞一				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
地域経済のダイナミックな動きを検証し、地域経済発展が全国経済や他地域に与えた影響を探ります。なぜ地域経済の発展は様々な展開を見せるのかについて実証的に分析します。現状のように地域が力強さを失いつつあるとき、どのような地域経済政策が必要となるのかを課題として探っていきます。

《授業の到達目標》
地域経済がどのように発展してきたのかを、地域類型の動向や全国総合開発計画の変遷などを通じて考察し、今後の地域経済政策を考える基礎力を養います。また、地域経済統計の基本的な見方を学びます。

《テキスト》
特に使用しません。授業の進行に会わせて、必要なプリントを配布します。

《参考文献》
随時、リストを紹介します。

《成績評価の方法》
授業内容に関するミニレポート（40%）、最終レポート（60%）で評価します。
なお、出席が一定程度に満たない場合は、成績の如何にかかわらず単位を認定しない場合もあります。

《授業時間外学習》
特に指定はしませんが、地域問題についての新聞・雑誌・図書をよく読み、地域問題に関しての知識を深めてください。

《備考》
頃から、新聞や雑誌に掲載されている地域経済や地域政策、企業動向を、よく読む癖をつけてください。授業のヒントや課題などを見つけることができるはずです。また、グループに分けて議論をする機会を設けることも考えています。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	ガイダンス・地域経済と地域政策を考える視点
第 2 週	地域政策～様々な変化について
第 3 週	「地域」の見方を考える～1
第 4 週	「地域」の見方を考える～2
第 5 週	地域の「政策」を考える～1
第 6 週	地域の「政策」を考える～2
第 7 週	地域政策の変遷を考える～1
第 8 週	地域政策の変遷を考える～2
第 9 週	自治体の財政を考える～1
第１０週	自治体の財政を考える～2
第１１週	都市空間を考える～1
第１２週	都市空間を考える～2
第１３週	地域産業を考える～1
第１４週	地域産業を考える～2
第１５週	まとめ

《地域デザインコース科目》

科 目 名	環境と地理				
担当者名	南埜　猛				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》

地理は英語で Geography です。Geography は geo（土地）と graphy（描く）をつなぎあわした言葉で，Geography とは，土地を描くという意であります。ここでいう土地とは，私たちの身の回りのことであり，別の言葉でいえば，環境といえます。また描くとは，別の言葉でいえば，認識するといえます。この講義では，大学周辺の地域や東播磨地域を題材に，身近な環境（土地）を認識する（描く）ことを目的とします。そのツールとして地図を使います。地図は見るものではなく，読むものです。読むための技術をフィールドワークも交えて習得します。また GIS（地理情報システム）を利用すれば，オリジナルの地図が簡単に作れます。コンピュータを使った地図作成も行ないます。

《授業の到達目標》

○地図についての基礎知識や地図の入手方法についての知識を得る。
○身近な環境の把握の方法を知る。
○地図が読めるようになる。
○コンピュータでオリジナルの地図（主題図）を作ることができる。

《テキスト》

・テキストは使用しません。必要に応じて資料を配布します。ただし，作業教材として大学周辺の地形図を必ず購入してもらいます。

《参考文献》

『MANDARA と EXCEL による市民のためのＧＩＳ講座』後藤真太郎・谷謙二・酒井聡一・加藤一郎，古今書院，2004.
『MANDARA と EXCEL による市民のためのＧＩＳ講座 新版』後藤真太郎・谷謙二・酒井聡一・加藤一郎，古今書院，2007.
『地図表現ガイドブック』浮田典良・森三紀，ナカニシヤ出版，2004.
『地図表現半世紀』浮田典良，ナカニシヤ出版，2005.
『ジオ・パル 21　地理学便利帳』浮田典良・池田碩・戸所隆・野間晴雄・藤井正，海青社，2001.

《成績評価の方法》

・授業内討論等への参加 20%（参加意欲・協力度によって評価する）
・課題等（３～４つの課題を予定）の提出物 60%（提出遅れについては，減点する）
・定期試験 20%（なお，試験はノート・資料等の「持ち込み不可」にて実施する）
・授業欠席回数が授業実施回数の３分の１以上欠席した者には単位を与えません。
・また一つでも未提出の課題がある場合も単位は与えません。

《授業時間外学習》

・授業時間内だけで課題をこなすことは出来ません。課題をするための時間を予め確保するようにしてください。

《備考》

・フィールドワークやコンピュータ室の利用などがあるため,授業の教室は毎回同じではありません。掲示板を通じて連絡しますので，必ず掲示板を確認してください。
・課題は，提出期限を守るように心がけてください。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	ガイダンス　地理とは？　環境とは？
第 2 週	環境の認知―メンタルマップ
第 3 週	いろいろな地図　地図の歴史と種類
第 4 週	地形図を読もう　地図を読むための基礎を学ぶ
第 5 週	地形図を持って出かけよう　1（大学周辺のフィールドワーク）
第 6 週	地形図の作業　1　地図記号と地形
第 7 週	地形図を持って出かけよう　2（大学周辺のフィールドワーク）
第 8 週	地形図の作業　2　土地利用
第 9 週	地図と景観　1　景観とは？
第１０週	地図と景観　2　変化する景観
第１１週	GIS を使った地図の作成　1　GIS って何？
第１２週	GIS を使った地図の作成　2　地図作成の基本を学ぶ
第１３週	GIS を使った地図の作成　3　オリジナルの地図を作成する
第１４週	GIS を使った地図の作成　4　地図から地域の特徴を読み取る
第１５週	宇宙からみた地域

《地域デザインコース科目》

科 目 名	社会調査Ⅱ				
担当者名	根本　敏行				
授業方法	講義	講義	2・選	講義	3年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》

前半は、各種の社会調査の手法について、その特性や限界、メリット、デメリット等について学ぶ。特に、ニュースなどの身の回りの社会現象の中からトピックを具体的な事例として取り上げ、ケース･スタディのメソッドを応用する。後半は、実践的なデータ収集や現場取材の方法などを取り上げ、試行的に実践する事例を用いた課題にも取り組むことを目指す。全般的に、受講生が持つ社会経済的領域の興味・関心の度合いをもとに、これに適合した教材、手法を用いることとし、本科目の履修に必要な関連する知識等については授業内で必要に応じて追加的な学習の機会を提供することを検討する余地があるものとする。

《授業の到達目標》

○　社会調査の方法論の有効性やその限界等について理解する。
○　具体的な社会情勢の中からケースを想定し、統計データなどの定量的な分析によってこれを検証してみるプロセスを理解する。

《テキスト》

特に指定しない。
授業の中で適宜教材を配布する。

《参考文献》

特に指定しない。
授業の中で適宜教材を配布する。

《成績評価の方法》

出席は全体の２／３以上が必要で、１／３以上を欠席した場合は単位は与えない。教室で授業への積極的な参加意欲に応じて成績評価の３０パーセント程度までを加点することができる。
全体で複数回のレポート課題を課すが、全てを提出することを基本とする。これらの記入内容、とりわけ質的な内容の程度に応じて成績評価の７０パーセントとする。提出遅れについては減点する。

《授業時間外学習》

・予習の方法
普段から、身の回りの社会経済の現象に興味・関心を持ち、「なぜだろう」と疑問を持って、時に批判的に社会を観察する習慣を身に付けたい。授業開始後においては、授業で配布されるレポート課題等について、事前に取り組んで理解できないことや知らなかった言葉などについて事前に調べることとする。
・復習の方法
授業で配布される参考資料等について、授業後も全体を読んで内容を理解し、授業時間内で習得した知識やスキルの幅を広げることを目指す。授業内容を再確認し、不明な点は質問するなり自分で調べるなりすること。また、授業中に示された参考図書を読み、それをもとにレポート課題に取り組むこととする。

《備考》

自分の理解度を確認しつつ、わからないところなどはできるだけ授業時に質問すること。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	授業の目的・進め方の説明
第 2 週	社会調査手法の特性
第 3 週	各種の手法のメリットとデメリット（1）定性調査
第 4 週	各種の手法のメリットとデメリット（2）定量調査
第 5 週	中間テスト１
第 6 週	社会事象とその裏づけデータについて
第 7 週	マスコミによる情報発信の特性
第 8 週	マーケティング・リサーチについて（1）意義と基本的考え方
第 9 週	マーケティング・リサーチについて（2）事例研究
第１０週	エリア・マーケティングと地域の課題
第１１週	中間テスト２
第１２週	タウン・ウォッチングの方法論
第１３週	臨床的な地域調査
第１４週	社会調査の課題
第１５週	まとめのレポートと講評

《地域デザインコース科目》

科 目 名	ジャーナリズム				
担当者名	森本　章夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

インターネットの登場によって、これまでジャーナリズムを支えてきた新聞、テレビ、出版などの主要メディアは変容を迫られています。健全で多様なジャーナリズムは民主主義社会の基盤ですが、その危機は私たちの暮らしにどう影響するのでしょうか。問題意識を共有し、政治、経済、社会など、日々洪水のように伝えられる情報を読み解いていくと同時に、例示の課題を手がかりに自分の意見を書きまとめ、発表し、ディスカッションします。こうした学習を通じて、ジャーナリズムの視点を養い、情報化社会で生きる力を磨きます。

《授業の到達目標》

○人々の暮らしに、なぜ情報が必要なのかが理解できる。
○民主主義社会にとって、健全なジャーナリズが不可欠であることが理解でき、説明できる。
○具体的ニュース事例を通し、問題意識を養い、考える手がかりをつかむことができる。
○書く、発表する、討論することで表現力を高め、他者の意見も聞く姿勢をつくることができる。

《テキスト》

テキストは使用しない。毎回、図版を添えたメモを配布する。

《参考文献》

「神戸新聞の 100 日」（角川ソフィア文庫）神戸新聞社編
「ジャーナリズムの思想」「ジャーナリズムの可能性」（岩波新書）原　寿雄著
「新聞は生き残れるか」（岩波新書）中馬清福著

《成績評価の方法》

毎回、受講生と話し合ってテーマを決め、４００字程度のレポートにまとめ、次週に提出してもらう。各週の課題レポートの内容（70%）と最終週に作成する講義全体まとめレポート及び出席状況を加味して（30%）総合評価する。就職活動、面談、病気など、やむを得ず欠席する場合は、その旨を書面で提出する。

《授業時間外学習》

・参考文献に挙げた「神戸新聞の 100 日」は必ず読んでもらう。ジャーナリズムを考える手がかりとし、併せて阪神・淡路大震災の意味を問う教材となる。
・新聞を購読し、社説に目を通し、自分の考えをまとめておく。

《備考》

文章を書く習慣を身につけて下さい。文章を書く基本的ルールについては、講義終了後に質問して下さい。
毎回配布するメモはファイルし残すこと。最終週にまとめるレポートに必要になります。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	阪神・淡路大震災の報道現場から～メディアは何を伝え、何を伝えられなかったか。地域ジャーナリズムの視点で検証する
第 2 週	阪神・淡路大震災の報道現場から～大震災がなぜ普遍性を持つのか。当時の代表的社説を使って考える
第 3 週	新聞はジャーナリズムの主体足り得ているか～新聞離れの背景を内外の事例を通して探る
第 4 週	ニュースを読み解く～政治報道はなぜ政局報道となるのか
第 5 週	ニュースを読み解く～「権力対メディア（市民）」から「権力（市民）対メディア」の構造変化
第 6 週	読者クラブという存在～ジャーナリズムの衰退の一因を考える
第 7 週	ジャーナリズムを支え、育てる環境～記者の意識変化と養成の必要
第 8 週	ジャーナリズムとしてのテレビ～娯楽と報道の境い目を問う
第 9 週	ジャーナリズムとしてのテレビ～戦争報道の虚実を検証する
第１０週	出版不況～電子書籍は知を育てられるか
第１１週	ネット時代のジャーナリズム～情報の選択基準を考える
第１２週	電子新聞の実態～新たなビジネスモデルを考える
第１３週	調査報道とは何か～ウォーターゲート事件報道を手がかりに考える
第１４週	新聞「社説」の変化～報道と主張の違い
第１５週	ジャーナリズムの思想～ジャーナリズムの再生への可能性を考える

《地域デザインコース科目》

科 目 名	社会政策Ⅰ				
担当者名	河野　真				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
市場経済は万能なシステムではなく，常に最適な資源配分をもたらす訳ではない。また，公平性について言えば，市場経済が望ましい結果を生み出す保証はない。こうした市場の失敗から様々な社会問題が発生する。所得保障制度，医療・保健サービス，対人社会サービス,雇用・住宅・教育政策などを内実とする社会政策は，社会問題に対応することで市民の生活困難や生活不安を解消し，人々の社会的なつながりを強めることを目指してきた。現在，全ての主要先進国で社会政策は，その役割と守備範囲を大きく広げ，公共支出の面でも枢要な地位を占めている。
その一方で社会政策は，グローバル化，少子・高齢化といった状況の中で，従来のあり方に変更を迫られている。社会問題に対する積極的な国家介入は，必ずしも歓迎されなくなり，社会政策の非効率性や官僚主義的な制度運営が厳しく批判されるようになった。
社会政策Ⅰでは，こうした現状認識に立ち社会政策の理論，制度面について社会保障制度を中心に解説する。

《授業の到達目標》
社会政策の仕組みを理解する。
社会政策の中核を構成する社会保障制度について，制度の内容，現状，将来展望について説明できる。

《テキスト》
市販の教科書は使用しない。プリントを配布する。

《参考文献》
定期試験 70%，授業への参加とその成果 30%（小テスト等により評価する)。

《成績評価の方法》
授業で使用するプリントに事前に目を通しておくこと。
授業で扱うトピックスは，基礎的な情報や動向については新聞や書籍，ウェッブサイトを通じて入手可能である。こうした情報に接し，疑問や関心を持ったうえで受講することが望ましい。

《授業時間外学習》
授業で使用するプリントに事前に目を通しておくこと。
授業で扱うトピックスは，基礎的な情報や動向については新聞や書籍，ウェッブサイトを通じて入手可能である。こうした情報に接し，疑問や関心を持ったうえで受講することが望ましい。

《備考》
グローバル化，情報化，脱工業化，さらに少子高齢化など，社会のシステムは大きく変貌を遂げつつあります。豊かで安定した市民生活を実現するうえで，社会政策の充実は不可欠ですが，従来日本では経済的繁栄を追うあまり，社会政策の改善はなおざりにされてきたようです。しかしながらそうした政策運営のあり方には見直しが迫られており，それに伴い，社会政策のあり方にも大きな変化が進行しつつあります。こうした問題意識のもと，制度形成の文化的背景や国際比較の視点も交えながら議論を進めていきます。社会の現状に問題意識を持つ学生の受講を歓迎します。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	オリエンテーション（講義の課題と対象）：社会の変化と社会政策
第 2 週	社会政策・福祉国家制度・社会保障制度
第 3 週	社会保障の定義（目的，機能，体系，財政）
第 4 週	社会福祉（1） （社会福祉の法制度，動向）
第 5 週	社会福祉（2） （社会福祉の実施体制，社会福祉制度形成史）
第 6 週	社会福祉（3） （社会福祉施策：生活保護，児童福祉，障害者福祉）
第 7 週	社会福祉（4） （社会福祉施策：母子福祉，老人福祉，介護保険）
第 8 週	近年の社会保障・福祉制度改革 （社会福祉基礎構造改革，高齢者介護政策，少子化対策，障害者政策，医療改革，年金改革等）
第 9 週	医療保障（1） （医療費の動向）
第１０週	医療保障（2） （日本における医療供給システムの特徴，医療保険制度）
第１１週	医療保障（3） （医療制度改革）
第１２週	所得保障（1） （年金制度の仕組み）
第１３週	所得保障（2） （日本の年金制度１）
第１４週	所得保障（3） （日本の年金制度２）
第１５週	所得保障（4） （児童手当，労働保険）

《地域デザインコース科目》

科 目 名	社会政策Ⅱ				
担当者名	河野　真				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
市場経済は万能なシステムではなく，常に最適な資源配分をもたらす訳ではない。また，公平性について言えば，市場経済が望ましい結果を生み出す保証はない。こうした市場の失敗から様々な社会問題が発生する。所得保障制度，医療・保健サービス，対人社会サービス,雇用・住宅・教育政策などを内実とする社会政策は，社会問題に対応することで市民の生活困難や生活不安を解消し，人々の社会的なつながりを強めることを目指してきた。現在，全ての主要先進国で社会政策は，その役割と守備範囲を大きく広げ，公共支出の面でも枢要な地位を占めている。
その一方で社会政策は，グローバル化，少子・高齢化といった状況の中で，従来のあり方に変更を迫られている。社会問題に対する積極的な国家介入は，必ずしも歓迎されなくなり，社会政策の非効率性や官僚主義的な制度運営が厳しく批判されるようになった。
社会政策Ⅱでは，こうした現状認識に立ち社会政策の現状や近年の動向，社会政策の歴史的展開過程を中心に解説する。
《授業の到達目標》
社会政策が対応する今日的課題（格差問題，少子化問題，高齢化問題）について，それらの本質やトレンドについて理解する。
社会サービスをめぐる公私の役割分担について理論的に学ぶことで，公共サービスの民営化や市場化，再国営化といった政策を推し進める意図がより深く理解できるようになる。
社会政策の発展プロセスの学習を通して，社会政策の本質や制度形成のメカニズムを理解する。
《テキスト》
市販の教科書は使用しない。プリントを配布する。
《参考文献》

《成績評価の方法》
定期試験 70%，授業への参加とその成果 30%（小テスト等により評価する)。
《授業時間外学習》
授業で使用するプリントに事前に目を通しておくこと。
授業で扱うトピックスは，基礎的な情報や動向については新聞や書籍，ウェッブサイトを通じて入手可能である。こうした情報に接し，疑問や関心を持ったうえで受講することが望ましい。
《備考》
グローバル化，情報化，脱工業化，さらに少子高齢化など，社会のシステムは大きく変貌を遂げつつあります。豊かで安定した市民生活を実現するうえで，社会政策の充実は不可欠ですが，従来日本では経済的繁栄を追うあまり，社会政策の改善はなおざりにされてきたようです。しかしながらそうした政策運営のあり方には見直しが迫られており，それに伴い，社会政策のあり方にも大きな変化が進行しつつあります。こうした問題意識のもと，制度形成の文化的背景や国際比較の視点も交えながら議論を進めていきます。社会の現状に問題意識を持つ学生の受講を歓迎します。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	オリエンテーション：講義の課題と対象 社会政策の新しい課題
第 2 週	格差問題（1）
第 3 週	格差問題（2）
第 4 週	少子化をめぐる諸問題（1）
第 5 週	少子化をめぐる諸問題（2）
第 6 週	少子化をめぐる諸問題（3）
第 7 週	高齢社会をめぐる諸問題（1）
第 8 週	高齢社会をめぐる諸問題（2）
第 9 週	高齢社会をめぐる諸問題（3）
第１０週	公私の役割分担（福祉多元主義）（1）
第１１週	公私の役割分担（福祉多元主義）（2）
第１２週	公私の役割分担（福祉多元主義）（3）
第１３週	社会政策発達史（1） （英国社会政策発達史 1）
第１４週	社会政策発達史（2） （英国社会政策発達史２）
第１５週	社会政策発達史（3） （日本社会政策発達史）

《地域デザインコース科目》

科 目 名	行政学Ⅰ				
担当者名	木下　準一郎				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》

行政学は政治学、財政学、経営学、公共政策論等の理論や知識を積極的に吸収することによって成長を続けている学際的な学問だ。それは国・地方の行政活動の分析を通じて、行政に内在する問題を見出して処方箋を書くこと、つまり行政の診断や治療を行うことを目指した学問である。授業の具体的な内容は下の《授業計画》を参照してもらいたい。行政学Ⅰでは主として「人」の側面から行政の問題について講義を行う。

《授業の到達目標》

教科書の記述を理解できる。行政の活動や行政が抱える問題を理解できる。

《テキスト》

『行政学の基礎』　風間規男編　（一藝社　2007年）

《参考文献》

『行政学』〔新版〕　西尾勝　（有斐閣　2001年）
『行政学教科書』〔第2版〕　村松岐夫　（有斐閣　2003年）
『講座　行政学』（全6巻）　西尾勝・村松岐夫編　（有斐閣　1995年）

《成績評価の方法》

小テスト（40%）
定期試験（60%）
授業を5回以上欠席した学生は定期試験を受ける権利を失う。

《授業時間外学習》

テキストの指定された箇所を読んだ上で出席していることを前提に講義を進めるので、該当ページをあらかじめ読んでくること。

《備考》

行政学Ⅰと行政学Ⅱを通じて行政の理論、歴史、過程、組織、環境等、行政学の対象領域すべてをカバーしているので、行政学に関心を持つ学生や公務員試験を目指す学生は行政学Ⅰと行政学Ⅱを通年科目とみなして受講するとよい。
オフィスアワーについては研究室（1W-112)のドアに貼り出しているので、質問や相談のある学生は指定した時間に訪ねてほしい。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	オリエンテーション（授業計画の説明および成績評価方法について）
第 2 週	行政とは何か
第 3 週	行政国家
第 4 週	ドイツ官房学
第 5 週	アメリカ行政学
第 6 週	小テスト
第 7 週	官僚制の概念
第 8 週	官僚制組織の行動様式
第 9 週	日本の公務員制度
第１０週	諸外国の公務員制度
第１１週	公務員制度改革
第１２週	小テスト
第１３週	政策形成と政策立案
第１４週	官庁における意思決定方式
第１５週	予算編成と会計検査

《地域デザインコース科目》

科 目 名	行政学Ⅱ				
担当者名	木下　準一郎				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

行政学は政治学、財政学、経営学、公共政策論等の理論や知識を積極的に吸収することによって成長を続けている学際的な学問だ。それは国・地方の行政活動の分析を通じて、行政に内在する問題を見出して処方箋を書くこと、つまり行政の診断や治療を行うことを目指した学問である。授業の具体的な内容は下の《授業計画》を参照してもらいたい。行政学Ⅱでは主として「組織」の側面から行政の問題について講義を行う。

《授業の到達目標》

教科書の記述を理解できる。行政の活動や行政が抱える問題を理解できる。

《テキスト》

『行政学の基礎』　風間規男編　（一藝社　2007年）

《参考文献》

『行政学』〔新版〕　西尾勝　（有斐閣　2001年）
『行政学教科書』〔第2版〕　村松岐夫　（有斐閣　2003年）
『講座　行政学』（全6巻）　西尾勝・村松岐夫編　（有斐閣　1995年）

《成績評価の方法》

小テスト（40%）
定期試験（60%）
授業を5回以上欠席した学生は定期試験を受ける権利を失う。

《授業時間外学習》

テキストの指定された箇所を読んだ上で出席していることを前提に講義を進めるので、該当ページをあらかじめ読んでくること。

《備考》

行政学Ⅰと行政学Ⅱを通じて行政の理論、歴史、過程、組織、環境等、行政学の対象領域すべてをカバーしているので、行政学に関心を持つ学生や公務員試験を目指す学生は行政学Ⅰと行政学Ⅱを通年科目とみなして受講するとよい。

オフィスアワーについては研究室（1W-112)のドアに貼り出しているので、質問や相談のある学生は指定した時間に訪ねてほしい。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	オリエンテーション（授業計画の説明および成績評価方法について）
第 2 週	組織の理論 (1)
第 3 週	組織の理論 (2)
第 4 週	国家行政組織
第 5 週	小テスト
第 6 週	内閣制度の変遷
第 7 週	議院内閣制ー国会と内閣
第 8 週	議院内閣制ー内閣の組織と機能
第 9 週	大統領制
第１０週	行政改革と行政管理
第１１週	小テスト
第１２週	政府間関係
第１３週	日本の政府間関係
第１４週	諸外国の政府間関係
第１５週	学習のまとめ・住民による行政統制

《地域デザインコース科目》

科 目 名	環境経済論Ａ				
担当者名	池本　廣希				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ｉ期

《授業のねらい及び概要》

環境問題の現状・実態・歴史から問題を提起する。各自が「環境問題とは何か」という疑問をいだきながらモチベーションの高まる授業をねらいとする。

授業は、市場経済原理主義を批判しながら、これまでの「生産」「消費」「経済成長」「近代化」「近代技術」「近代農業」「近代河川工法」などについて省察し、これからの新しい経済学、すなわち環境と経済を共存させる経済学＝環境経済学の構築に向けて話題提供する。

《授業の到達目標》

①環境問題は他人事でないことを自覚する。　②「成長」「進歩」「豊かさ」「都市と農村」などについて一枚皮の剥けた理解に至る。③環境問題打開策に向かう生活の在り方を模索する。④環境経済論Ａの意義を理解する。

《テキスト》

プリント配布

《参考文献》

『地産地消の経済学』-生命系の世界からみた環境と経済-　池本廣希　新泉社　2008年

《成績評価の方法》

筆記試験（70%）と提出物（30%）

《授業時間外学習》

環境問題に関する提出物を授業時間外学修として課す。

《備考》

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	ガイダンス 今何故、「環境と経済」なのか。
第 2 週	VTR　「地球環境白書」をみる。 世界の環境問題の実情を凝視し、環境問題の所在を明らかにする。
第 3 週	VTR　「CO2を減らそう」をみる。 地球温暖化対策について調べ、環境問題と経済学の関連について講義する。
第 4 週	人類の歴史と環境問題
第 5 週	人口問題と環境問題
第 6 週	食糧問題と環境問題
第 7 週	エネルギー問題と環境問題
第 8 週	産業革命と環境問題
第 9 週	経済学のあゆみと環境問題
第１０週	「資本主義と産業革命と環境問題」
第１１週	「資本の論理と生活の論理」
第１２週	「資本の論理と環境の論理」
第１３週	自然と人間の共生について
第１４週	地域の環境といなみ野台地ため池灌漑
第１５週	まとめ

《地域デザインコース科目》

科 目 名	環境経済論Ｂ				
担当者名	池本　廣希				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
環境経済論Ａが現状認識に力点を据えていたのに対し､環境経済論Ｂは環境問題に関する理論の整理と戦後日本の経済のあゆみと環境問題について調べ、今後の環境対策について論じる。
　その狙いは、環境問題を経済政策、地域政策とからめて考える力をつけ、環境問題を考えながら地域と世界を語り、行動できる人間になってくれることにある。

《授業の到達目標》
①環境問題は他人の問題ではないということがわかること。　②環境問題が「市場の失敗」や「共有地の悲劇」と関係していることに気づくこと。　③社会的共通資本を理解すること。　④「水はいのち」ということを深く学修すること。

《テキスト》
プリント配布

《参考文献》
『地産地消の経済学』－生命系の世界からみた環境と経済－　池本廣希　新泉社　2008年

《成績評価の方法》
筆記試験（70%）と提出物（30%）

《授業時間外学習》
授業時間外学習として、身近な環境問題について課題調査を課す。

《備考》

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	ガイダンス 環境経済論Ａから環境経済論Ｂへ
第 2 週	VTR　「沈黙の春」「水俣病」をみる 生命系の世界の危機を考える
第 3 週	これでいいのか日本の食と農（パワーポイント） 食と農から環境問題を考える
第 4 週	戦後50年の環境政策
第 5 週	戦後日本経済と食環境 １、1950年代、　２、1960年代
第 6 週	戦後日本経済と食環境 ２の補足、高度経済成長政策と環境問題
第 7 週	戦後日本経済と食環境 ３、1970年代　４、1980年代
第 8 週	戦後日本経済と食環境 ５、1990年代、　６、2000年代
第 9 週	地産地消と地域自立と環境
第１０週	環境経済学の基礎理論 １、市場の失敗
第１１週	環境経済学の基礎理論 ２、共有地の悲劇
第１２週	環境経済学の基礎理論 ３、環境税、排出権取引
第１３週	資本主義の限界と市場原理主義の破綻
第１４週	これからの環境経済学とこれからの若者
第１５週	まとめ

《地域デザインコース科目》

科 目 名	情報社会論				
担当者名	太田　健二				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》

高度情報通信ネットワーク社会と呼ばれる現在、メディアはもはや必要不可欠なものとなっている。しかし、それはあまりにも身近にあふれかえり、われわれは情報メディアに「飼い馴らされて」しまっているのかもしれない。テレビや新聞といったマスメディア、所持していないと不安になる私的なモバイルメディア。そういったものばかりではなく、人間の身体すらメディアであるとみなすこともできることは見過ごされがちではないだろうか。本講義は、「当たり前」を疑うような視点から情報社会を読み解いていく。

《授業の到達目標》

○社会と情報メディアの関わりについて読み解く基礎的素養を身につける。
○情報メディアを能動的に使いこなす可能性を知る。

《テキスト》

テキストは使用しない。

《参考文献》

Baudrillard, Jean, 1970, La Societe de Consommation, Ses Mythes, Ses Structures, Editions Denoel.（＝1979, 今村仁司・塚原史訳、『消費社会の神話と構造』、紀伊国屋書店.）
Fiske, John, 1989, Reading The Popular, Boston: Unwin Hyman.（＝1998, 山本雄二訳『抵抗の快楽：ポピュラーカルチャーの記号論』世界思想社.）
井上俊・伊藤公雄偏, 2009, 『メディア・情報・消費社会（社会学ベーシックス 7）』世界思想社.
伊藤守編著, 2009, 『よくわかるメディア・スタディーズ』ミネルヴァ書房.
McLuhan, Marshall, 1962, The Gutenberg Galaxy: the Making of Typographic Man, University of Tronto Press.（＝1986, 森常治訳『グーテンベルクの銀河系：活字人間の形成』みすず書房.）
佐藤卓己, 1998, 『現代メディア史』岩波書店.
富田英典・南田勝也・辻泉編, 2007, 『デジタルメディア・トレーニング：情報化時代の社会学的思考法』有斐閣.
吉見俊哉, 2004, 『メディア文化論：メディアを学ぶ人のための 15 話』有斐閣.

《成績評価の方法》

定期試験：60%
※試験形式 については初回講義「イントロダクション」で、受講生の意見を聞いた上で決定
リアクションペーパー：30%
受講態度：10%

《授業時間外学習》

あらかじめ参考図書を読み、さまざまなメディアに興味関心を持つと同時に、その利用について問題意識を高めておく。

《備考》

講義の順序・内容は、変更の可能性がある。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	イントロダクション
第 2 週	情報メディアをとらえる枠組①
第 3 週	情報メディアをとらえる枠組②
第 4 週	情報社会とメディアの展開①
第 5 週	情報社会とメディアの展開②
第 6 週	情報社会とメディアの展開③
第 7 週	情報社会とメディアの展開④
第 8 週	情報社会とメディアの展開⑤
第 9 週	多元化するリアリティ①
第１０週	多元化するリアリティ②
第１１週	多元化するリアリティ③
第１２週	情報メディアを「飼い馴らす」①
第１３週	情報メディアを「飼い馴らす」②
第１４週	情報メディアを「飼い馴らす」③
第１５週	まとめ

《地域デザインコース科目》

科 目 名	いなみ野ため池学				
担当者名	池本　廣希				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
日本一を誇るいなみ野ため池群。稲作のためのため池が、今、地域の宝として地域の人々に大切にされ始めている。兵庫大学に隣接する寺田池を身近な生きた教材としながら、いなみ野台地のため池の歴史や世界の水問題にまで視野を広げ、地域で生きてきた先人の知恵や技を学びとる。

《授業の到達目標》
地域の状況を把握し、そこから問題を発見し、それを分析し、その解決策を提案できる力を磨くこと。

《テキスト》
プリント・資料配布

《参考文献》

《成績評価の方法》
受講した講義のなかから関心を持った講義のレポートの評価（100%）、
または講義から触発されたテーマについて独自のレポートによる評価（100%）。

《授業時間外学習》
各自の住まいの地域で何が問題なのかを授業時間外学習として調べる。

《備考》
授業は、学外講師5名、学内講師2名を招き、オムニバス形式でおこなう。
*注　以下の授業計画は昨年度（2009年度）のものである。本年度は、外部講師の都合により変更がある。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	ガイダンス 今何故、ため池学なのか
第 2 週	いなみ野ため池学入門
第 3 週	播磨のため池
第 4 週	フィールドワーク（寺田池の散策）
第 5 週	ため池の技術
第 6 週	ため池の歴史
第 7 週	共有地（コモンズ）としてのため池
第 8 週	ため池の生き物（水生植物）
第 9 週	ため池の生き物（水生動物）
第１０週	ため池の景観
第１１週	いなみ野台地のため池・用水路
第１２週	いなみ野ため池ミュージアム
第１３週	「水と土」とともに生きる
第１４週	淡山疏水といなみ野ため池群
第１５週	まとめ

《地域デザインコース科目》

科 目 名	いなみ野まちおこし学				
担当者名	瀧本　眞一				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

外部・内部講師を含めたオムニバス形式で授業を進めます。外部講師として、行政の中で「まちづくり」に携わっている方、歴史や文化遺産に造詣が深い方、ため池と「まちづくり」に携わっている方、などを予定しています。内部からは、農業・景観・NPO などの分野について講義していただきます。

《授業の到達目標》

「まちづくり・まちおこし」は、固有の歴史や文化を背景としたものでなければなりません。そこで、各地域の「まちづくり・まちおこし」の現状と課題などについて、直接携わっている方々にも参加していただきます。現場で起きていることを講義していただき、さまざまな分野での実績を、今後の課題や問題の解決に役立てることを目標とします。

《テキスト》

とくにありません。必要に応じて、プリントなどを配布します。

《参考文献》

各講師から指示があるでしょう。

《成績評価の方法》

授業内容に関するミニレポート（40%）、最終レポート（60%）で評価します。授業の初日に詳しく説明します。

ただし、出席を重視し、出席率が一定程度に満たない場合は、単位を認定しないこともあります。

《授業時間外学習》

特に指定はしませんが、地域問題についての新聞・雑誌・図書をよく読み、地域問題に関しての知識を深めてください。

《備考》

特にありませんが、新聞・雑誌などで「まちづくり」に関する知識を深めてください。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	授業の性質上、講義の形式・担当者の予定などがありますから、特に週ごとの計画は未定です。 授業計画の概要と講義概要については授業の初日に説明します。 なお、参考までに 2010 年度の授業内容を列記します。 ・「まちおこし」と「まちづくり」 ・総合計画とまちおこし ・中心市街地とまちおこし ・地域ブランドとまちおこし ・NPO とまちおこし ・観光ビジネスとまちおこし ・文化歴史遺産とまちおこし ・農業（地産地消）とまちおこし ・市（いち）とまちおこし ・地域共同体とまちおこし ・地域メディアとまちおこし ・教育とまちおこし
第 2 週	
第 3 週	
第 4 週	
第 5 週	
第 6 週	
第 7 週	
第 8 週	
第 9 週	
第１０週	
第１１週	
第１２週	
第１３週	
第１４週	
第１５週	

《地域デザインコース科目》

科 目 名	メディアと政治				
担当者名	木下　準一郎				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》

コミュニケーション技術の発展が民主政治の発展とどのような関わりを持ってきたかについて解説する。また、インターネットの普及が政治・行政のあり方、即ち、選挙や議会運営、そして官僚組織による行政過程のあり方にどのような変革を与えうるかについて考える。

《授業の到達目標》

政治過程においてメディアが演じてきた役割を理解し、国内外の政治を批判的に見る力を身に付ける。

《テキスト》

テキストは指定しない。必要に応じて資料を配布する。

《参考文献》

『大統領とメディア』　石澤靖治　（文春新書　2001年）
『Eポリティックス』　横江公美　（文春新書　2001年）
『コミュニケーションの政治学』　鶴木眞　（慶応義塾大学出版会　2003年）
『インターネットは民主主義の敵か』　キャス・サンスティーン　（毎日新聞社 2003年）

《成績評価の方法》

小テスト（40%）
定期試験（60%）
授業を5回以上欠席した学生は定期試験を受ける権利を失う。

《授業時間外学習》

適宜宿題を指示する。

《備考》

オフィスアワーについては研究室（1W-112)のドアに貼り出しているので、質問や相談のある学生は指定した時間に訪ねてほしい。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	オリエンテーション（授業計画の説明および成績評価方法について）
第 2 週	メディアと民主政治の歴史
第 3 週	メディアの機能　(1) 情報の収集伝達と情報の評価
第 4 週	メディアの機能 (2) 説得・同意
第 5 週	新聞とテレビの政治報道
第 6 週	小テスト
第 7 週	インターネットと選挙
第 8 週	インターネットと議会
第 9 週	インターネットと行政
第１０週	小テスト
第１１週	世論と選挙キャンペーン
第１２週	アメリカ大統領選挙とメディア
第１３週	ホワイトハウス報道官とメディア
第１４週	日本の選挙とメディア
第１５週	学習のまとめ・課題と展望

《地域デザインコース科目》

科 目 名	地域史				
担当者名	未定				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

別紙参照

《授業の到達目標》

《テキスト》

《参考文献》

《成績評価の方法》

《授業時間外学習》

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	
第 2 週	
第 3 週	
第 4 週	
第 5 週	
第 6 週	
第 7 週	
第 8 週	
第 9 週	
第１０週	
第１１週	
第１２週	
第１３週	
第１４週	
第１５週	

《地域デザインコース科目》

科 目 名	地域デザイン特論Ａ				
担当者名	亀田　俊和				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》

人間は、住む地域の特性によって、社会的・経済的・歴史的に密接に規定されています。特に政治権力は、それが存在する地域の歴史的前提や地理的条件に左右されながら出現しました。そして、逆にその地域にさまざまな政治的・経済的影響を及ぼして、現代までに連続する地域的特質を生み出してきたのです。

この講義では、その様相を「権力による地域創出・経営」の視点から論じます。具体的には、兵庫大学が所在する兵庫県の地域や都市を複数取り上げます。そして、それぞれの地域や都市の地理的条件や歴史的前提を考察し、中央・地方の政治史と関連づけ、上述のテーマを論じます。知識を増やし、増やした知識に基づいて物事を考え、より深い教養を養うすばらしさを理解してもらいたいです。

《授業の到達目標》

兵庫県の諸地域・諸都市の歴史的前提や地理的条件と、それに規定され、影響を及ぼし合った政治権力の歴史を学び、そうした歴史過程によって生成された日本社会が、現代に至るまで連綿と続いている事実を理解する。

兵庫県の諸地域・諸都市は、豊かで多様な地域形成の歴史を有している。15回の授業では、そのすべてを論じることは無論不可能である。だが、この講義で学んだ研究手法や考察の方法を応用させ、授業で言及し得なかった地域・時代の勉強にまで、自発的・意欲的に取り組む態度を養うことを理想とする。

《テキスト》

作成したレジュメを、毎回授業開始時に配布する。

《参考文献》

毎回授業終了時に適時指定し、次回の授業までに読んできてもらう。

《成績評価の方法》

・毎回講義終了時に課す小テスト50%
・学期末に行う確認テスト50%

《授業時間外学習》

・予習の方法
　指定した参考文献を読んできてください。
・復習の方法
　配布されたレジュメで授業内容を再確認し、参考文献等を読み返してください。

《備考》

プロジェクタを使用し、現地調査で撮影した写真、画像資料、地図などを紹介します。
授業内容は、講師が行う現地調査や参加する学会で得た最新の研究成果などによって、変更される場合があります。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	授業ガイダンス―その１、本講義の授業内容の説明―
第 2 週	授業ガイダンス―その２、兵庫県の地理と歴史の概略―
第 3 週	古代の播磨の地域と歴史―古代播磨の中心都市・姫路―
第 4 週	鎌倉・南北朝時代の播磨の地域と歴史―日本史に大きな影響を与えた都市・加古川―
第 5 週	室町・戦国時代の播磨の地域と歴史―西日本の有力大名・播磨守護赤松氏の統治戦略―
第 6 週	近世の播磨の地域と歴史―西国の政治・軍事の重要拠点姫路城―
第 7 週	兵庫県の港湾の地域と歴史―その１、政治・宗教・経済が発展した中世の魚住泊・福泊―
第 8 週	兵庫県の港湾の地域と歴史―その２、神武天皇以来政治・軍事が栄えた古代・中世の室津―
第 9 週	兵庫県の港湾の地域と歴史―その３、参勤交代で栄えた西日本最大の宿場町・江戸時代の室津―
第１０週	兵庫県の港湾の地域と歴史―その４、日本の首都となった中世の兵庫―
第１１週	兵庫県の港湾の地域と歴史―その５、国際貿易都市となった近世・近代の兵庫―
第１２週	赤穂の地域と歴史―忠臣蔵のふるさと―
第１３週	篠山の地域と歴史―典型的な譜代大名の城下町―
第１４週	授業全体のまとめ―その１―
第１５週	授業全体のまとめ―その２―

《地域デザインコース科目》

科 目 名	地域デザイン特論Ｂ				
担当者名	亀田　俊和				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

人間は、住む地域の特性によって、社会的・経済的・歴史的に密接に規定されています。特に政治権力は、それが存在する地域の歴史的前提や地理的条件に左右されながら出現しました。そして、逆にその地域にさまざまな政治的・経済的影響を及ぼして、現代までに連続する地域的特質を生み出してきたのです。

Ⅰ期に開講した地域デザイン特論Ａでは、兵庫県の諸地域・諸都市を中心に、その様相を「権力による地域創出・経営」の視点から論じました。後期開講の本講義では、論じる対象を日本全国に拡大して、同様の問題を論じることを目指します。Ⅰ期の講義と同様、知識を増やし、増やした知識に基づいて物事を考え、より深い教養を養うすばらしさを知ってほしいです。

《授業の到達目標》

歴史的前提や地理的条件に規定され、政治権力と地域社会との相互影響によって生成された日本社会が、その前提や条件を基本的に維持したまま、現代に至るまで連綿と続いている事実を理解する。

日本の諸地域は、膨大で多様な地域形成の歴史を有している。15回の授業では、そのすべてを論じることは無論不可能である。だが、この講義で学んだ研究手法や考察の方法を応用させ、授業で言及しなかった地域・時代の勉強にまで、自発的・意欲的に取り組む態度を養うことを理想とする。

《テキスト》

作成したレジュメを、毎回授業開始時に配布する。

《参考文献》

毎回授業終了時に、適時指定し、次回の授業までに読んできてもらう。

《成績評価の方法》

・毎回講義終了時に課す小テスト50%
・学期末に行う確認試験50%

《授業時間外学習》

・予習の方法
指定した参考文献を読んできてください。
・復習の方法
配布されたレジュメで授業内容を再確認し、参考文献等を読み返してください。

《備考》

プロジェクタを使用し、現地調査で撮影した写真、地図、画像資料などを紹介します。
授業内容は、講師が行う現地調査や参加する学会で得た最新の研究成果などによって、変更される場合があります。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	ガイダンス―その１、本講義の授業内容等の説明―
第 2 週	ガイダンス―その２、日本全国の地理と歴史の概略―
第 3 週	鎌倉の地域と歴史―700年におよんだ武家政治の源流・鎌倉幕府の首都―
第 4 週	小田原の地域と歴史―その１、難攻不落の後北条氏の都、戦国時代の小田原―
第 5 週	小田原の地域と歴史―その２、東海道屈指の宿場町・近世の小田原―
第 6 週	東京の地域と歴史―その１、名将太田道灌が築いた中世の江戸―
第 7 週	東京の地域と歴史―その２、江戸幕府300年の都・近世の江戸―
第 8 週	東京の地域と歴史―その３、日本の首都から世界最大のメガロポリスへ―
第 9 週	京都の地域と歴史―その１、1000年の日本の都・平安時代の京都―
第１０週	京都の地域と歴史―その２、天下人豊臣秀吉の京都改造―
第１１週	大阪の地域と歴史―その１、古代の国際貿易港兼副都・難波京―
第１２週	大阪の地域と歴史―その２、太閤秀吉の夢の都から江戸幕府の直轄経済都市へ―
第１３週	博多の地域と歴史―不変の国際外交・貿易都市―
第１４週	授業全体のまとめ―その１―
第１５週	授業全体のまとめ―その２―

《教職に関する科目》

科 目 名	教育史				
担当者名	岡本　洋之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

本授業では，「教育」の関わる範囲を学校教育や社会教育だけでなく，子どもの遊び，子育て，大人と子どもの関係，海外留学など，広くとらえ，みなさんが日ごろ読んでいる本の中に教育史に関わる題材があふれていることをおさえる。

具体的には，受講生は日ごろ読んでいる本の中から，教育史的内容を含むものを１冊以上選び，その内容を紹介する「発表文献報告書」（1 冊につき A4 サイズ１枚）を提出する。こうして報告された本に関して，立候補（または指名）により決められた報告者が，本の中の教育史的内容と考察を順次口頭で発表する。

時間の関係で発表できなかった者には，同様の内容のレポートを課す。

なお受講生は全員，授業開始時までに必ずワープロソフト(Microsoft Word)の使用法を習得しておくこと。口頭発表のレジュメやレポートはワープロで作成したものに限る。

《授業の到達目標》

教育史は，文字通り教育の歴史である。しかし歴史というと，無味乾燥な暗記物というイメージが付きまとう。高校までの誤った歴史教育がそのようなイメージを生んでしまったのは残念である。

本授業では，みなさんに暗記してもらうことは一つもない。その代わりに教育史に関する文献を自分で見つけ，それについて発表することにより，教育史を身近に感じてもらうことが，本授業の目的である。

《テキスト》

とくに定めない。

《参考文献》

題材として取り上げうる本の例……『少年H』妹尾河童，『まる子だった』さくらももこ，『窓際のトットちゃん』黒柳徹子，『竜馬がゆく』司馬遼太郎，『車輪の下』ヘッセ，『星の王子さま』サンテグジュペリ，『上杉鷹山』童門冬二，『五体不満足』乙武洋匡，ほか。

《成績評価の方法》

「発表文献報告書」などの提出物（30%）と，発表への評価（70%）による。

《授業時間外学習》

自力で文献を読むことは言うまでもないが，その他は必要に応じて指示する。

《備考》

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	オリエンテーション
第 2 週	発表文献選定のための個別指導（1）　文献リスト作り等
第 3 週	発表文献選定のための個別指導（2）　発表内容の詰め等
第 4 週	口頭発表（1）　文献例：『少年H』妹尾河童
第 5 週	口頭発表（2）　文献例：『まる子だった』さくらももこ
第 6 週	口頭発表（3）　文献例：『窓際のトットちゃん』黒柳徹子
第 7 週	口頭発表（4）　文献例：『竜馬がゆく』司馬遼太郎
第 8 週	口頭発表（5）　文献例：『車輪の下』H・ヘッセ
第 9 週	口頭発表（6）　文献例：『星の王子さま』A・サンテグジュペリ
第１０週	口頭発表（7）　文献例：『上杉鷹山』童門冬二
第１１週	口頭発表（8）　文献例：『五体不満足』乙武洋匡
第１２週	口頭発表（9）　文献例：『エーミールと探偵たち』E・ケストナー
第１３週	口頭発表（10）　文献例：『教育革命』東上高志
第１４週	口頭発表（11）　文献例：『子育てごっこ』三好京三
第１５週	口頭発表（12）　文献例：『ユンボギの日記』李潤福

《教職に関する科目》

科 目 名	公民科教育法				
担当者名	吉井　直樹				
授業方法	講義	単位･必選	4・選	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期分

《授業のねらい及び概要》

本講座は、高等学校公民科教諭の普通免許状取得のために開講されるものであり、現行の高等学校学習指導要領の分析を基に、学習指導の方法、教材の精選と工夫、学習活動の評価、授業研究の４つを中心に講義を展開していく。

併せて学習指導案の作成、模擬授業の実施等、実践課題に取り組む。

《授業の到達目標》

１　高等学校公民科の各科目の指導内容・指導方法についての基本的な理解を深める。
２　科目「現代社会」の年間指導計画・学習指導案の作成に習熟する。
３　模擬授業の実践をとおして、公民科教員としての資質・技能を培う。

《テキスト》

文部科学省「高等学校学習指導要領解説　公民編」（実教出版）
（併せて、自分の高校時代の公民科教科書を準備することが望ましい。）

《参考文献》

《成績評価の方法》

小テスト（２０％）、課題提出２回（４０％）、模擬授業（４０％）により総合評価する。

《授業時間外学習》

１　講義にともなうテキストの該当箇所は、必ず目を通しておくこと。
２　年間指導計画や学習指導案の作成に当たって、個別の作業時間を十分に確保すること。
３　模擬授業の実施について、綿密な教材研究を行うこと。

《備考》

基本的には講義形式で進めるが､学習課題に応じて意見交換や発表の場を設け､講座の活性化を図るようにしていきたい。教育への強い意欲と鮮明な問題意識を持って受講することを期待している。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第１週	公民科教育法を学ぶにあたって（オリエンテーション）
第２週	教育課程と学習指導要領
第３週	公民科の教育内容（１）～公民科の目標と科目編成
第４週	公民科の教育内容（２）～「現代社会」
第５週	公民科の教育内容（３）～「倫理」
第６週	公民科の教育内容（４）～「政治・経済」
第７週	教材の活用（１）～教科用図書
第８週	教材の活用（２）～副教材、その他
第９週	公民科の授業づくり（１）～年間指導計画
第 10 週	公民科の授業づくり（２）～指導方法
第 11 週	公民科の授業づくり（３）～教材研究①
第 12 週	公民科の授業づくり（４）～教材研究②
第 13 週	学習指導案の作成（１）
第 14 週	学習指導案の作成（２）
第 15 週	学習指導案の作成（３）

《教職に関する科目》

科 目 名	公民科教育法				
担当者名	吉井　直樹				
授業方法	講義	単位･必選	4・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期分

《授業のねらい及び概要》

本講座は、高等学校公民科教諭の普通免許状取得のために開講されるものであり、現行の高等学校学習指導要領の分析を基に、学習指導の方法、教材の精選と工夫、学習活動の評価、授業研究の４つを中心に講義を展開していく。

併せて学習指導案の作成、模擬授業の実施等、実践課題に取り組む。

《授業の到達目標》

１　高等学校公民科の各科目の指導内容・指導方法についての基本的な理解を深める。
２　科目「現代社会」の年間指導計画・学習指導案の作成に習熟する。
３　模擬授業の実践をとおして、公民科教員としての資質・技能を培う。

《テキスト》

文部科学省「高等学校学習指導要領解説　公民編」（実教出版）
（併せて、自分の高校時代の公民科教科書を準備することが望ましい。）

《参考文献》

《成績評価の方法》

小テスト（２０％）、課題提出２回（４０％）、模擬授業（４０％）により総合評価する。

《授業時間外学習》

１　講義にともなうテキストの該当箇所は、必ず目を通しておくこと。
２　年間指導計画や学習指導案の作成に当たって、個別の作業時間を十分に確保すること。
３　模擬授業の実施について、綿密な教材研究を行うこと。

《備考》

基本的には講義形式で進めるが､学習課題に応じて意見交換や発表の場を設け､講座の活性化を図るようにしていきたい。教育への強い意欲と鮮明な問題意識を持って受講することを期待している。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第１週	授業研究にあたって
第２週	授業研究（１）～模擬授業とその分析
第３週	授業研究（２）～模擬授業とその分析
第４週	授業研究（３）～模擬授業とその分析
第５週	授業研究（４）～模擬授業とその分析
第６週	授業研究（５）～模擬授業とその分析
第７週	授業研究の反省とまとめ
第８週	学習指導と評価
第９週	評価問題の作成
第 10 週	新学習指導要領の展開（１）
第 11 週	新学習指導要領の展開（２）
第 12 週	新学習指導要領の展開（３）
第 13 週	公民科の教育実習
第 14 週	公民科教員の資質と理念
第 15 週	公民科教育の課題と展望

《教職に関する科目》

科 目 名	情報科教育法				
担当者名	西田 悦雄				
授業方法	講義	単位・必選	4・選	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期分

《授業のねらい及び概要》
全体の授業計画で身につくように幅広く演習を行います。講義内容は、指導方法の検討と教育内容の概観の2側面より、理論的背景に基づいた模擬授業も実施する。模擬授業の設計と実施をおこない、独自性をいかすことができる（積極性・実践性）と「情報」に含まれる各分野の内容を正確に理解し、先端の研究内容との関連づけができる（専門性）の両方を習得すること。

《授業の到達目標》
高等学校普通教科及び専門教科「情報」の教育目標、内容、指導方法について、特に、専門教科にポイントを置き、情報教科の体系的・系統的カリキュラムの中に位置づけて理解するとともに、学生が実際に模擬授業を行う上で、必要な教材研究や授業設計・実施・評価・改善能力を理解・習得することを到達目標とする。

《テキスト》
教科書は使用しない。授業に必要な資料は適宜配付する。

《参考文献》
文部省(2000)『高等学校学習指導要領解説(情報編)』海隆堂出版
岡本敏雄･西野和典・香山瑞恵『情報科教育法』丸善

《成績評価の方法》
課すレポートや課題（100%）
また、授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない。

《授業時間外学習》
配布する資料を熟読し、毎回出す課題をするために必ず熟読して取り組むこと。

《備考》
コンピュータの基礎知識は習得しておくことが望ましい。なお、本科目は、高等学校普通教科「情報」の免許取得のために履修が義務づけられている。その意味をよく理解して受講することが望ましい。
また、授業計画とおりの実施を予定しているが、より深い理解を促すために授業計画の順序を変更/修正する場合がある。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	学校教育における「情報」「情報科」「教育方法論」の理念と設立の経緯
第 2 週	情報利活用のための実践力とその学習指導の概論と演習
第 3 週	社会への参画と協調的コミュニケーションの指導の概論と演習
第 4 週	事後表現・情報創造力を育成するための授業計画の立案
第 5 週	座学型学習指導案の実例と検討（演習も含む）
第 6 週	演習型学習指導案の実例と検討（演習も含む）
第 7 週	教育評価の在り方についての概論
第 8 週	試験問題を作ってみる
第 9 週	試験問題講評と学生自身による評価
第１０週	授業設計・単元設計・コンセプトマップ等の計画を演習を通して行う
第１１週	模擬授業の実施のための準備
第１２週	模擬授業の実施
第１３週	模擬授業の実施
第１４週	模擬授業講評と今後のあり方への検討および議論
第１５週	まとめ

《教職に関する科目》

科 目 名	情報科教育法				
担当者名	西田 悦雄				
授業方法	講義	単位・必選	4・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期分

《授業のねらい及び概要》
全体の授業計画で身につくように幅広く演習を行います。講義内容は、指導方法の検討と教育内容の概観の2側面より、理論的背景に基づいた模擬授業も実施する。模擬授業の設計と実施をおこない、独自性をいかすことができる（積極性・実践性）と「情報」に含まれる各分野の内容を正確に理解し、先端の研究内容との関連づけができる（専門性）の両方を習得すること。

《授業の到達目標》
高等学校普通教科及び専門教科「情報」の教育目標、内容、指導方法について、特に、専門教科にポイントを置き、情報教科の体系的・系統的カリキュラムの中に位置づけて理解するとともに、実際に模擬授業を行う上で、必要な教材研究や授業設計・実施・評価・改善能力を理解・習得することを目的とする。

《テキスト》
教科書は使用しない。必要な資料は適宜配付する。

《参考文献》
文部省(2000)『高等学校学習指導要領解説(情報編)』海隆堂出版
岡本敏雄･西野和典・香山瑞恵『情報科教育法』丸善

《成績評価の方法》
課すレポートや課題（100%）
また、授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない。

《授業時間外学習》
配布する資料を熟読し、課題をするために必ず熟読して取り組むこと。

《備考》
【注意】通年科目であるため、Ⅰ期習得したことが前提となる。
コンピュータの基礎知識は習得しておくことが望ましい。なお、本科目は、高等学校普通教科「情報」の免許取得のために履修が義務づけられている。その意味をよく理解して受講することが望ましい。
また、授業計画とおりの実施を予定しているが、より深い理解を促すために授業計画の順序を変更/修正する場合がある。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	通年科目であるためⅠ期でやった内容の復習と確認
第 2 週	最近の教育事情について課題をあげ考える
第 3 週	最近の教育事情についてディスカッションし、お互いの意見を基本にまとめあげる
第 4 週	より詳細な授業計画の立案
第 5 週	立案した授業計画の評価について
第 6 週	評価方法の検討
第 7 週	現代の教育評価の在り方についての概論とともに復習する
第 8 週	Ⅱ期模擬授業１回目の準備
第 9 週	模擬授業の実施
第１０週	模擬授業を実施した後の反省点を踏まえ再度授業計画の立案
第１１週	Ⅱ期模擬授業２回目の準備
第１２週	模擬授業の実施
第１３週	模擬授業を実施した後の反省点を踏まえ再度授業計画の立案
第１４週	通年を通して模擬授業講評と今後のあり方への検討および議論
第１５週	まとめ

《教職に関する科目》

科 目 名	商業科教育法				
担当者名	井上　啓				
授業方法	講義	単位・必選	4・選	開講年次・開講期	3 年・Ⅰ期分

《授業のねらい及び概要》

本科目では、「高等学校学習指導要領（商業編）」を詳細に解説する。その概要は次のとおりである。

1. 商業教育の意義と目的
2. 商業教育の歴史
3. 教科の目標、内容及び内容の取扱い
4. 商業諸科目の目標・内容及び内容の取扱い
5. 学習指導計画の作成と指導方法・指導計画
6. 指導計画案の作成と模擬授業（演習）
7. 商業科教師としての資質・能力と研修
8. 商業教育の現状と課題そして展望

特に、受講者各人が学習指導案を作成し、それによる模擬授業を重視し、実践的指導力の養成をめざす。

《授業の到達目標》

高等学校商業科の意義や目標を理解し、具体的な指導や指導内容と学習指導計画、指導方法などについて学習し、次世代の商業科教師に必要な資質と態度を養う。特に学習指導案の作成、それによる模擬授業の実習を重視し、ビジネス教育をより実践的に身につける。

《テキスト》

『教職必修最新商業科教育法』　日本商業教育学会編（実教出版社）
『新高等学校学習指導要領解説商業編』　文部科学省編（実教出版社）
高等学校教科書『新簿記新訂版』　新井益太郎他（実教出版社）

《参考文献》

『21 世紀への商業教育』　三原詰章夫・河合昭三（多賀出版）
『商業科教育法』　吉野弘一（実教出版）
『現状の課題と展望・商業教育の歩み』　笈川達男著（実教出版）

《成績評価の方法》

・定期試験　85 点
・平常点　　15 点
　課題ノート提出
　意見発表
　講義への積極的参加を重視、「授業実施回数の 3 分の 1 以上欠席した者」には単位を与えない。

《授業時間外学習》

・出題された課題を課題ノートに整理し、意見発表が出来るように理解しておくこと。
・日商簿記検定 3 級程度の知識を身につけるように学習し、模擬授業に備えておくこと。

《備考》

教員養成に対して最近は特に実践的指導力の育成が求められている。そこで、実際の教育現場での指導に結びつくよう、一方的な講義式でなく、学生自らが考え表現する体験型授業を重視する。特に学習指導案の作成と模擬授業を学生に発表させる。

なお、模擬授業に備えて、受講生は簿記の知識（日商 3 級程度）を身につけておくことが大切です。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	オリエンテーション　商業科教師を目指しての心構え 高等学校教育の基本理念と商業教育 1　教育基本法と商業教育　　2　学校教育法と商業教育
第 2 週	高等学校学習指導要領と商業教育 1　社会生活と商業教育の必要性　　2　職業生活と商業教育 3　個性の伸長や大学等への進学と商業教育　　4　産業教育振興法と商業教育
第 3 週	高等学校商業教育の基本理念 1　高等学校学習指導要領商業科編における一般目標 2　商業教育の内容
第 4 週	将来のスペシャリストの育成 1　職業高校から専門高校へ　　2　目指せスペシャリスト
第 5 週	高等学校における商業教育の必要性 1　産業の発展と教育の在り方　2　高等学校における商業教育の必要性 3　普通科・総合学科・専門教育
第 6 週	わが国の商業教育の歩み 1　太平洋戦争前の商業教育　　2　新教育制度と商業教育
第 7 週	学習指導要領（試案）から平成元年の改訂まで 1　初めての学習指導要領商業科編（試案）昭和 25 年 2　経済の復活と昭和 31 年、昭和 35 年改訂の学習指導要領
第 8 週	高校教育の多様化と昭和 45 年改訂学習指導要領 1　改訂の背景　　2　学習指導要領の特徴　　3　小学科と目標　　4　科目構成 5　情報処理関係科目及び情報処理教育
第 9 週	昭和 53 年改訂学習指導要領と平成元年改訂の学習指導要領 1　改訂の背景　　2　学習指導要領の特徴　　3　商業の教育目標　　4　小学科と学科の目標 5　高等学校以外での商業教育
第１０週	現行学習指導要領（平成 11 年告示）とその理解 1　教育課程の編成方針　　2　教科「商業」の理解（スペシャリストへの道）
第１１週	新学習指導要領（平成 21 年改訂） 1　教科「商業」の目標　　2　商業の各分野　　3　教科の組織
第１２週	各科目の学習内容とそのねらい 1　基礎科目「ビジネス基礎」
第１３週	マーケティング分野とビジネス経済分野 1　科目構成と目指す学力観　　2　各科目　　3　指導方法　　4　評価の観点
第１４週	会計分野・ビジネス情報分野 1　科目構成と目指す学力観　　2　各科目　　3　指導方法　　4　評価の観点
第１５週	総合的分野 1　総合的な科目の構成　　2　総合的な科目の目指す学力観　　３各科目（課題研究、総合実践、ビジネス実務）

《教職に関する科目》

科 目 名	商業科教育法				
担当者名	井上　啓				
授業方法	講義	単位・必選	4・選	開講年次・開講期	3 年・Ⅱ期分

《授業のねらい及び概要》

本科目では、「高等学校学習指導要領（商業編）」を詳細に解説する。その概要は次のとおりである。

1. 商業教育の意義と目的
2. 商業教育の歴史
3. 教科の目標、内容及び内容の取扱い
4. 商業諸科目の目標・内容及び内容の取扱い
5. 学習指導計画の作成と指導方法・指導計画
6. 指導計画案の作成と模擬授業（演習）
7. 商業科教師としての資質・能力と研修
8. 商業教育の現状と課題そして展望

特に、受講者各人が学習指導案を作成し、それによる模擬授業を重視し、実践的指導力の養成をめざす。

《授業の到達目標》

高等学校商業科の意義や目標を理解し、具体的な指導や指導内容と学習指導計画、指導方法などについて学習し、次世代の商業科教師に必要な資質と態度を養う。特に学習指導案の作成、それによる模擬授業の実習を重視し、ビジネス教育をより実践的に身につける。

《テキスト》

『教職必修最新商業科教育法』　日本商業教育学会編（実教出版社）
『新高等学校学習指導要領解説商業編』　文部科学省編（実教出版社）
高等学校教科書『新簿記新訂版』　新井益太郎他（実教出版社）

《参考文献》

『21 世紀への商業教育』　三原詰章夫・河合昭三（多賀出版）
『商業科教育法』　吉野弘一（実教出版）
『現状の課題と展望・商業教育の歩み』　笈川達男著（実教出版）

《成績評価の方法》

・定期試験　65 点
・平常点　　15 点
　課題ノート提出
　意見発表
　講義への積極的参加を重視、「授業実施回数の 3 分の 1 以上欠席した者、及び模擬授業を行わなかった者」には単位を与えない。
・模擬授業　20 点

《授業時間外学習》

・出題された課題を課題ノートに整理し、意見発表が出来るように理解しておくこと。
・日商簿記検定 3 級程度の知識を身につけるように学習し、模擬授業に備えておくこと。

《備考》

教員養成に対して最近は特に実践的指導力の育成が求められている。そこで、実際の教育現場での指導に結びつくよう、一方的な講義式でなく、学生自らが考え表現する体験型授業を重視する。特に学習指導案の作成と模擬授業を学生に発表させる。

なお、模擬授業に備えて、受講生は簿記の知識（日商 3 級程度）を身につけておくことが大切です。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	教育課程と学習指導 1　教育課程と指導計画　2　学習指導の意義　3　教材の研究　4　教材開発の視点
第 2 週	学習指導計画 1　指導計画の意味 2　指導計画宇野内容（教育目標と教育活動、指導計画作成の前提要件、指導内容と方法）
第 3 週	指導形態と指導方法 1　一斉指導　2　グループ別指導　3　個別指導（個別学習）　4　問題解決型学習指導 5　系統学習型指導　6　発見学習型指導 1　講義法　2　討議法　3　プログラム学習法　4　視聴覚教材等の利用による学習指導 5　体験を重視した学習法
第 4 週	年間指導計画作成の実際 1　年間指導計画作成の留意点　2　指導内容の系統性と発展性　3　授業時数の適切な配当 4　年間指導計画の記載内容
第 5 週	学習指導案（授業計画案）作成の実際 1　学習指導案作成のための準備　2　学習指導案の記載内容　3　学習指導案の形式 4　学習指導と観点別評価　5　学習指導案の具体例
第 6 週	プレゼンテーションと授業 1　板書の必要性とその方法　2　解説の重要性とその方法　3　発問と質問　4　机間巡視
第 7 週	模擬授業と授業評価（第１回） 実践的な学習指導の技術を習得するため、学生による指導案の作成と模擬授業、授業評価のディスカッションを行う。
第 8 週	模擬授業と授業評価（第２回） 具体的な模擬授業等の実習を通して、より実践的で有効な教授法をはじめとする指導技術の習得を目指す。
第 9 週	模擬授業と授業評価（第３回） 教師としての必要な表現力やコミュニケーション能力を高め、「わかる授業」とは何か、生徒が興味・関心を示し、学習に対する意欲を高める授業とはどうあるべきかを考察する。 以後、毎時間学生による教案の作成と、模擬授業、授業評価のディスカッションを行う。
第１０週	学校教育目標の達成と商業教育 1　教育基本法　2　学校教育法　3　学校が設定する教育目標　4　生きる力の育成と商業教育 5　教科「商業」による「徳育」の指導
第１１週	総合的な学習の時間と商業教育 1　目指す学力観　2　学習活動と配慮事項　3　総合的な学習の時間の活用
第１２週	インターンシップと商業教育 1　インターンシップとは　2　インターンシップの趣旨
第１３週	商業教育と進路指導 1　進路指導の定義と目的　2　進路指導の内容と方法　3　商業教育における進路指導
第１４週	商業教育と教師の資質・能力 1　教師に求められる資質・能力の向上　2　21 世紀に活躍する商業科教師の資質・能力の育成
第１５週	商業教育の成果と課題 1　商業教育と資格取得　2　商業教育の課題―真の学力向上を目指して―

《教職に関する科目》

科 目 名	教育相談（カウンセリングを含む）				
担当者名	琴浦　志津				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

学校教育の重大問題として、学力低下とこころの教育をめぐる問題があげられる。これらの背景には、現代を生きる子どもたちのこころの発達にゆがみがあると考えられるが、これらに対して、教師はどのようなことができるだろうか？

人と人との関係を考えていく上でのヒントは、悩む人々と治療者との関係の中で見出されたものによって理論化された、臨床心理学の理論の中にあるといっても過言ではない。前半の授業では、カウンセリングの基礎を学ぶが、ロールプレイを体験してみると、日常のおしゃべりとは違った、人と人が向き合って関わっていくための方法を学ぶことができる。後半は、子どもたちのこころの発達や、事例についても取り上げるが、各自が自分の耳で聴き、感じたことを大切にしながら、自分なりの視点を持てるよう学んでほしい。

《授業の到達目標》

カウンセリングの基礎を学び、ひとの話をしっかり聴けるようになること。
自分自身のこころに焦点をあて、そこに耳を傾けられるようになること。
子どもたちをとりまく様々な問題に、自分なりの視点を持てるようになること。

《テキスト》

必要な資料は、適宜配布する。

《参考文献》

「スクールカウンセラーがすすめる 112 冊の本」滝口俊子・田中慶江編　創元社 1400 円＋税
「特別支援教育のための 100 冊」特別支援プロジェクトチーム　創元社 1800 円

《成績評価の方法》

授業への取組み 30%　レポート 20%　授業内容の理解 50%

《授業時間外学習》

こころについて学ぶための本のリストを配布する（参考文献に取り上げられている 112＋100 冊）出来るだけ多くの本を手にとって読んでほしい。このリストの中から、自分の最も興味のある本を 1 冊選んで、手書きで原稿用紙またはレポート用紙 5 枚の感想文を提出すること。

《備考》

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	オリエンテーション：教育相談とは何か
第 2 週	カウンセリングの基礎理論
第 3 週	カウンセリングの技術
第 4 週	カウンセリングの過程
第 5 週	カウンセリング実習
第 6 週	自分で出来るカウンセリング：フォーカシングについて
第 7 週	前半のまとめ
第 8 週	発達の臨床と教育相談
第 9 週	こころの発達理論
第１０週	子どもたちの問題
第１１週	学校現場で出会う子どもたちの発達の問題
第１２週	児童虐待について
第１３週	教師と専門機関との連携
第１４週	様々な事例
第１５週	今後に活かす教育相談

《教職に関する科目》

科 目 名	総合演習				
担当者名	池本　廣希				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	3・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
現代社会のかかえる問題からテーマを設定し、そのテーマ研究をすすめていくなかで、将来教壇に立ったとき、研究指導のできる教育力を身につけること、これを教育目標とする。
授業概要は、受講生のテーマ研究に沿って意見交換しながら授業展開し、その研究成果をパワーポイントを使って発表する。

《授業の到達目標》
資料収集能力やプレゼン能力を身につける。

《テキスト》
なし

《参考文献》
『地産地消費の経済学』池本廣希著　2008 年
『人間復興の経済学』神野直彦著　2002 年

《成績評価の方法》
テーマ研究発表（60%）とディスカッション能力（40%）

《授業時間外学習》
授業時間外学習として、郷土資料館の訪問や教材研究のための野外調査、新聞、報道番組等からテーマ研究にかかわる資料収集活動をする。

《備考》
*ミニ授業について。前半は、資料（パワーポイント、VTR も OK）提示による授業。後半は質疑応答と講評。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	オリエンテーション 総合演習の意義と方法
第 2 週	人口問題
第 3 週	食料問題
第 4 週	エネルギー問題
第 5 週	環境問題
第 6 週	いなみ野台地ため池灌漑について
第 7 週	受講生から各自演習テーマの提示と意見交換
第 8 週	受講生から各自演習テーマの提示と意見交換
第 9 週	受講生から各自演習テーマの提示と意見交換
第１０週	各受講生によるミニ授業と質疑応答
第１１週	各受講生によるミニ授業と質疑応答
第１２週	各受講生によるミニ授業と質疑応答
第１３週	各受講生によるミニ授業と質疑応答
第１４週	各受講生によるミニ授業と質疑応答
第１５週	まとめ

平成 20 年度
(2008 年度)
入学者

カリキュラム年次配当表

経済情報学科 平成20年度（2008年度）入学者対象
（ ）は兼担、[ ]は兼任講師

授業科目の区分		授業科目の名称	授業方法	単位数		教員免許関係			学年配当（数字は週当り授業時間）								平成23年度の担当者	ページ
									1年		2年		3年		4年			
				必修	選択	情報	商業	公民	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ		
専門教育科目	演習科目	基礎演習A	演習	2					2									
		基礎演習B	演習	2						2								
		発展演習Ⅰ	演習	2							2							
		発展演習Ⅱ	演習	2								2						
		専門演習Ⅰ	演習	2									2					
		専門演習Ⅱ	演習	2										2				
		卒業演習Ⅰ	演習	2											2		*1	224
		卒業演習Ⅱ	演習	2												2	*1	225
		卒業研究	演習	4												4	*1	226
	コース共通科目	経済情報概論	講義	4					4									
		数学基礎	講義	2					2									
		アプリケーションソフト	演習	4		□				4								
		プレゼンテーション	演習	4							4							
		現代経済社会論A	講義		2					2								
		現代経済社会論B	講義		2						2							
		簿記原理Ⅰ	講義		2		△			2								
		簿記原理Ⅱ	講義		2		▲				2							
		経済学入門	講義		2			◆			2							
		経済統計	講義		2		▲				2							
		民法	講義		2		▲				2							
		会計学入門	講義		2		△				2							
		情報科学入門	講義		2					2								
		プログラミング入門	講義		2						2							
		コンピュータ基礎論	講義		2	□					2							
		グラフィックス	講義		2	□				2								
		ウェブデザイン	講義		2					2								
		基礎経済数学	講義		2					2								
		基礎情報数学	講義		2						2							
		統計学	講義		2						2							
		社会経済史	講義		2		▲			2								
		コミュニケーション論	講義		2	■				2								
		国際政治学	講義		2			◇		2								
		国際社会論	講義		2						2							
		マスメディア論	講義		2						2							
		比較文化論	講義		2						2							
		インターンシップ	講義		2						2							
		経済情報特論A	講義		2				2									
		経済情報特論B	講義		2					2								
		経済情報特論C	講義		2				2									
		経済情報特論D	講義		2					2								
		経済情報特論E	講義		2						2							
		経済情報特論F	講義		2							2						

カリキュラム年次配当表

経済情報学科 平成20年度（2008年度）入学者対象
（ ）は兼担、[ ]は兼任講師

授業科目の区分			授業科目の名称	授業方法	単位数 必修	単位数 選択	教員免許関係 情報	教員免許関係 商業	教員免許関係 公民	学年配当（数字は週当り授業時間） 1年 I	1年 II	2年 I	2年 II	3年 I	3年 II	4年 I	4年 II	平成23年度の担当者	ページ
専門教育科目	コース専修科目	経済ビジネスコース科目	ミクロ経済学	講義		④			◇				4						
			マクロ経済学	講義		④			◇				4						
			経営学総論	講義		④								4					
			簿記論	演習		④		△						4					
			金融論	講義		2		▲					2						
			工業簿記	講義		2		▲					2						
			会計学	講義		2		▲					2						
			会社法	講義		2							2						
			財政学Ⅰ	講義		2			◆					2					
			財政学Ⅱ	講義		2			◆						2				
			産業組織論Ⅰ	講義		2			◆					2					
			産業組織論Ⅱ	講義		2			◆						2				
			国際経済論Ⅰ	講義		2			◆					2					
			国際経済論Ⅱ	講義		2			◆						2				
			証券市場論	講義		2		▲						2					
			経営戦略論Ⅰ	講義		2								2					
			経営戦略論Ⅱ	講義		2									2				
			財務管理論Ⅰ	講義		2								2					
			財務管理論Ⅱ	講義		2									2				
			財務諸表論Ⅰ	講義		2		▲						2					
			財務諸表論Ⅱ	講義		2		▲							2				
			情報会計論Ⅰ	講義		2		▲						2					
			情報会計論Ⅱ	講義		2		▲							2				
			労働経済論	講義		2									2				
			経済政策	講義		2									2				
			職業指導	講義		2		△							2				
			経営分析論	講義		2		▲							2				
			経済ビジネス特論A	講義		2								2					
			経済ビジネス特論B	講義		2									2				
		情報システムコース科目	数理論理学	講義		④							4						
			プログラミングⅠ	講義		④	■						4						
			プログラミングⅡ	講義		④	■							4					
			情報システム学	講義		④	□							4					
			オペレーティングシステム	講義		2	■						2						
			情報ネットワーク	講義		2	□						2						
			アルゴリズム	講義		2	■						2						
			情報デザイン	講義		2	■						2						
			情報基礎理論	講義		2	■							2					
			情報セキュリティ	講義		2	■							2					
			データベースⅠ	講義		2	■							2					
			データベースⅡ	講義		2	■								2				
			オペレーションズ・リサーチ	講義		2								2					
			情報数学	講義		2								2					
			応用プログラミングA	講義		2									2				
			応用プログラミングB	講義		2										2		穂積 隆広	227
			オブジェクト指向方法論	講義		2									2				
			システム解析	講義		2	■								2				
			情報検索論	講義		2	■								2				
			情報法学	講義		2	□								2				
			情報管理論	講義		2	□								2				
			情報システム特論A	講義		2								2					
			情報システム特論B	講義		2									2				

カリキュラム年次配当表

経済情報学科 平成20年度（2008年度）入学者対象
（ ）は兼担、[ ]は兼任講師

授業科目の区分			授業科目の名称	授業方法	単位数		教員免許関係			学年配当（数字は週当り授業時間）								平成23年度の担当者	ページ
										1年		2年		3年		4年			
					必修	選択	情報	商業	公民	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ		
専門教育科目	コース専修科目	地域デザインコース科目	フィールドワーク	演習		④							4						
			地域分析論	講義		④							4						
			人と地域	講義		④								4					
			地域デザイン論	講義		④								4					
			地域経済論Ⅰ	講義		2			◆				2						
			地域経済論Ⅱ	講義		2			◆					2					
			環境と地理	講義		2								2					
			社会調査Ⅰ	講義		2							2						
			社会調査Ⅱ	講義		2								2					
			社会情報論	講義		2							2						
			ジャーナリズム	講義		2									2				
			社会政策Ⅰ	講義		2			◇					2					
			社会政策Ⅱ	講義		2			◆						2				
			行政学Ⅰ	講義		2								2					
			行政学Ⅱ	講義		2									2				
			環境経済論A	講義		2								2					
			環境経済論B	講義		2									2				
			情報社会論	講義		2	□							2					
			情報通信論	講義		2	■								2				
			いなみ野ため池学	講義		2								2					
			いなみ野まちおこし学	講義		2									2				
			メディアと政治	講義		2								2					
			地域史	講義		2									2				
			地域デザイン特論A	講義		2								2					
			地域デザイン特論B	講義		2									2				

□は情報教員免許必修科目、■は情報教員免許選択科目
△は商業教員免許必修科目、▲は商業教員免許選択科目
◇は公民教員免許必修科目、◆は公民教員免許選択科目

④はコースにおける必修科目

*1 池本・石原・森･高本･瀧本･田中･三宅・木下･高野･金子・穂積･榎木･竹川

カリキュラム年次配当表

経済情報学科 平成20年度（2008年度）入学者対象
（ ）は兼担、[ ]は兼任講師

授業科目の区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		教員免許関係			学年配当（数字は週当り授業時間）								平成23年度の担当者	ページ
								1年		2年		3年		4年			
			必修	選択	情報	商業	公民	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅱ		
教職に関する科目	教育制度論	講義		2	□	△	◇	2									
	教育原理	講義		2	□	△	◇	2									
	教育史	講義		2	■	▲	◆						2				
	発達心理学	講義		2	■	▲	◆			2							
	教育心理学	講義		2	□	△	◇		2								
	教育制度論	講義		2	□	△	◇		2								
	教育課程論	講義		2	□	△	◇				2						
	公民科教育法	講義		4			◇					4					
	情報科教育法	講義		4	□							4					
	商業科教育法	講義		4		△						4					
	特別活動論	講義		2	□	△	◇				2						
	教育方法・技術論	講義		2	□	△	◇				2						
	生徒指導論（進路指導を含む）	講義		2	□	△	◇			2							
	教育相談（カウンセリングを含む）	講義		2	□	△	◇						2				
	総合演習	演習		2	□	△	◇					2					
	事前・事後指導	講義		1	□	△	◇							1		岡本 洋之	228
	高等学校教育実習	実習		2	□	△	◇							2		岡本 洋之	229

□は情報教員免許必修科目、■は情報教員免許選択科目
△は商業教員免許必修科目、▲は商業教員免許選択科目
◇は公民教員免許必修科目、◆は公民教員免許選択科目

※教職に関する科目は修得しても卒業要件の単位数には含まれない。
※教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、日本国憲法（2単位）、体育（2単位）、外国語コミュニケーション（2単位）、情報機器の操作（2単位）について、指定の科目を修得すること。

《演習科目》

科 目 名	卒業演習Ⅰ				
担当者名	森　義隆、三宅 伸二、池本 廣希、高本 茂、瀧本 眞一、田中 正彦、木下 準一郎、石原 敬子、金子 哲、高野 敦子、穂積 隆広、榎木 浩、竹川 宏子				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	4年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
各コース専修科目、３年次の専門演習Ⅰ・Ⅱで学んだことに基づいて、各自研究テーマを設定し、卒業研究に取り組む。
授業では、教員の指導のもと、各自が取り組んでいる研究の内容を報告し、受講生との議論を通して考察を深め、少しずつ研究を発展させていく。

《授業の到達目標》
・3年次までに学んだことを、卒業研究のテーマに合わせてさらに発展させる。
・論理的に考える力を身につける。

《テキスト》
各ゼミの担当者から指示する。

《参考文献》
各ゼミの担当者から指示する。

《成績評価の方法》
各ゼミの担当者から説明する。

《授業時間外学習》
2011年度Ⅱ期の卒業研究提出に向けて、各ゼミの担当者からの指示に従い、研究を進めること。

《備考》

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	※授業計画については、第1回目の授業時に、各ゼミの担当者から説明する。
第 2 週	
第 3 週	
第 4 週	
第 5 週	
第 6 週	
第 7 週	
第 8 週	
第 9 週	
第１０週	
第１１週	
第１２週	
第１３週	
第１４週	
第１５週	

《演習科目》

科 目 名	卒業演習Ⅱ				
担当者名	森　義隆、三宅 伸二、池本 廣希、高本 茂、瀧本 眞一、田中 正彦、木下 準一郎、石原 敬子、金子 哲、高野 敦子、穂積 隆広、榎木 浩、竹川 宏子				
授業方法	演習	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
卒業演習Ⅰで取り組んだ研究内容をさらに発展させ、卒業研究に取り組む。
授業では、教員の指導のもと、各自が取り組んでいる研究の内容を報告し、受講生との議論を通して考察を深め、少しずつ研究を発展させていく。

《授業の到達目標》
・卒業研究を仕上げる。
・論理的に考える力を身につける。

《テキスト》
各ゼミの担当者から指示する。

《参考文献》
各ゼミの担当者から指示する。

《成績評価の方法》
各ゼミの担当者から説明する。

《授業時間外学習》
卒業研究提出に向けて、各ゼミの担当者からの指示に従い、研究を進めること。

《備考》

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	※授業計画については、第１回目の授業時に、各ゼミの担当者から説明する。
第 2 週	
第 3 週	
第 4 週	
第 5 週	
第 6 週	
第 7 週	
第 8 週	
第 9 週	
第１０週	
第１１週	
第１２週	
第１３週	
第１４週	
第１５週	

《演習科目》

科 目 名	卒業研究				
担当者名	森　義隆、三宅 伸二、池本 廣希、高本 茂、瀧本 眞一、田中 正彦、木下 準一郎、石原 敬子、金子 哲、高野 敦子、穂積 隆広、榎木 浩、竹川 宏子				
授業方法	演習	単位・必選	4・必	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》
卒業演習Ⅰ、卒業演習Ⅱで取り組んだ研究成果を卒業論文（もしくは作品）にまとめ、発表する。

《授業の到達目標》
・卒業研究を仕上げる。
・論理的に考える力を身につける。
・自分が取り組んだ研究内容について、口頭発表や文章にまとめて伝える力を身につける。

《テキスト》
各ゼミの担当者から指示する。

《参考文献》
各ゼミの担当者から指示する。

《成績評価の方法》
指定された期間内に提出された卒業研究の内容をもって評価する。
（提出物、提出期間など詳細については、決まり次第、掲示により通知する。）

《授業時間外学習》
卒業研究提出に向けて、各ゼミの担当者からの指示に従い、研究を進めること。

《備考》

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	
第 2 週	
第 3 週	
第 4 週	
第 5 週	
第 6 週	
第 7 週	
第 8 週	
第 9 週	
第１０週	
第１１週	
第１２週	
第１３週	
第１４週	
第１５週	

《情報システムコース科目》

科 目 名	応用プログラミングＢ				
担当者名	穂積　隆広				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	4年・Ｉ期

《授業のねらい及び概要》

Microsoft 社の Windows 上で動作するアプリケーションソフト開発環境である Visual Studio を使用し，Visual Basic を使ったウィンドウプログラミングについて学びます.

具体的にはまず，アプリケーションウィンドウの作成法と，そのウィンドウ上のボタンなどを操作したときに記述した命令が実行されるイベント駆動型プログラミングについて学びます．また，それぞれのボタンやメニューなどのフォーム要素（コントロール）に対応したクラス変数について説明し，オブジェクト指向型プログラミングについても学びます．そしてこれらのプログラミング手法を活用し，Windows 上で動作するＧＵＩアプリケーションの作成について学びます.

《授業の到達目標》

現在のコンピュータは画面上の表示をマウスで操作するＧＵＩが主流となっています．この授業ではこのようなＧＵＩベースのアプリケーションソフト開発の基礎として Microsoft 社の Visual Basic を使用したプログラミングについて学びます.

《テキスト》

必要に応じてプリント等を配布します.

《参考文献》

授業中に適宜紹介します.

《成績評価の方法》

毎回の課題（40%）と，期末試験（60%）によって評価します.

《授業時間外学習》

授業ではプログラムを作成しますが，どのようなプログラムを作るのかを先に考えていないと先には進めません．毎回予習として自分が作ろうとしているものがどのような仕組みのものかきちんと説明できるよう準備しておいてください．また，授業内で作ったプログラムを振り返り，様々な課題に応用して復習するようにしてください.

《備考》

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	Visual Basic の基礎
第 2 週	イベント駆動型プログラムについて
第 3 週	テキストボックスの活用
第 4 週	変数と繰り返し処理，条件分岐
第 5 週	キー入力の取り扱い
第 6 週	コントロールの追加とタイマーイベント
第 7 週	ウィンドウへの描画
第 8 週	簡単なゲームの作成１
第 9 週	簡単なゲームの作成２
第１０週	簡単なゲームの作成３
第１１週	ウィンドウへのドラッグアンドドロップ
第１２週	ファイルダイアログ
第１３週	印刷ダイアログ
第１４週	応用課題
第１５週	応用課題

《教職に関する科目》

科 目 名	事前・事後指導				
担当者名	岡本　洋之				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	4 年・通年

《授業のねらい及び概要》

本授業は通年で行われる。上記のことがらを習得するため，I 期は次のことを行なう予定にしている。授業は不定期開講となるため，掲示に十分注意されたい。

(1)　教育実習事前学習会（模擬授業）……４月および５月に行なう。

(2)　教育関係者による講演会 1･2……学校現場および教育行政の立場から，教職志望者がもつべき知識と心得を話していただく。教育実習前（4 月）および実習後（7 月）に 1 回ずつ行なう予定である。なお，この代わりに本授業担当者による講話を行なうか，学外の講演会等を聴きに行くことがある。

(3)　教育実習報告会……６月か７月に１回行なう。

(4)　教職に関する勉強会……教職教養，一般教養，情報科に関する専門知識等についての勉強会を行なう。教員採用試験対策の意味も合わせもつ。

《授業の到達目標》

事前指導としては，教育実習の目的，実習校の立場・状況，高校生の関心度を理解し，実習期間中の態度と教員としての認識を深める。事後指導としては，実習報告書の作成と実習報告会を通して，実習生各自の体験を深めるとともに，教員としての資質の充実をはかる。

《テキスト》

本学から発行される『教育実習の手引き』

《参考文献》

「高等学校教育実習」のページを参照

《成績評価の方法》

平常点（100%）のみとする。主に授業への参加度を評価の基準とする。毎回出席をとり，基本的に全回出席を単位の条件とする。なお教育学のイロハである「個に応じた指導」の原則に基づき，シラバスの内容を変更することがある。

《授業時間外学習》

科目の性質上，意欲的な自学自習が求められる。このほか，インターンシップを行うことがある。

《備考》

規定ではわずかに１単位であるが，実際にはこれよりもはるかに多い勉強を，受講生に求めることになる。時間割上は土曜日の午後に一時間だけ設定されているが，4・5 月は長引くのがふつうであると考え，同月の土曜日午後にはアルバイト等の予定をいっさい入れないこと。また仮に受講生が教員採用試験に不合格になった場合，本授業への参加度が，講師候補として学校現場に推薦できるか否かを左右するので，十分に注意されたい。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	不定期開講につき本表では表示できない。上記《授業のねらい及び概要》を参照（そこに示された学修時間の合計をもって「通年１単位」としているのであり，本授業においては授業回数と単位数につながりはない）。
第 2 週	
第 3 週	
第 4 週	
第 5 週	
第 6 週	
第 7 週	
第 8 週	
第 9 週	
第１０週	
第１１週	
第１２週	
第１３週	
第１４週	
第１５週	

《教職に関する科目》

科 目 名	高等学校教育実習				
担当者名	岡本　洋之				
授業方法	実習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	4年・Ⅰ期

《授業のねらい及び概要》
受講生は全員が，定められた期間，あらかじめお願いをしていた高等学校（特別な事情がある者は中学校）において，受入れ校の指導教員のアドヴァイスを承りながら，学校教育の見学と実践を行う。

《授業の到達目標》
教科に関する科目と教職に関する科目の総決算ともいうべき教育実習を行う。具体的内容として，(1) 実習に臨む態度，実習校の組織と実習生受け入れの立場，事前訪問時の書類作成，(2) 教科指導（教材研究と資料の準備，指導案作成，授業運営），(3) 生徒指導（注意のあり方，体罰禁止等），(4) 実習日誌の書き方などについて，実習校の指導教員が具体的・現実的に教育指導し，本学の担当者が責任をもつ。

《テキスト》
とくに定めないが，全員が，本学が発行する『教育実習日誌』と『教育実習の手引き』を実習校に毎日持参し，日誌の所定欄に記入するとともに，指導教員に所見等の記入をお願い申し上げること。

《参考文献》
・『実践「教育実習」』教育実習を考える会編（蒼丘書林）
・『教育実習の研究』教師養成研究会編著（学芸図書）
・『教育実習 57 の質問』白井慎他編著（学文社）

《成績評価の方法》
実習受入れ校の指導教員の所見（100%）に基づいて合否を決定する。ただし教育学のイロハである「個に応じた指導」の原則に基づき，柔軟に運用することがある。

《授業時間外学習》
授業の性質上，各自で積極的に行うことは言うまでもない。

《備考》
思い切った言い方をすれば，実習なのだから誤りはあって当然である。謙虚な気持ちさえもっていれば，誤りなど何ら恐れることなく，大船に乗った気分で実習を遂行すること。あとは本学の教員に任されたい。

《授業計画》

週	授　業　計　画
第 1 週	授業の性質上，本表では表示できない。
第 2 週	
第 3 週	
第 4 週	
第 5 週	
第 6 週	
第 7 週	
第 8 週	
第 9 週	
第１０週	
第１１週	
第１２週	
第１３週	
第１４週	
第１５週	